

日本獣医師会個別部会総合部会
女性獣医師活躍推進委員会 報告

獣医師の働き方改革とワーク・ライフ・バランスの実現への取組
—すべての獣医師が活躍できる未来ある職場づくりのために—

令和7年6月



公益社団法人

いのちみつめる。いのち育む。
日本獣医師会

目 次

1 はじめに	1
2 獣医師の就業環境に関する現況調査（2024年）	
（1）調査の概要	2
（2）調査結果の分析 ―現状と課題―	3
3 女性獣医師活躍推進の取組	
（1）女性獣医師の活躍推進のための理解醸成	
ア 雇用者等の理解醸成	60
イ 獣医学生を理解醸成	61
（2）仕事を続けやすい環境づくり	
ア 勤務形態の多様化の促進	62
イ 出産休暇・育児休暇が取りやすい環境の整備	63
ウ メンタル面のサポート	64
（3）復職しやすい環境づくり	65
（4）情報プラットフォームの充実	66
（5）獣医学系大学における女性教員数等の調査	67
（6）ポジティブアクションの推進（目標の設定）	68
（7）地方獣医師会の定期アンケートと取組状況の紹介	70
（8）日本獣医師会ロゴマーク等の活用	72
（9）積極的な情報の発信	72
（10）ハラスメント対策とメンタルサポートの必要性	73
4 おわりに	75
【参考資料1】令和5・6年度シンポジウム抄録・スライド資料	77
【参考資料2】獣医師の就業環境に関する現況調査（2024年）調査票、 集計結果	135

1 はじめに

日本獣医師会においては、女性獣医師の活躍推進を図ることを目的として平成25年に「女性獣医師支援特別委員会」が設置された。女性獣医師だけに着目するのではなくすべての獣医師が活躍しやすい環境づくりをめざし、獣医師の就業環境等に関する現況調査、就業継続のための方策の検討等を行い、「女性獣医師が活躍しやすい環境はすべての獣医師が活躍しやすい環境である」をコンセプトに、必要な対策や具体的な取り組み等についての提案を平成27年の報告書「女性獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて—獣医師全体のライフ・ワーク・バランス改善のために—」にまとめた。

平成27年に前委員会で提案された対策を実現するために、「女性獣医師支援対策検討委員会」が設置された。この委員会では対策を進め、さらなる課題について議論し、進捗状況と残された課題、女性役員に関する2020年目標等を平成29年に報告書「女性獣医師がより活躍できる環境づくりの推進—獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善のために—」にまとめた。

平成29年からの委員会では女性役員に関する2030年目標を設定した。

令和元年には“支援”を“活躍推進”に変えた「女性獣医師活躍推進委員会」が設置され、この委員会では調査やアンケートの定例化、日獣ロゴの活用等を報告書において提案した。

令和3年からは、地方獣医師会の役員、診療施設長、大学教員等の女性が委員となり、これまでに提案された対策について、改善を加えながら取組を進めるとともに、進捗状況や残された課題、目標の達成状況等を検討し整理した。

令和5年からの現委員会では、「獣医師の就業環境等に関する現況調査」が、前回の実施から10年を経過しており、獣医師を取巻く環境も大きく変化していることから、調査の実施について検討し、令和6年に改めて調査を実施した。また、毎年度実施している女性獣医師就業支援対策に係るアンケートに、新たに調査項目として「地区学会で託児所を設置されたか」を令和6年から追加して実施した。

本報告書では、委員会が提案した事業の具体的な進捗状況や残された課題、10年ぶりに実施した現況調査の結果必要と考えられた新たな課題であるハラスメント対策等についてまとめた。これを参考に地方獣医師会、大学、関係団体、それぞれの職域、職場等で、すべての獣医師が活躍しやすい環境の実現に向けた取組を進めていただきたい。

2 獣医師の就業環境に関する現況調査（2024年）

（1）調査の概要

ア 調査目的

獣医師全体の就業状況、女性の就業支援の整備状況などについて実態を把握するため、平成26年1月に「獣医師の就業環境等に関する現況調査」を実施（以下、「前回」という。）し、課題の分析と検討を行った。それから10年が経過し、働き方改革関連法の制定により、多様な働き方の選択やワーク・ライフ・バランス実現に向けた取組の推進など、労働環境や制度が大きく変化してきた。そこで、現在の獣医師を取りまく環境や実態について把握し、就業支援や労働環境の改善に資することを目的に改めて獣医師の就業環境についてアンケート調査を実施した。

イ 実施方法

令和6年8月10日から10月31日に、専用WEBサイトによるオンライン調査を実施した。

ウ 回答者

（ア）回答数

4,165名から回答があり、前回（4,371名）とほぼ同規模の調査となった。回答者の性別は、男性2,125名（51.0%）、女性1,912名（45.9%）とほぼ同じ割合となった（表1）。

（イ）地域及び職域

回答者の地域及び職域の割合を図1に示した。地域別では全国から回答を得られたが、令和4年12月31日現在の獣医師法第22条に基づく届出（以下、「22条届出」という）の地域割合と比較し、関東地方からの回答率が低くなり、東北及び九州地方からの回答率が高くなった。

職域別では「診療以外の業務であって獣医学上の知識を必要とする業務」が7割以上となり、産業動物診療と小動物診療は約1割であった。22条届出では、小動物診療に従事している獣医師が全体の4割を占めているにもかかわらず、本調査では全体の1割にとどまっている。なお、前回の回答者の職域割合は、産業動物診療12.3%、小動物診療13.5%、診療以外の業務であって獣医学上の知識を必要とする業務65.5%で、前回に比較しても小動物診療からの回答は少なくなった。

現在の勤務先では、国及び地方自治体（独立行政法人、大学除く）との回答が約7割を占めている。国の「その他の勤務先」は検疫所や研究機関、都道府県の「その他」では動物愛護センター、畜産試験場等研究機関や地方事務所、市町村の「その他」では動物園や動物愛護センターなどがあった。

その他、個人診療施設 11.5%、農業共済等が 5.5%、民間企業 6.1%で、いずれも前回に比べて割合が減っており、全体的に公務員獣医師の意見が大きく反映される結果となった。

(ウ) 職域の分類

調査の分析にあたり、職域についての分類を前回と同様に、従事する業務が産業動物診療（以下、「産業動物」という。）、小動物診療（以下、「小動物」という。）、現在の勤務先が国・都道府県・市町村と回答した「公務員」の 3 つとし、各属性の比較を行った。

なお、従事する業務の種類を産業動物と回答した人うち 76 人（産業動物の 18.4%）、小動物と回答した人のうち 5 人（小動物の 1.1%）は、現在の勤務先が国・都道府県・市町村と回答した公務員であった。

(エ) 回答者の性別、年齢別分布

回答者の性別と年齢分布を表 2 に示し、20 代から 40 代では男性より女性の回答が多くなっている。図 2 は職域別の年齢分布で、産業動物では男性の各年齢層に大きな差はないが、60 代以上では女性が極端に少なくなっている。小動物では 20 代の男性の回答が少なかった。公務員は定年延長や再任用で 60 代以上の回答が多かったと思われ、特に男性からの回答が多くなっている。

(2) 調査結果の分析 ―現状と課題―

ア 仕事上の不安や負担

図 3 は、現在、仕事をしていて不安や負担に思うことについて、「とても思う」から「まったく思わない」の 5 段階で回答を得た結果である。

「とても思う」「やや思う」の合計は、最も多かった項目が『給料が安い』で約 56% となり、次いで『知識や経験が不足している』が約 46% となった。それ以外の項目はすべて「あまり思わない」「思わない」の合計が「とても思う」「やや思う」の合計より多くなり、特に『家族の理解が得られない』は「まったく思わない」が約 42% となっている。

次に、各項目について男性と女性を比較したものが図 4 である。各項目の「とても思う」「やや思う」の合計は全体的に女性の方が多くなっており、不安や負担に感じている事項が多い。『妊娠中の仕事』や『仕事と家事の両立』など出産・子育てや家事と仕事の両立に悩んでいる女性が多く、また『技術的に自信がない』『体力に自信がない』『知識や経験が不足している』などの項目も女性の割合が多くなっていることがわかる。

職域別に比較すると、『労働時間が長い』『休暇がとれない』『仕事と育児・家事の両立がうまくいかない』といった項目は小動物で突出している。公務員は収入面とやりがいについて不安に感じている人が多い（図 5）。

図 6 に主な現在の勤務先、図 7 に年代別に、「とても思う」「やや思う」の合計の割合を示した。NOSAI と大学では労働時間や休暇についての割合が個人診療に次いで多く、民間企業では技術・知識等に関する不安と収入についての回答が多くなっている。世代別では技術・知識に関する不安が若年層ほど高くなっているが、体力については世代間の差がない。30～40 代の子育て世代は育児や家庭に関する回答が多いほか、『やりがいを見つけられない』も多くなっている。

前回（グラフの H26、以下同じ。）と今回（グラフの R6、以下同じ。）の比較を図 8 にまとめた。休暇の取得については改善がみられたが、その他の項目ではあまりか改善がみられず、獣医師の処遇改善は進んでいない。労働時間や仕事と育児・家事の両立では不安や負担を感じる人が多くなっているが、これらの項目は前回より女性の回答が多くなったことによるものと思われる。

さらに前回との比較を、職域と男女にわけて表 3 にまとめた。労働時間や休暇についての不安・負担は産業動物の女性で大きく増えている。仕事と育児・家事の両立の不安・負担は、小動物では男性が増えており、公務員では男女ともに増えている。

イ 女性の就業支援整備状況

職場での女性の就業支援はどの程度整備されているか、「十分整備されている」から「不十分だと思う」の 5 段階で回答を得た結果を図 9 に示した。今回は『ハラスメント対策』と『カウンセラーなどの専門家によるメンタル面のサポート』の 2 つの項目を追加した。

「十分整備」と「ほぼ整備」の合計が最も多い項目は『研修制度』で、また合計が 6 割を超えている項目は『子育てを支援するための休暇制度の整備』『男女差のない給与形態、昇級・昇格の仕組み』『女性専用のトイレや更衣室の整備』『有給休暇の取得がしやすい雰囲気づくり』『産休や育休に関する制度の職場での広報・周知』となった。「不十分」と「やや不十分」の合計は『産休・育休取得者の代替職員を容易に確保しやすい環境の整備』が最も多く、次いで『肉体的負担を軽減する作業補助具等の整備』が多かった。今回新たに設けた項目の『ハラスメント対策』では「十分整備」「ほぼ整備」の合計が 48% と高くなったが、『専門家によるメンタル面のサポート』は整備と不十分の回答がほぼ同じ割合となっている。

各項目で「十分整備」と「ほぼ整備」の回答を男女別に集計したものを図 10 に示した。女性より男性の回答割合が多い項目は 20 項目中 15 項目あり、整備状況に対する意識に若干差があった。その中で差が最も大きい項目は『残業・時間外労働の負荷軽減』、次いで『男女差のない給与形態、

昇級・昇格の仕組み』であった。『肉体的負担を軽減する作業補助器具等の整備』は男女の差はなく最も少なくなっている。

図 11 は職域別の回答で、小動物では「十分整備」「ほぼ整備」の合計割合が全体的に低くなっており、特にメンタル面のサポートは不十分と感じている人が多かった。『肉体的負担を軽減する作業補助器具等の整備』『産休・育休取得者の代替職員の確保』『休業から復帰のための研修等の充実』『休業中の職場の情報取得』については、全職域で整備が十分と感じている人は少ない。

図 12 は現在の勤務先、図 13 は世代別に「十分整備」と「ほぼ整備」の合計を示したものである。勤務先では、全体に個人診療が低い値になっており、公務員と民間企業では整備が進んでいる。世代間に大きな差はみられなかったが、全世代で『肉体的負担を軽減する作業補助器具等の整備』が少なくなっている。

前回と今回の比較を図 14 にまとめた。『給与形態、昇給昇格の仕組み』『子供の送迎可能な勤務時間の選択』『有給休暇取得しやすい雰囲気』など、改善している項目が多くなっている。しかし、『肉体的負担軽減用補助器具整備』や『肉体的負担の大きい職務の分掌』では不十分との回答が多くなった。『産休・育休中の代替職員を確保しやすい環境の整備』は前回から改善がみられず、不十分との回答が多くなった。

さらに前回との比較を、職域と男女にわけて表 4 にまとめた。肉体的負担軽減用補助器具整備や職務の分掌について、全職域の女性で未整備との回答が増加した。産休・育休取得者の代替職員の確保は、公務員の未整備という回答が増えていることが全体に大きく影響している。

ウ 離職と転職・再就職

現在の仕事以前に他の仕事についていたことがあるという回答は全体の 53.9%あり、その直近の勤務先の約 27%が診療業務であった（図 15）。

これまで獣医学上の知識を必要とする業務から離れたことがあるかとの質問に、70%は離れたことがないと回答した。図 16 は離職したことがある場合の離職理由をまとめたもので、『人事異動』『妊娠・出産』『精神的に疲れる仕事だった』の順に多くなっている。

さらに各職域の離職経験者の離職理由を図 17 に示したが、小動物では『妊娠・出産』が突出しており、仕事を継続するうえで大きな壁になっていることが明らかになった。公務員では『人事異動』が突出しており、『妊娠・出産、育児』も産業動物より多くなっている。また『精神的に疲れる仕事だった』はどの職域でも多い傾向にあった。

前回と比較すると、『精神的に疲れる仕事だった』が大きく増えている（図 18）。『妊娠・出産、育児』も前回より増加しているのは、女性の回答者数が増えたことも要因と思われるが、出産や育児を経て働き続ける環境の改善が進んでいないと考えられる。

今後、もし転職や再就職をするとした場合の情報収集について、今回は SNS に関する項目を追加し、結果を図 19 にまとめた。ホームページから SNS まで幅広い情報を活用したいと考えている人が多く、その中で最も役に立つ情報を得られると思うものとして『民間の転職・求人サイト』が最多となった。前回と比較すると『民間の転職・求人サイト』が増えた半面、『知人や友人の紹介や口コミ』が減少した（図 20）。また世代別では、若い世代ほどネットや SNS からの情報や民間の転職・求人サイトの活用を考えている（図 21）。

現在の業務が「獣医学上の知識を必要としない業務」及び「無職」と回答した 238 人のうち、「今後獣医学上の知識を必要とする業務に就きたい」との回答は 168 人（70.6%）であった。希望する業務は産業動物診療が 23.8%、小動物診療が 19.6%、診療以外で獣医学上の知識を必要とする業務が 74.4%であった。希望する勤務形態では、フルタイムが 63.7%で男性の希望が高く（図 22）、パート及びアルバイトと回答した人は、男性では 50 代以上、女性では 30～40 代が多かった。再就職に際し重視することを図 23 にまとめた。全体に業務内容を重視しており、最も重視すること（1 つ選択）の設問では 33.3%が業務内容と回答した。さらに世代別に示したものを図 24 に示したが、30～50 代では勤務場所や給与などの勤務条件を重視していることがわかる。

エ 女性の就業環境について自由意見

（ア）集計方法

女性獣医師の就業環境の現在の職場の問題点や制度的な改善が必要な部分などについての自由意見は、テキストマイニングにおける共起分析（使用ソフトは KHCoder）を行った。これは、テキストデータから特定の単語やフレーズが同時に出現する頻度を分析し、単語同士の関連性を可視化する手法である。記載内容の詳細な分析とはなっていないが、視覚的な全体の傾向をつかむことで現状や課題についての考察を行った。

（イ）回答

自由意見は 2,019 人から回答があり、男性は 789 人、女性は 1,180 人、その他・回答なしが 50 人だった。世代別では、20 代 146 人、30 代 518

人、40代 602人、50代 516人、60代 186人、70代以上が 51人から意見が寄せられた。

図 25 は全回答のマッピングで、産休・育休、育児、勤務体制などに関する記述が多かったことがわかる。全体的に人員不足と代替職員に関する記述が多かったことは、女性の就業支援の整備状況に関する回答とも共通している。また、多くの人が産休・育休等の制度に対する理解があるものの、そのために業務の負担が増える人への配慮や給与等によるフォローを求める意見が、性別や年齢に関係なく多かった。図 26～28 はそれを性別に分けたもので、性別により頻出する内容に差があることがわかる。以下、世代及び属性別に寄せられた意見の概要をまとめた。

(ウ) 世代別

図 29～31 は 20・30 代からの回答で、出産・育児及び産休・育休に関する意見が多く、切実な問題であることが伺える。女性獣医師が多くなっている中で、産休・育休の取得あるいは短時間勤務を行っている職員がいる場合の、人員不足や周囲の負担増加に対する不満、対策や制度の改善を望む意見は男女ともに多い。また長時間勤務の問題についても男女ともに多くみられる。共働きが一般的な世代でもあり、男性からも育児取得や短時間勤務を望む声がある。フレックスタイムやテレワークの導入、研修のオンライン化などを望む意見もあった。

図にはないが、20～40 代の女性では、生理中の勤務の問題（上司が男性で生理休暇を申請しにくい、トイレに行けない、制服が白、シャワーインの農場など）、妊娠中の問題（休息がとれない、長時間の立ち仕事や力仕事等の業務内容、薬品等の取扱いなど）を指摘する意見も少なくない。少数ではあるが、職場環境や仕事の継続性を考えて結婚や出産は困難と感じる、妊活に取り組む時間がないといった意見もあった。また、子供が小学校入学後に短時間勤務が取れないなど、いわゆる”小 1 の壁”に悩む意見もみられる。

図 32～34 は 50・60 代からの回答で、この世代は管理職あるいは経営者からの視点も多くなっている。女性の就業に関する制度は整備されている、改善しているという意見が他の世代より多く、男性だけでなく女性からも問題ないという回答があった。一方、人手不足の補充や代替職員の確保の難しさ、職員の異動や配置など、経営や組織運営の問題を挙げる意見が特に男性に多かった。女性では、出産等により離職や転職せざるを得ない環境、育休からの復職支援、子育てや介護の負担が女性に偏っていることなど、今も改善されていない問題についての意見が多く寄せられた。

(エ) 産業動物

図 35～41 は産業動物の意見である。全体に産業動物の獣医師不足と、代替・臨時職員の確保が難しいという意見が多い。男性からは、体力が必要な業務が多いことや夜間・早朝の勤務について、女性獣医師が増える中で対応が難しくなっている点、男性の負担が多くなっていることを指摘する意見も少なくない。20・30代では、農家や上司の女性獣医師に対する意識の問題や、職場の女性の就業環境を懸念する意見もみられる。50代以上では、同様の意見がある一方で、制度は整っており問題ないとする意見や女性に対する批判的な意見も散見された。

女性からは、産休育休取得による技術面の不安や昇格の遅れ、収入、妊娠中の保定、薬品取扱い、レントゲンなどの業務、体力、将来仕事を続けられるかなど、様々な不安を訴える声が多い。また畜産分野における女性に対する偏見やハラスメントについての意見、農場や職場のトイレ等の設備が整備されていないとの指摘もあった。20・30代では、周囲に相談できる女性の先輩や上司がいないことや、結婚・妊娠による離職、妊活ができないなどの意見もみられる。20～40代では、産休・育休の取得で周囲に負担をかけることへの罪悪感や、家庭の事情に応じた柔軟な働き方を求める意見もあった。

産業動物の中で、農業共済組合（NOSAI）に勤務する人の意見を抽出したものが図 42～44 である。産業動物の 223 人のうち、NOSAI からの回答は 109 人と約半数で、男女ともに 20 代の意見は少なかった。産休・育休などの制度は改善されているとの回答が多かったが、人手不足や代替職員の確保の難しさなど運用の難しさを挙げる意見が多くなっている。また NOSAI あるいは診療所により状況が異なるため、多様な意見となっている。

個人診療施設に勤務する人からは、休暇や短時間勤務などの実施が人員の問題などから難しい、設備が不十分という意見があり、公的支援を求める声もあった。

（オ）小動物

図 45～51 は小動物の回答で、6 割以上が女性からの意見だった。男性の回答は 20・30 代が少なく、8 割以上が 40 代以上だったが、女性は 40 代以下からの回答が 7 割となった。こうした年齢層の違いが、男女の回答の違いにも影響していると推測される。9 割が個人診療施設からの回答だったため、経営規模が小さく対応が難しい、人員不足でもすぐに雇用が難しいといった意見が多く、仕事上の不安や負担及び女性の就業支援の整備状況についての結果を反映した回答となっている。また、顧客との関係で休暇が取れない、休日や夜間の来客への対応、カスタマーハラスメントなど労働環境に関する意見もあった。

男性は、20・30代では給与が安い、休みが取れないという意見が多く、40代を含め収入や勤務体制の改善を望む声が多い。50・60代では、女性の就業環境の改善は必要としながら、人手不足、顧客との関係、経営上の問題などから対応は難しいとする意見が多い。経営者として改善に取り組んでいるという意見がある一方で、女性の問題指摘や女性に対する支援等に否定的な意見も散見された。

女性からは、すべての世代で、長時間勤務の問題、産休・育休制度が不十分または制度があっても実際には取得できず離職せざるを得ない、家庭との両立が困難、上司・経営者の無理解やハラスメント、男女の差別的待遇などを訴える意見がみられる。また雇用制度やハラスメントについての普及啓発、相談窓口の設置を求める意見もあった。特に40代は、結婚・出産後の離職やパート勤務、勤務時間の短縮などにより、収入が大幅に減少したことを問題に挙げる意見が多い。少数ではあるが、40代以上で出産・育児をしながら働き続けるため、自ら開業したという意見もあった。

(カ) 公務員

図 52～58 が公務員の意見で、制度的に整っているという意見が多い反面、慢性的な人員不足、産休・育休を取得した場合の代替職員等による補充が困難であること、周囲の負担増加を指摘する意見が、世代や性別に関係なく非常に多かった。同時に、余裕をもった人員確保、負担が増加する職員へのサポートや手当などによるフォロー体制を求める意見も多い。また業務量や勤務時間が増えている問題、負担増加による離職、あるいは自分も離職を考えるとといった意見も少なくない。

男性の意見として、上記のような背景があるためか、女性が優遇されている、業務量や転勤などが男性に偏っているといった不満が、若い世代を含めてみられる。20～40代では、男性も含めすべての獣医師の待遇改善や、家庭環境に合わせた休暇制度・勤務体系を求める意見、今後さらに女性が増えることを予測した制度や設備の改善を求める意見もあった。50・60代では、体力面の不安、長時間勤務や緊急対応の改善やサポートについての意見がみられる。

女性では、概ね制度が整っているという意見だったが、産休・育休を取得する場合の周囲への負担を考える意見が多く、出産・育児をしていない女性に負担が偏ることへの不満もみられる。診療業務では出産や家事との両立が難しいため、公務員に転職した人も多かった。また、男性の育児・家事への参加、育児休暇の取得、そのための意識改革を求める声もあった。20・30代では、生理や妊娠時の対応や業務等について不安や改善を求める意見もあった。40代では、育児だけでなく、就学児童や

介護にも配慮した制度や柔軟な勤務時間を要望する意見もみられる。50・60代では、これまでの経験を踏まえて制度や社会環境が改善されていることへの評価と、施設等の職場環境や差別意識が未だに改善していないという両方の意見がある。また女性のライフステージに合わせた柔軟な働き方の提案も散見された。

このほか女性からの意見として、家畜保健衛生所ではトイレ・シャワー等の設備が不十分、家畜伝染病発生時などの緊急対応、農家や畜産関係者の意識などの問題についての意見もみられる。食肉衛生検査所では長時間の立ち仕事や力仕事への不安、作業台の高さやシャワー等設備の問題、勤務時間についての意見もあった。

(キ) その他

民間企業では、産休・育休などの制度が整備されているとの回答が多かったが、専門性の高い業務や少人数の企業では休暇を取得しづらいとの意見も見られる。業種や企業の規模により状況が異なることがわかる。

現在無職の女性の意見では、家事や育児との両立が難しい、ライフスタイルに合った働き方が見つからないなどの意見とともに、短時間勤務にあっせんや相談できる体制を求める意見もあった。

オ まとめ

(ア) 仕事の不安や負担に感じる事

仕事の不安・負担は「収入が少ない」が最多で、前回調査より増えており、職域に関係なく獣医師の処遇改善は喫緊の課題である。次いで「知識や経験が不足している」が多く、リスキリングの機会を増やすための仕組みや制度を充実させる必要がある。女性では「技術的に自信がない」という回答も多くなっていることから、産休・育休からの復職、転職・再就職に向けたリカレント教育を増やすことが重要と考えられる。

仕事と育児や家事の両立に職域によって大きな差があり、特に小動物診療では労働時間や休暇取得の問題解決など働き方改革が求められている。しかも前回調査と比較して、あまり改善がみられていないことも問題である。獣医師の4割が小動物診療に従事し、学生の半数近くが小動物診療を目指す状況で、女性が継続して働く環境を早急に整備できるよう、獣医師会や国の指導と支援が必要である。

(イ) 女性の就業支援の整備状況

不十分という回答が最も多かった事項は「産休・育休取得者の代替職員を容易に確保しやすい環境の整備」で、前回調査よりも悪化している。制度の整備だけでなく、産休・育休の取得をしたことで周囲の負担が増加し、全体の労働環境に影響を及ぼしている状況を改善しなければなら

ない。背景に産業動物獣医師や公務員の不足、地域偏在などの問題があると考えられ、総合的な対策を検討すべきである。

女性の就業支援の整備状況について男女や世代間の認識に差があることから、職場全体の共通認識を持てるようコミュニケーションの推進が重要である。職域によって整備状況が異なるので、それぞれ不十分な点の改善が求められる。

今回の調査では、メンタル面のサポートや相談窓口の整備など、ソフト面の支援策が求められていることが明らかになった。特に小動物診療では個々の職場で対応が難しく、獣医師会などによる横断的な対策を期待したい。

(ウ) 離職と就職に関する情報収集

全体の 28.4%が獣医学上の知識を必要とする業務から離れた経験があり、「人事異動」という理由が最多となった。離職理由として、「精神的に疲れる仕事だった」が前回に比べ大幅に増加しことから、メンタル面のケアが離職防止に重要と考えられる。

転職・再就職のための情報源として、民間の転職・求人サイトと SNS の活用が多くなっており、正確な情報提供に向けた取組が必要と考えられた。

最後に、獣医師が長く働き続けるためには、女性の出産・育児による離職の防止と、男性も含めた働き方改革、職場の体制整備が必要である。メンタル面のサポートやハラスメント防止など、個人や職場だけでは対応が難しい課題もあり、獣医師会や関係機関が連携して取り組むことも重要である。今回の調査結果をもとに、各職場における取組の推進と、国、都道府県、獣医師会など関係者が一体となって協力・支援する体制づくりをお願いする。

表 1 回答者の性別

	今回		前回	
	n	%	n	%
全体	(4165)		(4371)	
男性	2125	51.0	2923	66.9
女性	1912	45.9	1429	32.7
回答しない	116	2.8	—	—
無回答	12	0.3	19	0.4

表 2 回答者の年齢分布

	今回						前回	
	n	%	男性		女性		n	%
全体	(4165)		(2125)	%	(1912)	%	(4371)	
20代	395	9.5	145	6.8	243	12.7	484	11.1
30代	1038	24.9	495	23.3	507	26.5	1225	28.0
40代	1195	28.7	485	22.8	666	34.8	1060	24.3
50代	1029	24.7	598	28.1	404	21.1	1204	27.5
60代	413	9.9	317	14.9	89	4.7	341	7.8
70代	82	2.0	76	3.6	3	0.2	36	0.8
80代以上	7	0.2	6	0.3	0	0.0	前回は70代以上まで	
無回答	6	0.1	3	0.1	0	0.0	21	0.5

表3 仕事上の不安や負担（属性・男女別の前回との比較）

『思う』は「とても思う」「やや思う」の割合の合計、『思わない』は「あまり思わない」「まったく思わない」の割合の合計

は50%以上

項 目	属性 前回H26 今回R6	産業動物				小動物				公務員			
		男性		女性		男性		女性		男性		女性	
		思う	思わない	思う	思わない	思う	思わない	思う	思わない	思う	思わない	思う	思わない
労働時間が長い	H26	45.5%	37.3%	39.7%	38.0%	66.5%	19.0%	70.3%	16.5%	19.8%	53.1%	22.5%	54.3%
	R6	40.6%	39.8%	53.6%	25.4%	64.8%	21.1%	66.0%	19.1%	26.2%	48.2%	29.2%	46.0%
休暇がとれない	H26	47.9%	40.3%	37.1%	44.8%	74.6%	15.9%	74.0%	13.7%	22.9%	58.2%	22.1%	59.4%
	R6	35.3%	50.6%	47.8%	35.5%	61.7%	21.1%	64.1%	23.0%	21.5%	62.3%	21.9%	62.9%
転勤が多い	H26	27.9%	49.4%	32.7%	44.0%	2.5%	87.2%	1.4%	90.5%	33.9%	41.9%	37.0%	40.0%
	R6	20.5%	59.0%	24.6%	62.3%	3.1%	89.9%	1.4%	93.8%	37.3%	40.8%	37.3%	44.4%
期待していた仕事の内容ではない	H26	13.3%	66.9%	13.0%	69.9%	9.8%	73.8%	14.2%	65.6%	24.9%	44.9%	27.5%	43.8%
	R6	14.5%	62.2%	13.8%	64.5%	10.1%	69.6%	12.0%	72.7%	30.2%	39.8%	30.5%	40.6%
技術的に自信がない	H26	21.5%	52.9%	54.3%	19.8%	31.3%	41.6%	52.9%	21.7%	23.7%	49.8%	37.5%	34.3%
	R6	26.9%	52.2%	47.8%	28.3%	36.1%	44.1%	58.9%	21.1%	28.7%	48.1%	39.9%	34.5%
体力に自信がない	H26	21.5%	58.3%	43.9%	39.6%	26.8%	50.8%	45.7%	34.0%	15.4%	64.2%	31.7%	47.3%
	R6	29.3%	48.6%	40.6%	37.7%	39.6%	38.8%	53.1%	26.3%	22.2%	53.3%	42.4%	36.6%
家族の理解が得られない	H26	10.4%	69.2%	12.0%	70.7%	17.1%	67.6%	21.2%	64.1%	5.2%	77.9%	6.1%	79.4%
	R6	8.8%	75.1%	12.3%	72.5%	14.1%	67.4%	16.7%	71.3%	6.7%	76.0%	7.0%	79.2%
知識や経験が不足している	H26	40.5%	35.3%	68.9%	12.9%	48.3%	24.6%	60.8%	15.6%	37.6%	38.1%	55.3%	22.4%
	R6	36.5%	40.6%	63.8%	18.8%	44.1%	33.0%	60.3%	17.7%	38.3%	38.2%	51.9%	24.5%
給料が安い(収入が少ない)	H26	53.3%	22.9%	36.2%	40.5%	44.1%	33.8%	55.6%	26.8%	67.1%	12.8%	54.5%	20.9%
	R6	48.2%	29.3%	35.5%	38.4%	40.5%	37.9%	47.8%	29.2%	65.1%	14.6%	56.1%	19.3%
やりがいを見つけられない	H26	14.1%	68.9%	16.3%	66.3%	10.4%	75.5%	9.5%	74.1%	25.4%	48.5%	29.5%	45.3%
	R6	18.9%	63.1%	15.2%	67.4%	11.5%	70.0%	11.5%	76.6%	39.4%	36.7%	36.4%	39.6%
仕事上の人間関係がうまくいかない	H26	18.5%	58.3%	22.4%	54.3%	17.1%	57.6%	17.4%	58.5%	13.1%	60.1%	18.0%	51.7%
	R6	17.7%	58.2%	21.0%	57.2%	24.2%	49.8%	19.1%	61.2%	16.2%	56.1%	19.5%	56.5%
仕事と育児との両立がうまくいかない	H26	25.6%	40.5%	41.3%	22.4%	27.9%	44.1%	48.5%	26.9%	12.8%	54.6%	23.2%	41.6%
	R6	25.3%	45.4%	36.2%	34.1%	41.0%	40.5%	45.5%	30.1%	18.6%	50.6%	26.9%	41.9%
仕事と介護の両立がうまくいかない	H26	23.5%	35.3%	25.9%	36.2%	25.7%	41.9%	34.0%	33.5%	15.4%	44.8%	15.7%	44.6%
	R6	25.3%	38.6%	26.8%	41.3%	25.6%	43.2%	31.1%	37.3%	14.3%	45.9%	18.9%	43.7%
妊娠中に仕事ができるか心配	H26	24.4%	26.9%	69.8%	16.4%	21.8%	42.4%	54.7%	31.7%	6.6%	39.9%	31.2%	47.8%
	R6	18.1%	35.7%	50.0%	34.1%	20.3%	41.4%	48.8%	37.3%	9.0%	41.5%	26.2%	52.8%
仕事と家事の両立がうまくいかない	H26	27.1%	48.2%	44.8%	31.1%	34.3%	43.9%	57.6%	25.5%	14.2%	59.7%	29.1%	46.3%
	R6	23.7%	51.0%	42.8%	31.2%	45.4%	37.9%	55.5%	26.8%	20.7%	55.6%	33.9%	43.1%
必要ときに短時間の勤務ができない	H26	38.0%	42.9%	45.7%	34.5%	36.6%	40.5%	55.7%	25.9%	18.7%	53.7%	29.3%	47.6%
	R6	35.3%	47.4%	39.1%	40.6%	41.0%	37.4%	45.9%	35.4%	26.6%	51.6%	32.0%	50.0%

表4 女性の就業支援の整備状況（属性・男女別の前回との比較）

『整備』は「十分整備」「ほぼ整備」の割合の合計、『未整備』は「やや不十分」「不十分」の割合の合計

は50%以上

項 目	属性 前回H26 今回R6	産業動物				小動物				公務員			
		男性		女性		男性		女性		男性		女性	
		整備	未整備	整備	未整備	整備	未整備	整備	未整備	整備	未整備	整備	未整備
子育てを支援するための休暇制度の整備	H26	40.3%	35.0%	46.5%	35.4%	19.2%	50.5%	19.4%	54.2%	80.3%	5.8%	79.1%	7.6%
	R6	59.0%	16.5%	57.2%	24.6%	44.5%	28.6%	36.8%	45.0%	76.3%	7.8%	75.9%	9.3%
男女差のない研修制度	H26	67.4%	9.9%	70.7%	11.2%	56.5%	12.3%	54.2%	12.2%	83.8%	3.1%	77.8%	6.2%
	R6	68.3%	11.6%	76.1%	8.7%	64.0%	10.1%	55.0%	16.3%	80.2%	4.3%	79.1%	5.6%
男女差のない給与形態、昇給・昇格の仕組み	H26	52.0%	17.0%	50.0%	17.2%	50.0%	13.1%	45.7%	21.7%	67.6%	8.2%	56.6%	17.3%
	R6	60.2%	14.1%	61.6%	11.6%	59.5%	10.1%	49.8%	23.0%	72.7%	6.8%	66.8%	12.1%
女性用の仕事用衣服の支給	H26	48.4%	19.7%	56.9%	24.1%	65.3%	10.6%	70.8%	9.0%	64.6%	8.9%	56.7%	16.9%
	R6	46.6%	21.7%	47.8%	24.6%	74.9%	6.2%	67.0%	16.3%	54.2%	12.1%	78.5%	8.5%
女性専用のトイレや更衣室の整備	H26	54.1%	26.4%	54.3%	33.7%	31.5%	37.4%	48.6%	26.0%	78.5%	11.8%	75.8%	15.2%
	R6	59.0%	25.3%	61.6%	21.7%	40.1%	36.1%	50.2%	28.2%	72.2%	11.8%	74.7%	16.5%
肉体的負担を軽減する作業補助器具等の整備	H26	16.6%	43.3%	13.8%	45.7%	15.1%	39.4%	16.5%	40.5%	24.0%	26.3%	18.5%	32.9%
	R6	20.5%	41.8%	16.7%	56.5%	19.8%	37.9%	13.4%	54.1%	16.0%	40.0%	17.2%	44.2%
肉体的負担の大きい職務内容の適切な分掌	H26	26.1%	31.9%	33.6%	31.9%	21.7%	30.7%	25.9%	36.3%	51.3%	11.7%	42.2%	18.8%
	R6	32.9%	28.1%	31.9%	35.5%	34.8%	24.7%	25.4%	36.8%	40.3%	18.5%	38.0%	24.0%
保育園や幼稚園の送迎が可能な勤務時間を選択できる仕組み	H26	21.2%	49.6%	19.9%	53.4%	18.8%	48.1%	25.5%	47.7%	59.7%	17.4%	55.3%	22.7%
	R6	35.3%	38.2%	33.3%	39.1%	41.9%	25.6%	45.5%	34.0%	67.0%	12.9%	66.2%	15.9%
有給休暇の取得がしやすい雰囲気づくり	H26	25.7%	48.4%	38.7%	43.1%	30.4%	38.8%	21.7%	49.5%	65.5%	11.2%	62.9%	15.2%
	R6	55.0%	23.3%	48.6%	28.3%	53.3%	20.7%	45.0%	36.4%	70.3%	10.2%	69.7%	12.6%
必要な場合に出張や外部研修への参加を減免する仕組み	H26	36.6%	22.2%	43.1%	18.1%	36.6%	25.2%	32.6%	29.8%	57.9%	9.9%	51.6%	13.4%
	R6	46.2%	20.1%	45.7%	22.5%	41.0%	22.9%	39.7%	29.7%	53.5%	12.3%	56.0%	14.0%
上司・同僚からの理解を得るための機会（面談、面接、会議等）	H26	30.4%	24.7%	33.6%	33.7%	30.1%	24.9%	31.2%	30.7%	61.4%	8.9%	49.1%	14.1%
	R6	43.0%	20.5%	43.5%	30.4%	39.2%	27.8%	32.1%	39.7%	61.6%	9.2%	60.2%	13.6%
産休や育休に関する制度（申請や給与、復職後の見直し等）に関する職場での広報・周知	H26	35.1%	36.1%	30.2%	48.2%	19.0%	49.5%	18.4%	54.7%	74.4%	7.1%	70.4%	14.3%
	R6	50.2%	28.1%	39.9%	31.9%	40.1%	29.5%	33.5%	46.9%	70.2%	10.0%	68.9%	12.0%
産休・育休取得者の代替職員を容易に確保しやすい環境の整備	H26	15.5%	62.2%	9.5%	78.4%	8.7%	64.2%	7.6%	70.8%	40.5%	36.9%	30.7%	47.5%
	R6	22.9%	57.4%	11.6%	74.6%	23.3%	45.8%	14.8%	70.3%	31.1%	47.6%	27.6%	53.9%
休業からスムーズに復帰できるための研修等の充実	H26	11.6%	51.1%	4.3%	61.3%	11.2%	50.0%	7.1%	56.2%	32.0%	23.4%	19.6%	36.7%
	R6	18.5%	39.4%	13.0%	55.8%	23.8%	39.6%	10.5%	61.7%	31.0%	24.9%	28.2%	29.7%
休業中も職場の動きや情報を得られるような仕組み	H26	12.6%	51.6%	5.2%	61.2%	12.1%	50.6%	10.8%	50.0%	29.2%	31.7%	18.8%	42.9%
	R6	19.3%	43.8%	14.5%	53.6%	28.6%	35.7%	19.6%	51.2%	30.0%	31.3%	25.8%	35.2%
残業・時間外労働の負荷軽減	H26	24.7%	40.5%	24.1%	44.0%	27.1%	41.1%	22.6%	45.7%	55.6%	14.9%	46.1%	22.7%
	R6	35.7%	33.7%	29.0%	48.6%	44.5%	26.9%	29.2%	48.3%	47.6%	22.6%	42.1%	29.7%
出産・子育てや休業からの復職などに関する組織内の相談窓口の整備	H26	16.1%	50.6%	16.4%	57.8%	12.3%	55.1%	18.4%	50.9%	47.8%	15.7%	39.1%	24.8%
	R6	31.3%	37.8%	23.2%	44.2%	26.4%	40.1%	23.9%	52.6%	46.9%	15.6%	44.1%	19.8%
子育てと仕事を両立しているモデルケースの紹介	H26	13.6%	54.8%	11.2%	66.3%	11.2%	52.0%	12.7%	56.1%	30.6%	24.8%	27.1%	33.9%
	R6	24.1%	38.6%	20.3%	47.1%	18.9%	41.4%	23.0%	52.6%	36.8%	21.2%	36.8%	27.5%

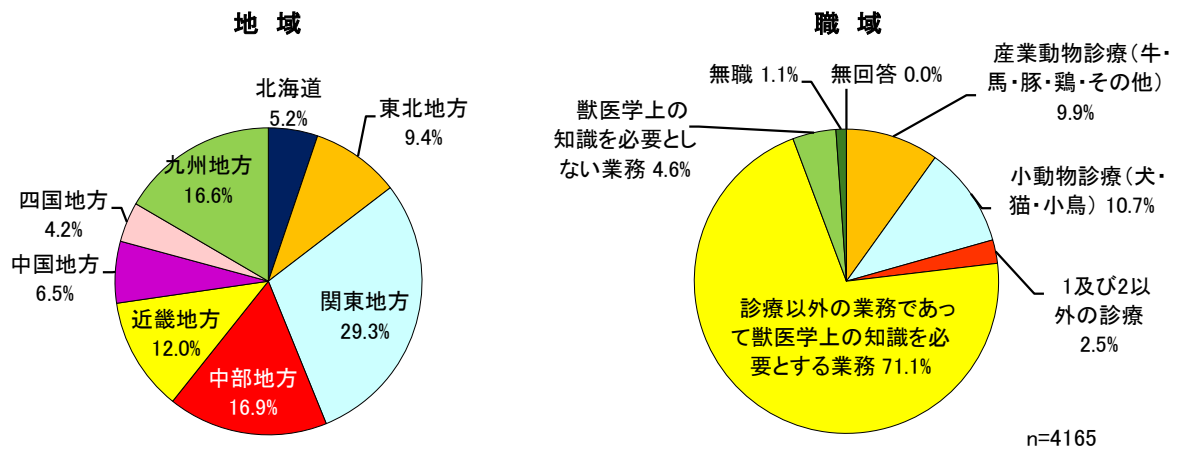


図1 回答者の属性(地域及び職域)

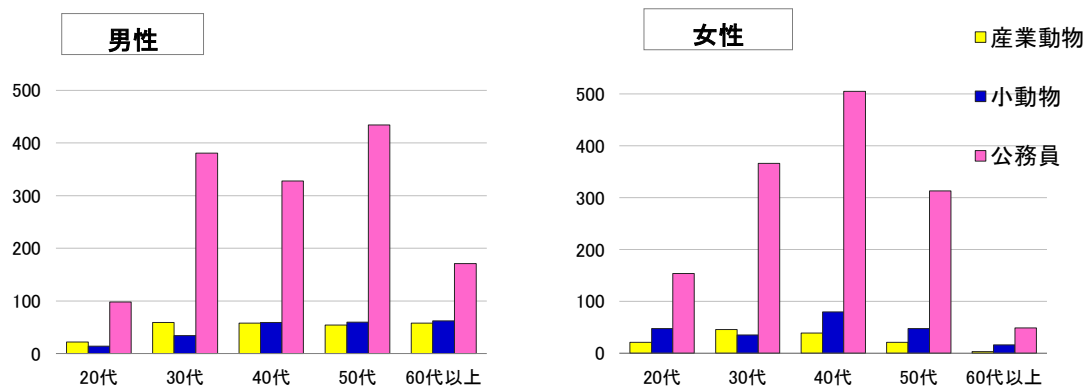


図2 回答者の職域・年齢分布

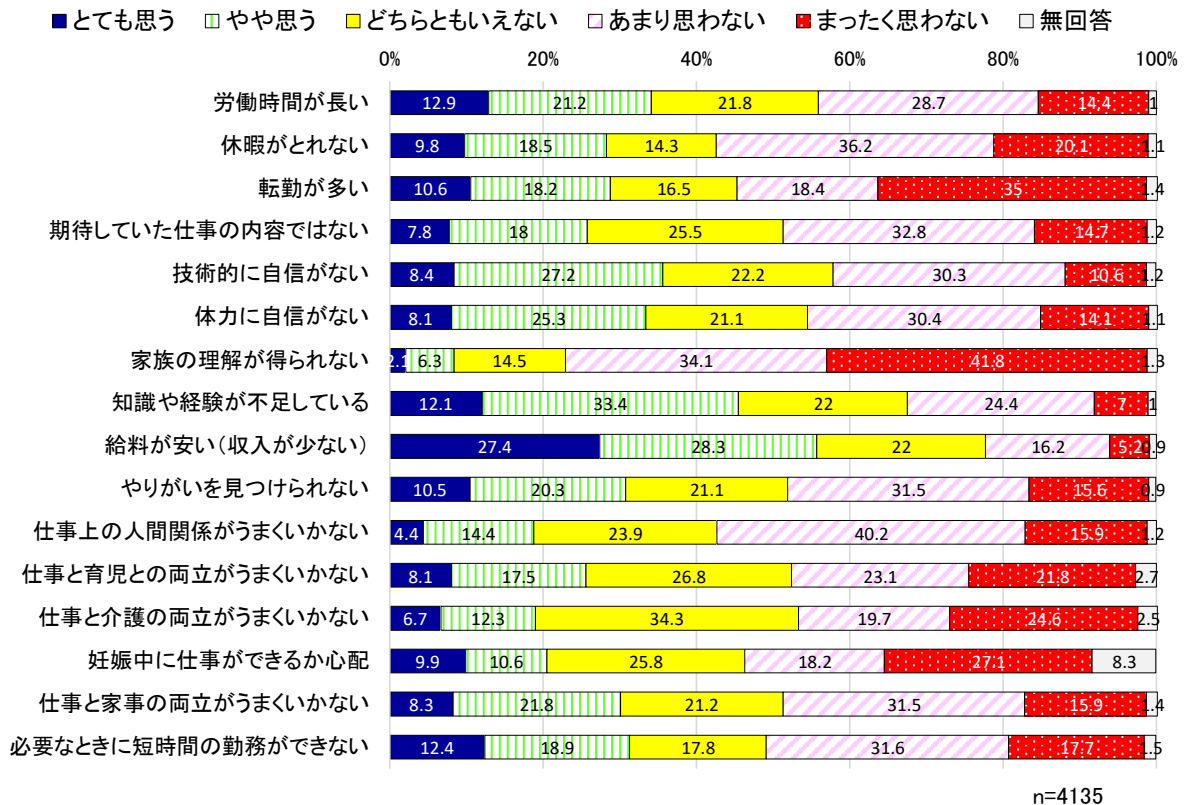


図3 仕事上の不安や負担(全体)

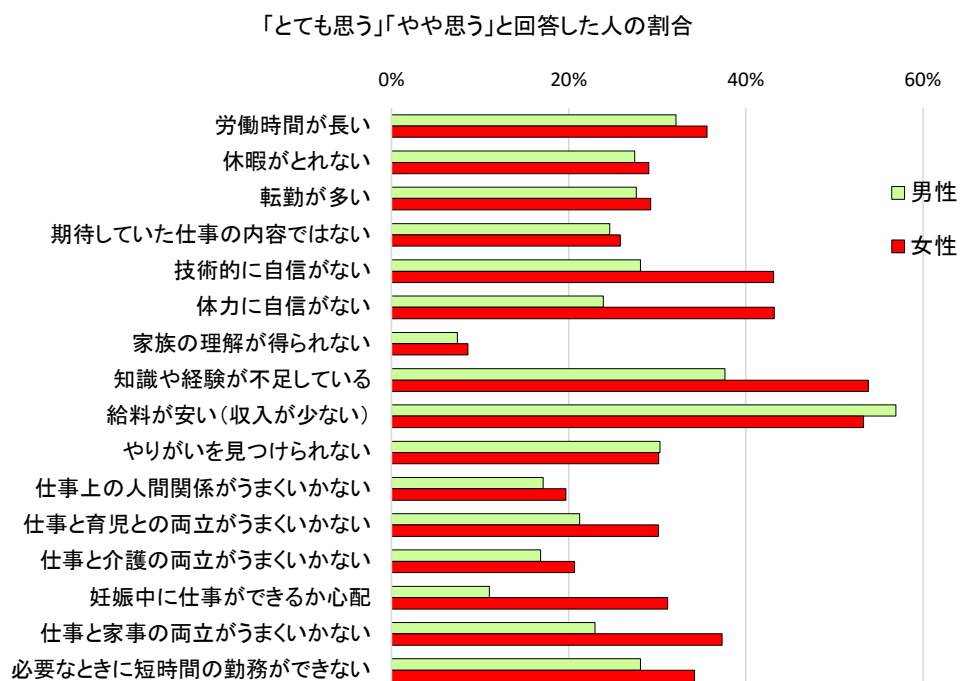


図4 仕事上の不安や負担（男女別）

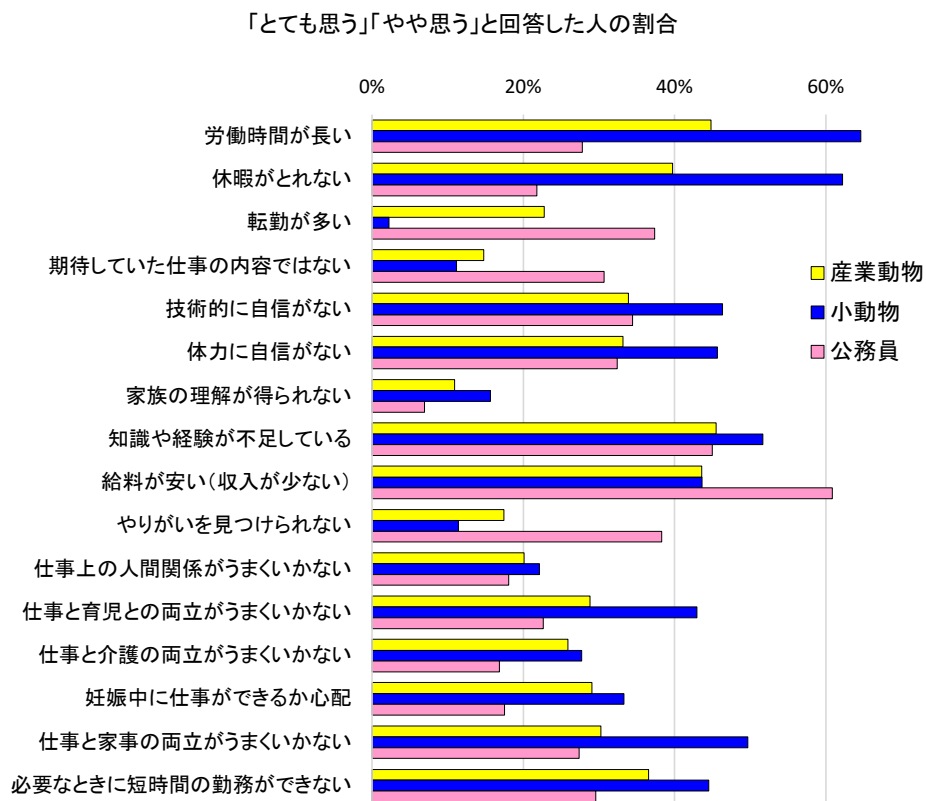


図5 仕事上の不安や負担（職域別）

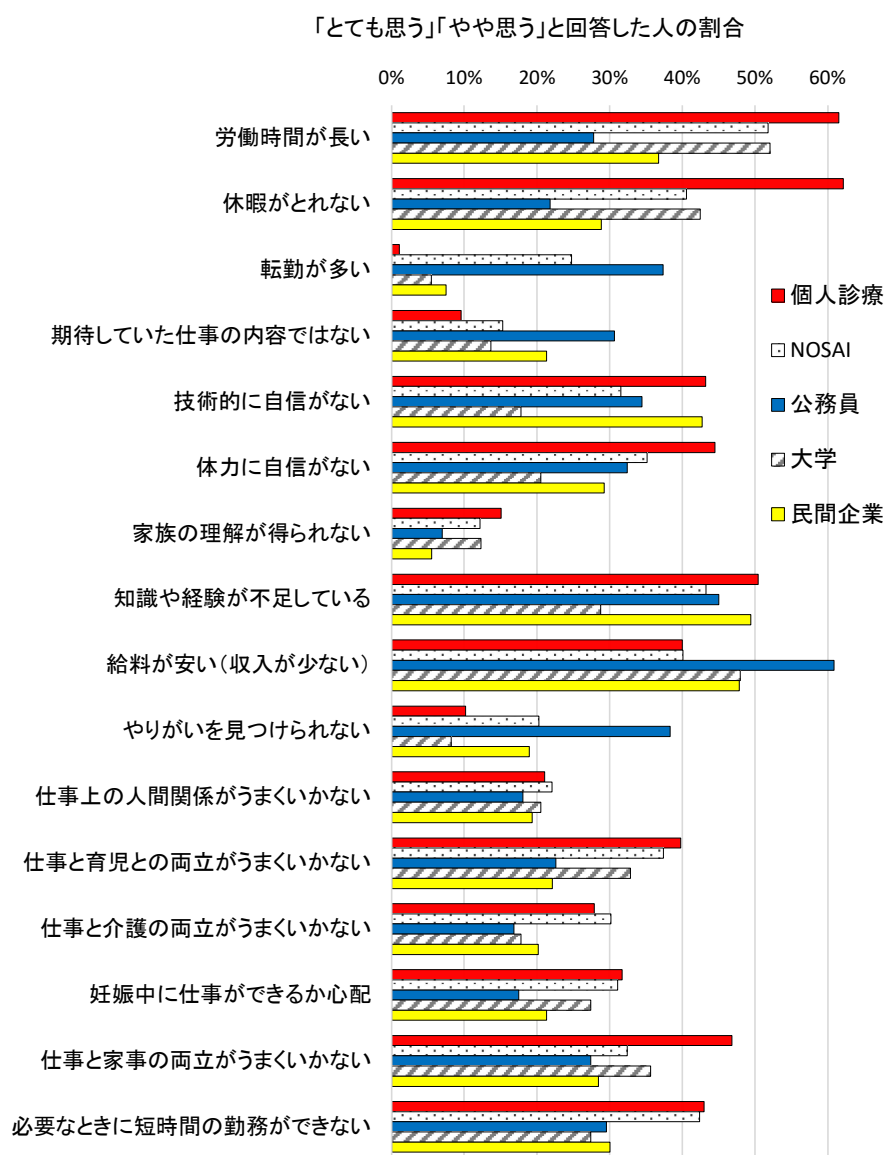


図6 仕事上の不安や負担（現在の勤務先別）

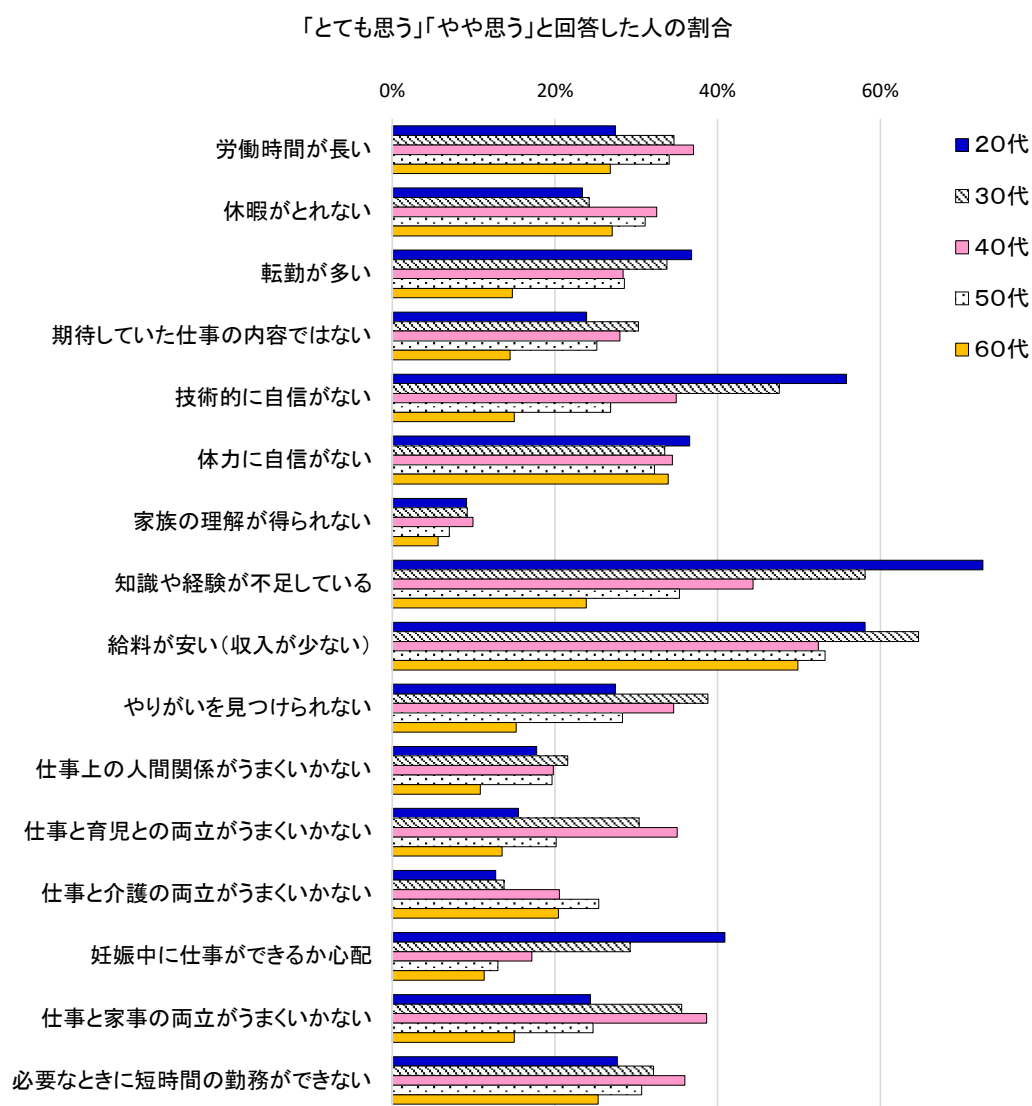


図7 仕事上の不安や負担（世代別）

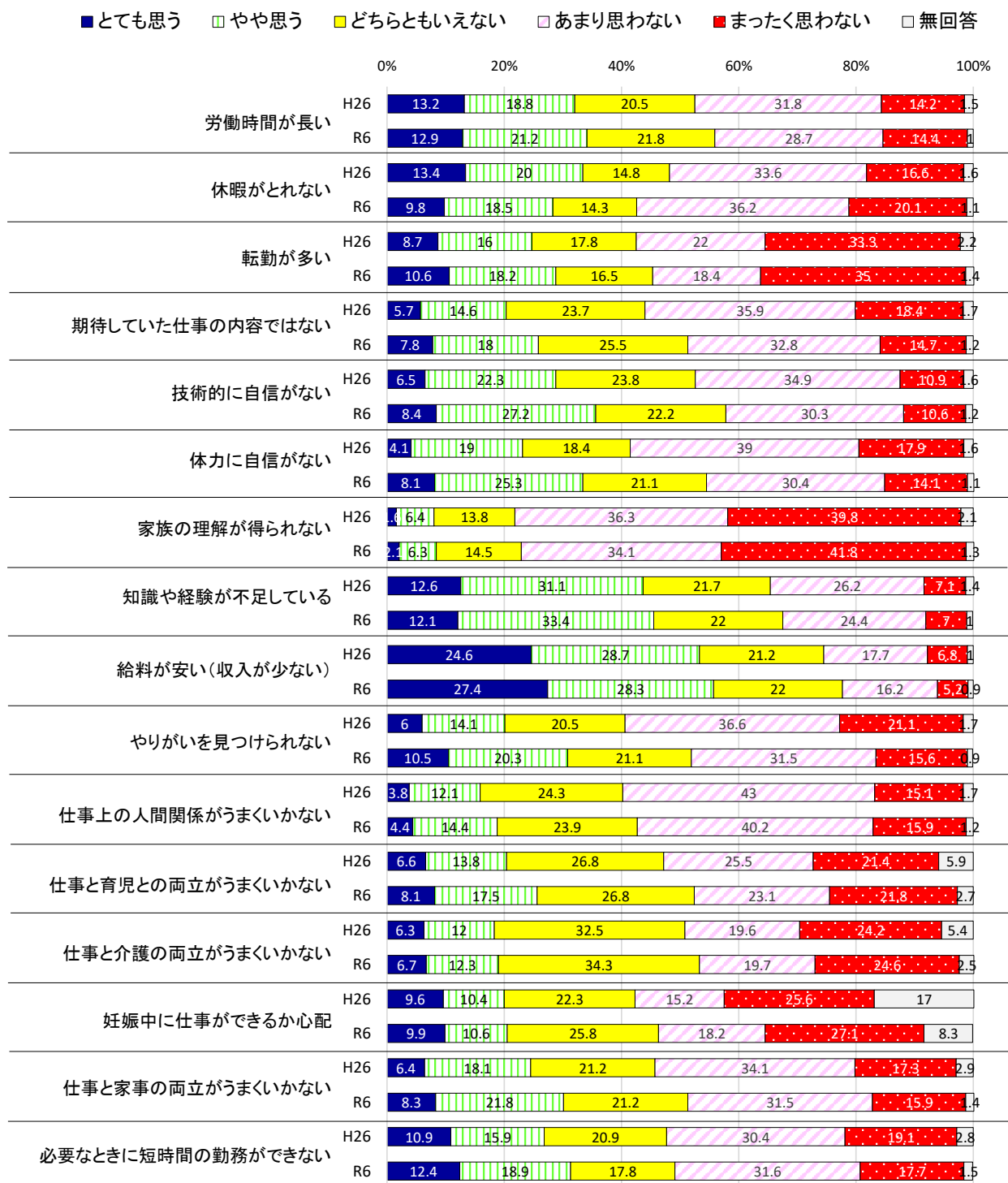


図8 仕事上の不安や負担（前回との比較）

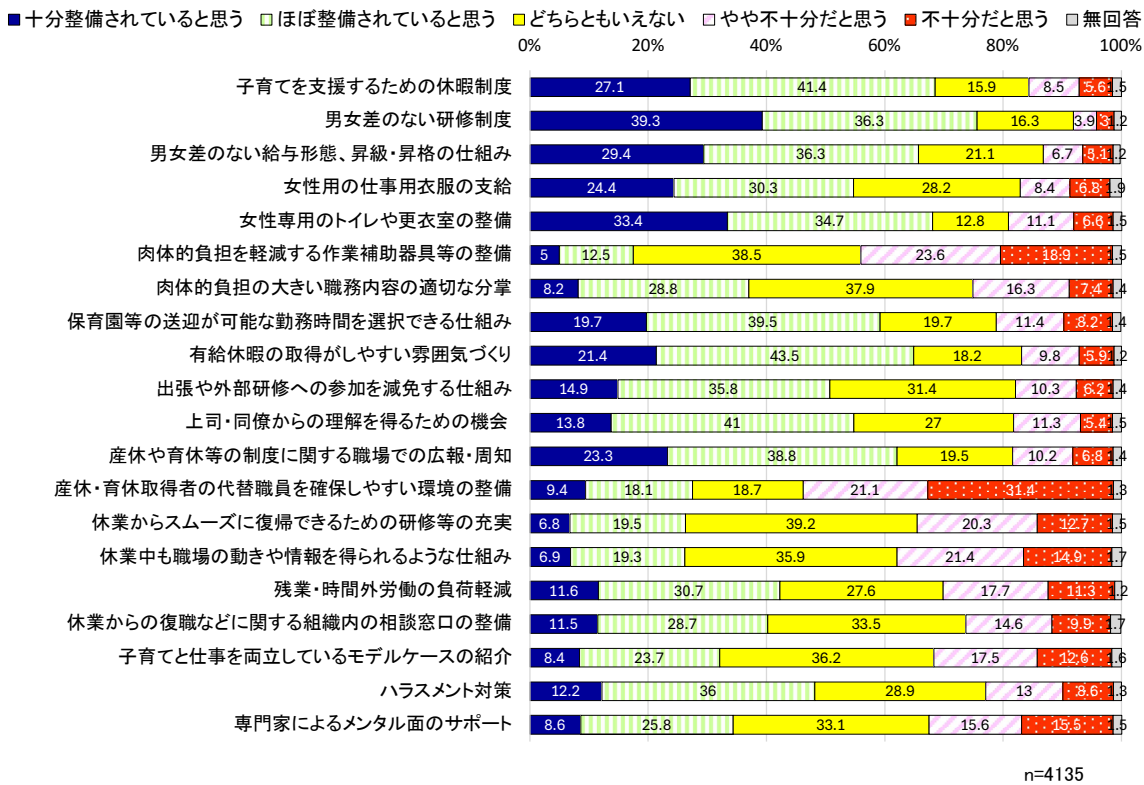


図9 女性の就業支援の整備状況（全体）

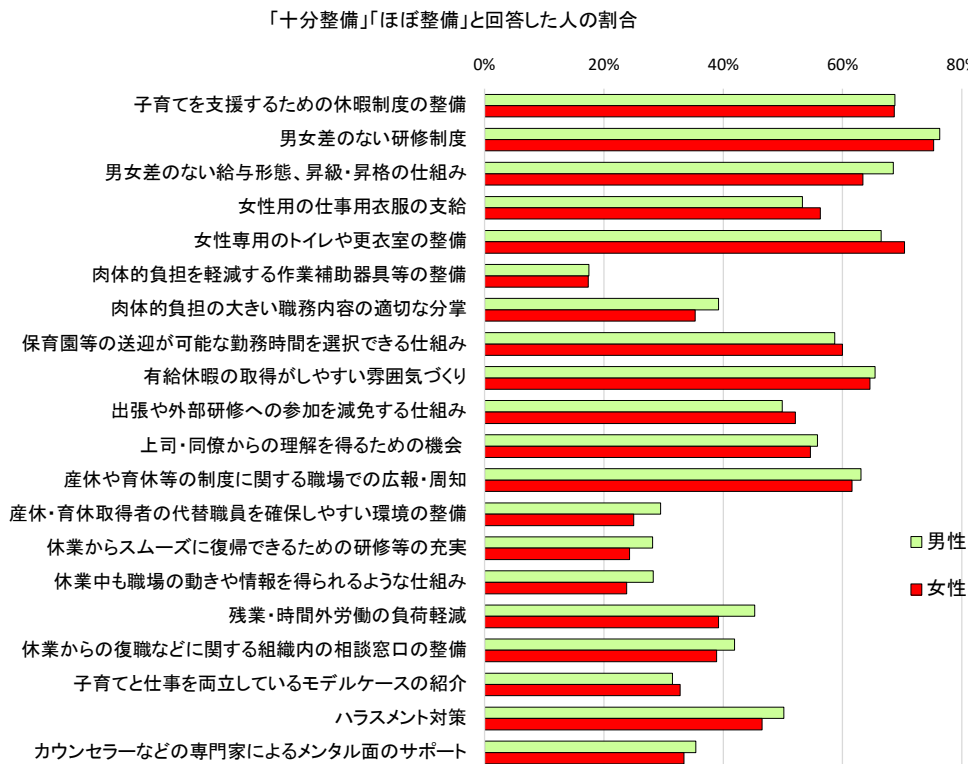


図10 女性の就業支援の整備状況（男女別）

「十分整備」「ほぼ整備」と回答した人の割合

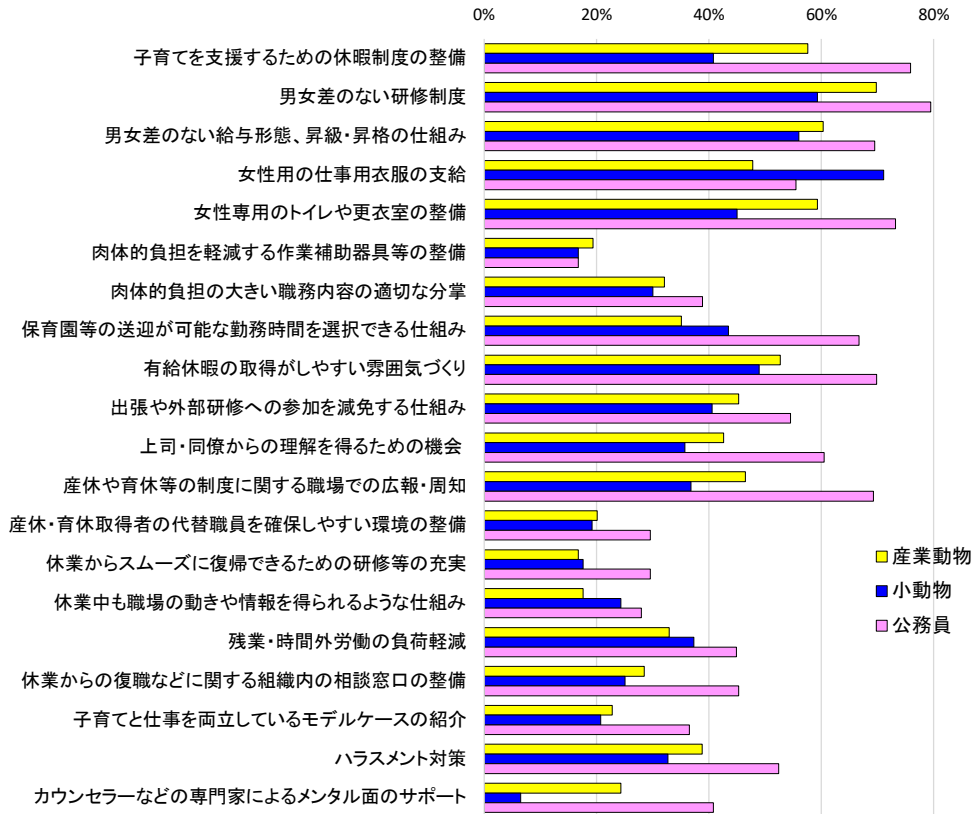
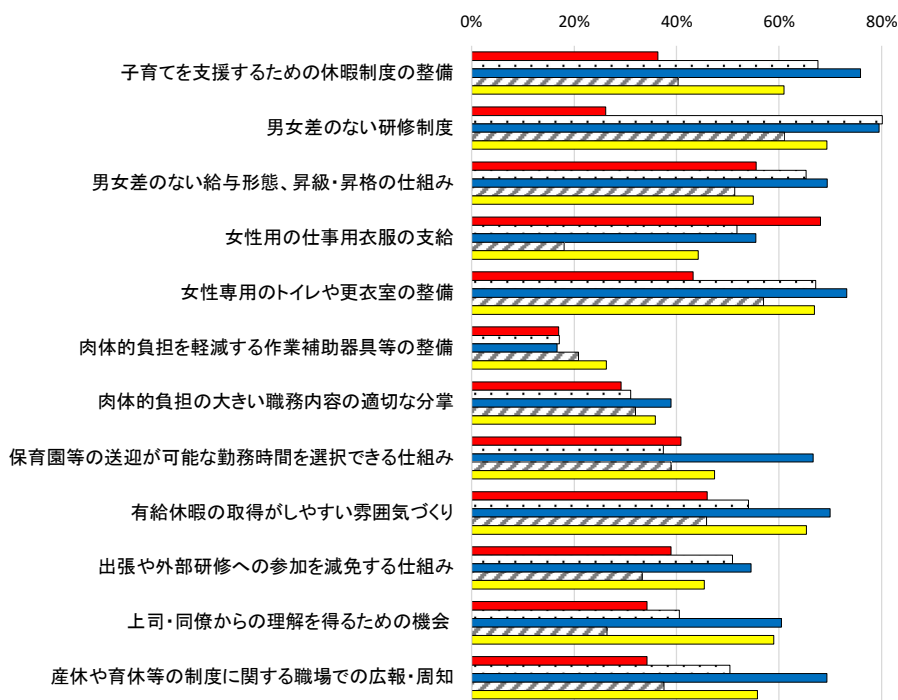


図 1 1 女性の就業支援の整備状況（職域別）

「十分整備」「ほぼ整備」と回答した人の割合



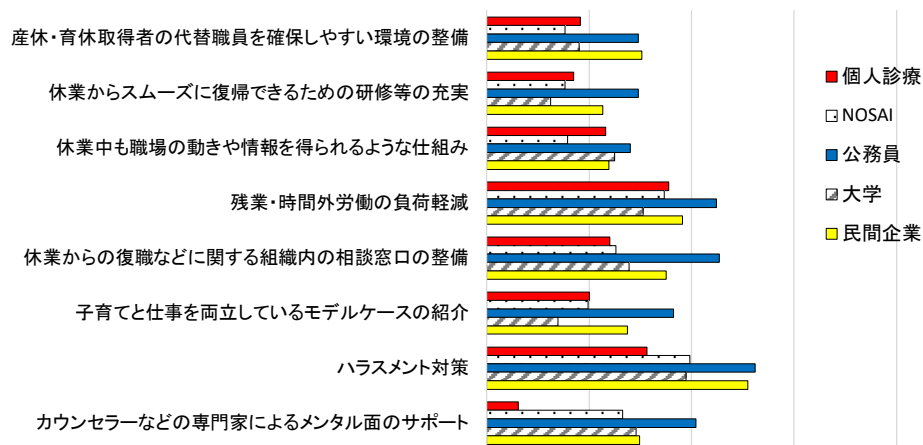


図 1 2 女性の就業支援の整備状況（現在の勤務先別）

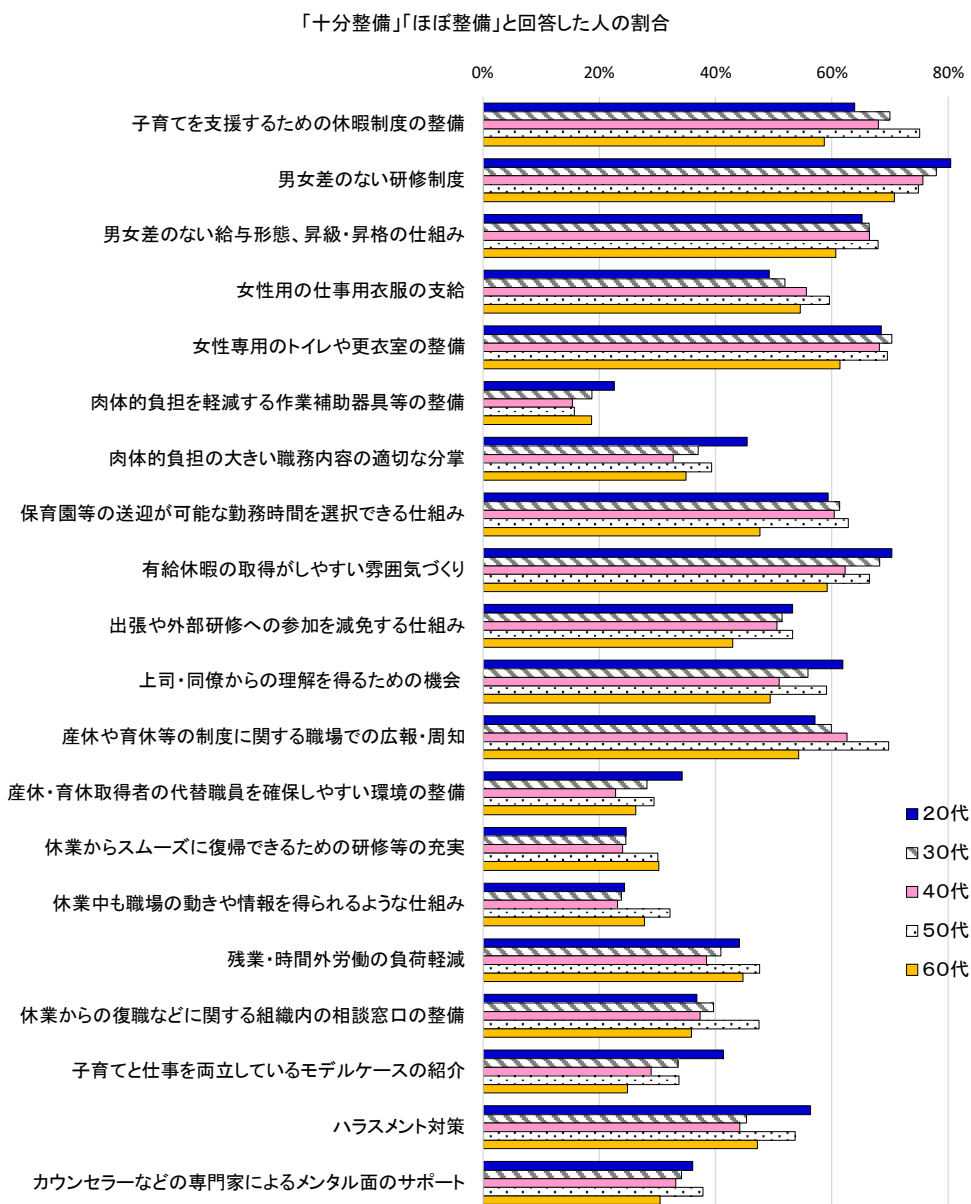


図 1 3 女性の就業支援の整備状況（世代別）

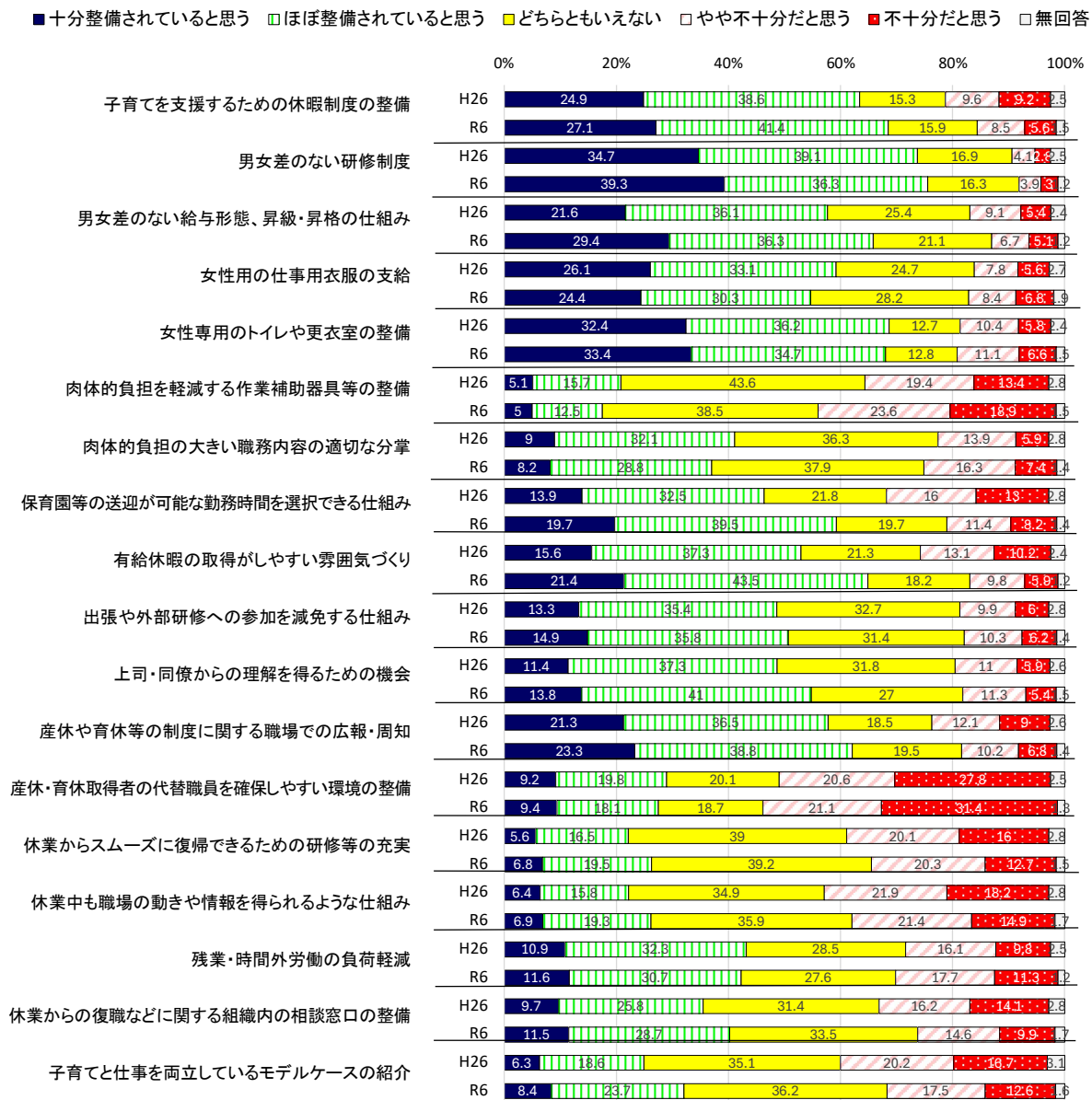


図 1 4 女性の就業支援の整備状況（前回との比較）

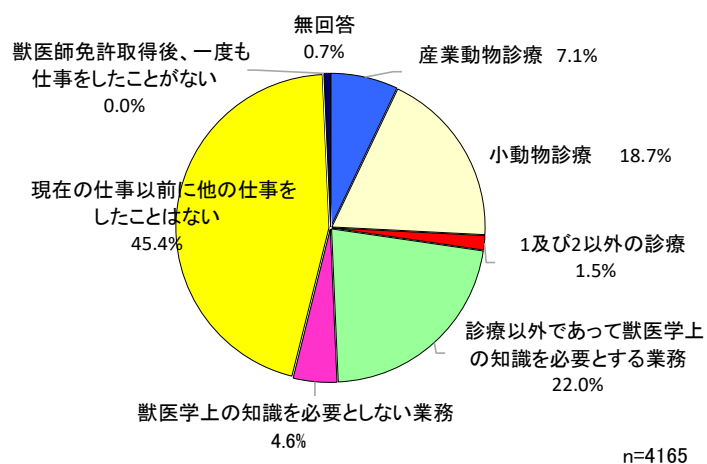


図 15 現在の仕事以前に他の仕事に就いていた場合の直近の勤務先

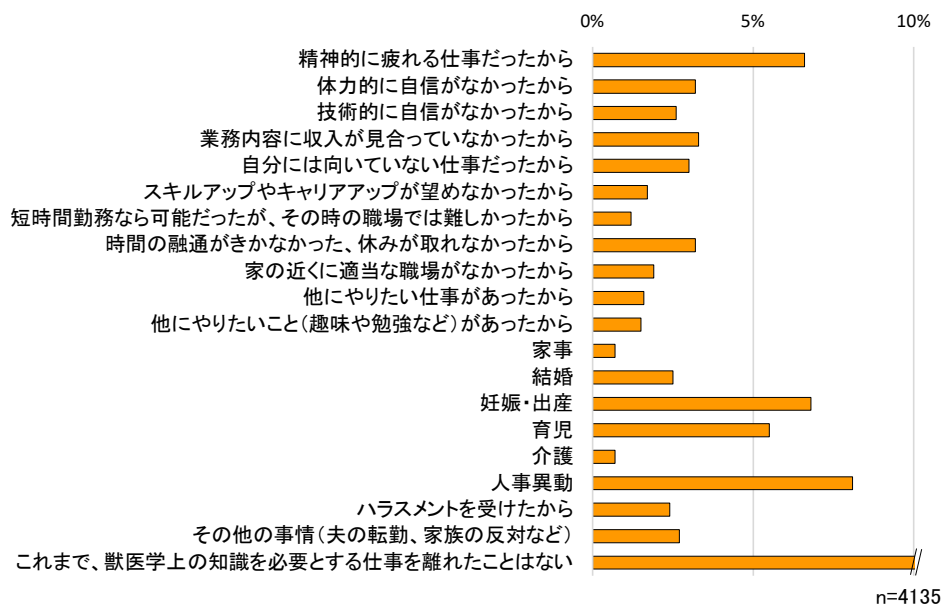


図 16 獣医学上の知識を必要とする業務からの離職理由（複数回答）

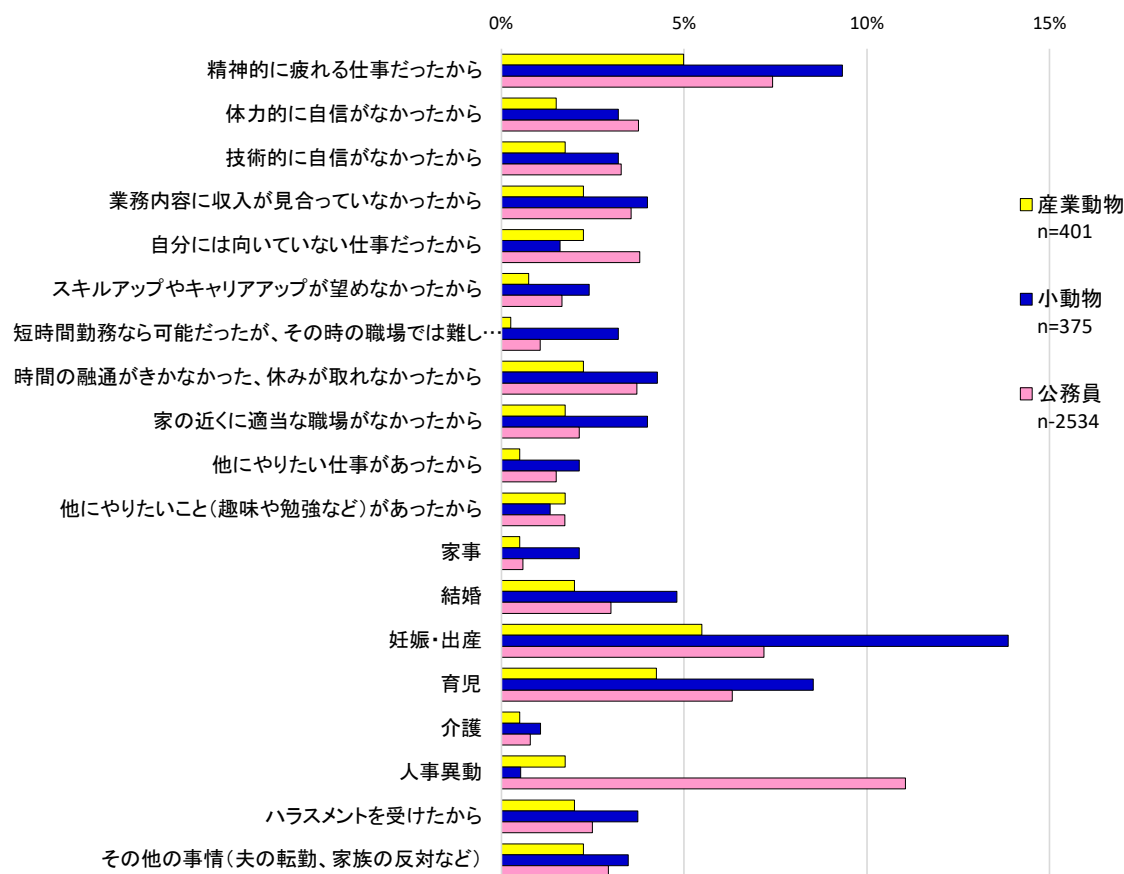


図 17 獣医学上の知識を必要とする業務からの離職理由（複数回答）
（職域別の回答割合）

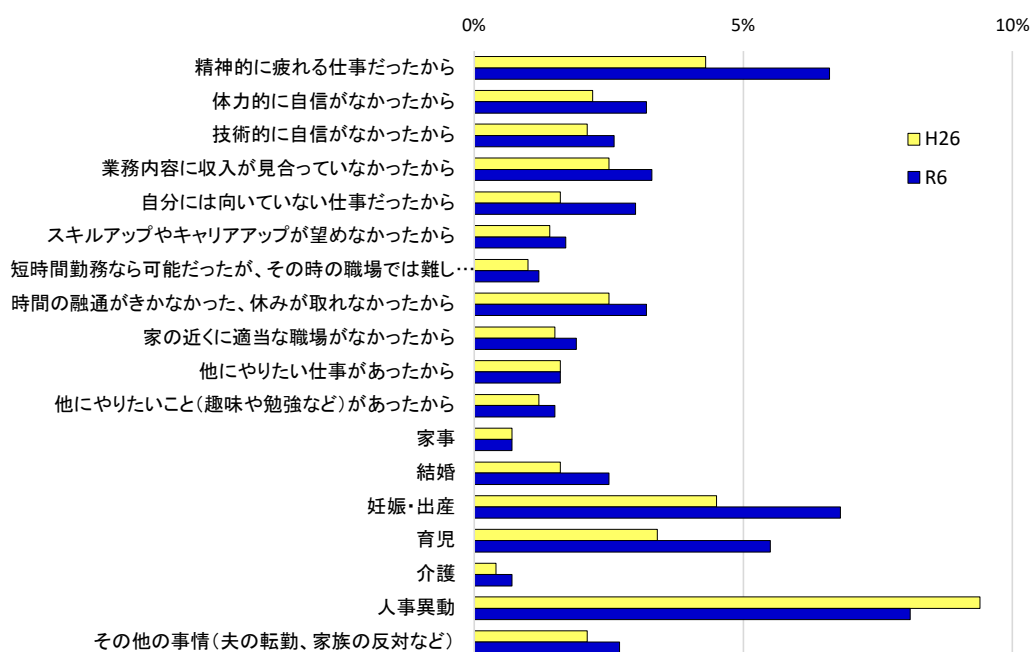


図 18 獣医学上の知識を必要とする業務からの離職理由（前回との比較）

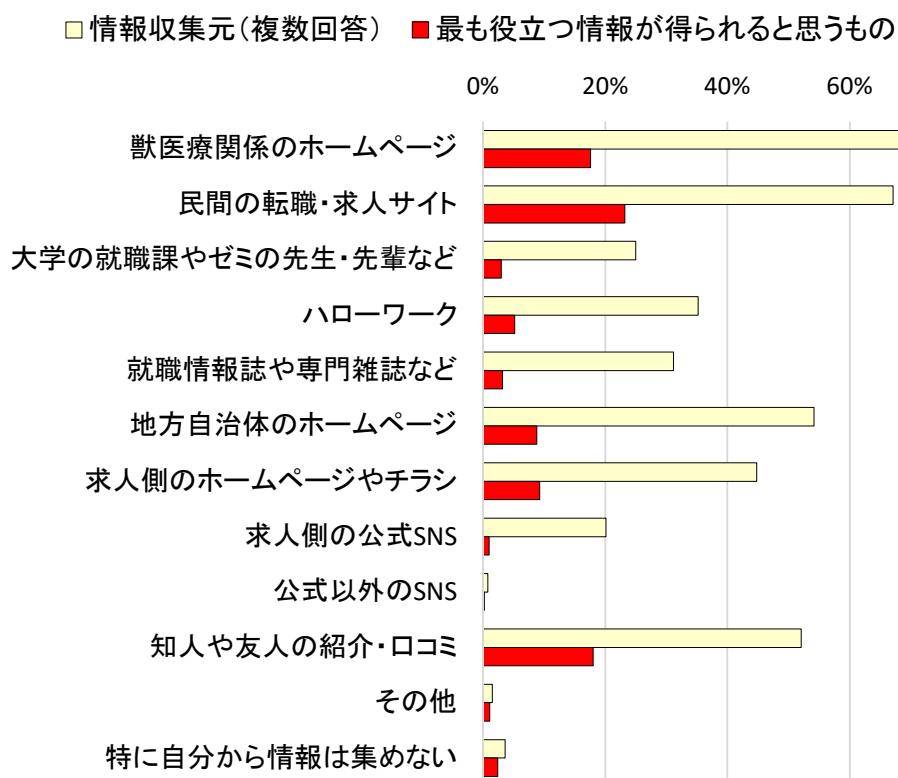


図 19 転職・就職する場合の情報収集方法

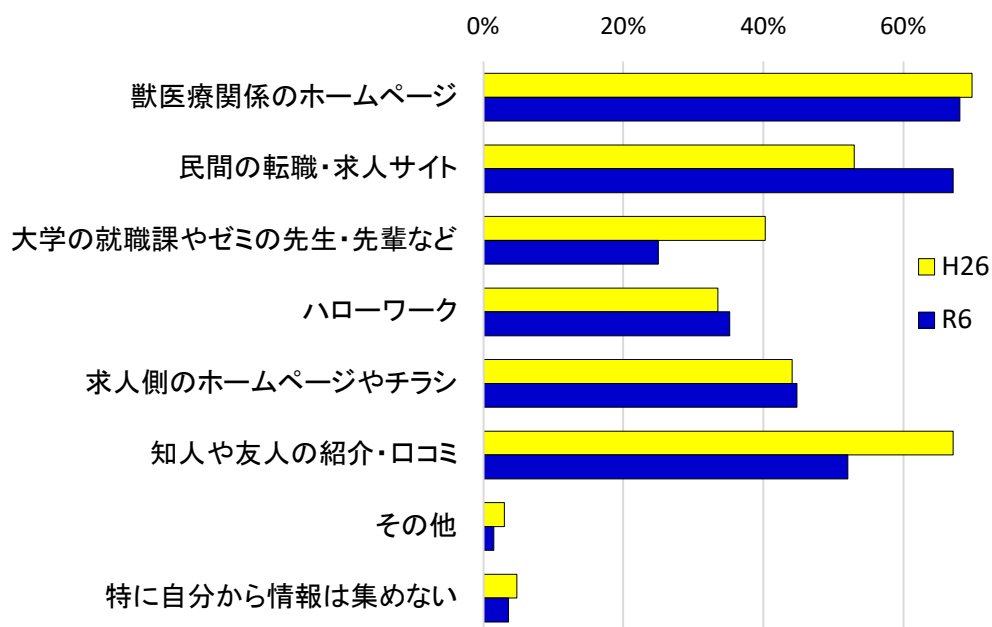


図 20 転職・就職する場合の情報収集元(複数回答)
(前回との比較)

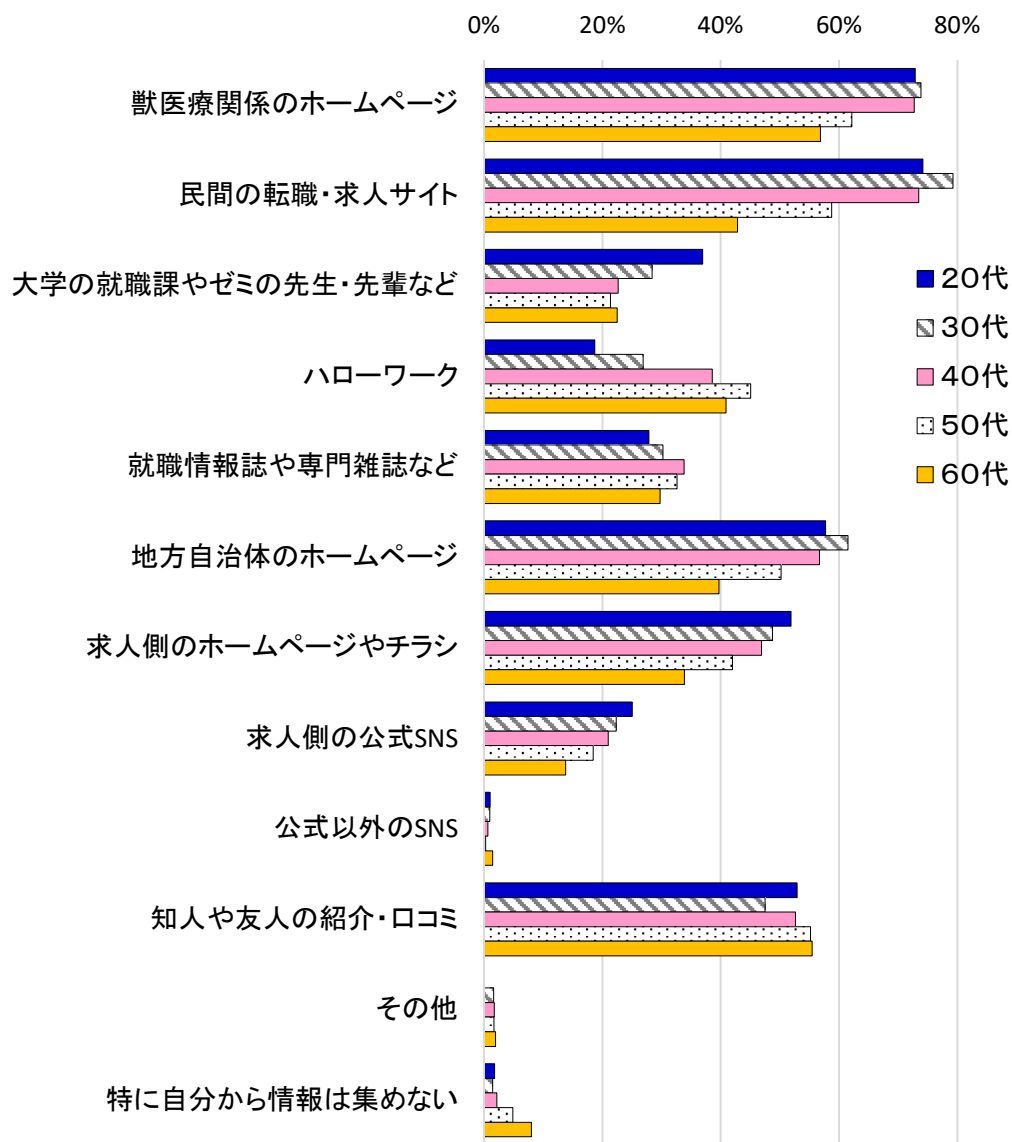


図 21 転職・就職する場合の情報収集元（複数回答）
（世代別）

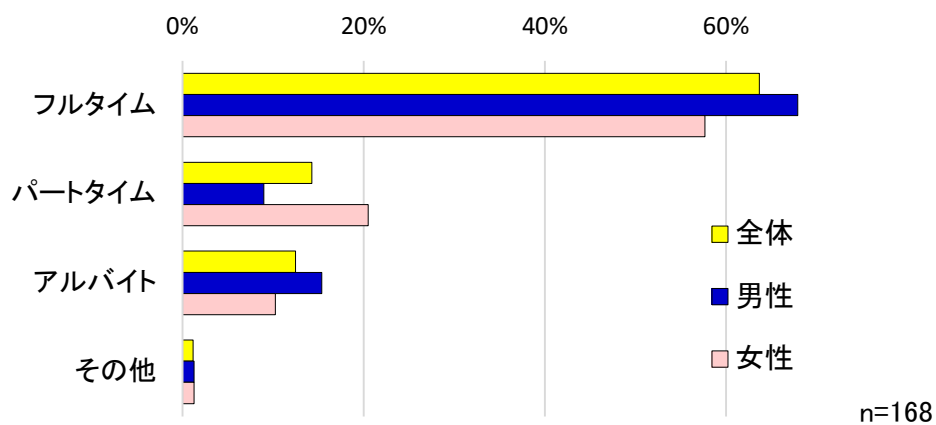


図 2 2 獣医学上の知識を必要とする業務への就きたいと
回答した人の希望する勤務形態

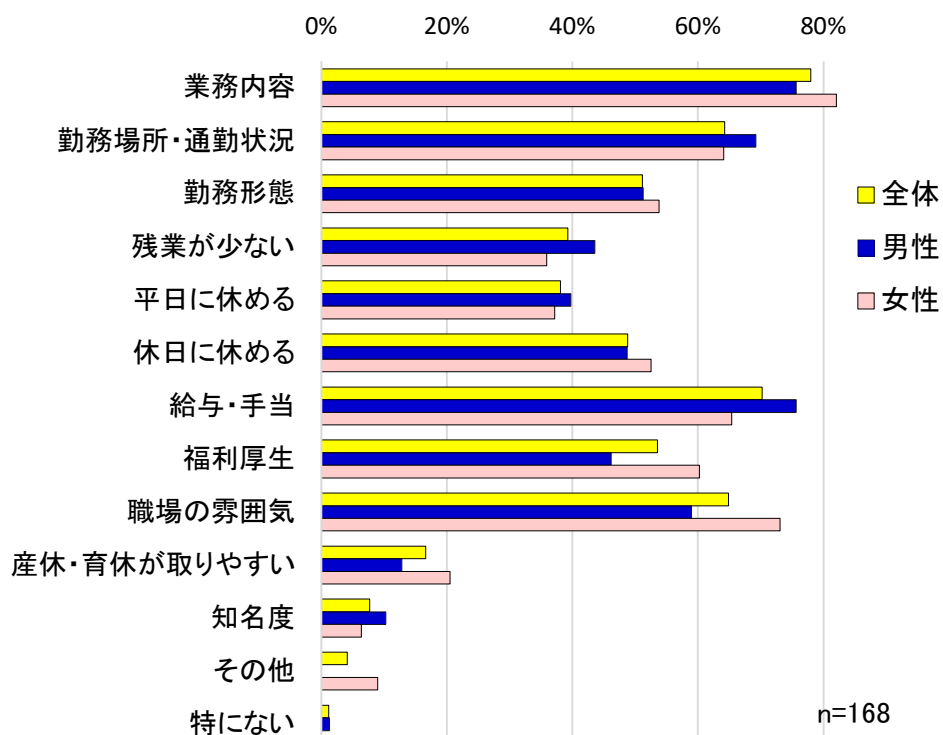


図 2 3 再就職する際に重視すること（複数回答）
（全体及び男女別）

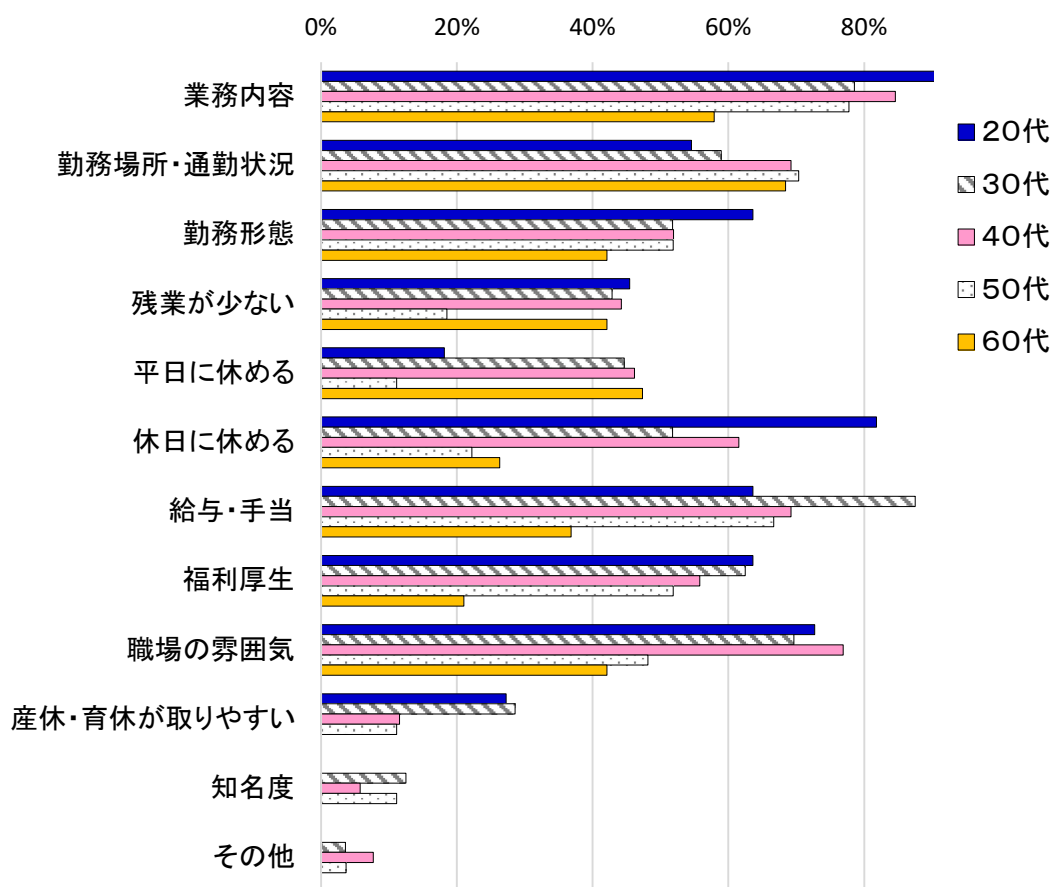


図 2 4 再就職する際に重視すること（複数回答）
（世代別）

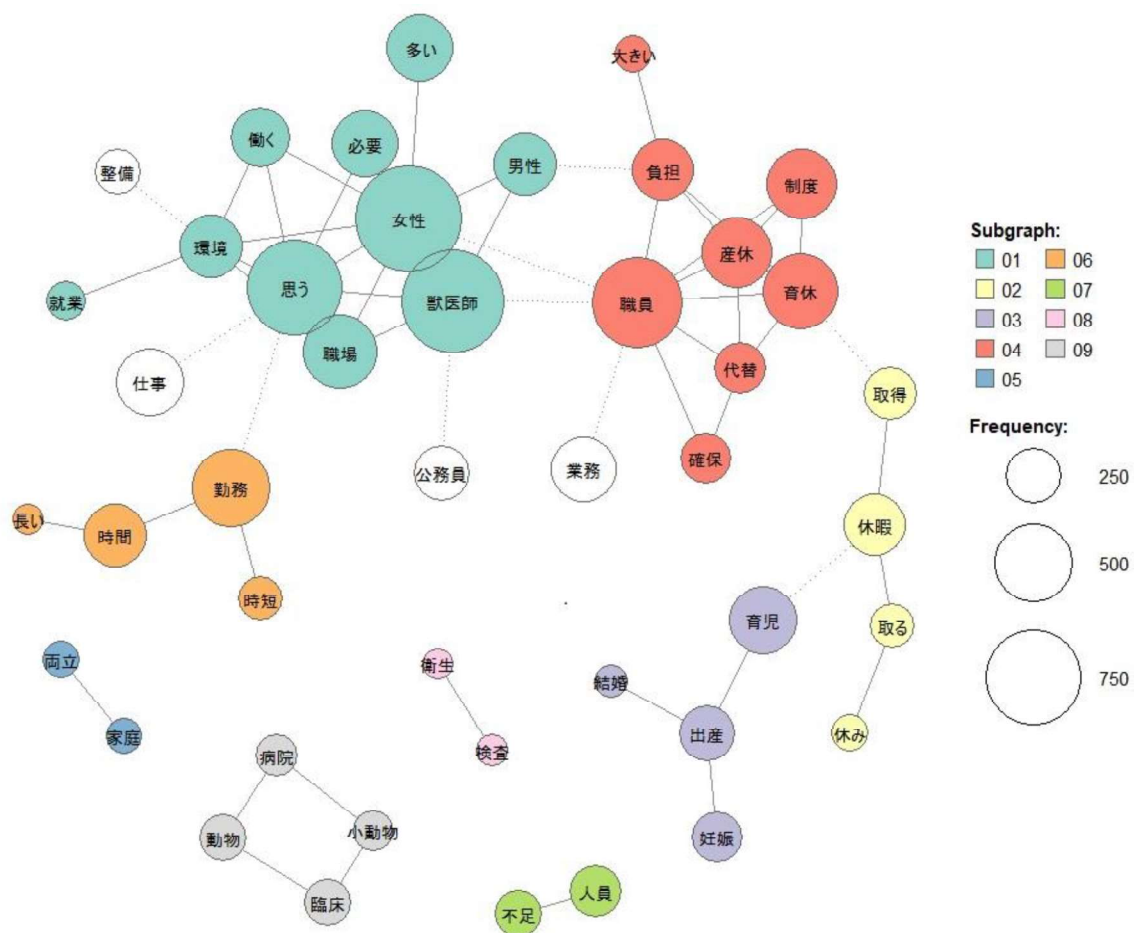


図 2 5 自由回答（全回答）

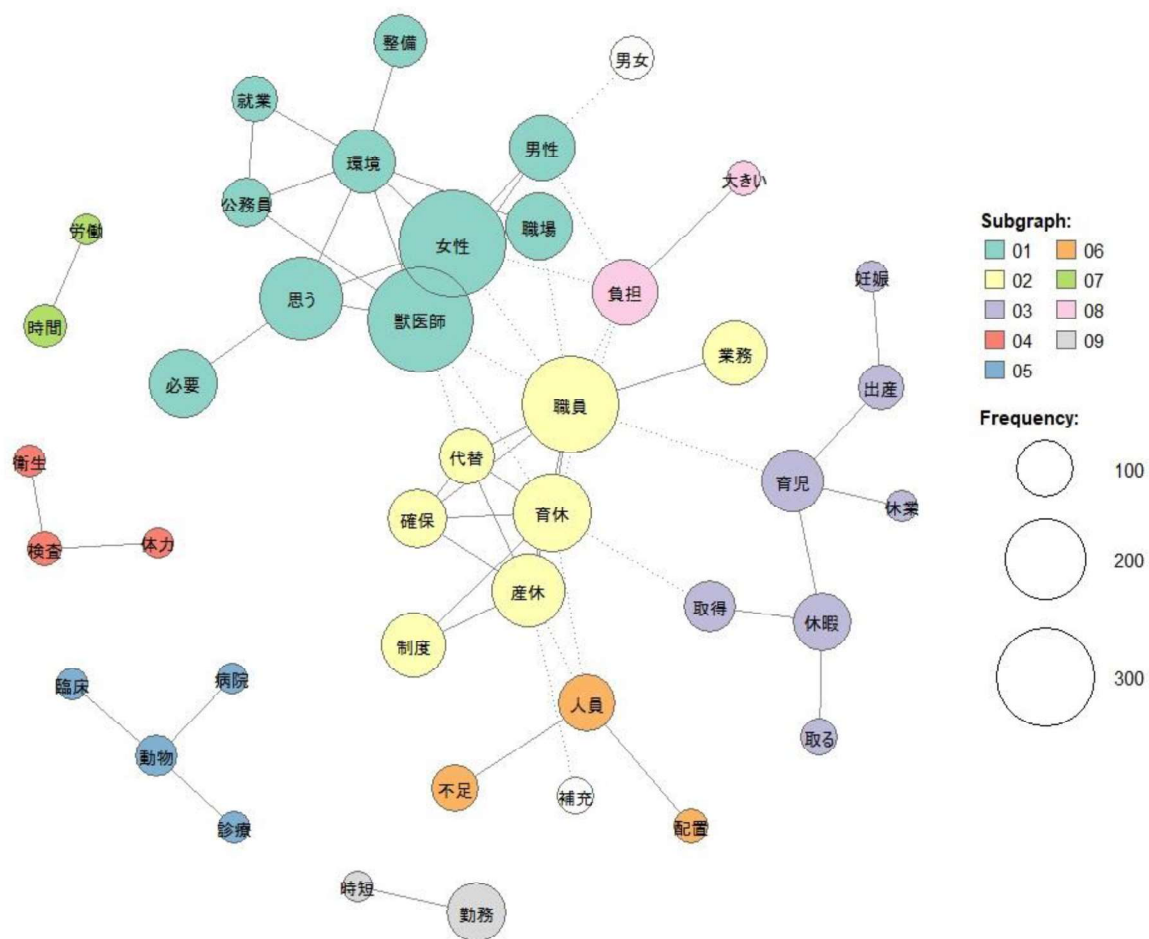


図 2 6 自由回答（男性）

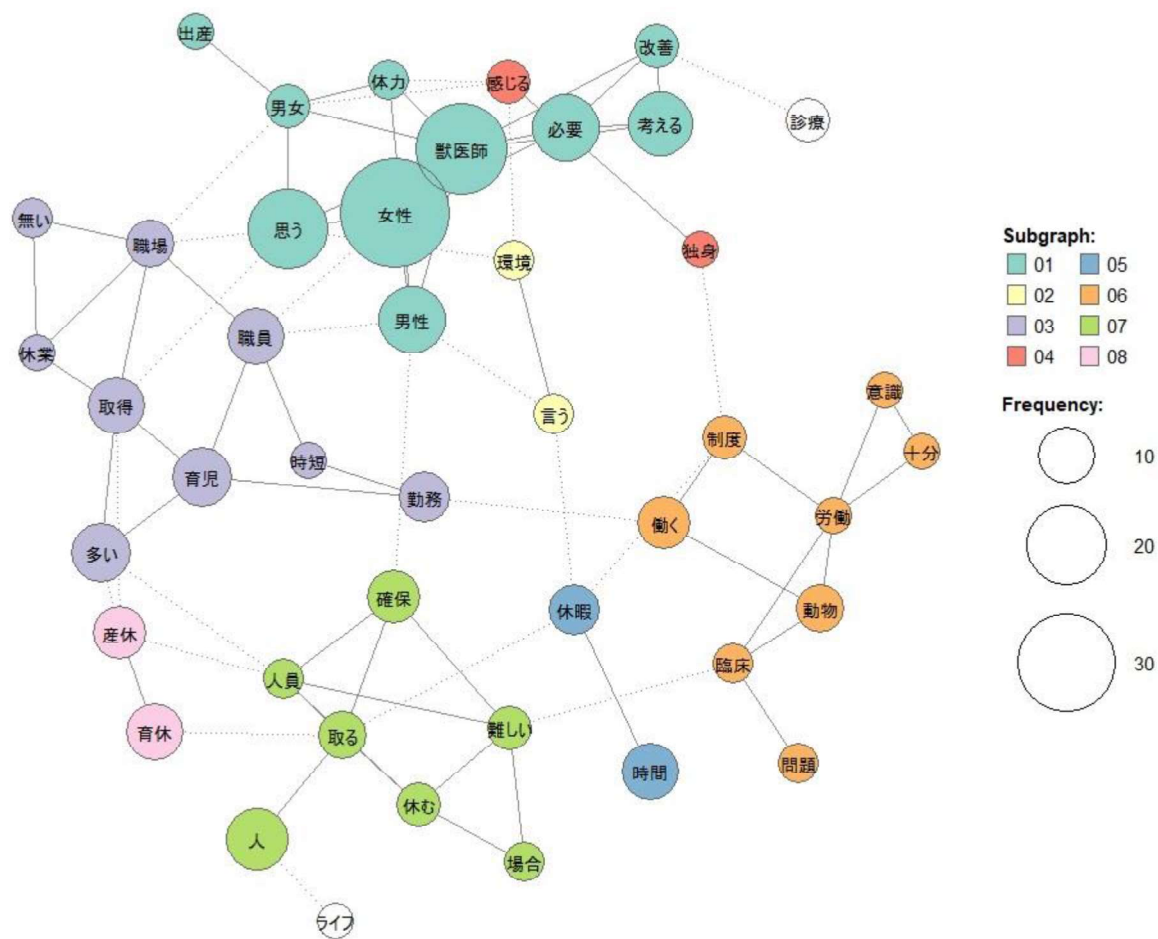
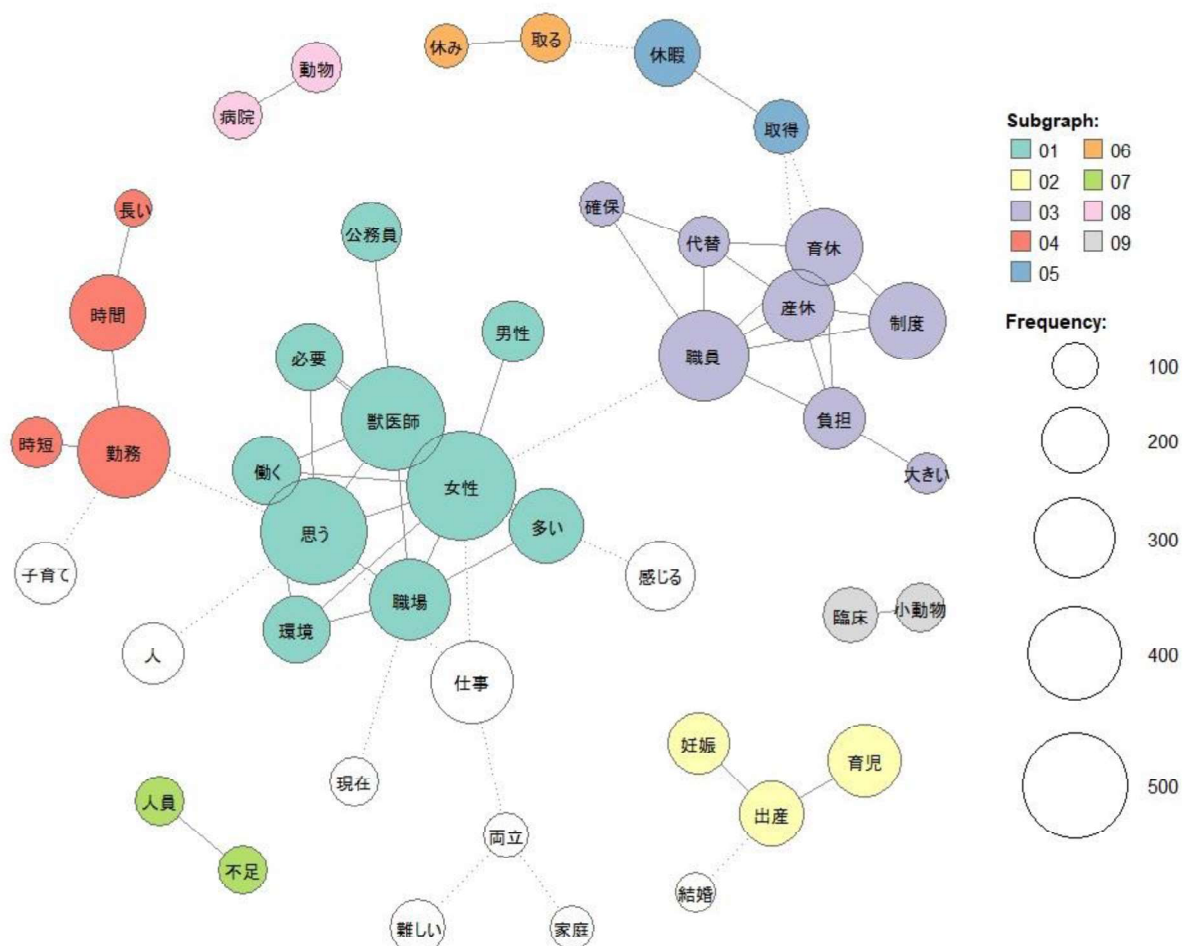


図 2.8 自由回答（性別無回答）

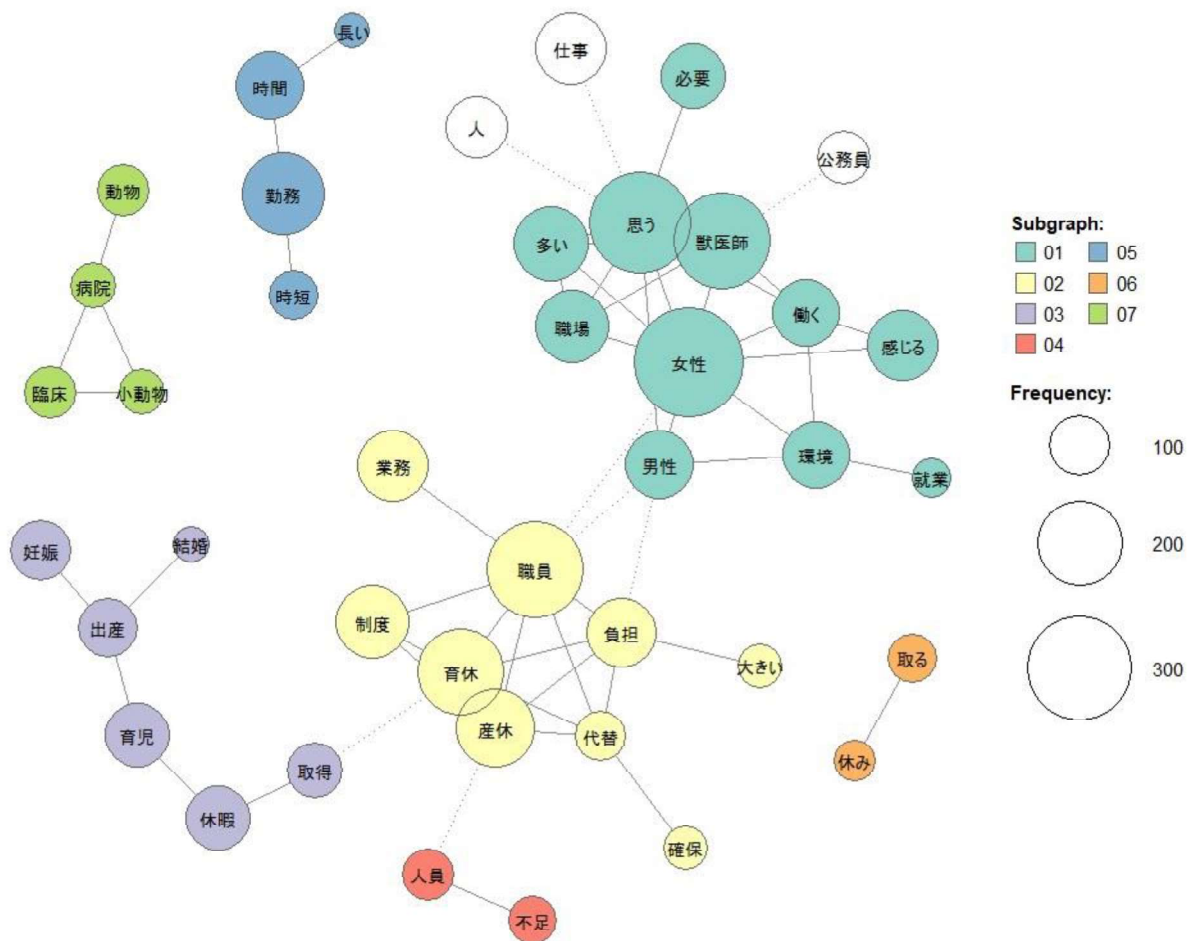


図 2 9 自由回答（男女計 20・30代）

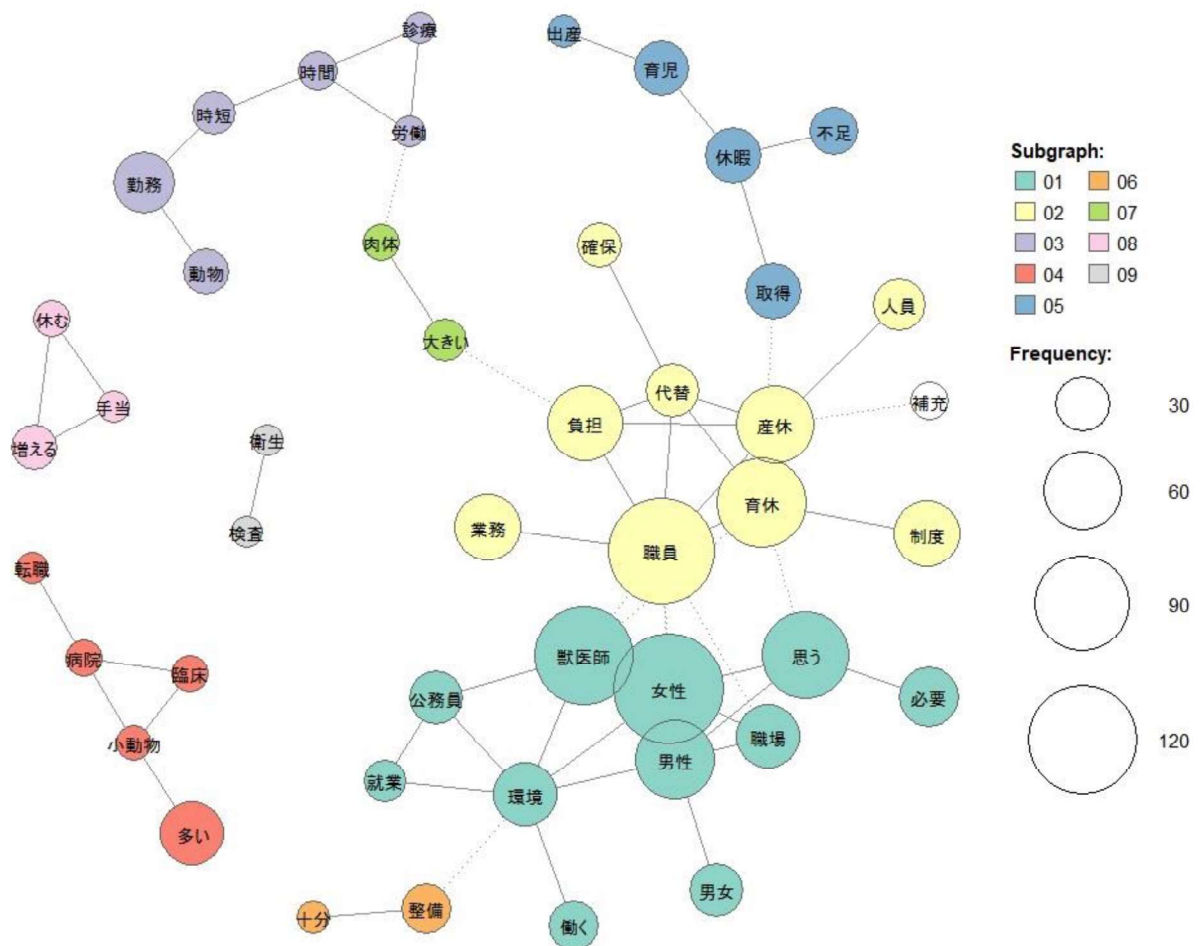


図 3 0 自由回答（男性 20・30代）

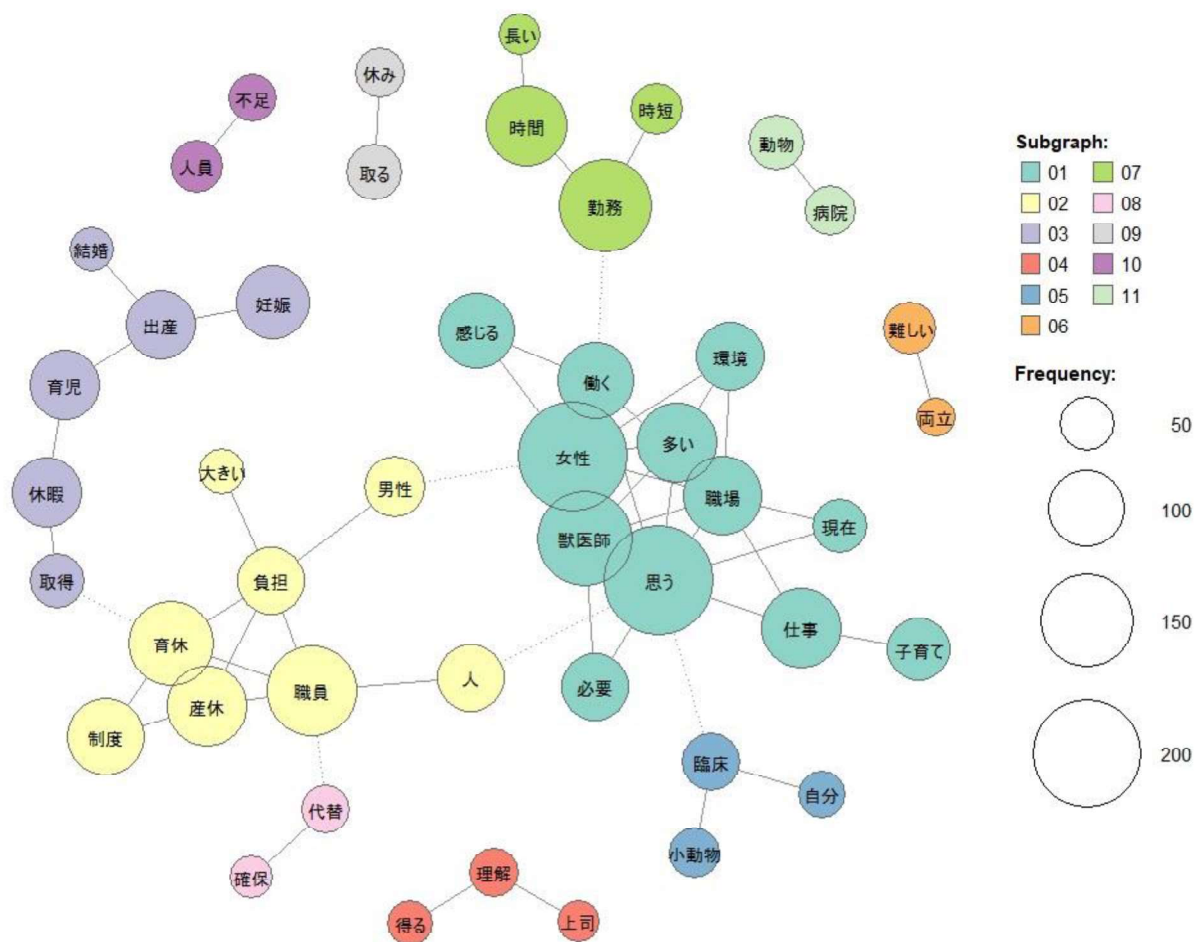


図 3 1 自由回答（女性 20・30代）

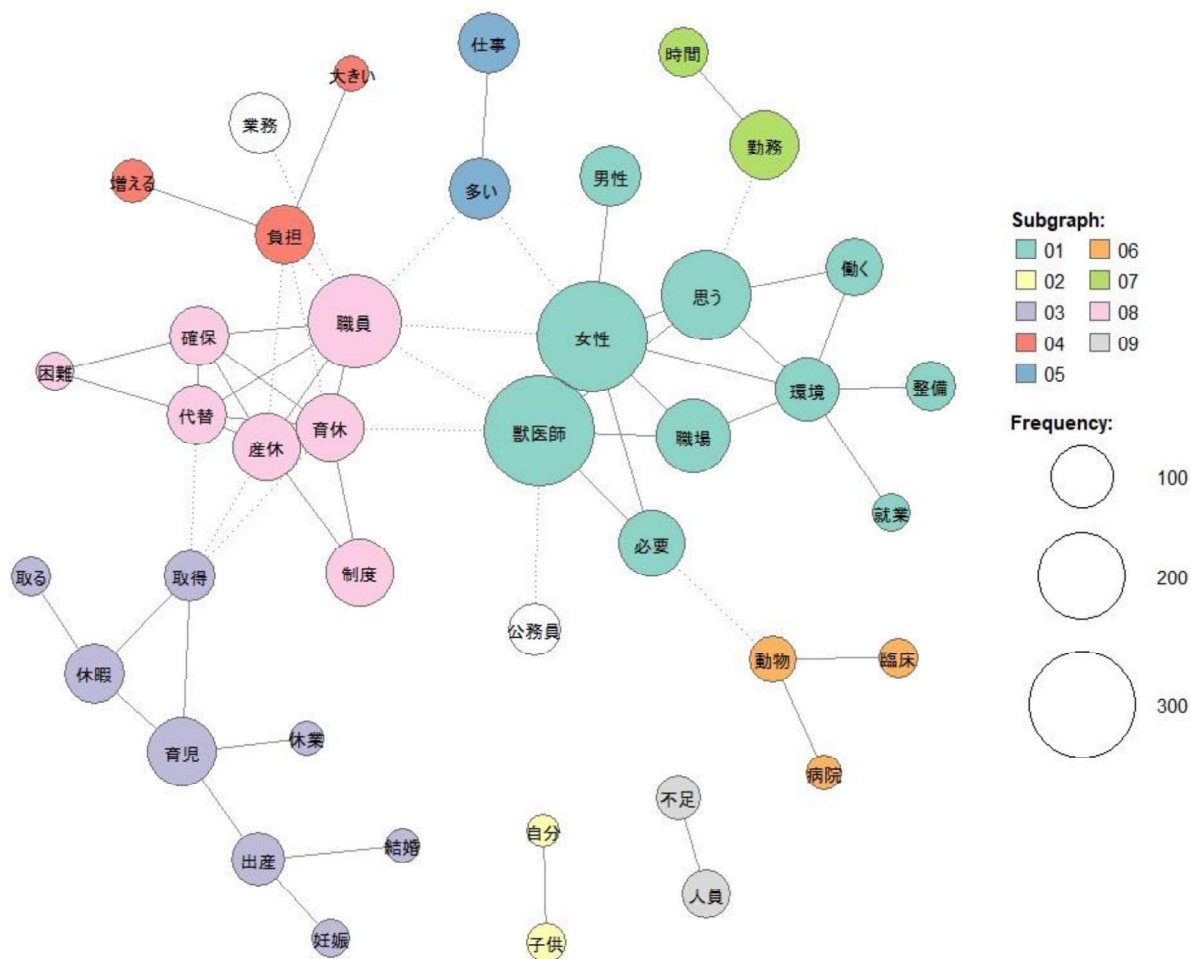
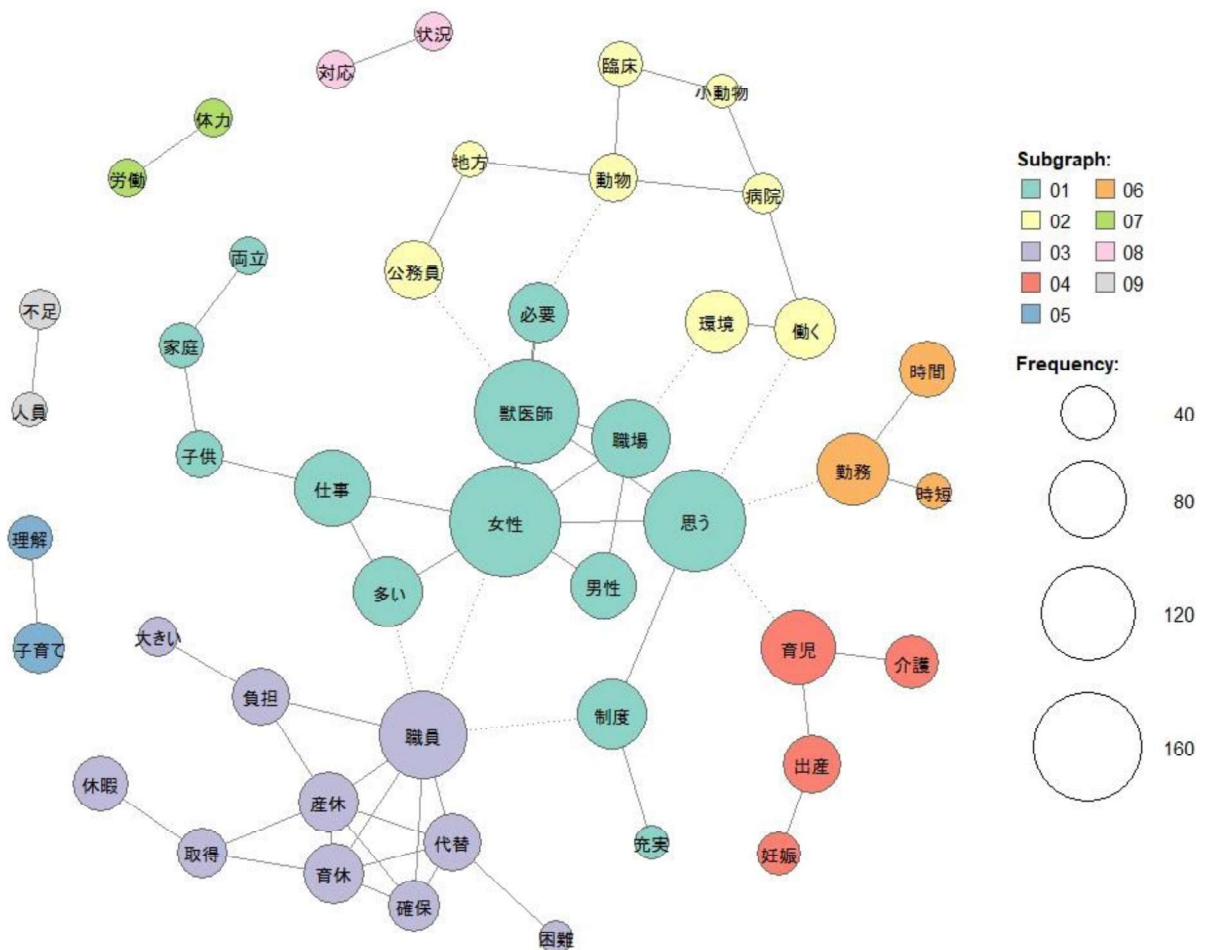
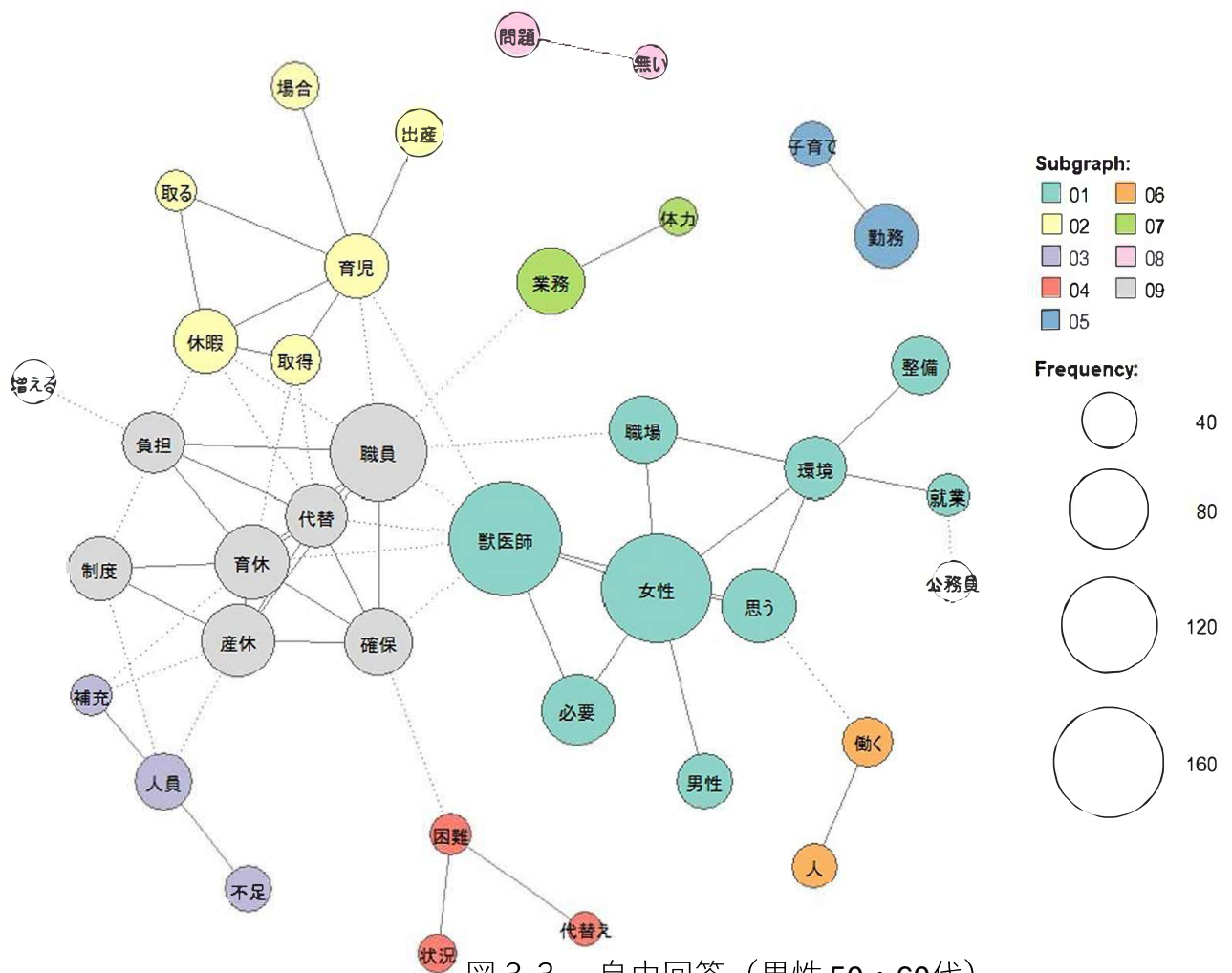


図 3 2 自由回答（男女計 50・60代）



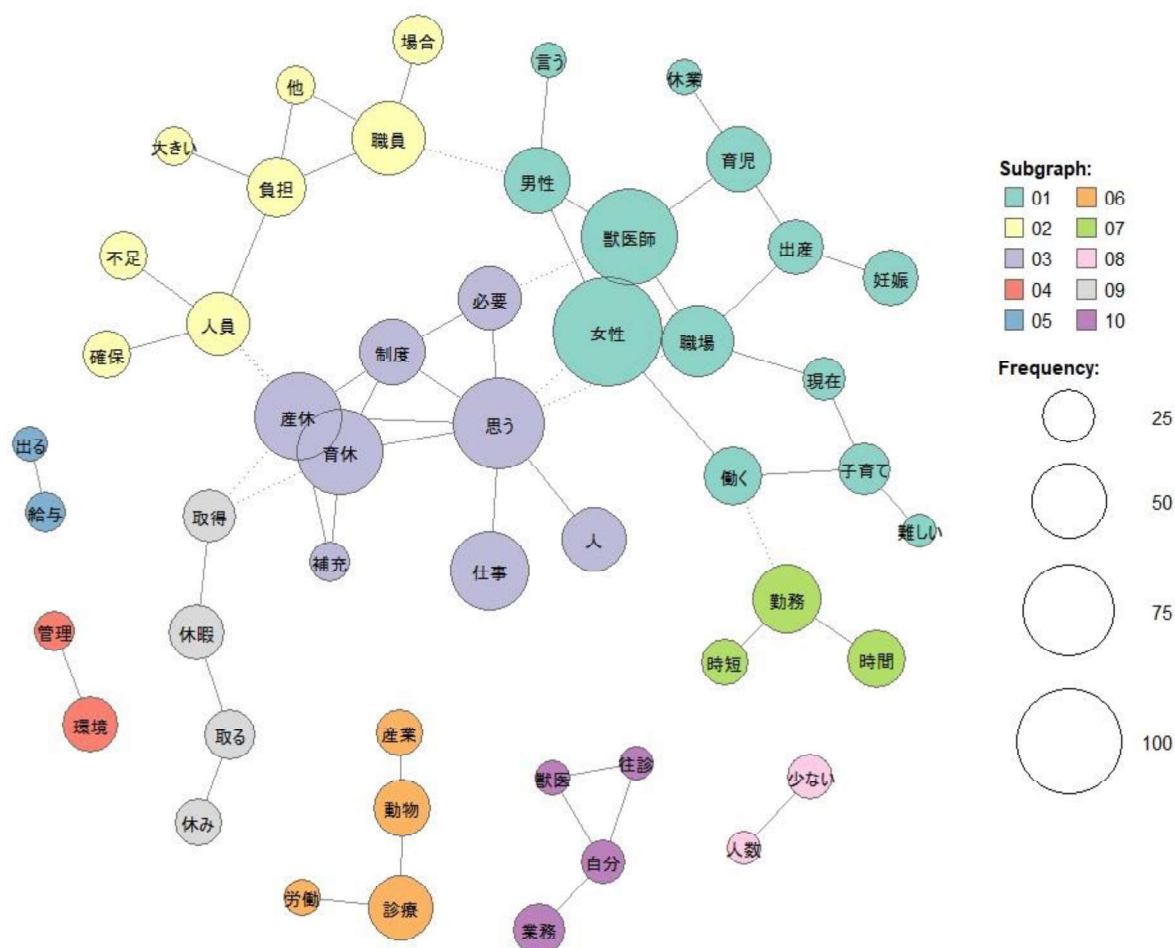


図 3 5 自由回答（産業動物・全回答）

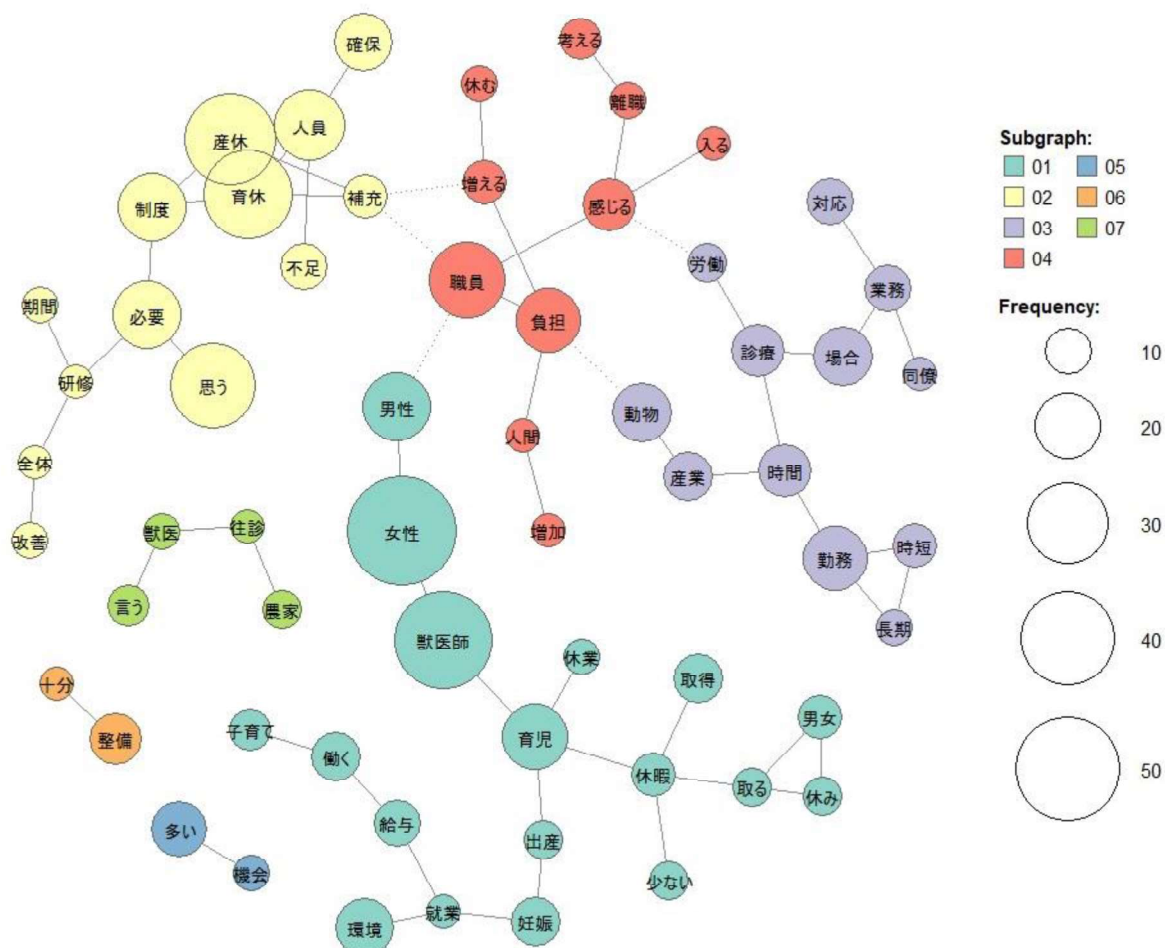


図 3 6 自由回答（産業動物・男性）



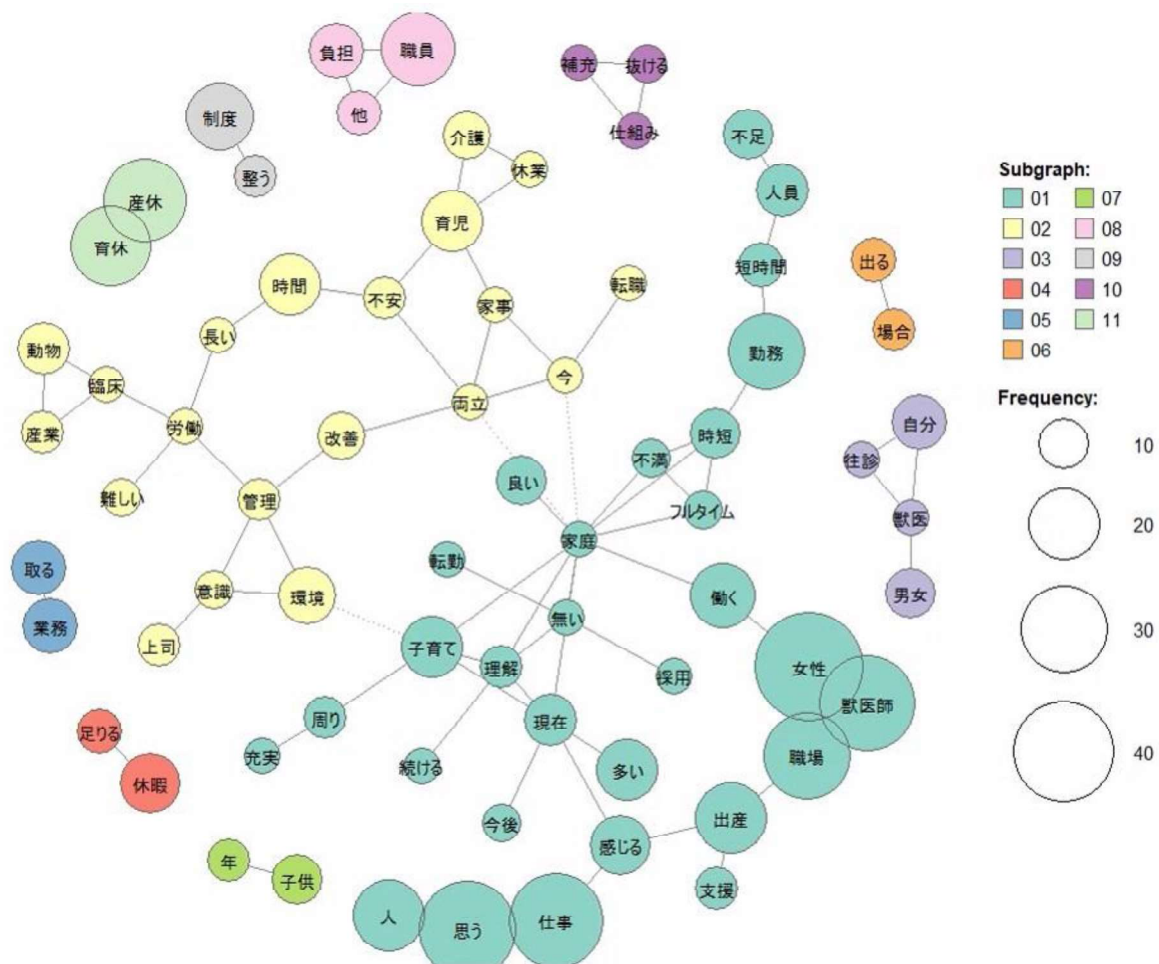


図 3 9 自由回答（産業動物・女性）

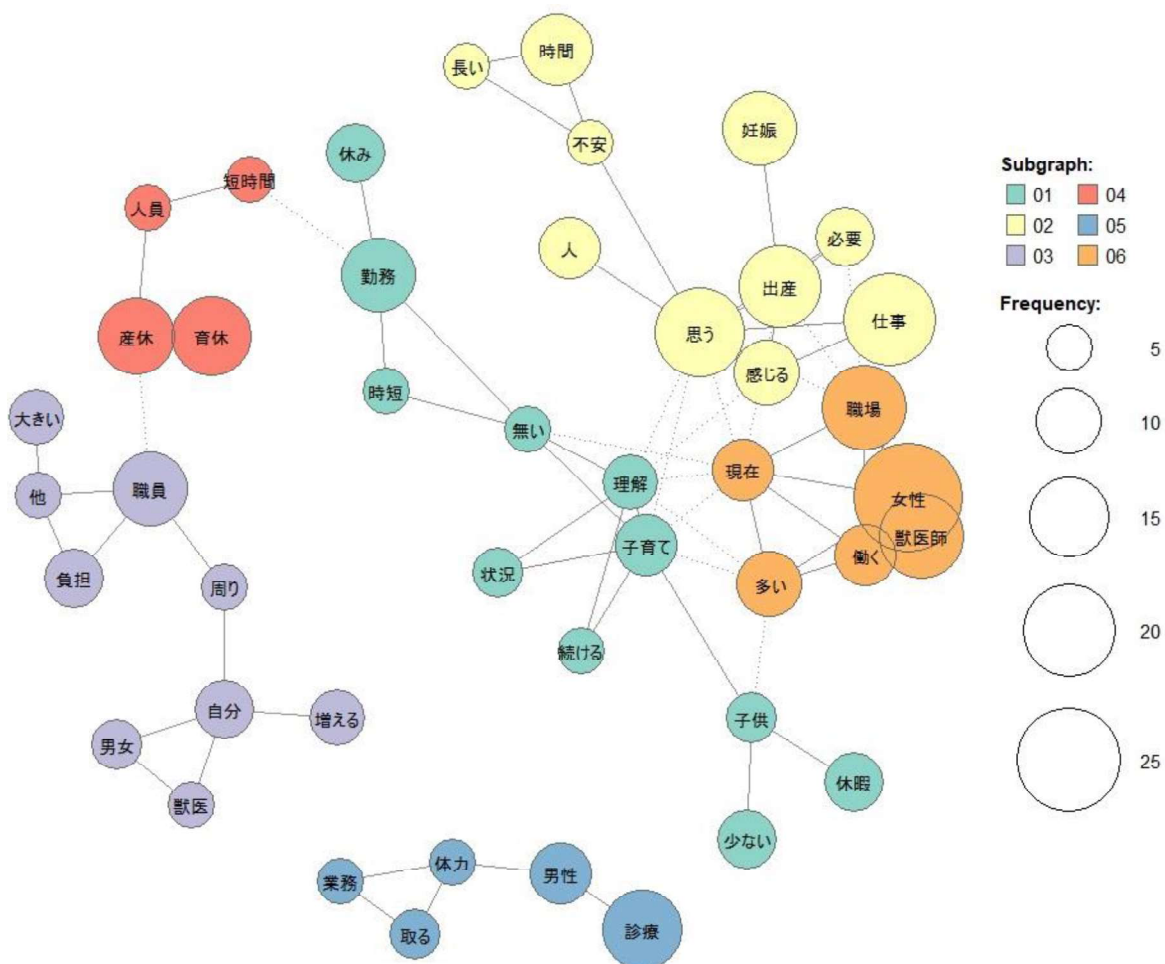


図 4 0 自由回答（産業動物・女性・20・30代）

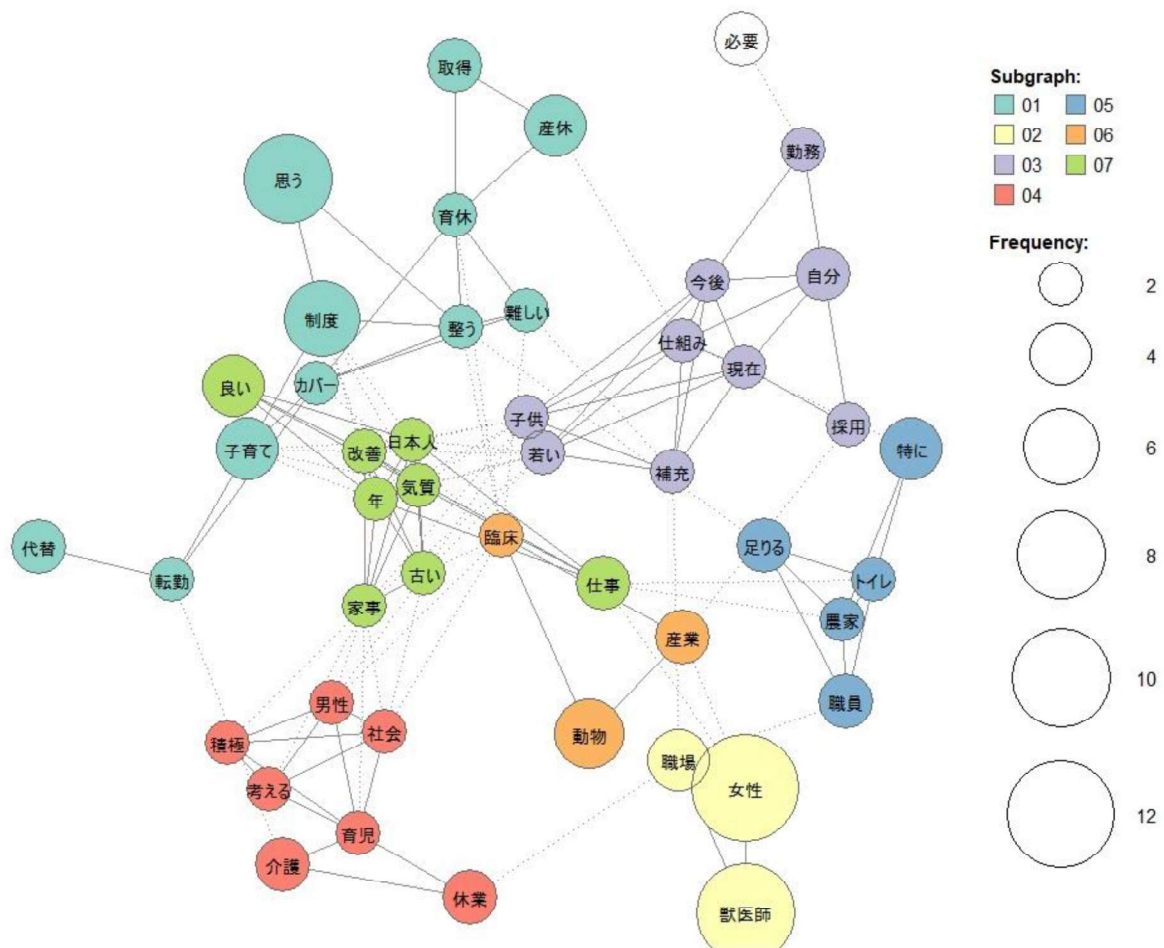


図4 1 自由回答（産業動物・女性・50・60代）

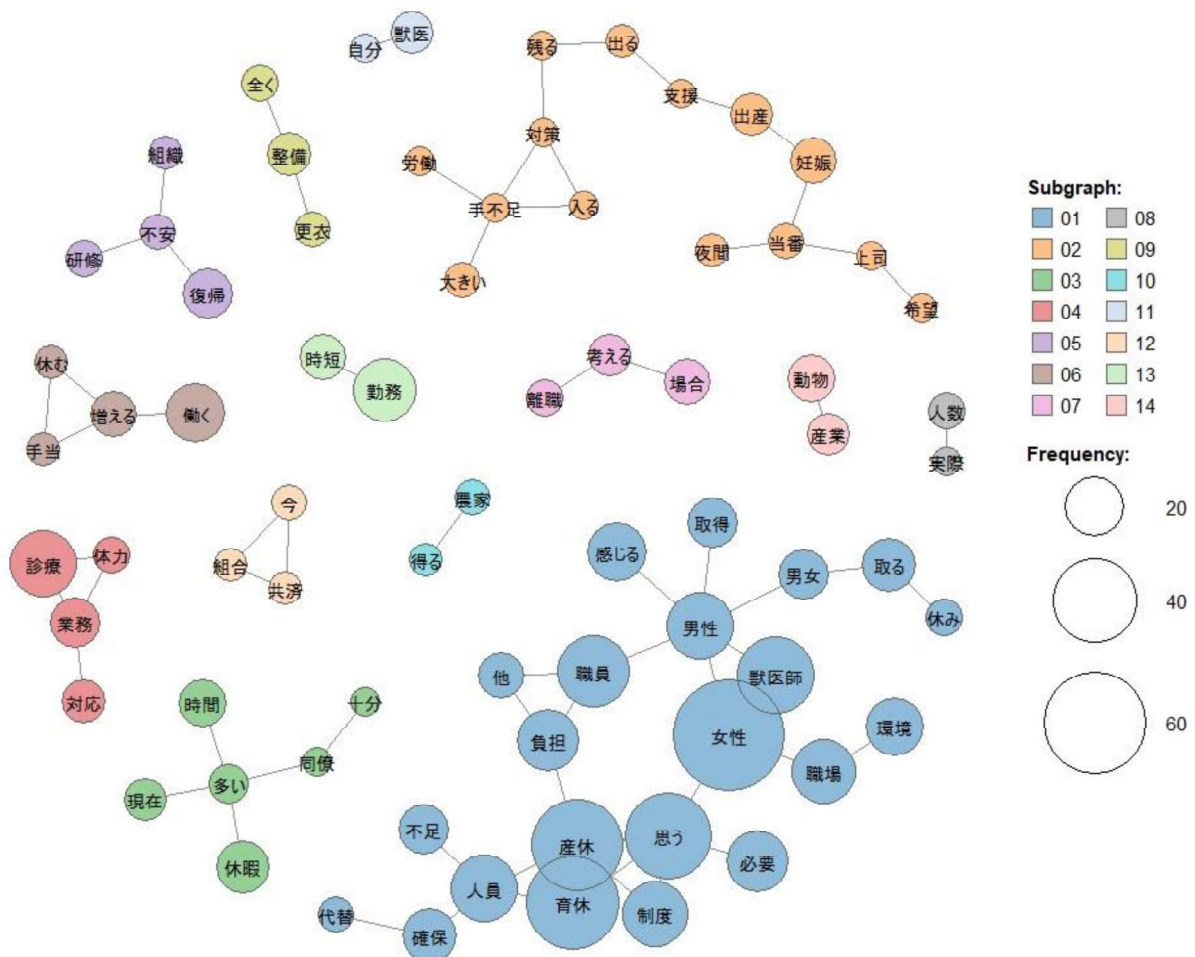


図4 2 自由回答（NOSAI・全回答）

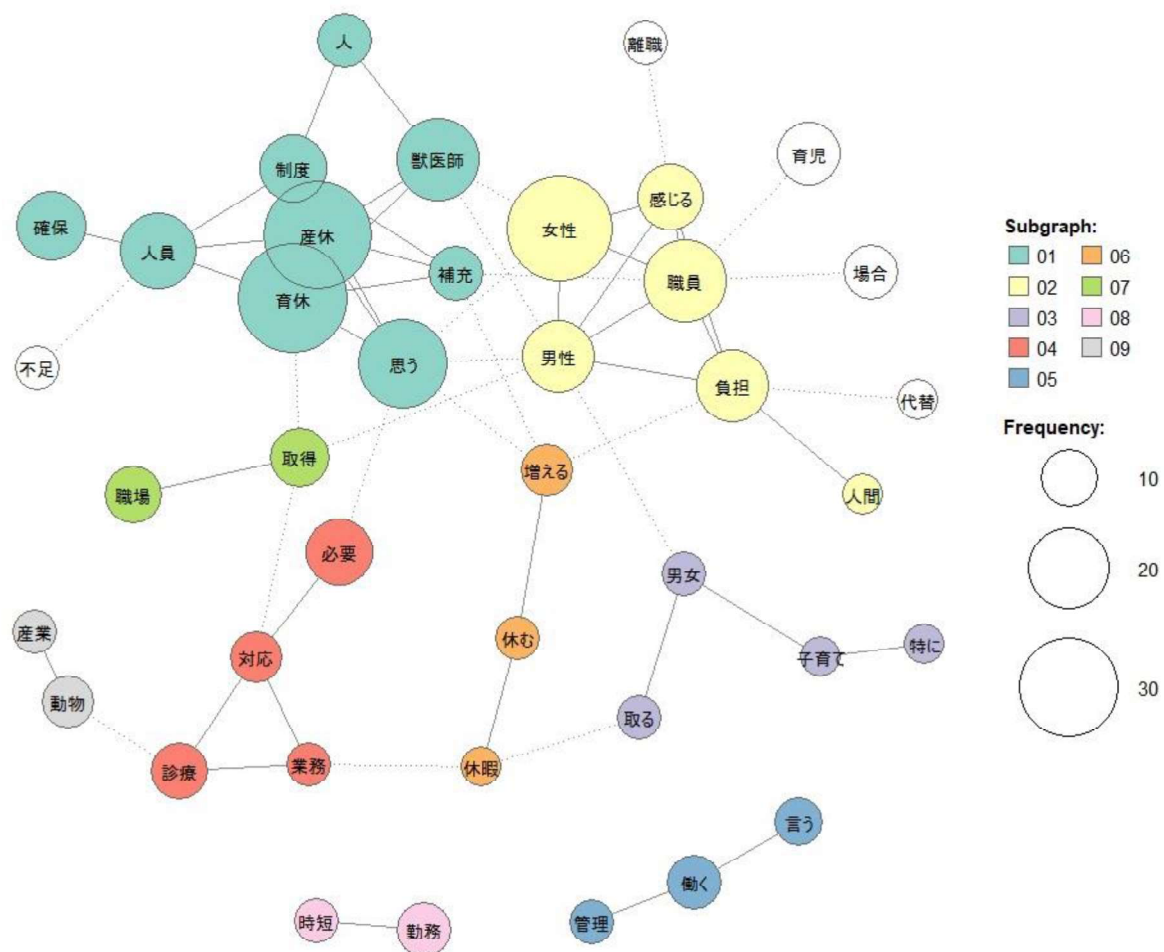


図 4 3 自由回答 (NOSAI・男性)

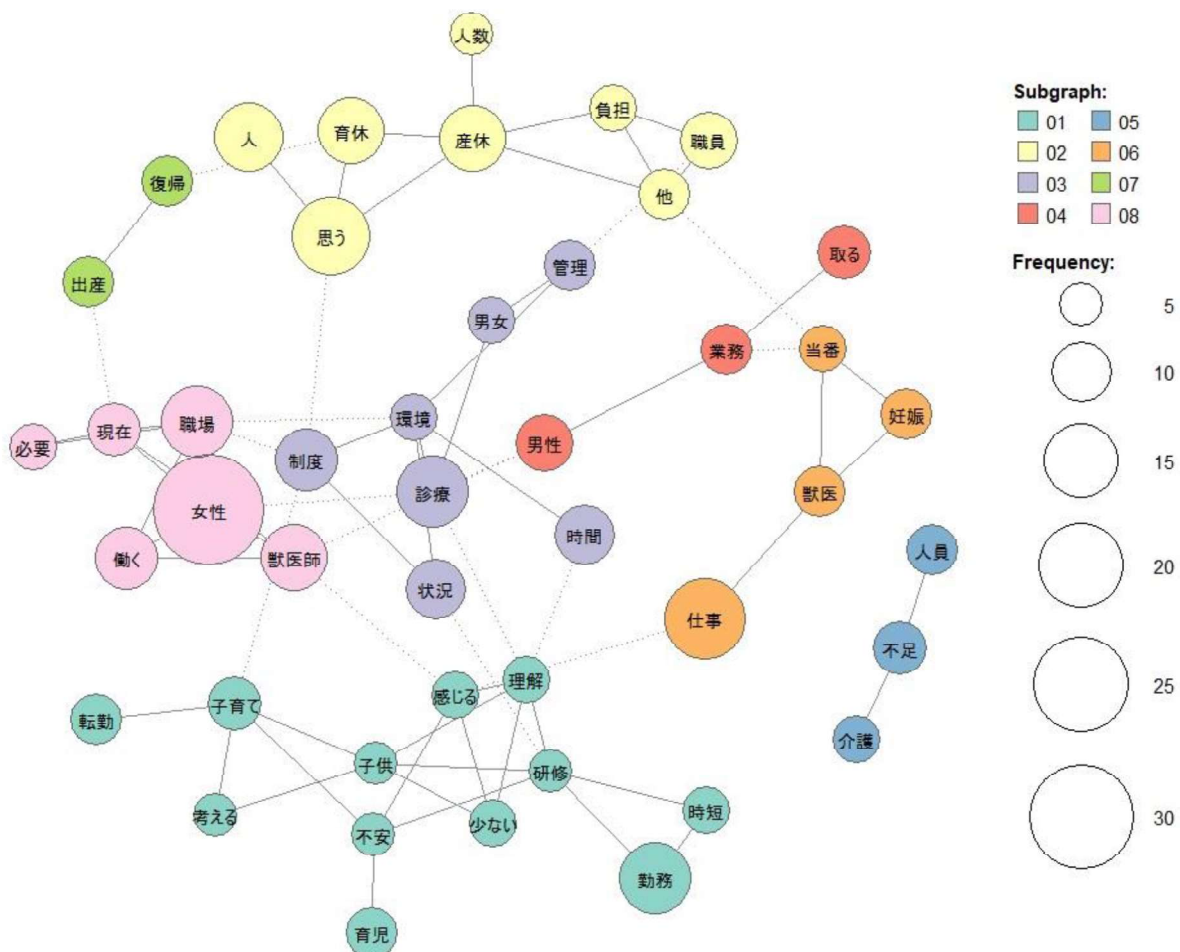


図 4 4 自由回答 (NOSAI・女性)

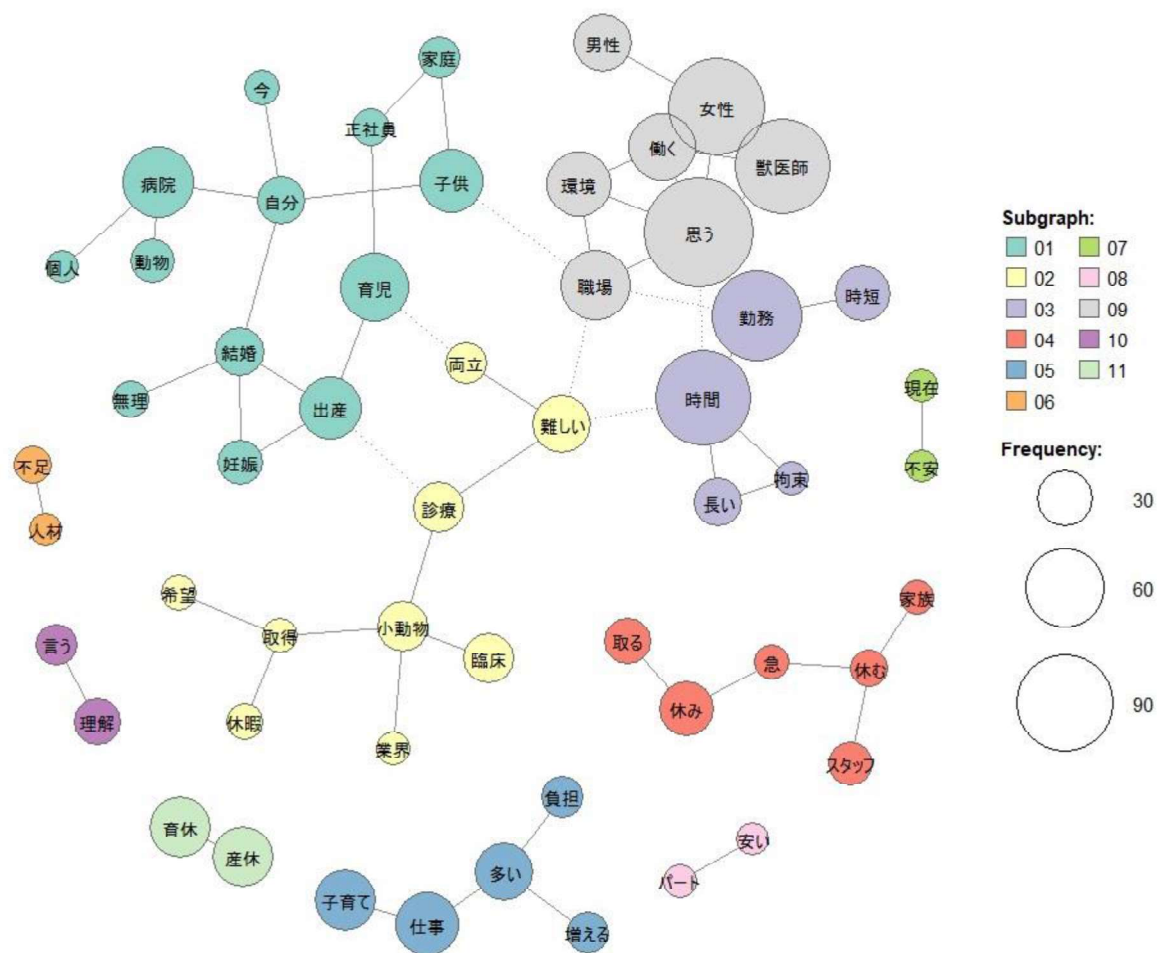


図 4 5 自由回答 (小動物・全回答)

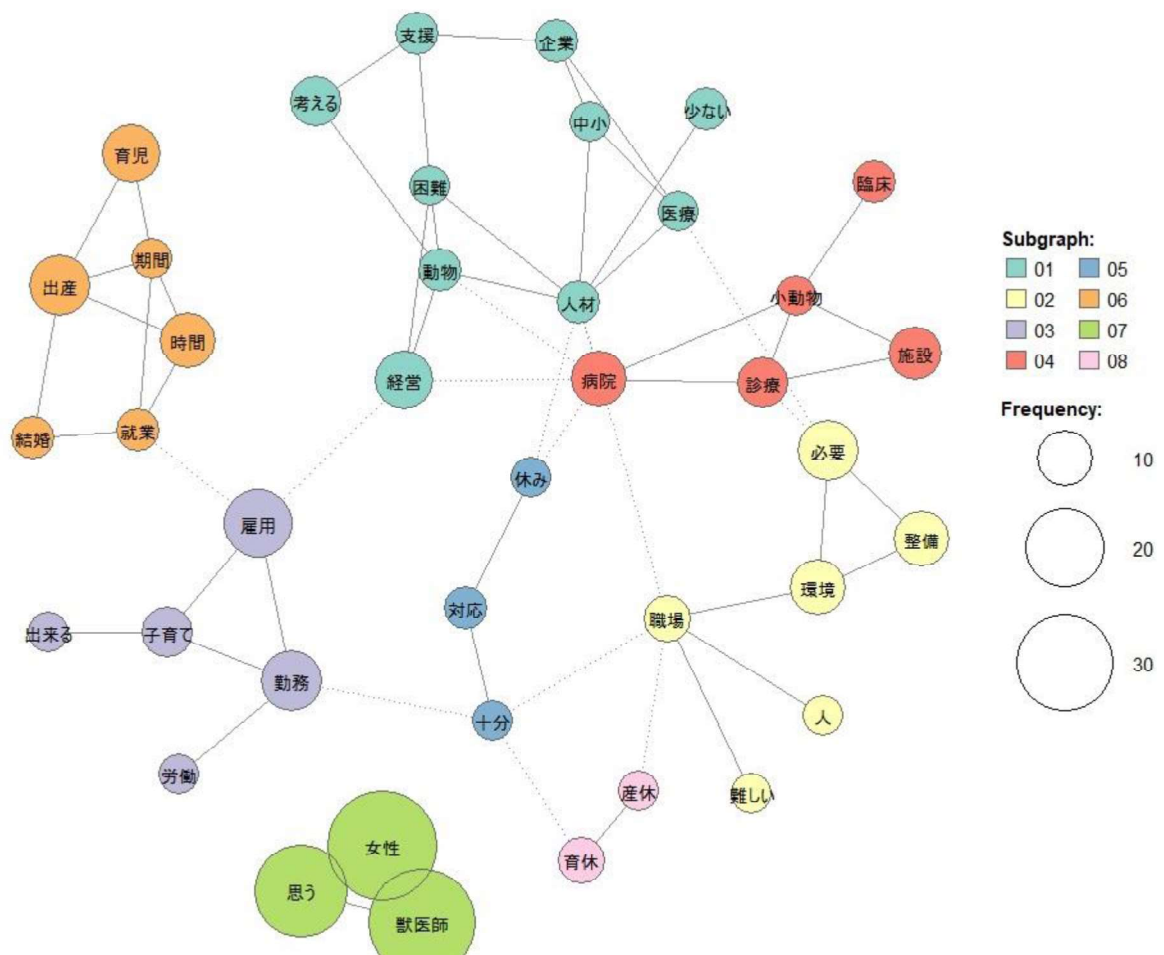


図 4 6 自由回答 (小動物・男性)

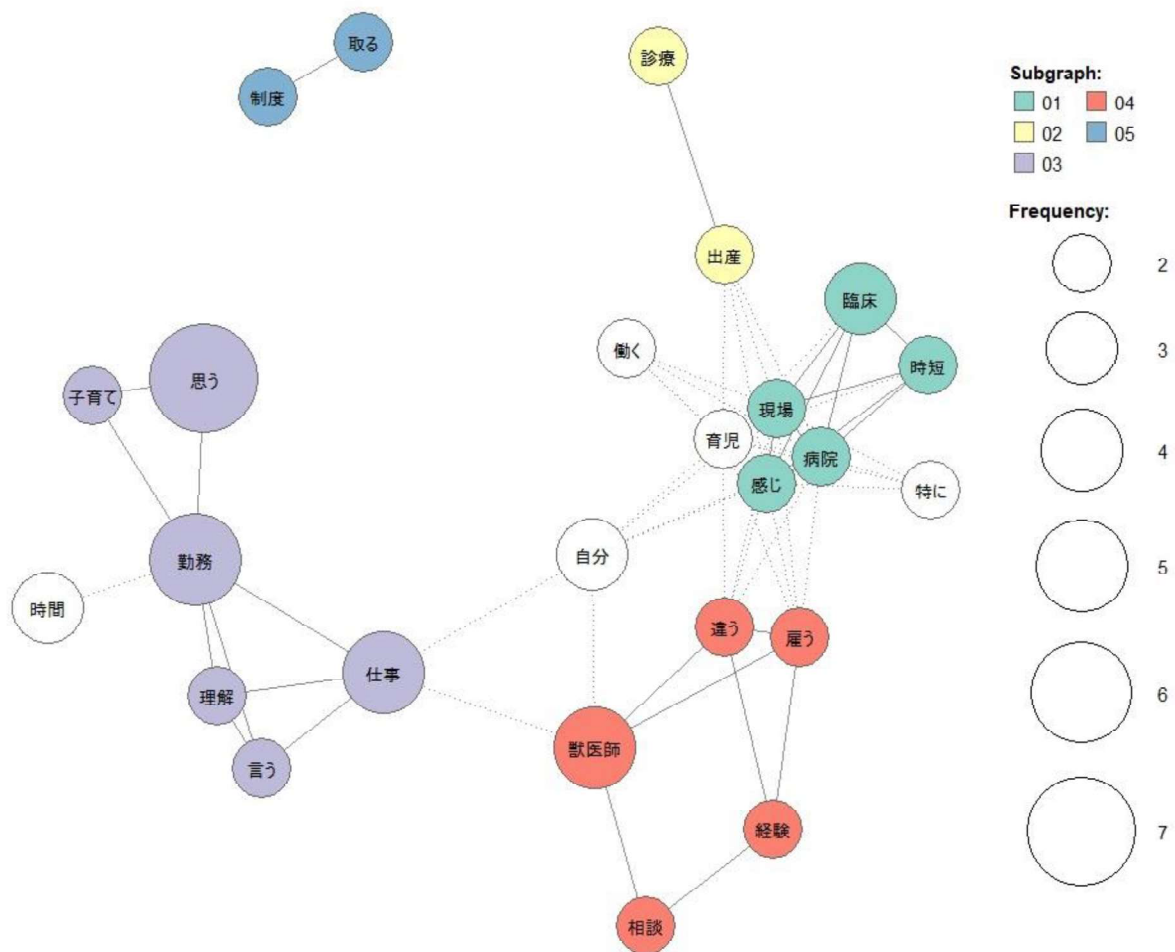


図5 1 自由回答（小動物・女性・50・60代）

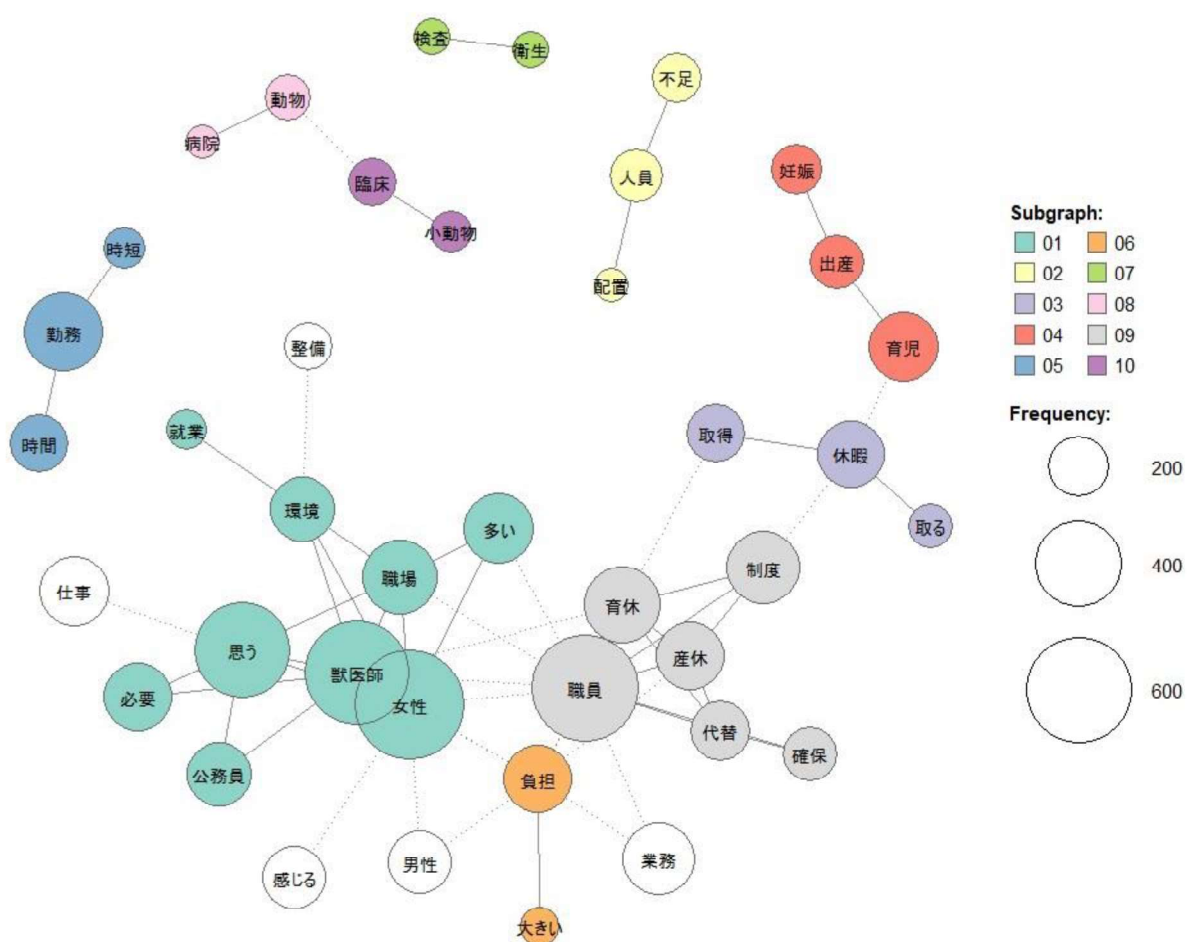


図5 2 自由回答（公務員・全回答）

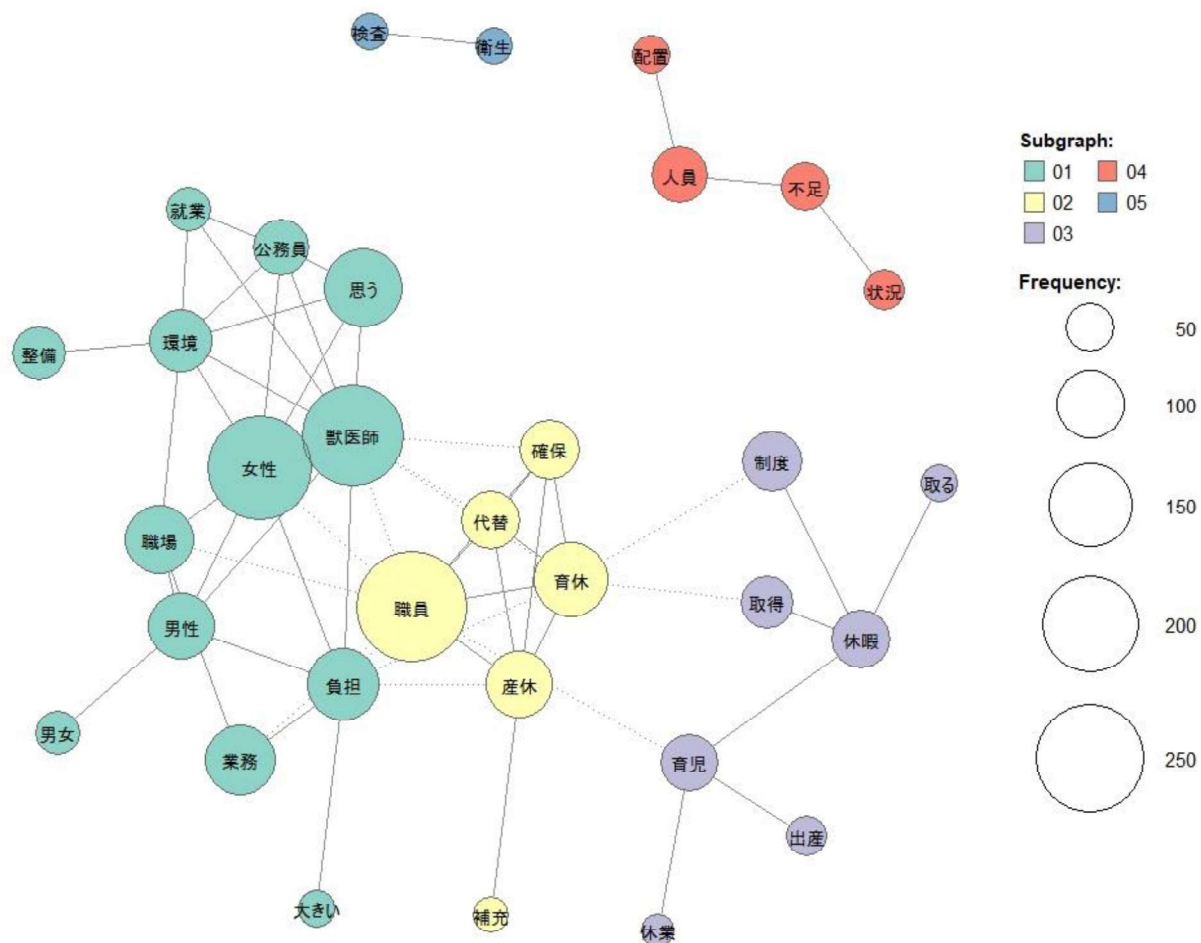


図 5 3 自由回答（公務員・男性）

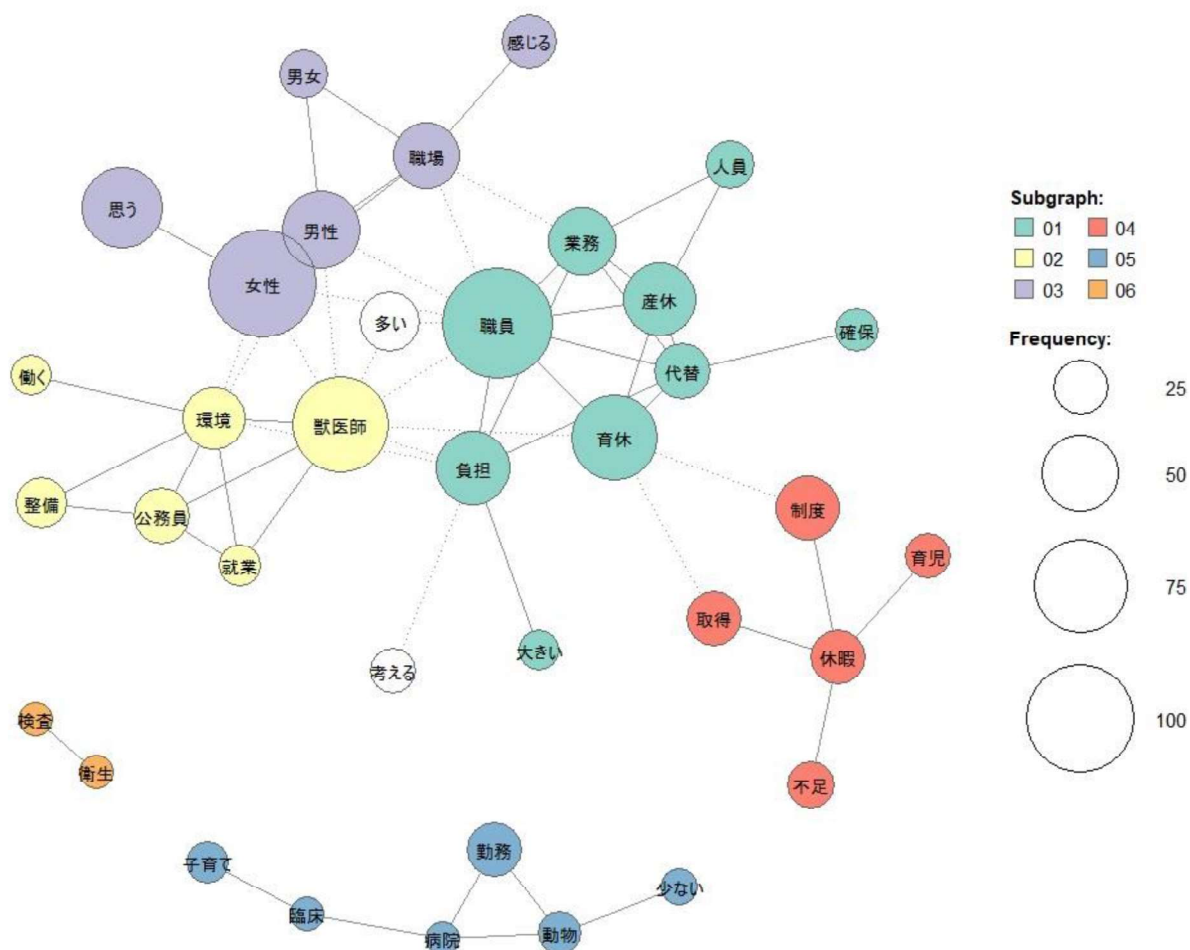


図 5 4 自由回答（公務員・男性・20・30代）

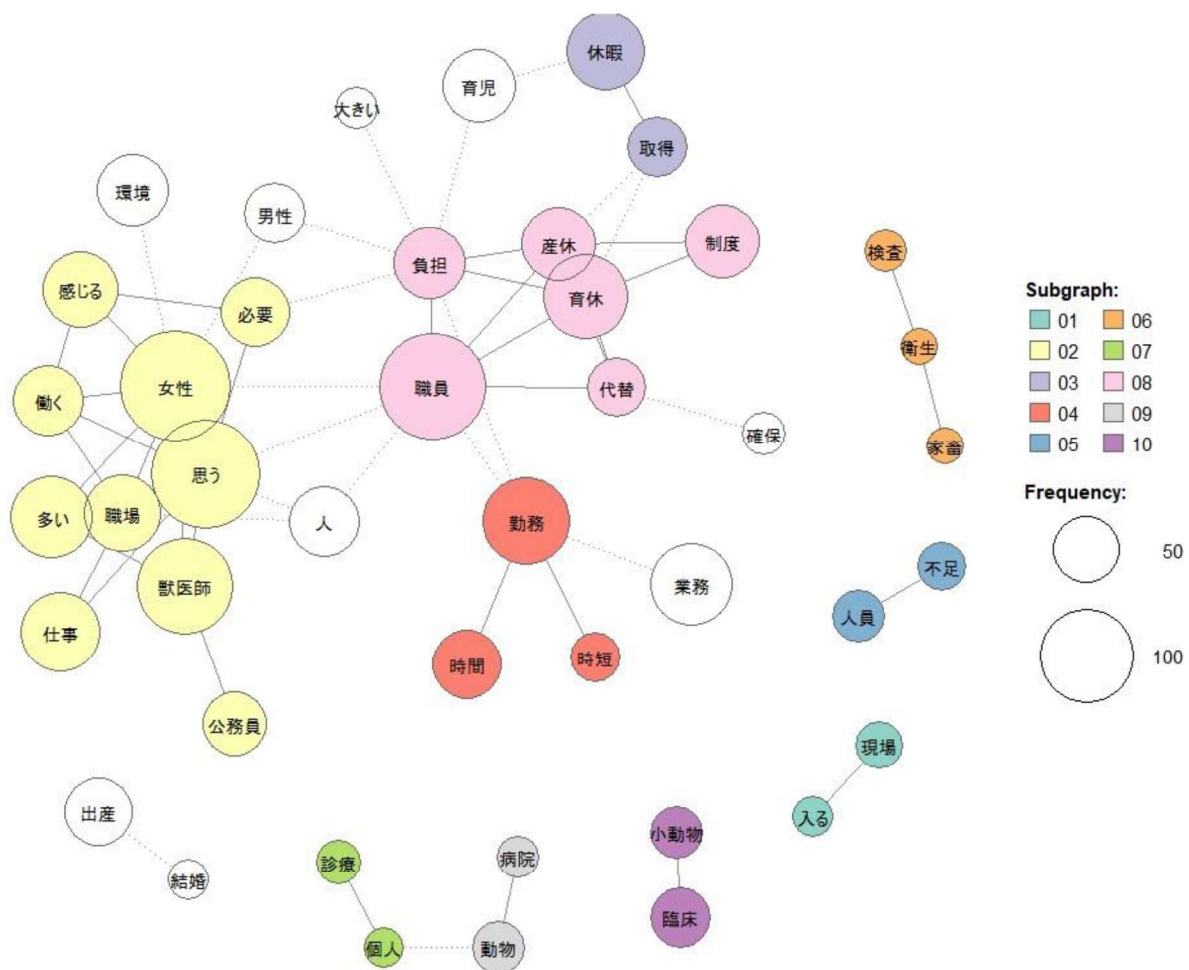


図 5 7 自由回答（公務員・女性・20・30代）

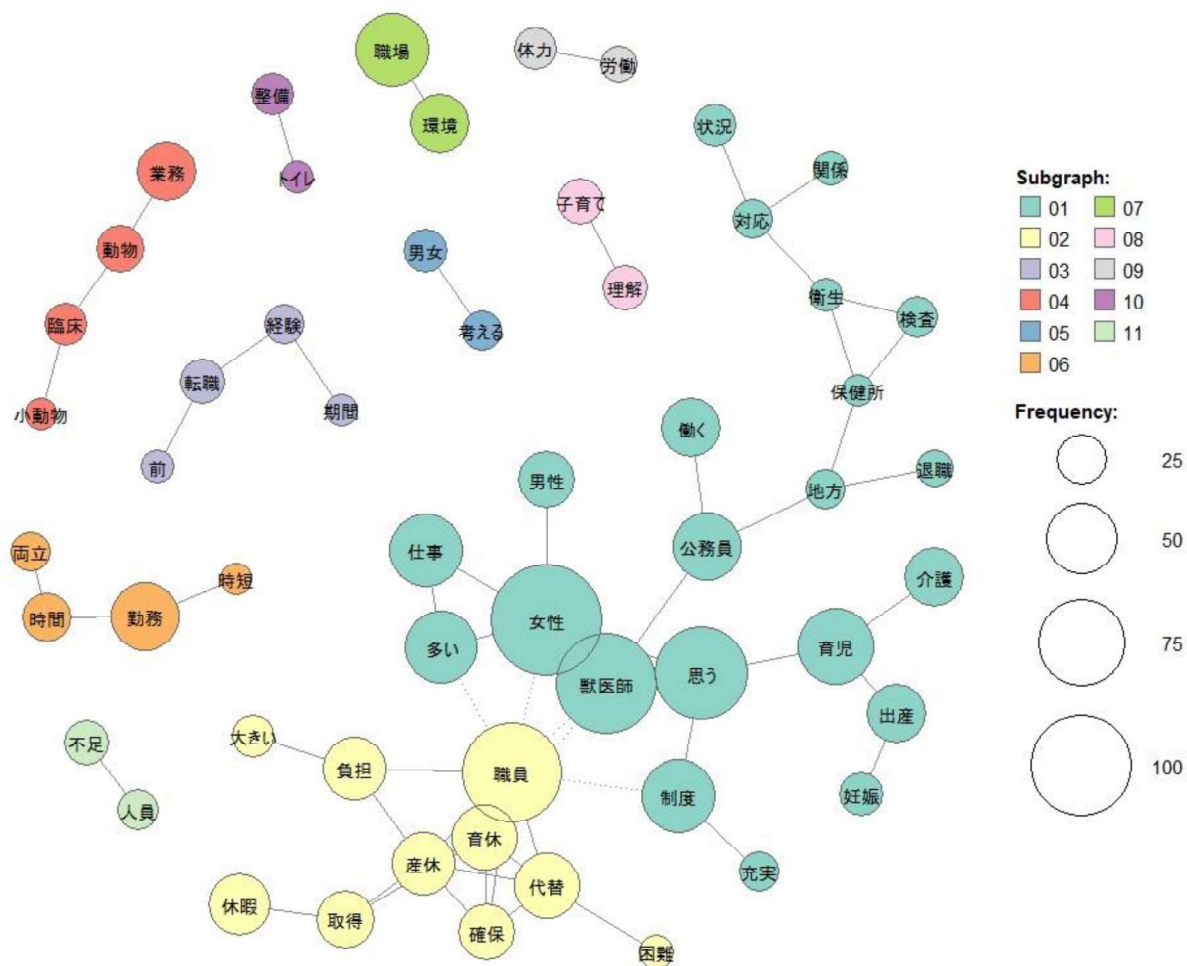


図 5 8 自由回答（公務員・女性・50・60代）

Q10 現在仕事をしていて不安に感じたり、負担に思うこと

事項	属性 ※産業診療は公務員 を除いた数字	全体	とても思う		やや思う		どちらともいえない		あまり思わない		まったく思わない		無回答	
		n	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
労働時間が長い	全体	4135	533	12.9%	875	21.2%	902	21.8%	1186	28.7%	597	14.4%	42	1.0%
	現在の業務													
	産業動物診療	408	61	15.0%	124	30.4%	78	19.1%	87	21.3%	52	12.7%	6	1.5%
	※産業動物診療	333	52	15.6%	107	32.1%	63	18.9%	62	18.6%	43	12.9%	6	1.8%
	小動物診療	443	163	36.8%	126	28.4%	60	13.5%	53	12.0%	36	8.1%	5	1.1%
	その他診療	103	14	13.6%	22	21.4%	22	21.4%	29	28.2%	16	15.5%	0	0.0%
	診療以外	2944	262	8.9%	558	19.0%	706	24.0%	949	32.2%	450	15.3%	19	0.6%
	獣医学上の知識不要	191	26	13.6%	31	16.2%	30	15.7%	58	30.4%	41	21.5%	5	2.6%
	現在の勤務先													
	個人診療施設	470	163	34.7%	126	26.8%	63	13.4%	62	13.2%	46	9.8%	10	2.1%
	農業協同組合	20	1	5.0%	5	25.0%	3	15.0%	3	15.0%	8	40.0%	0	0.0%
	農業共済組合等	222	30	13.5%	85	38.3%	42	18.9%	48	21.6%	16	7.2%	1	0.5%
	公務員計	2879	261	9.1%	538	18.7%	712	24.7%	927	32.2%	423	14.7%	18	0.6%
	国	238	43	18.1%	65	27.3%	47	19.7%	54	22.7%	27	11.3%	2	0.8%
	都道府県	1987	182	9.2%	380	19.1%	502	25.3%	642	32.3%	268	13.5%	13	0.7%
	市町村	654	36	5.5%	93	14.2%	163	24.9%	231	35.3%	128	19.6%	3	0.5%
	独立行政法人	54	4	7.4%	9	16.7%	5	9.3%	25	46.3%	11	20.4%	0	0.0%
	国・公・私立大学	73	20	27.4%	18	24.7%	12	16.4%	12	16.4%	10	13.7%	1	1.4%
	競馬関係団体	8	1	12.5%	3	37.5%	1	12.5%	0	0.0%	2	25.0%	1	12.5%
	民間企業	253	40	15.8%	53	20.9%	39	15.4%	65	25.7%	50	19.8%	6	2.4%
	公益法人等	83	3	3.6%	17	20.5%	11	13.3%	30	36.1%	22	26.5%	0	0.0%
	性別													
	男性	2108	250	11.9%	432	20.5%	448	21.3%	616	29.2%	331	15.7%	31	1.5%
	女性	1901	263	13.8%	418	22.0%	421	22.1%	537	28.2%	253	13.3%	9	0.5%
	年齢													
	20代	394	32	8.1%	76	19.3%	53	13.5%	109	27.7%	94	23.9%	30	7.6%
	30代	1034	133	12.9%	225	21.8%	218	21.1%	302	29.2%	155	15.0%	1	0.1%
	40代	1188	167	14.1%	273	23.0%	296	24.9%	323	27.2%	122	10.3%	7	0.6%
	50代	1017	129	12.7%	217	21.3%	237	23.3%	307	30.2%	116	11.4%	11	1.1%
	60代	407	35	8.6%	74	18.2%	82	20.1%	118	29.0%	86	21.1%	12	2.9%
	70代	82	6	7.3%	9	11.0%	13	15.9%	24	29.3%	22	26.8%	8	9.8%
休暇がとれない	全体	4135	404	9.8%	767	18.5%	593	14.3%	1496	36.2%	831	20.1%	44	1.1%
	現在の業務													
	産業動物診療	408	55	13.5%	109	26.7%	56	13.7%	114	27.9%	69	16.9%	5	1.2%
	※産業動物診療	333	50	15.0%	89	26.7%	44	13.2%	88	26.4%	57	17.1%	5	1.5%
	小動物診療	443	158	35.7%	120	27.1%	60	13.5%	57	12.9%	40	9.0%	8	1.8%
	その他診療	103	12	11.7%	34	33.0%	10	9.7%	27	26.2%	19	18.4%	1	1.0%
	診療以外	2944	161	5.5%	466	15.8%	434	14.7%	1218	41.4%	647	22.0%	18	0.6%
	獣医学上の知識不要	191	11	5.8%	28	14.7%	26	13.6%	70	36.6%	52	27.2%	4	2.1%
	現在の勤務先													
	個人診療施設	470	167	35.5%	125	26.6%	56	11.9%	61	13.0%	50	10.6%	11	2.3%
	農業協同組合	20	0	0.0%	2	10.0%	2	10.0%	8	40.0%	8	40.0%	0	0.0%
	農業共済組合等	222	26	11.7%	64	28.8%	37	16.7%	65	29.3%	29	13.1%	1	0.5%
	公務員計	2879	156	5.4%	472	16.4%	439	15.2%	1187	41.2%	608	21.1%	17	0.6%
	国	238	9	3.8%	38	16.0%	33	13.9%	102	42.9%	55	23.1%	1	0.4%
	都道府県	1987	124	6.2%	355	17.9%	322	16.2%	799	40.2%	376	18.9%	11	0.6%
	市町村	654	23	3.5%	79	12.1%	84	12.8%	286	43.7%	177	27.1%	5	0.8%
	独立行政法人	54	3	5.6%	7	13.0%	3	5.6%	24	44.4%	17	31.5%	0	0.0%
	国・公・私立大学	73	12	16.4%	19	26.0%	6	8.2%	24	32.9%	11	15.1%	1	1.4%
	競馬関係団体	8	1	12.5%	1	12.5%	0	0.0%	5	62.5%	1	12.5%	0	0.0%
	民間企業	253	27	10.7%	46	18.2%	29	11.5%	73	28.9%	72	28.5%	6	2.4%
	公益法人等	83	4	4.8%	17	20.5%	12	14.5%	26	31.3%	24	28.9%	0	0.0%
	性別													
	男性	2108	210	10.0%	373	17.7%	303	14.4%	751	35.6%	436	20.7%	35	1.7%
	女性	1901	182	9.6%	373	19.6%	262	13.8%	701	36.9%	376	19.8%	7	0.4%
	年齢													
	20代	394	32	8.1%	60	15.2%	29	7.4%	129	32.7%	144	36.5%	0	0.0%
	30代	1034	90	8.7%	160	15.5%	135	13.1%	399	38.6%	249	24.1%	1	0.1%
	40代	1188	119	10.0%	267	22.5%	191	16.1%	418	35.2%	186	15.7%	7	0.6%
	50代	1017	125	12.3%	191	18.8%	176	17.3%	368	36.2%	145	14.3%	12	1.2%
	60代	407	34	8.4%	76	18.7%	45	11.1%	157	38.6%	85	20.9%	10	2.5%
	70代	82	4	4.9%	12	14.6%	15	18.3%	21	25.6%	19	23.2%	11	13.4%
転勤が多い	全体	4135	437	10.6%	753	18.2%	682	16.5%	759	18.4%	1447	35.0%	57	1.4%
	現在の業務													
	産業動物診療	408	36	8.8%	58	14.2%	68	16.7%	78	19.1%	161	39.5%	7	1.7%
	※産業動物診療	333	23	6.9%	41	12.3%	49	14.7%	67	20.1%	146	43.8%	7	2.1%
	小動物診療	443	3	0.7%	7	1.6%	16	3.6%	22	5.0%	384	86.7%	11	2.5%
	その他診療	103	1	1.0%	5	4.9%	9	8.7%	14	13.6%	73	70.9%	1	1.0%
	診療以外	2944	375	12.7%	664	22.6%	545	18.5%	595	20.2%	742	25.2%	23	0.8%
	獣医学上の知識不要	191	19	9.9%	16	8.4%	39	20.4%	36	18.8%	75	39.3%	6	3.1%
	現在の勤務先													
	個人診療施設	470	3	0.6%	2	0.4%	18	3.8%	16	3.4%	416	88.5%	15	3.2%
	農業協同組合	20	1	5.0%	4	20.0%	3	15.0%	4	20.0%	8	40.0%	0	0.0%

期待していた仕事の内容ではない	現在の勤務先	農業共済組合等	222	22	9.9%	33	14.9%	35	15.8%	63	28.4%	67	30.2%	2	0.9%
		公務員計	2879	391	13.6%	684	23.8%	556	19.3%	587	20.4%	637	22.1%	24	0.8%
		国	238	50	21.0%	55	23.1%	43	18.1%	38	16.0%	50	21.0%	2	0.8%
		都道府県	1987	329	16.6%	583	29.3%	453	22.8%	390	19.6%	215	10.8%	17	0.9%
		市町村	654	12	1.8%	46	7.0%	60	9.2%	159	24.3%	372	56.9%	5	0.8%
		独立行政法人	54	5	9.3%	10	18.5%	12	22.2%	13	24.1%	14	25.9%	0	0.0%
		国・公・私立大学	73	1	1.4%	3	4.1%	4	5.5%	13	17.8%	51	69.9%	1	1.4%
		競馬関係団体	8	2	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	37.5%	3	37.5%	0	0.0%
		民間企業	253	6	2.4%	13	5.1%	35	13.8%	30	11.9%	163	64.4%	6	2.4%
		公益法人等	83	2	2.4%	1	1.2%	9	10.8%	10	12.0%	60	72.3%	1	1.2%
	性別	男性	2108	195	9.3%	392	18.6%	373	17.7%	377	17.9%	728	34.5%	43	2.0%
		女性	1901	219	11.5%	340	17.9%	285	15.0%	362	19.0%	683	35.9%	12	0.6%
	年齢	20代	394	52	13.2%	93	23.6%	58	14.7%	74	18.8%	117	29.7%	0	0.0%
		30代	1034	123	11.9%	226	21.9%	162	15.7%	179	17.3%	337	32.6%	7	0.7%
		40代	1188	124	10.4%	213	17.9%	196	16.5%	225	18.9%	418	35.2%	12	1.0%
		50代	1017	109	10.7%	181	17.8%	197	19.4%	199	19.6%	322	31.7%	9	0.9%
		60代	407	24	5.9%	36	8.8%	59	14.5%	73	17.9%	201	49.4%	14	3.4%
		70代	82	3	3.7%	2	2.4%	10	12.2%	7	8.5%	48	58.5%	12	14.6%
	全体		4135	323	7.8%	744	18.0%	1055	25.5%	1356	32.8%	607	14.7%	50	1.2%
	現在の業務	産業動物診療	408	16	3.9%	45	11.0%	84	20.6%	163	40.0%	93	22.8%	7	1.7%
		※産業動物診療	333	12	3.6%	30	9.0%	64	19.2%	138	41.4%	82	24.6%	7	2.1%
		小動物診療	443	12	2.7%	38	8.6%	72	16.3%	155	35.0%	157	35.4%	9	2.0%
		その他診療	103	9	8.7%	16	15.5%	14	13.6%	41	39.8%	22	21.4%	1	1.0%
		診療以外	2944	238	8.1%	610	20.7%	834	28.3%	938	31.9%	305	10.4%	19	0.6%
		獣医学上の知識不要	191	46	24.1%	29	15.2%	39	20.4%	48	25.1%	23	12.0%	6	3.1%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	12	2.6%	33	7.0%	76	16.2%	157	33.4%	178	37.9%	14	3.0%
		農業協同組合	20	1	5.0%	2	10.0%	2	10.0%	6	30.0%	9	45.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	10	4.5%	24	10.8%	52	23.4%	93	41.9%	40	18.0%	3	1.4%
		公務員計	2879	274	9.5%	609	21.2%	826	28.7%	888	30.8%	261	9.1%	21	0.7%
		国	238	15	6.3%	50	21.0%	54	22.7%	84	35.3%	33	13.9%	2	0.8%
		都道府県	1987	203	10.2%	425	21.4%	586	29.5%	594	29.9%	164	8.3%	15	0.8%
		市町村	654	56	8.6%	134	20.5%	186	28.4%	210	32.1%	64	9.8%	4	0.6%
		独立行政法人	54	2	3.7%	7	13.0%	12	22.2%	22	40.7%	11	20.4%	0	0.0%
		国・公・私立大学	73	2	2.7%	8	11.0%	7	9.6%	36	49.3%	19	26.0%	1	1.4%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	0	0.0%	2	25.0%	4	50.0%	2	25.0%	0	0.0%
		民間企業	253	18	7.1%	36	14.2%	40	15.8%	99	39.1%	54	21.3%	6	2.4%
		公益法人等	83	2	2.4%	12	14.5%	18	21.7%	35	42.2%	16	19.3%	0	0.0%
	性別	男性	2108	155	7.4%	368	17.5%	530	25.1%	678	32.2%	341	16.2%	36	1.7%
		女性	1901	143	7.5%	351	18.5%	494	26.0%	645	33.9%	256	13.5%	12	0.6%
	年齢	20代	394	32	8.1%	62	15.7%	88	22.3%	138	35.0%	73	18.5%	1	0.3%
		30代	1034	100	9.7%	213	20.6%	248	24.0%	348	33.7%	120	11.6%	5	0.5%
		40代	1188	101	8.5%	231	19.4%	345	29.0%	362	30.5%	136	11.4%	13	1.1%
		50代	1017	72	7.1%	184	18.1%	267	26.3%	337	33.1%	150	14.7%	7	0.7%
		60代	407	17	4.2%	42	10.3%	89	21.9%	150	36.9%	97	23.8%	12	2.9%
		70代	82	1	1.2%	10	12.2%	15	18.3%	20	24.4%	27	32.9%	9	11.0%
技術的に自信がない	全体		4135	349	8.4%	1123	27.2%	919	22.2%	1254	30.3%	440	10.6%	50	1.2%
	現在の業務	産業動物診療	408	39	9.6%	101	24.8%	83	20.3%	130	31.9%	49	12.0%	6	1.5%
		※産業動物診療	333	33	9.9%	75	22.5%	71	21.3%	106	31.8%	42	12.6%	6	1.8%
		小動物診療	443	54	12.2%	153	34.5%	82	18.5%	107	24.2%	40	9.0%	7	1.6%
		その他診療	103	25	24.3%	38	36.9%	22	21.4%	14	13.6%	4	3.9%	0	0.0%
		診療以外	2944	200	6.8%	787	26.7%	681	23.1%	934	31.7%	316	10.7%	26	0.9%
		獣医学上の知識不要	191	27	14.1%	35	18.3%	44	23.0%	54	28.3%	26	13.6%	5	2.6%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	58	12.3%	145	30.9%	85	18.1%	116	24.7%	55	11.7%	11	2.3%
		農業協同組合	20	3	15.0%	5	25.0%	5	25.0%	4	20.0%	3	15.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	19	8.6%	51	23.0%	53	23.9%	77	34.7%	20	9.0%	2	0.9%
		公務員計	2879	209	7.3%	782	27.2%	680	23.6%	893	31.0%	290	10.1%	25	0.9%
		国	238	17	7.1%	73	30.7%	51	21.4%	69	29.0%	26	10.9%	2	0.8%
		都道府県	1987	152	7.6%	533	26.8%	479	24.1%	623	31.4%	180	9.1%	20	1.0%
		市町村	654	40	6.1%	176	26.9%	150	22.9%	201	30.7%	84	12.8%	3	0.5%
		独立行政法人	54	3	5.6%	20	37.0%	9	16.7%	16	29.6%	6	11.1%	0	0.0%
		国・公・私立大学	73	2	2.7%	11	15.1%	8	11.0%	42	57.5%	9	12.3%	1	1.4%
		競馬関係団体	8	1	12.5%	2	25.0%	2	25.0%	2	25.0%	1	12.5%	0	0.0%
		民間企業	253	38	15.0%	70	27.7%	45	17.8%	64	25.3%	29	11.5%	7	2.8%
		公益法人等	83	11	13.3%	18	21.7%	21	25.3%	17	20.5%	16	19.3%	0	0.0%
	性別	男性	2108	121	5.7%	476	22.6%	441	20.9%	741	35.2%	294	13.9%	35	1.7%
		女性	1901	212	11.2%	613	32.2%	448	23.6%	480	25.2%	133	7.0%	15	0.8%
		20代	394	78	19.8%	142	36.0%	77	19.5%	76	19.3%	20	5.1%	1	0.3%
		30代	1034	117	11.3%	375	36.3%	195	18.9%	257	24.9%	86	8.3%	4	0.4%

年齢	40代	1188	81	6.8%	334	28.1%	286	24.1%	374	31.5%	103	8.7%	10	0.8%		
	50代	1017	61	6.0%	212	20.8%	261	25.7%	339	33.3%	133	13.1%	11	1.1%		
	60代	407	11	2.7%	50	12.3%	83	20.4%	174	42.8%	75	18.4%	14	3.4%		
	70代	82	1	1.2%	10	12.2%	15	18.3%	28	34.1%	21	25.6%	7	8.5%		
体力に自信がない	全体	4135	337	8.1%	1046	25.3%	871	21.1%	1256	30.4%	581	14.1%	44	1.1%		
	現在の業務	産業動物診療	408	32	7.8%	105	25.7%	81	19.9%	115	28.2%	67	16.4%	8	2.0%	
		※産業動物診療	333	25	7.5%	81	24.3%	61	18.3%	94	28.2%	55	16.5%	17	5.1%	
		小動物診療	443	52	11.7%	152	34.3%	86	19.4%	94	21.2%	52	11.7%	7	1.6%	
		その他診療	103	2	1.9%	28	27.2%	19	18.4%	32	31.1%	21	20.4%	1	1.0%	
		診療以外	2944	234	7.9%	707	24.0%	642	21.8%	952	32.3%	393	13.3%	16	0.5%	
		獣医学上の知識不要	191	14	7.3%	47	24.6%	32	16.8%	51	26.7%	43	22.5%	4	2.1%	
	現在の勤務先	個人診療施設	470	55	11.7%	154	32.8%	90	19.1%	101	21.5%	61	13.0%	9	1.9%	
		農業協同組合	20	2	10.0%	6	30.0%	2	10.0%	7	35.0%	3	15.0%	0	0.0%	
		農業共済組合等	222	16	7.2%	62	27.9%	45	20.3%	63	28.4%	33	14.9%	3	1.4%	
		公務員計	2879	233	8.1%	700	24.3%	637	22.1%	921	32.0%	370	12.9%	18	0.6%	
		国	238	18	7.6%	57	23.9%	50	21.0%	79	33.2%	32	13.4%	2	0.8%	
		都道府県	1987	176	8.9%	478	24.1%	448	22.5%	637	32.1%	236	11.9%	12	0.6%	
		市町村	654	39	6.0%	165	25.2%	139	21.3%	205	31.3%	102	15.6%	4	0.6%	
		独立行政法人	54	6	11.1%	15	27.8%	8	14.8%	18	33.3%	7	13.0%	0	0.0%	
		国・公・私立大学	73	2	2.7%	13	17.8%	10	13.7%	25	34.2%	21	28.8%	2	2.7%	
		競馬関係団体	8	1	12.5%	1	12.5%	2	25.0%	3	37.5%	1	12.5%	0	0.0%	
		民間企業	253	14	5.5%	60	23.7%	44	17.4%	70	27.7%	59	23.3%	6	2.4%	
		公益法人等	83	4	4.8%	19	22.9%	15	18.1%	30	36.1%	15	18.1%	0	0.0%	
	性別	男性	2108	96	4.6%	412	19.5%	471	22.3%	717	34.0%	379	18.0%	33	1.6%	
		女性	1901	227	11.9%	599	31.5%	377	19.8%	502	26.4%	187	9.8%	9	0.5%	
	年齢	20代	394	42	10.7%	102	25.9%	63	16.0%	118	29.9%	67	17.0%	2	0.5%	
		30代	1034	77	7.4%	269	26.0%	207	20.0%	307	29.7%	170	16.4%	4	0.4%	
		40代	1188	105	8.8%	304	25.6%	270	22.7%	365	30.7%	137	11.5%	7	0.6%	
		50代	1017	79	7.8%	249	24.5%	238	23.4%	309	30.4%	130	12.8%	12	1.2%	
		60代	407	32	7.9%	106	26.0%	74	18.2%	129	31.7%	59	14.5%	7	1.7%	
		70代	82	1	1.2%	15	18.3%	18	22.0%	25	30.5%	14	17.1%	9	11.0%	
	家族の理解が得られない	全体	4135	85	2.1%	259	6.3%	601	14.5%	1411	34.1%	1727	41.8%	52	1.3%	
		現在の業務	産業動物診療	408	7	1.7%	38	9.3%	56	13.7%	130	31.9%	169	41.4%	8	2.0%
			※産業動物診療	333	6	1.8%	32	9.6%	47	14.1%	98	29.4%	142	42.6%	8	2.4%
			小動物診療	443	30	6.8%	40	9.0%	60	13.5%	132	29.8%	172	38.8%	9	2.0%
その他診療			103	1	1.0%	7	6.8%	14	13.6%	28	27.2%	53	51.5%	0	0.0%	
診療以外			2944	37	1.3%	161	5.5%	439	14.9%	1060	36.0%	1224	41.6%	23	0.8%	
獣医学上の知識不要			191	9	4.7%	7	3.7%	27	14.1%	46	24.1%	97	50.8%	5	2.6%	
現在の勤務先		個人診療施設	470	26	5.5%	45	9.6%	60	12.8%	127	27.0%	197	41.9%	15	3.2%	
		農業協同組合	20	0	0.0%	2	10.0%	1	5.0%	5	25.0%	12	60.0%	0	0.0%	
		農業共済組合等	222	5	2.3%	22	9.9%	39	17.6%	73	32.9%	81	36.5%	2	0.9%	
		公務員計	2879	39	1.4%	161	5.6%	432	15.0%	1034	35.9%	1191	41.4%	22	0.8%	
		国	238	7	2.9%	12	5.0%	43	18.1%	77	32.4%	97	40.8%	2	0.8%	
		都道府県	1987	28	1.4%	120	6.0%	297	14.9%	740	37.2%	785	39.5%	17	0.9%	
		市町村	654	4	0.6%	29	4.4%	92	14.1%	217	33.2%	309	47.2%	3	0.5%	
		独立行政法人	54	3	5.6%	2	3.7%	8	14.8%	16	29.6%	25	46.3%	0	0.0%	
		国・公・私立大学	73	3	4.1%	6	8.2%	6	8.2%	28	38.4%	29	39.7%	1	1.4%	
		競馬関係団体	8	0	0.0%	1	12.5%	2	25.0%	4	50.0%	1	12.5%	0	0.0%	
		民間企業	253	4	1.6%	10	4.0%	39	15.4%	67	26.5%	127	50.2%	6	2.4%	
		公益法人等	83	4	4.8%	4	4.8%	5	6.0%	34	41.0%	35	42.2%	1	1.2%	
性別		男性	2108	46	2.2%	112	5.3%	323	15.3%	735	34.9%	851	40.4%	41	1.9%	
		女性	1901	35	1.8%	130	6.8%	254	13.4%	632	33.2%	838	44.1%	12	0.6%	
年齢		20代	394	12	3.0%	24	6.1%	42	10.7%	98	24.9%	217	55.1%	1	0.3%	
		30代	1034	25	2.4%	70	6.8%	151	14.6%	342	33.1%	442	42.7%	4	0.4%	
		40代	1188	26	2.2%	92	7.7%	190	16.0%	421	35.4%	451	38.0%	8	0.7%	
		50代	1017	19	1.9%	52	5.1%	166	16.3%	369	36.3%	400	39.3%	11	1.1%	
		60代	407	3	0.7%	20	4.9%	42	10.3%	153	37.6%	173	42.5%	16	3.9%	
		70代	82	0	0.0%	1	1.2%	9	11.0%	24	29.3%	38	46.3%	10	12.2%	
知識や経験が不足している		全体	4135	501	12.1%	1383	33.4%	911	22.0%	1009	24.4%	289	7.0%	42	1.0%	
		現在の業務	産業動物診療	408	58	14.2%	130	31.9%	79	19.4%	102	25.0%	31	7.6%	8	2.0%
			※産業動物診療	333	46	13.8%	104	31.2%	67	20.1%	81	24.3%	27	8.1%	8	2.4%
			小動物診療	443	62	14.0%	169	38.1%	90	20.3%	86	19.4%	27	6.1%	9	2.0%
	その他診療		103	32	31.1%	45	43.7%	16	15.5%	7	6.8%	3	2.9%	0	0.0%	
	診療以外		2944	316	10.7%	968	32.9%	678	23.0%	760	25.8%	207	7.0%	15	0.5%	
	獣医学上の知識不要		191	30	15.7%	59	30.9%	41	21.5%	42	22.0%	16	8.4%	3	1.6%	
		個人診療施設	470	63	13.4%	174	37.0%	88	18.7%	97	20.6%	35	7.4%	13	2.8%	
		農業協同組合	20	5	25.0%	6	30.0%	4	20.0%	5	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	
		農業共済組合等	222	27	12.2%	69	31.1%	55	24.8%	57	25.7%	11	5.0%	3	1.4%	

給料が安い（収入が少ない）	現在の勤務先	公務員計	2879	330	11.5%	965	33.5%	668	23.2%	712	24.7%	188	6.5%	16	0.6%
		国	238	24	10.1%	100	42.0%	47	19.7%	50	21.0%	14	5.9%	3	1.3%
		都道府県	1987	241	12.1%	652	32.8%	473	23.8%	493	24.8%	119	6.0%	9	0.5%
		市町村	654	65	9.9%	213	32.6%	148	22.6%	169	25.8%	55	8.4%	4	0.6%
		独立行政法人	54	7	13.0%	24	44.4%	8	14.8%	9	16.7%	6	11.1%	0	0.0%
		国・公・私立大学	73	3	4.1%	18	24.7%	14	19.2%	28	38.4%	9	12.3%	1	1.4%
		競馬関係団体	8	1	12.5%	4	50.0%	1	12.5%	2	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
		民間企業	253	47	18.6%	78	30.8%	41	16.2%	58	22.9%	24	9.5%	5	2.0%
		公益法人等	83	13	15.7%	25	30.1%	18	21.7%	19	22.9%	8	9.6%	0	0.0%
	性別	男性	2108	204	9.7%	596	28.3%	462	21.9%	608	28.8%	209	9.9%	29	1.4%
		女性	1901	280	14.7%	749	39.4%	413	21.7%	374	19.7%	74	3.9%	11	0.6%
	年齢	20代	394	114	28.9%	172	43.7%	53	13.5%	41	10.4%	11	2.8%	3	0.8%
		30代	1034	167	16.2%	434	42.0%	199	19.2%	186	18.0%	46	4.4%	2	0.2%
		40代	1188	123	10.4%	404	34.0%	304	25.6%	275	23.1%	76	6.4%	6	0.5%
		50代	1017	74	7.3%	285	28.0%	251	24.7%	311	30.6%	88	8.7%	8	0.8%
		60代	407	21	5.2%	76	18.7%	84	20.6%	162	39.8%	55	13.5%	9	2.2%
		70代	82	2	2.4%	11	13.4%	15	18.3%	30	36.6%	13	15.9%	11	13.4%
	全体		4135	1135	27.4%	1170	28.3%	908	22.0%	669	16.2%	216	5.2%	37	0.9%
やりがいを見つけれない	現在の業務	産業動物診療	408	85	20.8%	95	23.3%	90	22.1%	93	22.8%	40	9.8%	5	1.2%
		※産業動物診療	333	64	19.2%	70	21.0%	79	23.7%	79	23.7%	36	10.8%	5	1.5%
		小動物診療	443	89	20.1%	106	23.9%	93	21.0%	94	21.2%	54	12.2%	7	1.6%
		その他診療	103	38	36.9%	41	39.8%	17	16.5%	4	3.9%	3	2.9%	0	0.0%
		診療以外	2944	861	29.2%	866	29.4%	664	22.6%	441	15.0%	98	3.3%	14	0.5%
		獣医学上の知識不要	191	58	30.4%	47	24.6%	36	18.8%	31	16.2%	16	8.4%	3	1.6%
		個人診療施設	470	84	17.9%	104	22.1%	106	22.6%	103	21.9%	63	13.4%	10	2.1%
		農業協同組合	20	3	15.0%	5	25.0%	3	15.0%	5	25.0%	4	20.0%	0	0.0%
	現在の勤務先	農業共済組合等	222	41	18.5%	48	21.6%	52	23.4%	57	25.7%	22	9.9%	2	0.9%
		公務員計	2879	872	30.3%	880	30.6%	629	21.8%	395	13.7%	90	3.1%	13	0.5%
		国	238	51	21.4%	82	34.5%	49	20.6%	45	18.9%	11	4.6%	0	0.0%
		都道府県	1987	630	31.7%	600	30.2%	424	21.3%	266	13.4%	57	2.9%	10	0.5%
		市町村	654	191	29.2%	198	30.3%	156	23.9%	84	12.8%	22	3.4%	3	0.5%
		独立行政法人	54	14	25.9%	12	22.2%	16	29.6%	11	20.4%	1	1.9%	0	0.0%
		国・公・私立大学	73	18	24.7%	17	23.3%	19	26.0%	13	17.8%	5	6.8%	1	1.4%
		競馬関係団体	8	1	12.5%	4	50.0%	2	25.0%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
		民間企業	253	64	25.3%	57	22.5%	41	16.2%	65	25.7%	21	8.3%	5	2.0%
		公益法人等	83	26	31.3%	24	28.9%	22	26.5%	9	10.8%	2	2.4%	0	0.0%
	性別	男性	2108	614	29.1%	596	28.3%	431	20.4%	325	15.4%	115	5.5%	27	1.3%
		女性	1901	476	25.0%	543	28.6%	451	23.7%	325	17.1%	98	5.2%	8	0.4%
	年齢	20代	394	113	28.7%	116	29.4%	64	16.2%	68	17.3%	33	8.4%	0	0.0%
		30代	1034	352	34.0%	317	30.7%	172	16.6%	152	14.7%	36	3.5%	5	0.5%
		40代	1188	294	24.7%	328	27.6%	308	25.9%	203	17.1%	50	4.2%	5	0.4%
		50代	1017	260	25.6%	281	27.6%	250	24.6%	168	16.5%	48	4.7%	10	1.0%
		60代	407	106	26.0%	97	23.8%	95	23.3%	66	16.2%	36	8.8%	7	1.7%
		70代	82	9	11.0%	27	32.9%	17	20.7%	10	12.2%	12	14.6%	7	8.5%
	全体		4135	435	10.5%	841	20.3%	873	21.1%	1303	31.5%	644	15.6%	39	0.9%
やりがいを見つけれない	現在の業務	産業動物診療	408	25	6.1%	47	11.5%	67	16.4%	162	39.7%	100	24.5%	7	1.7%
		※産業動物診療	333	17	5.1%	30	9.0%	52	15.6%	136	40.8%	91	27.3%	7	2.1%
		小動物診療	443	12	2.7%	39	8.8%	62	14.0%	160	36.1%	163	36.8%	7	1.6%
		その他診療	103	3	2.9%	14	13.6%	12	11.7%	46	44.7%	27	26.2%	1	1.0%
		診療以外	2944	342	11.6%	697	23.7%	704	23.9%	864	29.3%	327	11.1%	10	0.3%
		獣医学上の知識不要	191	50	26.2%	39	20.4%	22	11.5%	54	28.3%	21	11.0%	5	2.6%
		個人診療施設	470	12	2.6%	36	7.7%	61	13.0%	167	35.5%	181	38.5%	13	2.8%
		農業協同組合	20	1	5.0%	1	5.0%	3	15.0%	7	35.0%	8	40.0%	0	0.0%
	現在の勤務先	農業共済組合等	222	15	6.8%	30	13.5%	37	16.7%	96	43.2%	43	19.4%	1	0.5%
		公務員計	2879	382	13.3%	721	25.0%	682	23.7%	816	28.3%	267	9.3%	11	0.4%
		国	238	21	8.8%	53	22.3%	44	18.5%	73	30.7%	46	19.3%	1	0.4%
		都道府県	1987	277	13.9%	521	26.2%	476	24.0%	542	27.3%	165	8.3%	6	0.3%
		市町村	654	84	12.8%	147	22.5%	162	24.8%	201	30.7%	56	8.6%	4	0.6%
		独立行政法人	54	3	5.6%	2	3.7%	14	25.9%	21	38.9%	14	25.9%	0	0.0%
		国・公・私立大学	73	0	0.0%	6	8.2%	8	11.0%	32	43.8%	26	35.6%	1	1.4%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%	6	75.0%	1	12.5%	0	0.0%
		民間企業	253	15	5.9%	33	13.0%	41	16.2%	89	35.2%	70	27.7%	5	2.0%
		公益法人等	83	3	3.6%	4	4.8%	18	21.7%	41	49.4%	16	19.3%	1	1.2%
	性別	男性	2108	218	10.3%	426	20.2%	443	21.0%	667	31.6%	322	15.3%	32	1.5%
		女性	1901	187	9.8%	390	20.5%	401	21.1%	608	32.0%	310	16.3%	5	0.3%
	年齢	20代	394	37	9.4%	71	18.0%	73	18.5%	121	30.7%	92	23.4%	0	0.0%
		30代	1034	149	14.4%	252	24.4%	206	19.9%	290	28.0%	136	13.2%	1	0.1%
		40代	1188	148	12.5%	263	22.1%	272	22.9%	349	29.4%	149	12.5%	7	0.6%

仕事上の人間関係がうまくいかない	年齢	50代	1017	88	8.7%	200	19.7%	236	23.2%	340	33.4%	147	14.5%	6	0.6%
		60代	407	12	2.9%	50	12.3%	72	17.7%	171	42.0%	91	22.4%	11	2.7%
		70代	82	1	1.2%	2	2.4%	13	15.9%	28	34.1%	27	32.9%	11	13.4%
	全体		4135	181	4.4%	597	14.4%	989	23.9%	1662	40.2%	657	15.9%	49	1.2%
	現在の業務	産業動物診療	408	21	5.1%	62	15.2%	86	21.1%	162	39.7%	70	17.2%	7	1.7%
		※産業動物診療	333	20	6.0%	48	14.4%	68	20.4%	131	39.3%	59	17.7%	7	2.1%
		小動物診療	443	27	6.1%	72	16.3%	94	21.2%	158	35.7%	85	19.2%	7	1.6%
		その他診療	103	6	5.8%	13	12.6%	29	28.2%	34	33.0%	20	19.4%	1	1.0%
		診療以外	2944	113	3.8%	418	14.2%	729	24.8%	1236	42.0%	427	14.5%	21	0.7%
		獣医学上の知識不要	191	8	4.2%	23	12.0%	42	22.0%	63	33.0%	49	25.7%	6	3.1%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	28	6.0%	71	15.1%	94	20.0%	158	33.6%	107	22.8%	12	2.6%
		農業協同組合	20	1	5.0%	3	15.0%	6	30.0%	7	35.0%	3	15.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	18	8.1%	31	14.0%	46	20.7%	94	42.3%	30	13.5%	3	1.4%
		公務員計	2879	99	3.4%	422	14.7%	733	25.5%	1195	41.5%	410	14.2%	20	0.7%
		国	238	9	3.8%	28	11.8%	52	21.8%	107	45.0%	41	17.2%	1	0.4%
		都道府県	1987	69	3.5%	295	14.8%	511	25.7%	829	41.7%	268	13.5%	15	0.8%
		市町村	654	21	3.2%	99	15.1%	170	26.0%	259	39.6%	101	15.4%	4	0.6%
		独立行政法人	54	2	3.7%	7	13.0%	12	22.2%	22	40.7%	11	20.4%	0	0.0%
		国・公・私立大学	73	5	6.8%	10	13.7%	13	17.8%	32	43.8%	12	16.4%	1	1.4%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%	7	87.5%	0	0.0%	0	0.0%
		民間企業	253	18	7.1%	31	12.3%	49	19.4%	99	39.1%	51	20.2%	5	2.0%
		公益法人等	83	4	4.8%	8	9.6%	18	21.7%	32	38.6%	19	22.9%	2	2.4%
	性別	男性	2108	80	3.8%	284	13.5%	525	24.9%	842	39.9%	342	16.2%	35	1.7%
		女性	1901	90	4.7%	286	15.0%	426	22.4%	782	41.1%	305	16.0%	12	0.6%
	年齢	20代	394	23	5.8%	47	11.9%	58	14.7%	159	40.4%	107	27.2%	0	0.0%
		30代	1034	52	5.0%	171	16.5%	237	22.9%	405	39.2%	166	16.1%	3	0.3%
		40代	1188	51	4.3%	184	15.5%	328	27.6%	473	39.8%	144	12.1%	8	0.7%
		50代	1017	44	4.3%	156	15.3%	253	24.9%	415	40.8%	135	13.3%	14	1.4%
		60代	407	10	2.5%	34	8.4%	95	23.3%	176	43.2%	80	19.7%	12	2.9%
		70代	82	1	1.2%	5	6.1%	14	17.1%	29	35.4%	23	28.0%	10	12.2%
仕事と育児との両立がうまくいかない	全体		4135	336	8.1%	722	17.5%	1107	26.8%	954	23.1%	903	21.8%	113	2.7%
	現在の業務	産業動物診療	408	36	8.8%	83	20.3%	108	26.5%	78	19.1%	89	21.8%	14	3.4%
		※産業動物診療	333	31	9.3%	73	21.9%	81	24.3%	59	17.7%	76	22.8%	13	3.9%
		小動物診療	443	81	18.3%	111	25.1%	81	18.3%	57	12.9%	100	22.6%	13	2.9%
		その他診療	103	11	10.7%	17	16.5%	33	32.0%	17	16.5%	24	23.3%	1	1.0%
		診療以外	2944	189	6.4%	486	16.5%	827	28.1%	764	26.0%	609	20.7%	69	2.3%
		獣医学上の知識不要	191	11	5.8%	22	11.5%	46	24.1%	33	17.3%	73	38.2%	6	3.1%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	83	17.7%	104	22.1%	82	17.4%	66	14.0%	111	23.6%	24	5.1%
		農業協同組合	20	2	10.0%	5	25.0%	3	15.0%	2	10.0%	8	40.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	19	8.6%	64	28.8%	53	23.9%	45	20.3%	37	16.7%	4	1.8%
		公務員計	2879	175	6.1%	476	16.5%	831	28.9%	759	26.4%	578	20.1%	60	2.1%
		国	238	16	6.7%	51	21.4%	77	32.4%	41	17.2%	45	18.9%	8	3.4%
		都道府県	1987	136	6.8%	320	16.1%	590	29.7%	517	26.0%	383	19.3%	41	2.1%
		市町村	654	23	3.5%	105	16.1%	164	25.1%	201	30.7%	150	22.9%	11	1.7%
		独立行政法人	54	4	7.4%	5	9.3%	16	29.6%	11	20.4%	17	31.5%	1	1.9%
		国・公・私立大学	73	11	15.1%	13	17.8%	21	28.8%	7	9.6%	18	24.7%	3	4.1%
		競馬関係団体	8	3	37.5%	0	0.0%	1	12.5%	2	25.0%	1	12.5%	1	12.5%
		民間企業	253	21	8.3%	35	13.8%	66	26.1%	38	15.0%	85	33.6%	8	3.2%
		公益法人等	83	9	10.8%	11	13.3%	17	20.5%	16	19.3%	27	32.5%	3	3.6%
	性別	男性	2108	119	5.6%	332	15.7%	541	25.7%	533	25.3%	502	23.8%	81	3.8%
		女性	1901	205	10.8%	371	19.5%	531	27.9%	382	20.1%	382	20.1%	30	1.6%
	年齢	20代	394	31	7.9%	30	7.6%	136	34.5%	66	16.8%	123	31.2%	8	2.0%
		30代	1034	98	9.5%	216	20.9%	310	30.0%	208	20.1%	188	18.2%	14	1.4%
		40代	1188	133	11.2%	283	23.8%	299	25.2%	278	23.4%	180	15.2%	15	1.3%
		50代	1017	56	5.5%	149	14.7%	251	24.7%	293	28.8%	241	23.7%	27	2.7%
		60代	407	14	3.4%	41	10.1%	95	23.3%	94	23.1%	136	33.4%	27	6.6%
		70代	82	3	3.7%	3	3.7%	15	18.3%	12	14.6%	33	40.2%	16	19.5%
仕事と介護の両立がうまくいかない	全体		4135	275	6.7%	509	12.3%	1418	34.3%	814	19.7%	1017	24.6%	102	2.5%
	現在の業務	産業動物診療	408	38	9.3%	69	16.9%	133	32.6%	61	15.0%	94	23.0%	13	3.2%
		※産業動物診療	333	34	10.2%	56	16.8%	102	30.6%	49	14.7%	79	23.7%	13	3.9%
		小動物診療	443	72	16.3%	52	11.7%	128	28.9%	52	11.7%	127	28.7%	12	2.7%
		その他診療	103	4	3.9%	14	13.6%	33	32.0%	11	10.7%	39	37.9%	2	1.9%
		診療以外	2944	148	5.0%	356	12.1%	1054	35.8%	650	22.1%	675	22.9%	61	2.1%
		獣医学上の知識不要	191	6	3.1%	16	8.4%	55	28.8%	34	17.8%	74	38.7%	6	3.1%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	74	15.7%	57	12.1%	128	27.2%	56	11.9%	135	28.7%	20	4.3%
		農業協同組合	20	2	10.0%	0	0.0%	7	35.0%	3	15.0%	7	35.0%	1	5.0%
		農業共済組合等	222	24	10.8%	43	19.4%	73	32.9%	31	14.0%	45	20.3%	6	2.7%
		公務員計	2879	139	4.8%	346	12.0%	1052	36.5%	637	22.1%	650	22.6%	55	1.9%

はい	現在の勤務先	国	238	7	2.9%	31	13.0%	89	37.4%	42	17.6%	63	26.5%	6	2.5%
		都道府県	1987	112	5.6%	253	12.7%	740	37.2%	425	21.4%	421	21.2%	36	1.8%
		市町村	654	20	3.1%	62	9.5%	223	34.1%	170	26.0%	166	25.4%	13	2.0%
		独立行政法人	54	2	3.7%	4	7.4%	20	37.0%	10	18.5%	18	33.3%	0	0.0%
		国・公・私立大学	73	4	5.5%	9	12.3%	24	32.9%	12	16.4%	22	30.1%	2	2.7%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	2	25.0%	3	37.5%	2	25.0%	1	12.5%	0	0.0%
		民間企業	253	15	5.9%	36	14.2%	64	25.3%	41	16.2%	88	34.8%	9	3.6%
		公益法人等	83	6	7.2%	9	10.8%	26	31.3%	12	14.5%	29	34.9%	1	1.2%
	性別	男性	2108	130	6.2%	228	10.8%	722	34.3%	423	20.1%	532	25.2%	73	3.5%
		女性	1901	132	6.9%	263	13.8%	647	34.0%	362	19.0%	470	24.7%	27	1.4%
	年齢	20代	394	18	4.6%	32	8.1%	127	32.2%	61	15.5%	149	37.8%	7	1.8%
		30代	1034	55	5.3%	87	8.4%	429	41.5%	168	16.2%	282	27.3%	13	1.3%
		40代	1188	85	7.2%	159	13.4%	430	36.2%	241	20.3%	250	21.0%	23	1.9%
		50代	1017	87	8.6%	171	16.8%	304	29.9%	237	23.3%	191	18.8%	27	2.7%
		60代	407	26	6.4%	57	14.0%	105	25.8%	92	22.6%	111	27.3%	16	3.9%
		70代	82	3	3.7%	2	2.4%	19	23.2%	13	15.9%	31	37.8%	14	17.1%
妊娠中に仕事ができるか心配	全体		4135	411	9.9%	439	10.6%	1065	25.8%	753	18.2%	1122	27.1%	345	8.3%
	現在の業務	産業動物診療	408	73	17.9%	47	11.5%	108	26.5%	49	12.0%	93	22.8%	38	9.3%
		※産業動物診療	333	59	17.7%	40	12.0%	80	24.0%	40	12.0%	80	24.0%	34	10.2%
		小動物診療	443	95	21.4%	54	12.2%	85	19.2%	40	9.0%	136	30.7%	33	7.4%
		その他診療	103	22	21.4%	18	17.5%	26	25.2%	10	9.7%	22	21.4%	5	4.9%
		診療以外	2944	210	7.1%	307	10.4%	787	26.7%	622	21.1%	783	26.6%	235	8.0%
		獣医学上の知識不要	191	5	2.6%	9	4.7%	49	25.7%	28	14.7%	80	41.9%	20	10.5%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	91	19.4%	58	12.3%	83	17.7%	39	8.3%	149	31.7%	50	10.6%
		農業協同組合	20	2	10.0%	2	10.0%	8	40.0%	1	5.0%	7	35.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	40	18.0%	29	13.1%	54	24.3%	33	14.9%	46	20.7%	20	9.0%
		公務員計	2879	202	7.0%	302	10.5%	797	27.7%	604	21.0%	752	26.1%	222	7.7%
		国	238	11	4.6%	27	11.3%	68	28.6%	58	24.4%	63	26.5%	11	4.6%
		都道府県	1987	144	7.2%	217	10.9%	562	28.3%	394	19.8%	507	25.5%	163	8.2%
		市町村	654	47	7.2%	58	8.9%	167	25.5%	152	23.2%	182	27.8%	48	7.3%
		独立行政法人	54	4	7.4%	3	5.6%	18	33.3%	7	13.0%	20	37.0%	2	3.7%
		国・公・私立大学	73	13	17.8%	7	9.6%	19	26.0%	5	6.8%	23	31.5%	6	8.2%
		競馬関係団体	8	3	37.5%	2	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	37.5%
		民間企業	253	33	13.0%	21	8.3%	66	26.1%	41	16.2%	79	31.2%	13	5.1%
		公益法人等	83	16	19.3%	9	10.8%	8	9.6%	15	18.1%	24	28.9%	11	13.3%
	性別	男性	2108	113	5.4%	122	5.8%	688	32.6%	237	11.2%	642	30.5%	306	14.5%
		女性	1901	287	15.1%	309	16.3%	336	17.7%	493	25.9%	444	23.4%	32	1.7%
	年齢	20代	394	81	20.6%	80	20.3%	72	18.3%	56	14.2%	99	25.1%	6	1.5%
		30代	1034	144	13.9%	158	15.3%	303	29.3%	191	18.5%	201	19.4%	37	3.6%
		40代	1188	98	8.2%	106	8.9%	346	29.1%	263	22.1%	313	26.3%	62	5.2%
		50代	1017	68	6.7%	64	6.3%	251	24.7%	188	18.5%	330	32.4%	116	11.4%
		60代	407	20	4.9%	26	6.4%	83	20.4%	50	12.3%	142	34.9%	86	21.1%
		70代	82	0	0.0%	4	4.9%	10	12.2%	4	4.9%	34	41.5%	30	36.6%
仕事と家事の両立がうまくいかない	全体		4135	342	8.3%	900	21.8%	876	21.2%	1301	31.5%	659	15.9%	57	1.4%
	現在の業務	産業動物診療	408	37	9.1%	88	21.6%	94	23.0%	114	27.9%	64	15.7%	11	2.7%
		※産業動物診療	333	33	9.9%	70	21.0%	72	21.6%	93	27.9%	54	16.2%	11	3.3%
		小動物診療	443	86	19.4%	136	30.7%	69	15.6%	94	21.2%	50	11.3%	8	1.8%
		その他診療	103	11	10.7%	29	28.2%	21	20.4%	26	25.2%	16	15.5%	0	0.0%
		診療以外	2944	186	6.3%	614	20.9%	655	22.2%	1002	34.0%	463	15.7%	24	0.8%
		獣医学上の知識不要	191	13	6.8%	28	14.7%	29	15.2%	57	29.8%	58	30.4%	6	3.1%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	87	18.5%	133	28.3%	69	14.7%	105	22.3%	62	13.2%	14	3.0%
		農業協同組合	20	1	5.0%	6	30.0%	1	5.0%	5	25.0%	7	35.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	17	7.7%	55	24.8%	53	23.9%	64	28.8%	28	12.6%	5	2.3%
		公務員計	2879	182	6.3%	606	21.0%	653	22.7%	980	34.0%	435	15.1%	23	0.8%
		国	238	10	4.2%	72	30.3%	45	18.9%	81	34.0%	28	11.8%	2	0.8%
		都道府県	1987	146	7.3%	412	20.7%	477	24.0%	648	32.6%	288	14.5%	16	0.8%
		市町村	654	26	4.0%	122	18.7%	131	20.0%	251	38.4%	119	18.2%	5	0.8%
		独立行政法人	54	5	9.3%	8	14.8%	13	24.1%	13	24.1%	14	25.9%	1	1.9%
		国・公・私立大学	73	6	8.2%	20	27.4%	12	16.4%	19	26.0%	15	20.5%	1	1.4%
		競馬関係団体	8	1	12.5%	1	12.5%	1	12.5%	3	37.5%	2	25.0%	0	0.0%
		民間企業	253	25	9.9%	47	18.6%	47	18.6%	75	29.6%	53	20.9%	6	2.4%
		公益法人等	83	8	9.6%	16	19.3%	12	14.5%	23	27.7%	24	28.9%	0	0.0%
	性別	男性	2108	119	5.6%	369	17.5%	443	21.0%	727	34.5%	408	19.4%	42	2.0%
		女性	1901	206	10.8%	507	26.7%	400	21.0%	525	27.6%	240	12.6%	23	1.2%
	年齢	20代	394	39	9.9%	57	14.5%	82	20.8%	121	30.7%	94	23.9%	1	0.3%
		30代	1034	104	10.1%	264	25.5%	211	20.4%	312	30.2%	141	13.6%	2	0.2%
		40代	1188	126	10.6%	333	28.0%	254	21.4%	347	29.2%	119	10.0%	9	0.8%
		50代	1017	60	5.9%	191	18.8%	230	22.6%	354	34.8%	169	16.6%	13	1.3%

必要なときに短時間の勤務ができない		60代	407	12	2.9%	49	12.0%	88	21.6%	142	34.9%	100	24.6%	16	3.9%
		70代	82	0	0.0%	6	7.3%	10	12.2%	20	24.4%	33	40.2%	13	15.9%
		全体	4135	514	12.4%	783	18.9%	734	17.8%	1308	31.6%	732	17.7%	64	1.5%
	現在の業務	産業動物診療	408	65	15.9%	86	21.1%	67	16.4%	106	26.0%	74	18.1%	10	2.5%
		※産業動物診療	333	54	16.2%	72	21.6%	53	15.9%	85	25.5%	60	18.0%	9	2.7%
		小動物診療	443	113	25.5%	86	19.4%	74	16.7%	74	16.7%	87	19.6%	9	2.0%
		その他診療	103	14	13.6%	28	27.2%	14	13.6%	28	27.2%	18	17.5%	1	1.0%
		診療以外	2944	290	9.9%	544	18.5%	539	18.3%	1026	34.9%	512	17.4%	33	1.1%
		獣医学上の知識不要	191	23	12.0%	31	16.2%	32	16.8%	67	35.1%	35	18.3%	3	1.6%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	110	23.4%	92	19.6%	77	16.4%	77	16.4%	99	21.1%	15	3.2%
		農業協同組合	20	1	5.0%	2	10.0%	4	20.0%	5	25.0%	7	35.0%	1	5.0%
		農業共済組合等	222	40	18.0%	54	24.3%	31	14.0%	68	30.6%	26	11.7%	3	1.4%
		公務員計	2879	295	10.2%	556	19.3%	539	18.7%	992	34.5%	465	16.2%	32	1.1%
		国	238	24	10.1%	45	18.9%	48	20.2%	79	33.2%	41	17.2%	1	0.4%
		都道府県	1987	215	10.8%	392	19.7%	370	18.6%	690	34.7%	294	14.8%	26	1.3%
		市町村	654	56	8.6%	119	18.2%	121	18.5%	223	34.1%	130	19.9%	5	0.8%
		独立行政法人	54	4	7.4%	4	7.4%	7	13.0%	24	44.4%	15	27.8%	0	0.0%
		国・公・私立大学	73	13	17.8%	7	9.6%	8	11.0%	23	31.5%	21	28.8%	1	1.4%
		競馬関係団体	8	2	25.0%	1	12.5%	3	37.5%	1	12.5%	1	12.5%	0	0.0%
		民間企業	253	28	11.1%	48	19.0%	35	13.8%	78	30.8%	59	23.3%	5	2.0%
		公益法人等	83	10	12.0%	10	12.0%	16	19.3%	23	27.7%	23	27.7%	1	1.2%
	性別	男性	2108	230	10.9%	367	17.4%	394	18.7%	655	31.1%	412	19.5%	50	2.4%
		女性	1901	259	13.6%	395	20.8%	317	16.7%	615	32.4%	304	16.0%	11	0.6%
	年齢	20代	394	48	12.2%	61	15.5%	60	15.2%	109	27.7%	115	29.2%	1	0.3%
		30代	1034	125	12.1%	207	20.0%	166	16.1%	349	33.8%	182	17.6%	5	0.5%
		40代	1188	179	15.1%	248	20.9%	210	17.7%	376	31.6%	167	14.1%	8	0.7%
		50代	1017	123	12.1%	189	18.6%	212	20.8%	335	32.9%	141	13.9%	17	1.7%
		60代	407	36	8.8%	67	16.5%	70	17.2%	117	28.7%	100	24.6%	17	4.2%
		70代	82	2	2.4%	10	12.2%	15	18.3%	17	20.7%	25	30.5%	13	15.9%

Q11 職場での女性の就業支援はどの程度整備されていると思うか

事項	属性 ※産業診療は公務員 を除いた数字	全体	十分整備		ほぼ整備		どちらともいえない		やや不十分		不十分		無回答	
		n	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
子育てを支援するための休暇制度（育児休業・看護休暇等）の整備	全体	4135	1121	27.1%	1711	41.4%	656	15.9%	351	8.5%	233	5.6%	63	1.5%
	現在の業務													
	産業動物診療	408	90	22.1%	145	35.5%	79	19.4%	49	12.0%	34	8.3%	11	2.7%
	※産業動物診療	333	71	21.3%	113	33.9%	63	18.9%	43	12.9%	32	9.6%	11	3.3%
	小動物診療	443	79	17.8%	102	23.0%	91	20.5%	69	15.6%	91	20.5%	11	2.5%
	その他診療	103	17	16.5%	45	43.7%	22	21.4%	13	12.6%	5	4.9%	1	1.0%
	診療以外	2944	869	29.5%	1333	45.3%	421	14.3%	199	6.8%	91	3.1%	31	1.1%
	獣医学上の知識不要	191	61	31.9%	71	37.2%	36	18.8%	10	5.2%	7	3.7%	6	3.1%
	現在の勤務先													
	個人診療施設	470	79	16.8%	92	19.6%	114	24.3%	74	15.7%	92	19.6%	19	4.0%
	農業協同組合	20	4	20.0%	11	55.0%	2	10.0%	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%
	農業共済組合等	222	58	26.1%	92	41.4%	27	12.2%	25	11.3%	18	8.1%	2	0.9%
	公務員計	2879	872	30.3%	1313	45.6%	419	14.6%	176	6.1%	71	2.5%	28	1.0%
	国	238	79	33.2%	101	42.4%	32	13.4%	15	6.3%	8	3.4%	3	1.3%
	都道府県	1987	564	28.4%	911	45.8%	318	16.0%	126	6.3%	48	2.4%	20	1.0%
	市町村	654	229	35.0%	301	46.0%	69	10.6%	35	5.4%	15	2.3%	5	0.8%
	独立行政法人	54	14	25.9%	28	51.9%	7	13.0%	1	1.9%	3	5.6%	1	1.9%
	国・公・私立大学	72	7	9.7%	22	30.6%	12	16.7%	17	23.6%	14	19.4%	0	0.0%
	競馬関係団体	8	0	0.0%	3	37.5%	1	12.5%	2	25.0%	2	25.0%	0	0.0%
	民間企業	251	65	25.9%	88	35.1%	44	17.5%	27	10.8%	23	9.2%	4	1.6%
	公益法人等	83	12	14.5%	32	38.6%	19	22.9%	11	13.3%	4	4.8%	5	6.0%
	性別													
	男性	2108	554	26.3%	896	42.5%	348	16.5%	164	7.8%	99	4.7%	47	2.2%
	女性	1901	534	28.1%	771	40.6%	283	14.9%	177	9.3%	125	6.6%	11	0.6%
	年齢													
	20代	394	123	31.2%	129	32.7%	73	18.5%	35	8.9%	30	7.6%	4	1.0%
	30代	1034	288	27.9%	436	42.2%	161	15.6%	76	7.4%	63	6.1%	10	1.0%
	40代	1188	312	26.3%	496	41.8%	182	15.3%	110	9.3%	77	6.5%	11	0.9%
	50代	1017	302	29.7%	462	45.4%	142	14.0%	61	6.0%	42	4.1%	8	0.8%
	60代	407	86	21.1%	153	37.6%	79	19.4%	55	13.5%	16	3.9%	18	4.4%
	70代	82	8	9.8%	31	37.8%	18	22.0%	9	11.0%	5	6.1%	11	13.4%
男女差のない研修制度	全体	4135	1624	39.3%	1501	36.3%	674	16.3%	162	3.9%	123	3.0%	51	1.2%
	現在の業務													
	産業動物診療	408	142	34.8%	143	35.0%	67	16.4%	24	5.9%	20	4.9%	12	2.9%
	※産業動物診療	333	119	35.7%	113	33.9%	52	15.6%	21	6.3%	16	4.8%	12	3.6%
	小動物診療	443	141	31.8%	122	27.5%	108	24.4%	24	5.4%	35	7.9%	13	2.9%
	その他診療	103	42	40.8%	28	27.2%	25	24.3%	4	3.9%	3	2.9%	1	1.0%
	診療以外	2944	1210	41.1%	1126	38.2%	435	14.8%	101	3.4%	56	1.9%	16	0.5%
	獣医学上の知識不要	191	79	41.4%	65	34.0%	33	17.3%	2	1.0%	6	3.1%	6	3.1%
	現在の勤務先													
	個人診療施設	470	89	18.9%	34	7.2%	20	4.3%	2	0.4%	2	0.4%	323	68.7%
	農業協同組合	20	10	50.0%	6	30.0%	3	15.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%
	農業共済組合等	222	90	40.5%	88	39.6%	20	9.0%	11	5.0%	9	4.1%	4	1.8%
	公務員計	2879	1190	41.3%	1100	38.2%	433	15.0%	87	3.0%	51	1.8%	18	0.6%
	国	238	94	39.5%	88	37.0%	45	18.9%	6	2.5%	3	1.3%	2	0.8%
	都道府県	1987	797	40.1%	765	38.5%	307	15.5%	67	3.4%	38	1.9%	13	0.7%
	市町村	654	299	45.7%	247	37.8%	81	12.4%	14	2.1%	10	1.5%	3	0.5%
	独立行政法人	54	20	37.0%	27	50.0%	5	9.3%	1	1.9%	1	1.9%	0	0.0%
	国・公・私立大学	72	16	22.2%	28	38.9%	13	18.1%	7	9.7%	8	11.1%	0	0.0%
	競馬関係団体	8	3	37.5%	3	37.5%	1	12.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
	民間企業	251	99	39.4%	75	29.9%	45	17.9%	13	5.2%	15	6.0%	4	1.6%
	公益法人等	83	28	33.7%	24	28.9%	21	25.3%	4	4.8%	2	2.4%	4	4.8%
	性別													
	男性	2108	809	38.4%	798	37.9%	330	15.7%	76	3.6%	56	2.7%	39	1.9%
	女性	1901	776	40.8%	656	34.5%	318	16.7%	80	4.2%	64	3.4%	7	0.4%
	年齢													
	20代	394	203	51.5%	114	28.9%	50	12.7%	10	2.5%	16	4.1%	1	0.3%
	30代	1034	436	42.2%	370	35.8%	161	15.6%	26	2.5%	34	3.3%	7	0.7%
	40代	1188	461	38.8%	438	36.9%	197	16.6%	50	4.2%	37	3.1%	5	0.4%
	50代	1017	386	38.0%	376	37.0%	175	17.2%	45	4.4%	23	2.3%	12	1.2%
	60代	407	121	29.7%	167	41.0%	71	17.4%	23	5.7%	11	2.7%	14	3.4%
	70代	82	12	14.6%	34	41.5%	17	20.7%	7	8.5%	1	1.2%	11	13.4%
男女差のない給与形態、昇級	全体	4135	1216	29.4%	1503	36.3%	874	21.1%	279	6.7%	212	5.1%	51	1.2%
	現在の業務													
	産業動物診療	408	108	26.5%	138	33.8%	97	23.8%	26	6.4%	30	7.4%	9	2.2%
	※産業動物診療	333	88	26.4%	111	33.3%	79	23.7%	19	5.7%	27	8.1%	9	2.7%
	小動物診療	443	111	25.1%	137	30.9%	111	25.1%	28	6.3%	44	9.9%	12	2.7%
	その他診療	103	29	28.2%	35	34.0%	24	23.3%	7	6.8%	7	6.8%	1	1.0%
	診療以外	2944	892	30.3%	1118	38.0%	599	20.3%	197	6.7%	117	4.0%	21	0.7%
	獣医学上の知識不要	191	68	35.6%	63	33.0%	34	17.8%	11	5.8%	10	5.2%	5	2.6%
	現在の勤務先													
	個人診療施設	470	115	24.5%	146	31.1%	121	25.7%	32	6.8%	37	7.9%	19	4.0%
	農業協同組合	20	8	40.0%	6	30.0%	3	15.0%	0	0.0%	3	15.0%	0	0.0%
	農業共済組合等	222	70	31.5%	75	33.8%	46	20.7%	11	5.0%	18	8.1%	2	0.9%

・昇格の仕組み	現在の勤務先	公務員計	2879	892	31.0%	1107	38.5%	585	20.3%	178	6.2%	99	3.4%	18	0.6%
		国	238	77	32.4%	87	36.6%	47	19.7%	16	6.7%	10	4.2%	1	0.4%
		都道府県	1987	583	29.3%	760	38.2%	431	21.7%	127	6.4%	72	3.6%	14	0.7%
		市町村	654	232	35.5%	260	39.8%	107	16.4%	35	5.4%	17	2.6%	3	0.5%
		独立行政法人	54	19	35.2%	20	37.0%	12	22.2%	1	1.9%	1	1.9%	1	1.9%
		国・公・私立大学	72	12	16.7%	25	34.7%	17	23.6%	7	9.7%	11	15.3%	0	0.0%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	3	37.5%	2	25.0%	0	0.0%	3	37.5%	0	0.0%
		民間企業	251	68	27.1%	70	27.9%	50	19.9%	29	11.6%	31	12.4%	3	1.2%
		公益法人等	83	19	22.9%	27	32.5%	21	25.3%	8	9.6%	4	4.8%	4	4.8%
	性別	男性	2108	656	31.1%	789	37.4%	438	20.8%	111	5.3%	76	3.6%	38	1.8%
		女性	1901	526	27.7%	679	35.7%	406	21.4%	156	8.2%	125	6.6%	9	0.5%
	年齢	20代	394	146	37.1%	111	28.2%	87	22.1%	19	4.8%	28	7.1%	3	0.8%
		30代	1034	318	30.8%	369	35.7%	212	20.5%	72	7.0%	55	5.3%	8	0.8%
		40代	1188	330	27.8%	460	38.7%	266	22.4%	70	5.9%	56	4.7%	6	0.5%
		50代	1017	300	29.5%	391	38.4%	201	19.8%	68	6.7%	48	4.7%	9	0.9%
		60代	407	103	25.3%	144	35.4%	88	21.6%	39	9.6%	19	4.7%	14	3.4%
		70代	82	15	18.3%	26	31.7%	17	20.7%	9	11.0%	5	6.1%	10	12.2%
女性用の仕事用衣服の支給	全体		4135	1010	24.4%	1254	30.3%	1165	28.2%	349	8.4%	280	6.8%	77	1.9%
	現在の業務	産業動物診療	408	84	20.6%	111	27.2%	108	26.5%	46	11.3%	47	11.5%	12	2.9%
		※産業動物診療	333	72	21.6%	85	25.5%	89	26.7%	35	10.5%	40	12.0%	12	3.6%
		小動物診療	443	191	43.1%	124	28.0%	65	14.7%	21	4.7%	28	6.3%	14	3.2%
		その他診療	103	23	22.3%	20	19.4%	34	33.0%	11	10.7%	13	12.6%	2	1.9%
		診療以外	2944	659	22.4%	941	32.0%	879	29.9%	250	8.5%	176	6.0%	39	1.3%
		獣医学上の知識不要	191	42	22.0%	45	23.6%	70	36.6%	15	7.9%	14	7.3%	5	2.6%
		現在の勤務先	個人診療施設	470	195	41.5%	125	26.6%	77	16.4%	23	4.9%	27	5.7%	23
	農業協同組合		20	6	30.0%	7	35.0%	4	20.0%	1	5.0%	2	10.0%	0	0.0%
	農業共済組合等		222	54	24.3%	61	27.5%	53	23.9%	25	11.3%	27	12.2%	2	0.9%
	公務員計		2879	647	22.5%	950	33.0%	829	28.8%	251	8.7%	168	5.8%	34	1.2%
	国		238	31	13.0%	52	21.8%	124	52.1%	13	5.5%	14	5.9%	4	1.7%
	都道府県		1987	463	23.3%	685	34.5%	521	26.2%	182	9.2%	114	5.7%	22	1.1%
	市町村		654	153	23.4%	213	32.6%	184	28.1%	56	8.6%	40	6.1%	8	1.2%
	独立行政法人		54	6	11.1%	14	25.9%	24	44.4%	3	5.6%	7	13.0%	0	0.0%
	国・公・私立大学		72	5	6.9%	8	11.1%	39	54.2%	9	12.5%	11	15.3%	0	0.0%
	競馬関係団体		8	0	0.0%	3	37.5%	3	37.5%	0	0.0%	2	25.0%	0	0.0%
	民間企業		251	68	27.1%	43	17.1%	91	36.3%	16	6.4%	26	10.4%	7	2.8%
	公益法人等		83	15	18.1%	22	26.5%	29	34.9%	7	8.4%	5	6.0%	5	6.0%
	性別	男性	2108	469	22.2%	656	31.1%	648	30.7%	163	7.7%	115	5.5%	57	2.7%
		女性	1901	512	26.9%	558	29.4%	485	25.5%	179	9.4%	152	8.0%	15	0.8%
	年齢	20代	394	98	24.9%	96	24.4%	126	32.0%	36	9.1%	34	8.6%	4	1.0%
		30代	1034	260	25.1%	277	26.8%	310	30.0%	93	9.0%	83	8.0%	11	1.1%
		40代	1188	297	25.0%	364	30.6%	334	28.1%	103	8.7%	76	6.4%	14	1.2%
		50代	1017	244	24.0%	362	35.6%	261	25.7%	76	7.5%	60	5.9%	14	1.4%
		60代	407	97	23.8%	125	30.7%	107	26.3%	37	9.1%	22	5.4%	19	4.7%
		70代	82	11	13.4%	27	32.9%	25	30.5%	2	2.4%	3	3.7%	14	17.1%
女性専用のトイレや更衣室の整備	全体		4135	1382	33.4%	1433	34.7%	528	12.8%	460	11.1%	271	6.6%	61	1.5%
	現在の業務	産業動物診療	408	99	24.3%	143	35.0%	56	13.7%	59	14.5%	40	9.8%	11	2.7%
		※産業動物診療	333	80	24.0%	109	32.7%	47	14.1%	51	15.3%	35	10.5%	11	3.3%
		小動物診療	443	96	21.7%	103	23.3%	87	19.6%	74	16.7%	70	15.8%	13	2.9%
		その他診療	103	41	39.8%	34	33.0%	11	10.7%	11	10.7%	5	4.9%	1	1.0%
		診療以外	2944	1062	36.1%	1072	36.4%	346	11.8%	292	9.9%	145	4.9%	27	0.9%
		獣医学上の知識不要	191	75	39.3%	65	34.0%	23	12.0%	15	7.9%	8	4.2%	5	2.6%
		現在の勤務先	個人診療施設	470	98	20.9%	105	22.3%	99	21.1%	80	17.0%	68	14.5%	20
	農業協同組合		20	6	30.0%	8	40.0%	2	10.0%	2	10.0%	2	10.0%	0	0.0%
	農業共済組合等		222	64	28.8%	85	38.3%	21	9.5%	32	14.4%	18	8.1%	2	0.9%
	公務員計		2879	1041	36.2%	1066	37.0%	336	11.7%	268	9.3%	141	4.9%	27	0.9%
	国		238	94	39.5%	75	31.5%	47	19.7%	12	5.0%	10	4.2%	0	0.0%
	都道府県		1987	663	33.4%	757	38.1%	232	11.7%	211	10.6%	103	5.2%	21	1.1%
	市町村		654	284	43.4%	234	35.8%	57	8.7%	45	6.9%	28	4.3%	6	0.9%
	独立行政法人		54	13	24.1%	20	37.0%	9	16.7%	7	13.0%	5	9.3%	0	0.0%
	国・公・私立大学		72	19	26.4%	22	30.6%	12	16.7%	13	18.1%	6	8.3%	0	0.0%
	競馬関係団体		8	0	0.0%	2	25.0%	1	12.5%	3	37.5%	2	25.0%	0	0.0%
	民間企業		251	100	39.8%	68	27.1%	26	10.4%	30	12.0%	23	9.2%	4	1.6%
	公益法人等		83	25	30.1%	29	34.9%	12	14.5%	11	13.3%	3	3.6%	3	3.6%
	性別	男性	2108	651	30.9%	751	35.6%	311	14.8%	229	10.9%	122	5.8%	44	2.1%
		女性	1901	696	36.6%	643	33.8%	196	10.3%	217	11.4%	137	7.2%	12	0.6%
	年	20代	394	167	42.4%	103	26.1%	52	13.2%	33	8.4%	37	9.4%	2	0.5%
		30代	1034	385	37.2%	342	33.1%	124	12.0%	111	10.7%	66	6.4%	6	0.6%
		40代	1188	397	33.4%	413	34.8%	151	12.7%	134	11.3%	81	6.8%	12	1.0%

肉体的負担を軽減する作業補助器具等の整備	年齢	50代	1017	314	30.9%	393	38.6%	140	13.8%	96	9.4%	62	6.1%	12	1.2%
		60代	407	105	25.8%	145	35.6%	50	12.3%	69	17.0%	21	5.2%	17	4.2%
		70代	82	11	13.4%	33	40.2%	9	11.0%	16	19.5%	2	2.4%	11	13.4%
	全体		4135	207	5.0%	517	12.5%	1594	38.5%	974	23.6%	780	18.9%	63	1.5%
	現在の業務	産業動物診療	408	22	5.4%	57	14.0%	126	30.9%	97	23.8%	95	23.3%	11	2.7%
		※産業動物診療	333	18	5.4%	47	14.1%	105	31.5%	73	21.9%	79	23.7%	11	3.3%
		小動物診療	443	17	3.8%	57	12.9%	153	34.5%	95	21.4%	107	24.2%	14	3.2%
		その他診療	103	3	2.9%	16	15.5%	26	25.2%	26	25.2%	29	28.2%	3	2.9%
		診療以外	2944	141	4.8%	363	12.3%	1189	40.4%	713	24.2%	510	17.3%	28	1.0%
		獣医学上の知識不要	191	22	11.5%	20	10.5%	85	44.5%	31	16.2%	29	15.2%	4	2.1%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	21	4.5%	59	12.6%	166	35.3%	99	21.1%	102	21.7%	23	4.9%
		農業協同組合	20	1	5.0%	6	30.0%	7	35.0%	3	15.0%	3	15.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	12	5.4%	26	11.7%	66	29.7%	46	20.7%	69	31.1%	3	1.4%
		公務員計	2879	137	4.8%	343	11.9%	1163	40.4%	722	25.1%	492	17.1%	22	0.8%
		国	238	13	5.5%	22	9.2%	140	58.8%	37	15.5%	23	9.7%	3	1.3%
		都道府県	1987	79	4.0%	241	12.1%	749	37.7%	538	27.1%	363	18.3%	17	0.9%
		市町村	654	45	6.9%	80	12.2%	274	41.9%	147	22.5%	106	16.2%	2	0.3%
		独立行政法人	54	3	5.6%	11	20.4%	21	38.9%	6	11.1%	13	24.1%	0	0.0%
		国・公・私立大学	72	4	5.6%	11	15.3%	23	31.9%	16	22.2%	18	25.0%	0	0.0%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	0	0.0%	3	37.5%	3	37.5%	2	25.0%	0	0.0%
		民間企業	251	23	9.2%	43	17.1%	86	34.3%	44	17.5%	51	20.3%	4	1.6%
		公益法人等	83	2	2.4%	10	12.0%	33	39.8%	16	19.3%	17	20.5%	5	6.0%
	性別	男性	2108	106	5.0%	263	12.5%	862	40.9%	481	22.8%	349	16.6%	47	2.2%
		女性	1901	94	4.9%	237	12.5%	689	36.2%	476	25.0%	394	20.7%	11	0.6%
	年齢	20代	394	27	6.9%	62	15.7%	136	34.5%	87	22.1%	78	19.8%	4	1.0%
		30代	1034	58	5.6%	136	13.2%	360	34.8%	266	25.7%	205	19.8%	9	0.9%
		40代	1188	58	4.9%	125	10.5%	475	40.0%	291	24.5%	231	19.4%	8	0.7%
		50代	1017	40	3.9%	120	11.8%	433	42.6%	224	22.0%	188	18.5%	12	1.2%
		60代	407	20	4.9%	56	13.8%	156	38.3%	94	23.1%	65	16.0%	16	3.9%
		70代	82	2	2.4%	17	20.7%	29	35.4%	9	11.0%	12	14.6%	13	15.9%
肉体的負担の大きい職務内容の適切な分掌	全体		4135	341	8.2%	1191	28.8%	1566	37.9%	672	16.3%	306	7.4%	59	1.4%
	現在の業務	産業動物診療	408	26	6.4%	105	25.7%	139	34.1%	79	19.4%	49	12.0%	10	2.5%
		※産業動物診療	333	25	7.5%	83	24.9%	111	33.3%	62	18.6%	42	12.6%	10	3.0%
		小動物診療	443	34	7.7%	99	22.3%	163	36.8%	83	18.7%	52	11.7%	12	2.7%
		その他診療	103	6	5.8%	24	23.3%	40	38.8%	23	22.3%	9	8.7%	1	1.0%
		診療以外	2944	249	8.5%	899	30.5%	1137	38.6%	454	15.4%	180	6.1%	25	0.8%
		獣医学上の知識不要	191	25	13.1%	51	26.7%	75	39.3%	22	11.5%	12	6.3%	6	3.1%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	35	7.4%	102	21.7%	174	37.0%	81	17.2%	59	12.6%	19	4.0%
		農業協同組合	20	3	15.0%	8	40.0%	4	20.0%	4	20.0%	1	5.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	17	7.7%	52	23.4%	77	34.7%	48	21.6%	26	11.7%	2	0.9%
		公務員計	2879	244	8.5%	876	30.4%	1118	38.8%	443	15.4%	175	6.1%	23	0.8%
		国	238	22	9.2%	79	33.2%	103	43.3%	18	7.6%	15	6.3%	1	0.4%
		都道府県	1987	155	7.8%	593	29.8%	759	38.2%	337	17.0%	123	6.2%	20	1.0%
		市町村	654	67	10.2%	204	31.2%	256	39.1%	88	13.5%	37	5.7%	2	0.3%
		独立行政法人	54	4	7.4%	18	33.3%	24	44.4%	4	7.4%	3	5.6%	1	1.9%
		国・公・私立大学	72	4	5.6%	19	26.4%	27	37.5%	16	22.2%	6	8.3%	0	0.0%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	4	50.0%	1	12.5%	2	25.0%	1	12.5%	0	0.0%
		民間企業	251	27	10.8%	63	25.1%	82	32.7%	49	19.5%	24	9.6%	6	2.4%
		公益法人等	83	4	4.8%	26	31.3%	33	39.8%	12	14.5%	6	7.2%	2	2.4%
	性別	男性	2108	182	8.6%	644	30.6%	814	38.6%	304	14.4%	122	5.8%	42	2.0%
		女性	1901	145	7.6%	527	27.7%	704	37.0%	346	18.2%	166	8.7%	13	0.7%
	年齢	20代	394	51	12.9%	128	32.5%	119	30.2%	65	16.5%	28	7.1%	3	0.8%
		30代	1034	90	8.7%	293	28.3%	364	35.2%	181	17.5%	95	9.2%	11	1.1%
		40代	1188	77	6.5%	312	26.3%	488	41.1%	205	17.3%	101	8.5%	5	0.4%
		50代	1017	91	8.9%	309	30.4%	400	39.3%	149	14.7%	58	5.7%	10	1.0%
		60代	407	29	7.1%	113	27.8%	169	41.5%	58	14.3%	18	4.4%	20	4.9%
		70代	82	3	3.7%	33	40.2%	21	25.6%	11	13.4%	5	6.1%	9	11.0%
保育園や幼稚園の送迎が可能な職員	全体		4135	816	19.7%	1634	39.5%	814	19.7%	473	11.4%	340	8.2%	58	1.4%
	現在の業務	産業動物診療	408	44	10.8%	99	24.3%	97	23.8%	77	18.9%	79	19.4%	12	2.9%
		※産業動物診療	333	31	9.3%	69	20.7%	79	23.7%	69	20.7%	73	21.9%	12	3.6%
		小動物診療	443	79	17.8%	114	25.7%	107	24.2%	62	14.0%	69	15.6%	12	2.7%
		その他診療	103	14	13.6%	32	31.1%	26	25.2%	14	13.6%	16	15.5%	1	1.0%
		診療以外	2944	611	20.8%	1311	44.5%	542	18.4%	292	9.9%	164	5.6%	24	0.8%
		獣医学上の知識不要	191	64	33.5%	71	37.2%	28	14.7%	18	9.4%	5	2.6%	5	2.6%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	82	17.4%	110	23.4%	116	24.7%	68	14.5%	73	15.5%	21	4.5%
		農業協同組合	20	6	30.0%	5	25.0%	3	15.0%	3	15.0%	3	15.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	21	9.5%	62	27.9%	42	18.9%	47	21.2%	46	20.7%	4	1.8%
		公務員計	2879	615	21.4%	1303	45.3%	526	18.3%	273	9.5%	143	5.0%	19	0.7%

勤務時間を選択できる仕組み	現在の勤務先	国	238	56	23.5%	115	48.3%	37	15.5%	19	8.0%	11	4.6%	0	0.0%
		都道府県	1987	404	20.3%	895	45.0%	380	19.1%	196	9.9%	95	4.8%	17	0.9%
		市町村	654	155	23.7%	293	44.8%	109	16.7%	58	8.9%	37	5.7%	2	0.3%
		独立行政法人	54	17	31.5%	22	40.7%	14	25.9%	0	0.0%	1	1.9%	0	0.0%
		国・公・私立大学	72	7	9.7%	21	29.2%	17	23.6%	12	16.7%	15	20.8%	0	0.0%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	1	12.5%	1	12.5%	2	25.0%	4	50.0%	0	0.0%
		民間企業	251	52	20.7%	67	26.7%	51	20.3%	42	16.7%	34	13.5%	5	2.0%
		公益法人等	83	7	8.4%	26	31.3%	21	25.3%	13	15.7%	12	14.5%	4	4.8%
	性別	男性	2108	408	19.4%	829	39.3%	434	20.6%	239	11.3%	153	7.3%	45	2.1%
		女性	1901	384	20.2%	756	39.8%	357	18.8%	222	11.7%	174	9.2%	8	0.4%
	年齢	20代	394	108	27.4%	126	32.0%	87	22.1%	31	7.9%	40	10.2%	2	0.5%
		30代	1034	221	21.4%	413	39.9%	183	17.7%	114	11.0%	96	9.3%	7	0.7%
		40代	1188	221	18.6%	497	41.8%	214	18.0%	143	12.0%	105	8.8%	8	0.7%
		50代	1017	205	20.2%	434	42.7%	203	20.0%	99	9.7%	65	6.4%	11	1.1%
		60代	407	55	13.5%	139	34.2%	100	24.6%	69	17.0%	28	6.9%	16	3.9%
		70代	82	4	4.9%	22	26.8%	24	29.3%	13	15.9%	6	7.3%	13	15.9%
有給休暇の取得がしやすい雰囲気づくり	現在の業務	全体	4135	886	21.4%	1798	43.5%	753	18.2%	405	9.8%	242	5.9%	51	1.2%
		産業動物診療	408	76	18.6%	139	34.1%	80	19.6%	59	14.5%	44	10.8%	10	2.5%
		※産業動物診療	333	62	18.6%	103	30.9%	65	19.5%	51	15.3%	42	12.6%	10	3.0%
		小動物診療	443	87	19.6%	130	29.3%	90	20.3%	63	14.2%	62	14.0%	11	2.5%
		その他診療	103	20	19.4%	34	33.0%	20	19.4%	20	19.4%	8	7.8%	1	1.0%
		診療以外	2944	647	22.0%	1399	47.5%	523	17.8%	242	8.2%	114	3.9%	19	0.6%
		獣医学上の知識不要	191	51	26.7%	87	45.5%	30	15.7%	11	5.8%	7	3.7%	5	2.6%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	90	19.1%	126	26.8%	103	21.9%	69	14.7%	63	13.4%	19	4.0%
		農業協同組合	20	7	35.0%	9	45.0%	2	10.0%	0	0.0%	2	10.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	35	15.8%	85	38.3%	43	19.4%	31	14.0%	26	11.7%	2	0.9%
		公務員計	2879	626	21.7%	1387	48.2%	519	18.0%	237	8.2%	93	3.2%	17	0.6%
		国	238	39	16.4%	126	52.9%	40	16.8%	25	10.5%	8	3.4%	0	0.0%
		都道府県	1987	416	20.9%	928	46.7%	389	19.6%	174	8.8%	65	3.3%	15	0.8%
		市町村	654	171	26.1%	333	50.9%	90	13.8%	38	5.8%	20	3.1%	2	0.3%
		独立行政法人	54	18	33.3%	25	46.3%	6	11.1%	5	9.3%	0	0.0%	0	0.0%
		国・公・私立大学	72	7	9.7%	26	36.1%	12	16.7%	12	16.7%	15	20.8%	0	0.0%
	性別	競馬関係団体	8	1	12.5%	2	25.0%	1	12.5%	1	12.5%	3	37.5%	0	0.0%
		民間企業	251	76	30.3%	88	35.1%	33	13.1%	22	8.8%	29	11.6%	3	1.2%
		公益法人等	83	16	19.3%	27	32.5%	16	19.3%	16	19.3%	4	4.8%	4	4.8%
		男性	2108	449	21.3%	931	44.2%	397	18.8%	183	8.7%	107	5.1%	41	1.9%
		女性	1901	407	21.4%	821	43.2%	330	17.4%	209	11.0%	128	6.7%	6	0.3%
	年齢	20代	394	145	36.8%	132	33.5%	54	13.7%	36	9.1%	24	6.1%	3	0.8%
		30代	1034	240	23.2%	466	45.1%	158	15.3%	95	9.2%	68	6.6%	7	0.7%
		40代	1188	226	19.0%	514	43.3%	236	19.9%	131	11.0%	76	6.4%	5	0.4%
		50代	1017	195	19.2%	481	47.3%	193	19.0%	86	8.5%	53	5.2%	9	0.9%
		60代	407	71	17.4%	170	41.8%	88	21.6%	44	10.8%	19	4.7%	15	3.7%
		70代	82	6	7.3%	33	40.2%	20	24.4%	10	12.2%	2	2.4%	11	13.4%
必要な場合に出張や外部研修への参加を減免する仕組み	現在の業務	全体	4135	616	14.9%	1481	35.8%	1299	31.4%	425	10.3%	255	6.2%	59	1.4%
		産業動物診療	408	65	15.9%	120	29.4%	123	30.1%	50	12.3%	39	9.6%	11	2.7%
		※産業動物診療	333	54	16.2%	92	27.6%	101	30.3%	41	12.3%	34	10.2%	11	3.3%
		小動物診療	443	68	15.3%	112	25.3%	137	30.9%	58	13.1%	57	12.9%	11	2.5%
		その他診療	103	11	10.7%	37	35.9%	31	30.1%	14	13.6%	9	8.7%	1	1.0%
		診療以外	2944	427	14.5%	1147	39.0%	929	31.6%	281	9.5%	135	4.6%	25	0.8%
		獣医学上の知識不要	191	40	20.9%	56	29.3%	64	33.5%	15	7.9%	11	5.8%	5	2.6%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	73	15.5%	110	23.4%	154	32.8%	56	11.9%	57	12.1%	20	4.3%
		農業協同組合	20	5	25.0%	7	35.0%	4	20.0%	2	10.0%	2	10.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	39	17.6%	74	33.3%	61	27.5%	24	10.8%	22	9.9%	2	0.9%
		公務員計	2879	429	14.9%	1140	39.6%	901	31.3%	262	9.1%	124	4.3%	23	0.8%
		国	238	41	17.2%	86	36.1%	81	34.0%	20	8.4%	9	3.8%	1	0.4%
		都道府県	1987	291	14.6%	790	39.8%	624	31.4%	183	9.2%	79	4.0%	20	1.0%
		市町村	654	97	14.8%	264	40.4%	196	30.0%	59	9.0%	36	5.5%	2	0.3%
		独立行政法人	54	2	3.7%	17	31.5%	25	46.3%	6	11.1%	4	7.4%	0	0.0%
		国・公・私立大学	72	5	6.9%	19	26.4%	27	37.5%	13	18.1%	8	11.1%	0	0.0%
	性別	競馬関係団体	8	0	0.0%	2	25.0%	2	25.0%	3	37.5%	1	12.5%	0	0.0%
		民間企業	251	47	18.7%	67	26.7%	75	29.9%	36	14.3%	22	8.8%	4	1.6%
		公益法人等	83	7	8.4%	26	31.3%	27	32.5%	10	12.0%	10	12.0%	3	3.6%
		男性	2108	314	14.9%	738	35.0%	699	33.2%	200	9.5%	113	5.4%	44	2.1%
		女性	1901	281	14.8%	709	37.3%	562	29.6%	206	10.8%	132	6.9%	11	0.6%
	年齢	20代	394	81	20.6%	129	32.7%	109	27.7%	44	11.2%	28	7.1%	3	0.8%
		30代	1034	166	16.1%	366	35.4%	321	31.0%	103	10.0%	70	6.8%	8	0.8%
		40代	1188	153	12.9%	448	37.7%	378	31.8%	129	10.9%	73	6.1%	7	0.6%
		50代	1017	156	15.3%	386	38.0%	321	31.6%	81	8.0%	62	6.1%	11	1.1%

上 司・同 僚 か ら の 理 解 を 得 る た め の 機 会 （ 面 談 、 面 接 、 会 議 等 ）		60代	407	52	12.8%	123	30.2%	139	34.2%	60	14.7%	18	4.4%	15	3.7%
		70代	82	6	7.3%	26	31.7%	25	30.5%	7	8.5%	4	4.9%	14	17.1%
		全体	4135	569	13.8%	1697	41.0%	1116	27.0%	468	11.3%	225	5.4%	60	1.5%
	現 在 の 業 務	産業動物診療	408	40	9.8%	134	32.8%	121	29.7%	64	15.7%	37	9.1%	12	2.9%
		※産業動物診療	333	30	9.0%	106	31.8%	96	28.8%	55	16.5%	34	10.2%	12	3.6%
		小動物診療	443	42	9.5%	116	26.2%	124	28.0%	87	19.6%	60	13.5%	14	3.2%
		その他診療	103	10	9.7%	35	34.0%	27	26.2%	20	19.4%	10	9.7%	1	1.0%
		診療以外	2944	437	14.8%	1322	44.9%	787	26.7%	266	9.0%	108	3.7%	24	0.8%
		獣医学上の知識不要	191	37	19.4%	75	39.3%	49	25.7%	20	10.5%	5	2.6%	5	2.6%
	現 在 の 勤 務 先	個人診療施設	470	45	9.6%	116	24.7%	139	29.6%	85	18.1%	62	13.2%	23	4.9%
		農業協同組合	20	5	25.0%	6	30.0%	4	20.0%	5	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	14	6.3%	76	34.2%	68	30.6%	36	16.2%	24	10.8%	4	1.8%
		公務員計	2879	434	15.1%	1306	45.4%	780	27.1%	256	8.9%	82	2.8%	21	0.7%
		国	238	42	17.6%	94	39.5%	58	24.4%	34	14.3%	9	3.8%	1	0.4%
		都道府県	1987	293	14.7%	900	45.3%	561	28.2%	163	8.2%	54	2.7%	16	0.8%
		市町村	654	99	15.1%	312	47.7%	161	24.6%	59	9.0%	19	2.9%	4	0.6%
		独立行政法人	54	7	13.0%	25	46.3%	12	22.2%	6	11.1%	4	7.4%	0	0.0%
		国・公・私立大学	72	5	6.9%	14	19.4%	23	31.9%	17	23.6%	13	18.1%	0	0.0%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	2	25.0%	1	12.5%	3	37.5%	2	25.0%	0	0.0%
		民間企業	251	47	18.7%	101	40.2%	41	16.3%	30	12.0%	28	11.2%	4	1.6%
		公益法人等	83	7	8.4%	23	27.7%	30	36.1%	15	18.1%	5	6.0%	3	3.6%
	性 別	男性	2108	283	13.4%	894	42.4%	599	28.4%	197	9.3%	89	4.2%	46	2.2%
		女性	1901	268	14.1%	769	40.5%	478	25.1%	249	13.1%	128	6.7%	9	0.5%
	年 齢	20代	394	92	23.4%	152	38.6%	75	19.0%	44	11.2%	28	7.1%	3	0.8%
		30代	1034	146	14.1%	432	41.8%	262	25.3%	124	12.0%	63	6.1%	7	0.7%
		40代	1188	139	11.7%	466	39.2%	354	29.8%	145	12.2%	75	6.3%	9	0.8%
		50代	1017	138	13.6%	463	45.5%	266	26.2%	99	9.7%	41	4.0%	10	1.0%
		60代	407	48	11.8%	153	37.6%	128	31.4%	47	11.5%	15	3.7%	16	3.9%
		70代	82	4	4.9%	26	31.7%	28	34.1%	7	8.5%	3	3.7%	14	17.1%
広 報・周 知		全体	4135	965	23.3%	1603	38.8%	808	19.5%	420	10.2%	282	6.8%	57	1.4%
	現 在 の 業 務	産業動物診療	408	67	16.4%	123	30.1%	86	21.1%	61	15.0%	60	14.7%	11	2.7%
		※産業動物診療	333	52	15.6%	93	27.9%	69	20.7%	51	15.3%	57	17.1%	11	3.3%
		小動物診療	443	55	12.4%	108	24.4%	100	22.6%	76	17.2%	92	20.8%	12	2.7%
		その他診療	103	19	18.4%	36	35.0%	22	21.4%	13	12.6%	12	11.7%	1	1.0%
		診療以外	2944	760	25.8%	1250	42.5%	555	18.9%	252	8.6%	103	3.5%	24	0.8%
		獣医学上の知識不要	191	60	31.4%	71	37.2%	36	18.8%	10	5.2%	9	4.7%	5	2.6%
	現 在 の 勤 務 先	個人診療施設	470	57	12.1%	104	22.1%	118	25.1%	75	16.0%	95	20.2%	21	4.5%
		農業協同組合	20	6	30.0%	9	45.0%	4	20.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	37	16.7%	75	33.8%	38	17.1%	40	18.0%	30	13.5%	2	0.9%
		公務員計	2879	764	26.5%	1232	42.8%	546	19.0%	235	8.2%	82	2.8%	20	0.7%
		国	238	72	30.3%	103	43.3%	29	12.2%	27	11.3%	5	2.1%	2	0.8%
		都道府県	1987	497	25.0%	846	42.6%	416	20.9%	161	8.1%	51	2.6%	16	0.8%
		市町村	654	195	29.8%	283	43.3%	101	15.4%	47	7.2%	26	4.0%	2	0.3%
		独立行政法人	54	14	25.9%	22	40.7%	9	16.7%	5	9.3%	3	5.6%	1	1.9%
		国・公・私立大学	72	5	6.9%	22	30.6%	14	19.4%	12	16.7%	19	26.4%	0	0.0%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	2	25.0%	2	25.0%	1	12.5%	3	37.5%	0	0.0%
		民間企業	251	61	24.3%	79	31.5%	40	15.9%	31	12.4%	36	14.3%	4	1.6%
		公益法人等	83	12	14.5%	27	32.5%	20	24.1%	12	14.5%	8	9.6%	4	4.8%
	性 別	男性	2108	480	22.8%	849	40.3%	421	20.0%	203	9.6%	113	5.4%	42	2.0%
		女性	1901	458	24.1%	713	37.5%	357	18.8%	209	11.0%	155	8.2%	9	0.5%
	年 齢	20代	394	105	26.6%	120	30.5%	79	20.1%	45	11.4%	42	10.7%	3	0.8%
		30代	1034	229	22.1%	391	37.8%	189	18.3%	122	11.8%	95	9.2%	8	0.8%
		40代	1188	273	23.0%	471	39.6%	230	19.4%	128	10.8%	79	6.6%	7	0.6%
		50代	1017	272	26.7%	438	43.1%	184	18.1%	71	7.0%	43	4.2%	9	0.9%
		60代	407	74	18.2%	147	36.1%	103	25.3%	48	11.8%	19	4.7%	16	3.9%
		70代	82	9	11.0%	33	40.2%	19	23.2%	5	6.1%	3	3.7%	13	15.9%
産 休・育 休 取 得 者 の 代 替 職 員 を 容 易		全体	4135	387	9.4%	748	18.1%	775	18.7%	872	21.1%	1299	31.4%	54	1.3%
	現 在 の 業 務	産業動物診療	408	29	7.1%	53	13.0%	62	15.2%	80	19.6%	174	42.6%	10	2.5%
		※産業動物診療	333	23	6.9%	39	11.7%	44	13.2%	66	19.8%	151	45.3%	10	3.0%
		小動物診療	443	28	6.3%	57	12.9%	93	21.0%	81	18.3%	172	38.8%	12	2.7%
		その他診療	103	9	8.7%	16	15.5%	18	17.5%	18	17.5%	41	39.8%	1	1.0%
		診療以外	2944	289	9.8%	572	19.4%	554	18.8%	652	22.1%	855	29.0%	22	0.7%
		獣医学上の知識不要	191	29	15.2%	42	22.0%	42	22.0%	32	16.8%	41	21.5%	5	2.6%
	現 在	個人診療施設	470	29	6.2%	57	12.1%	103	21.9%	85	18.1%	176	37.4%	20	4.3%
		農業協同組合	20	3	15.0%	3	15.0%	7	35.0%	3	15.0%	4	20.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	13	5.9%	21	9.5%	21	9.5%	48	21.6%	117	52.7%	2	0.9%
		公務員計	2879	291	10.1%	562	19.5%	549	19.1%	626	21.7%	833	28.9%	18	0.6%
		国	238	34	14.3%	64	26.9%	49	20.6%	47	19.7%	42	17.6%	2	0.8%

～に確保しやすい環境の整備	一の勤務先	都道府県	1987	175	8.8%	356	17.9%	374	18.8%	418	21.0%	649	32.7%	15	0.8%
		市町村	654	82	12.5%	142	21.7%	126	19.3%	161	24.6%	142	21.7%	1	0.2%
		独立行政法人	54	7	13.0%	16	29.6%	11	20.4%	9	16.7%	10	18.5%	1	1.9%
		国・公・私立大学	72	3	4.2%	10	13.9%	9	12.5%	20	27.8%	30	41.7%	0	0.0%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%	1	12.5%	6	75.0%	0	0.0%
		民間企業	251	31	12.4%	45	17.9%	43	17.1%	47	18.7%	81	32.3%	4	1.6%
		公益法人等	83	5	6.0%	16	19.3%	20	24.1%	15	18.1%	23	27.7%	4	4.8%
	性別	男性	2108	212	10.1%	409	19.4%	425	20.2%	416	19.7%	602	28.6%	44	2.1%
		女性	1901	159	8.4%	315	16.6%	327	17.2%	433	22.8%	662	34.8%	5	0.3%
	年齢	20代	394	59	15.0%	76	19.3%	90	22.8%	74	18.8%	91	23.1%	4	1.0%
		30代	1034	100	9.7%	192	18.6%	185	17.9%	225	21.8%	326	31.5%	6	0.6%
		40代	1188	84	7.1%	187	15.7%	188	15.8%	267	22.5%	458	38.6%	4	0.3%
		50代	1017	106	10.4%	193	19.0%	200	19.7%	193	19.0%	316	31.1%	9	0.9%
		60代	407	31	7.6%	76	18.7%	93	22.9%	98	24.1%	92	22.6%	17	4.2%
		70代	82	4	4.9%	23	28.0%	17	20.7%	11	13.4%	14	17.1%	13	15.9%
休業からスムーズに復帰できるための研修等の充実	全体		4135	280	6.8%	806	19.5%	1621	39.2%	841	20.3%	524	12.7%	63	1.5%
	現在の業務	産業動物診療	408	20	4.9%	48	11.8%	145	35.5%	103	25.2%	81	19.9%	11	2.7%
		※産業動物診療	333	15	4.5%	33	9.9%	111	33.3%	89	26.7%	74	22.2%	11	3.3%
		小動物診療	443	21	4.7%	57	12.9%	133	30.0%	97	21.9%	124	28.0%	11	2.5%
		その他診療	103	6	5.8%	13	12.6%	36	35.0%	25	24.3%	22	21.4%	1	1.0%
		診療以外	2944	209	7.1%	643	21.8%	1209	41.1%	583	19.8%	269	9.1%	31	1.1%
		獣医学上の知識不要	191	21	11.0%	38	19.9%	89	46.6%	21	11.0%	17	8.9%	5	2.6%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	24	5.1%	56	11.9%	151	32.1%	100	21.3%	120	25.5%	19	4.0%
		農業協同組合	20	2	10.0%	4	20.0%	6	30.0%	6	30.0%	2	10.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	9	4.1%	25	11.3%	68	30.6%	66	29.7%	51	23.0%	3	1.4%
		公務員計	2879	209	7.3%	642	22.3%	1216	42.2%	547	19.0%	239	8.3%	26	0.9%
		国	238	14	5.9%	35	14.7%	121	50.8%	49	20.6%	17	7.1%	2	0.8%
		都道府県	1987	142	7.1%	433	21.8%	828	41.7%	396	19.9%	165	8.3%	23	1.2%
		市町村	654	53	8.1%	174	26.6%	267	40.8%	102	15.6%	57	8.7%	1	0.2%
		独立行政法人	54	3	5.6%	11	20.4%	27	50.0%	4	7.4%	8	14.8%	1	1.9%
		国・公・私立大学	72	1	1.4%	8	11.1%	22	30.6%	21	29.2%	20	27.8%	0	0.0%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	2	25.0%	3	37.5%	0	0.0%	3	37.5%	0	0.0%
		民間企業	251	28	11.2%	29	11.6%	73	29.1%	62	24.7%	55	21.9%	4	1.6%
		公益法人等	83	0	0.0%	14	16.9%	34	41.0%	19	22.9%	12	14.5%	4	4.8%
	性別	男性	2108	154	7.3%	440	20.9%	850	40.3%	393	18.6%	226	10.7%	45	2.1%
		女性	1901	110	5.8%	351	18.5%	719	37.8%	422	22.2%	287	15.1%	12	0.6%
	年齢	20代	394	40	10.2%	57	14.5%	175	44.4%	64	16.2%	54	13.7%	4	1.0%
		30代	1034	65	6.3%	189	18.3%	392	37.9%	226	21.9%	154	14.9%	8	0.8%
		40代	1188	70	5.9%	215	18.1%	447	37.6%	281	23.7%	166	14.0%	9	0.8%
		50代	1017	70	6.9%	236	23.2%	409	40.2%	185	18.2%	105	10.3%	12	1.2%
		60代	407	29	7.1%	94	23.1%	162	39.8%	66	16.2%	38	9.3%	18	4.4%
		70代	82	4	4.9%	14	17.1%	31	37.8%	15	18.3%	7	8.5%	11	13.4%
休業中も職場の動きや情報を得られるような仕組み	全体		4135	285	6.9%	798	19.3%	1483	35.9%	883	21.4%	617	14.9%	69	1.7%
	現在の業務	産業動物診療	408	23	5.6%	49	12.0%	131	32.1%	94	23.0%	100	24.5%	11	2.7%
		※産業動物診療	333	18	5.4%	36	10.8%	106	31.8%	74	22.2%	88	26.4%	11	3.3%
		小動物診療	443	29	6.5%	79	17.8%	132	29.8%	86	19.4%	104	23.5%	13	2.9%
		その他診療	103	4	3.9%	13	12.6%	36	35.0%	27	26.2%	21	20.4%	2	1.9%
		診療以外	2944	196	6.7%	623	21.2%	1099	37.3%	634	21.5%	359	12.2%	33	1.1%
		獣医学上の知識不要	191	30	15.7%	30	15.7%	70	36.6%	29	15.2%	27	14.1%	5	2.6%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	31	6.6%	78	16.6%	148	31.5%	87	18.5%	104	22.1%	22	4.7%
		農業協同組合	20	3	15.0%	3	15.0%	5	25.0%	7	35.0%	2	10.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	9	4.1%	26	11.7%	62	27.9%	54	24.3%	69	31.1%	2	0.9%
		公務員計	2879	205	7.1%	602	20.9%	1087	37.8%	608	21.1%	349	12.1%	28	1.0%
		国	238	25	10.5%	52	21.8%	90	37.8%	47	19.7%	23	9.7%	1	0.4%
		都道府県	1987	133	6.7%	419	21.1%	748	37.6%	423	21.3%	241	12.1%	23	1.2%
		市町村	654	47	7.2%	131	20.0%	249	38.1%	138	21.1%	85	13.0%	4	0.6%
		独立行政法人	54	2	3.7%	12	22.2%	25	46.3%	8	14.8%	5	9.3%	2	3.7%
		国・公・私立大学	72	4	5.6%	14	19.4%	28	38.9%	13	18.1%	13	18.1%	0	0.0%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	3	37.5%	0	0.0%	2	25.0%	3	37.5%	0	0.0%
		民間企業	251	24	9.6%	36	14.3%	78	31.1%	60	23.9%	49	19.5%	4	1.6%
		公益法人等	83	1	1.2%	14	16.9%	26	31.3%	21	25.3%	16	19.3%	5	6.0%
	性別	男性	2108	151	7.2%	445	21.1%	759	36.0%	434	20.6%	267	12.7%	52	2.5%
		女性	1901	117	6.2%	334	17.6%	683	35.9%	426	22.4%	329	17.3%	12	0.6%
	年齢	20代	394	38	9.6%	58	14.7%	174	44.2%	68	17.3%	53	13.5%	3	0.8%
		30代	1034	65	6.3%	181	17.5%	343	33.2%	245	23.7%	191	18.5%	9	0.9%
		40代	1188	71	6.0%	204	17.2%	441	37.1%	261	22.0%	198	16.7%	13	1.1%
		50代	1017	81	8.0%	246	24.2%	348	34.2%	203	20.0%	128	12.6%	11	1.1%
		60代	407	25	6.1%	88	21.6%	151	37.1%	85	20.9%	40	9.8%	18	4.4%

残業・時間外労働の負荷軽減		70代	82	3	3.7%	21	25.6%	24	29.3%	14	17.1%	6	7.3%	14	17.1%
		全体	4135	478	11.6%	1270	30.7%	1140	27.6%	730	17.7%	467	11.3%	50	1.2%
	現在の業務	産業動物診療	408	33	8.1%	101	24.8%	100	24.5%	95	23.3%	67	16.4%	12	2.9%
		※産業動物診療	333	26	7.8%	77	23.1%	83	24.9%	78	23.4%	57	17.1%	12	3.6%
		小動物診療	443	57	12.9%	108	24.4%	101	22.8%	77	17.4%	88	19.9%	12	2.7%
		その他診療	103	9	8.7%	25	24.3%	28	27.2%	24	23.3%	16	15.5%	1	1.0%
		診療以外	2944	348	11.8%	968	32.9%	842	28.6%	502	17.1%	268	9.1%	16	0.5%
		獣医学上の知識不要	191	29	15.2%	55	28.8%	59	30.9%	24	12.6%	19	9.9%	5	2.6%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	58	12.3%	109	23.2%	119	25.3%	79	16.8%	85	18.1%	20	4.3%
		農業協同組合	20	3	15.0%	9	45.0%	2	10.0%	4	20.0%	2	10.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	21	9.5%	56	25.2%	54	24.3%	50	22.5%	39	17.6%	2	0.9%
		公務員計	2879	340	11.8%	952	33.1%	819	28.4%	489	17.0%	265	9.2%	14	0.5%
		国	238	22	9.2%	77	32.4%	56	23.5%	54	22.7%	29	12.2%	0	0.0%
		都道府県	1987	221	11.1%	639	32.2%	580	29.2%	337	17.0%	197	9.9%	13	0.7%
		市町村	654	97	14.8%	236	36.1%	183	28.0%	98	15.0%	39	6.0%	1	0.2%
		独立行政法人	54	5	9.3%	20	37.0%	16	29.6%	10	18.5%	3	5.6%	0	0.0%
		国・公・私立大学	72	5	6.9%	17	23.6%	12	16.7%	21	29.2%	17	23.6%	0	0.0%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	1	1.0%	1	12.5%	4	50.0%	2	25.0%	0	0.0%
		民間企業	251	29	11.6%	67	26.7%	66	26.3%	44	17.5%	39	15.5%	6	2.4%
		公益法人等	83	11	13.3%	21	25.3%	25	30.1%	17	20.5%	5	6.0%	4	4.8%
	性別	男性	2108	258	12.2%	697	33.1%	593	28.1%	341	16.2%	179	8.5%	40	1.9%
		女性	1901	201	10.6%	544	28.6%	514	27.0%	371	19.5%	265	13.9%	6	0.3%
	年齢	20代	394	67	17.0%	107	27.2%	88	22.3%	68	17.3%	62	15.7%	2	0.5%
		30代	1034	119	11.5%	304	29.4%	290	28.0%	183	17.7%	132	12.8%	6	0.6%
		40代	1188	109	9.2%	348	29.3%	342	28.8%	221	18.6%	161	13.6%	7	0.6%
		50代	1017	130	12.8%	354	34.8%	278	27.3%	162	15.9%	85	8.4%	8	0.8%
		60代	407	49	12.0%	133	32.7%	108	26.5%	79	19.4%	22	5.4%	16	3.9%
		70代	82	3	3.7%	21	25.6%	30	36.6%	15	18.3%	3	3.7%	10	12.2%
出産・子育てや休業からの復職などに関する組織内の相談窓口の整備		全体	4135	476	11.5%	1188	28.7%	1386	33.5%	605	14.6%	410	9.9%	70	1.7%
	現在の業務	産業動物診療	408	37	9.1%	79	19.4%	118	28.9%	82	20.1%	81	19.9%	11	2.7%
		※産業動物診療	333	26	7.8%	56	16.8%	96	28.8%	70	21.0%	74	22.2%	11	3.3%
		小動物診療	443	30	6.8%	81	18.3%	116	26.2%	84	19.0%	120	27.1%	12	2.7%
		その他診療	103	8	7.8%	25	24.3%	30	29.1%	23	22.3%	16	15.5%	1	1.0%
		診療以外	2944	359	12.2%	936	31.8%	1054	35.8%	388	13.2%	173	5.9%	34	1.2%
		獣医学上の知識不要	191	38	19.9%	58	30.4%	61	31.9%	16	8.4%	11	5.8%	7	3.7%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	32	6.8%	81	17.2%	133	28.3%	82	17.4%	121	25.7%	21	4.5%
		農業協同組合	20	4	20.0%	5	25.0%	5	25.0%	3	15.0%	3	15.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	15	6.8%	41	18.5%	60	27.0%	54	24.3%	50	22.5%	2	0.9%
		公務員計	2879	364	12.6%	942	32.7%	1034	35.9%	367	12.7%	143	5.0%	29	1.0%
		国	238	26	10.9%	73	30.7%	94	39.5%	32	13.4%	10	4.2%	3	1.3%
		都道府県	1987	229	11.5%	640	32.2%	728	36.6%	266	13.4%	102	5.1%	22	1.1%
		市町村	654	109	16.7%	229	35.0%	212	32.4%	69	10.6%	31	4.7%	4	0.6%
		独立行政法人	54	4	7.4%	18	33.3%	22	40.7%	6	11.1%	3	5.6%	1	1.9%
		国・公・私立大学	72	5	6.9%	15	20.8%	20	27.8%	17	23.6%	15	20.8%	0	0.0%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	3	37.5%	1	12.5%	1	12.5%	3	37.5%	0	0.0%
		民間企業	251	40	15.9%	48	19.1%	66	26.3%	42	16.7%	49	19.5%	6	2.4%
		公益法人等	83	5	6.0%	16	19.3%	27	32.5%	16	19.3%	14	16.9%	5	6.0%
	性別	男性	2108	240	11.4%	642	30.5%	711	33.7%	289	13.7%	174	8.3%	52	2.5%
		女性	1901	215	11.3%	525	27.6%	627	33.0%	298	15.7%	223	11.7%	13	0.7%
	年齢	20代	394	57	14.5%	88	22.3%	153	38.8%	44	11.2%	49	12.4%	3	0.8%
		30代	1034	116	11.2%	294	28.4%	354	34.2%	152	14.7%	106	10.3%	12	1.2%
		40代	1188	128	10.8%	316	26.6%	405	34.1%	188	15.8%	138	11.6%	13	1.1%
		50代	1017	123	12.1%	360	35.4%	308	30.3%	145	14.3%	70	6.9%	11	1.1%
		60代	407	43	10.6%	103	25.3%	143	35.1%	62	15.2%	37	9.1%	19	4.7%
		70代	82	4	4.9%	26	31.7%	21	25.6%	8	9.8%	10	12.2%	13	15.9%
子育てと仕事を両立しているモデルケース		全体	4135	346	8.4%	978	23.7%	1498	36.2%	723	17.5%	522	12.6%	68	1.6%
	現在の業務	産業動物診療	408	29	7.1%	64	15.7%	131	32.1%	84	20.6%	87	21.3%	13	3.2%
		※産業動物診療	333	21	6.3%	47	14.1%	103	30.9%	70	21.0%	79	23.7%	13	3.9%
		小動物診療	443	32	7.2%	60	13.5%	134	30.2%	90	20.3%	116	26.2%	11	2.5%
		その他診療	103	5	4.9%	22	21.4%	28	27.2%	26	25.2%	20	19.4%	2	1.9%
		診療以外	2944	251	8.5%	777	26.4%	1123	38.1%	486	16.5%	275	9.3%	32	1.1%
		獣医学上の知識不要	191	27	14.1%	49	25.7%	71	37.2%	23	12.0%	16	8.4%	5	2.6%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	34	7.2%	60	12.8%	143	30.4%	97	20.6%	114	24.3%	22	4.7%
		農業協同組合	20	2	10.0%	4	20.0%	7	35.0%	5	25.0%	2	10.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	16	7.2%	28	12.6%	69	31.1%	48	21.6%	58	26.1%	3	1.4%
		公務員計	2879	251	8.7%	800	27.8%	1094	38.0%	468	16.3%	240	8.3%	26	0.9%
		国	238	21	8.8%	85	35.7%	79	33.2%	39	16.4%	13	5.5%	1	0.4%
		都道府県	1987	167	8.4%	525	26.4%	772	38.9%	331	16.7%	172	8.7%	20	1.0%

I ス の 紹 介	勤務先	市町村	654	63	9.6%	190	29.1%	243	37.2%	98	15.0%	55	8.4%	5	0.8%
		独立行政法人	54	6	11.1%	13	24.1%	23	42.6%	7	13.0%	4	7.4%	1	1.9%
		国・公・私立大学	72	3	4.2%	7	9.7%	33	45.8%	9	12.5%	20	27.8%	0	0.0%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	1	12.5%	1	12.5%	1	12.5%	5	62.5%	0	0.0%
		民間企業	251	27	10.8%	42	16.7%	73	29.1%	48	19.1%	56	22.3%	5	2.0%
		公益法人等	83	3	3.6%	11	13.3%	32	38.6%	18	21.7%	14	16.9%	5	6.0%
	性別	男性	2108	165	7.8%	500	23.7%	830	39.4%	336	15.9%	227	10.8%	50	2.4%
		女性	1901	166	8.7%	459	24.1%	624	32.8%	363	19.1%	276	14.5%	13	0.7%
	年齢	20代	394	56	14.2%	107	27.2%	113	28.7%	61	15.5%	53	13.5%	4	1.0%
		30代	1034	94	9.1%	253	24.5%	333	32.2%	196	19.0%	146	14.1%	12	1.2%
		40代	1188	81	6.8%	263	22.1%	438	36.9%	225	18.9%	173	14.6%	8	0.7%
		50代	1017	80	7.9%	263	25.9%	410	40.3%	155	15.2%	99	9.7%	10	1.0%
		60代	407	32	7.9%	69	17.0%	174	42.8%	72	17.7%	39	9.6%	21	5.2%
		70代	82	2	2.4%	19	23.2%	27	32.9%	11	13.4%	11	13.4%	12	14.6%
ハ ラ ス メ ン ト 対 策	全体		4135	503	12.2%	1489	36.0%	1195	28.9%	537	13.0%	357	8.6%	54	1.3%
	現在の業務	産業動物診療	408	39	9.6%	119	29.2%	108	26.5%	83	20.3%	47	11.5%	12	2.9%
		※産業動物診療	333	30	9.0%	89	26.7%	88	26.4%	73	21.9%	41	12.3%	12	3.6%
		小動物診療	443	39	8.8%	106	23.9%	161	36.3%	62	14.0%	61	13.8%	14	3.2%
		その他診療	103	9	8.7%	36	35.0%	32	31.1%	17	16.5%	7	6.8%	2	1.9%
		診療以外	2944	385	13.1%	1151	39.1%	838	28.5%	342	11.6%	212	7.2%	16	0.5%
		獣医学上の知識不要	191	28	14.7%	69	36.1%	47	24.6%	19	9.9%	23	12.0%	5	2.6%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	43	9.1%	104	22.1%	172	36.6%	68	14.5%	61	13.0%	22	4.7%
		農業協同組合	20	2	10.0%	8	40.0%	3	15.0%	4	20.0%	3	15.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	17	7.7%	71	32.0%	58	26.1%	47	21.2%	26	11.7%	3	1.4%
		公務員計	2879	372	12.9%	1137	39.5%	830	28.8%	328	11.4%	196	6.8%	16	0.6%
		国	238	29	12.2%	93	39.1%	63	26.5%	29	12.2%	24	10.1%	0	0.0%
		都道府県	1987	253	12.7%	774	39.0%	586	29.5%	232	11.7%	129	6.5%	13	0.7%
		市町村	654	90	13.8%	270	41.3%	181	27.7%	67	10.2%	43	6.6%	3	0.5%
		独立行政法人	54	8	14.8%	21	38.9%	12	22.2%	10	18.5%	3	5.6%	0	0.0%
		国・公・私立大学	72	10	13.9%	18	25.0%	11	15.3%	16	22.2%	17	23.6%	0	0.0%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	1	12.5%	1	12.5%	3	37.5%	3	37.5%	0	0.0%
		民間企業	251	42	16.7%	86	34.3%	58	23.1%	30	12.0%	31	12.4%	4	1.6%
		公益法人等	83	4	4.8%	25	30.1%	29	34.9%	15	18.1%	7	8.4%	3	3.6%
	性別	男性	2108	259	12.3%	798	37.9%	632	30.0%	242	11.5%	135	6.4%	42	2.0%
		女性	1901	225	11.8%	659	34.7%	529	27.8%	277	14.6%	202	10.6%	9	0.5%
	年齢	20代	394	82	20.8%	140	35.5%	84	21.3%	47	11.9%	38	9.6%	3	0.8%
		30代	1034	134	13.0%	335	32.4%	299	28.9%	150	14.5%	111	10.7%	5	0.5%
		40代	1188	117	9.8%	408	34.3%	366	30.8%	173	14.6%	116	9.8%	8	0.7%
		50代	1017	122	12.0%	424	41.7%	299	29.4%	96	9.4%	66	6.5%	10	1.0%
		60代	407	39	9.6%	153	37.6%	120	29.5%	60	14.7%	20	4.9%	15	3.7%
		70代	82	7	8.5%	26	31.7%	25	30.5%	7	8.5%	5	6.1%	12	14.6%
カ ウ ン セ ラ ー な ど の 専 門 家 に よ る メンタル面のサポート	全体		4135	354	8.6%	1067	25.8%	1367	33.1%	646	15.6%	639	15.5%	62	1.5%
	現在の業務	産業動物診療	408	28	6.9%	71	17.4%	131	32.1%	70	17.2%	96	23.5%	12	2.9%
		※産業動物診療	333	20	6.0%	54	16.2%	102	30.6%	55	16.5%	90	27.0%	12	3.6%
		小動物診療	443	12	2.7%	17	3.8%	94	21.2%	87	19.6%	220	49.7%	13	2.9%
		その他診療	103	3	2.9%	22	21.4%	28	27.2%	17	16.5%	32	31.1%	1	1.0%
		診療以外	2944	284	9.6%	894	30.4%	1049	35.6%	433	14.7%	258	8.8%	26	0.9%
		獣医学上の知識不要	191	25	13.1%	53	27.7%	60	31.4%	30	15.7%	18	9.4%	5	2.6%
	現在の勤務先	個人診療施設	470	13	2.8%	16	3.4%	101	21.5%	90	19.1%	229	48.7%	21	4.5%
		農業協同組合	20	2	10.0%	4	20.0%	5	25.0%	5	25.0%	4	20.0%	0	0.0%
		農業共済組合等	222	14	6.3%	45	20.3%	61	27.5%	40	18.0%	59	26.6%	3	1.4%
		公務員計	2879	289	10.0%	886	30.8%	1046	36.3%	414	14.4%	224	7.8%	20	0.7%
		国	238	20	8.4%	61	25.6%	86	36.1%	53	22.3%	17	7.1%	1	0.4%
		都道府県	1987	189	9.5%	602	30.3%	739	37.2%	280	14.1%	160	8.1%	17	0.9%
		市町村	654	80	12.2%	223	34.1%	221	33.8%	81	12.4%	47	7.2%	2	0.3%
		独立行政法人	54	5	9.3%	17	31.5%	21	38.9%	5	9.3%	5	9.3%	1	1.9%
		国・公・私立大学	72	4	5.6%	17	23.6%	21	29.2%	15	20.8%	14	19.4%	1	1.4%
		競馬関係団体	8	0	0.0%	2	25.0%	2	25.0%	2	25.0%	2	25.0%	0	0.0%
		民間企業	251	23	9.2%	52	20.7%	69	27.5%	36	14.3%	65	25.9%	6	2.4%
		公益法人等	83	1	1.2%	11	13.3%	27	32.5%	20	24.1%	20	24.1%	4	4.8%
	性別	男性	2108	180	8.5%	566	26.9%	729	34.6%	300	14.2%	285	13.5%	48	2.3%
		女性	1901	159	8.4%	476	25.0%	596	31.4%	325	17.1%	336	17.7%	9	0.5%
	年齢	20代	394	45	11.4%	97	24.6%	121	30.7%	59	15.0%	68	17.3%	4	1.0%
		30代	1034	93	9.0%	260	25.1%	345	33.4%	164	15.9%	164	15.9%	8	0.8%
		40代	1188	84	7.1%	310	26.1%	397	33.4%	191	16.1%	196	16.5%	10	0.8%
		50代	1017	101	9.9%	284	27.9%	351	34.5%	132	13.0%	140	13.8%	9	0.9%
		60代	407	25	6.1%	99	24.3%	132	32.4%	74	18.2%	60	14.7%	17	4.2%
		70代	82	3	3.7%	16	19.5%	19	23.2%	21	25.6%	10	12.2%	13	15.9%

3 女性獣医師活躍推進の取組

(1) 女性獣医師の活躍推進のための理解醸成

ア 雇用者等の理解醸成

(ア) 取組

女性獣医師の活躍推進に向け、労働条件の整備やその適切な運用が必要であること等について、獣医師のみならず獣医療関係者、特に雇用者や職場の管理職の理解醸成と意識改革が必須である。そのため、平成26年度から日本獣医師会獣医学術学会年次大会において、雇用者等を対象に女性獣医師活躍推進に係るシンポジウムを開催してきた。

令和5年度には、日本獣医師会獣医学術学会年次大会において、シンポジウム「獣医師の働き方改革とワーク・ライフ・バランス実現への道—すべての獣医師がのびのびと活躍できる環境づくりのために—」を、令和6年度は、シンポジウム「すべての獣医師が活躍できる未来ある職場づくりのために」を開催した。

これらの動画は、女性獣医師応援ポータルサイト（以下「サイト」という。）からいつでも自由に視聴することができる。

(イ) 今後の課題

平成26年から日本獣医師会獣医学術学会年次大会においてシンポジウムを開催してきたが、雇用者及び管理職の参加は多いとは言えなかった。女性獣医師の活躍推進や働き方改革に関心のない方々が未だ存在することが考えられ、この方々に伝える工夫が必要である。令和2年度から令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等からオンデマンド配信での開催となったが、令和5年度は神戸市、令和6年度は仙台市の年次大会でシンポジウムを開催して、大会期間終了後もサイトでオンデマンド配信を続けていることから、地域での獣医師の会合や職場等で雇用者、管理職をはじめ多くの方々に視聴、活用していただくことを期待したい。

厚生労働省が男性の育児休業の取得促進等の取組みを強化しており、本会はもとより、国や地方公共団体、NOSAI等の団体では男性の育児休業取得に向けた定款、規約等の改正が進められているが、小動物診療分野の対応が遅れている。今後のシンポジウムテーマとして、時代に合わせた就業環境変更の必要性等について取り上げることが引き続き望まれる。また、労働管理関係法令等に関する手引書の作成については、令和2年度に神奈川県獣医師会の様式例をホームページに掲載したが、引き続き検討する必要がある。

イ 獣医学生を理解醸成

(ア) 取組

獣医学生を対象に就業環境等の理解醸成を図ることを目的としたセミナーは平成27年度から開始され、平成30年以降はすべての獣医学系大学のご協力を得て毎年開催している。本セミナーは「女性獣医師就業支援に関する学生向けセミナー」と題して開始されたが、参加者のアンケート結果をもとに平成30年度からは「男女ともに獣医師として活躍を続けるためのセミナー」として獣医師が活躍する現場を紹介しつつ、組織・職場としての取組や普段の業務内容と魅力について講演している。

新型コロナウイルス感染症に対応する新しい生活様式が普及しはじめたことから、大学側のご要望に応じ、令和5・6年度も引き続きオンデマンド配信だけでなく、対面開催、オンライン開催及びオンデマンド配信の3つの方式で開催した。令和5年度は、17大学（対面開催8大学、オンライン開催3大学、オンデマンド配信6大学）において、のべ682名が聴講した。令和6年度は、17大学（対面開催10大学、オンライン開催1大学、オンデマンド配信6大学）において、のべ699名が聴講した。セミナーは、大学の要望に合わせてテーマや講師を決めて実施し、参加者が少ない授業時間外の開催のときには、大学の広報と協同してポスターを作成するなど、学生への周知に努めた。

学生アンケートに「ためになった」、「将来を考える良い機会になった」などの感想が多かった。

(イ) 今後の課題

コロナ禍をきっかけとして始まったオンデマンド配信は、学生が各自の都合に合わせて、繰り返し視聴が可能であるというメリットがある一方で、講師としては学生の反応が直接わからずやりにくいといった声があり、やはり対面での開催が望ましいとされた。

本セミナーは、なるべく多くの学生の参加が得られるよう授業・実習の時間内での開催をお願いしているが、時間が1コマ（90分）に限られていることから、講師は2名（2分野）が限界であり、学生によっては自分の興味がある分野を聴講できない問題があった。しかし、令和2～4年度に実施したオンデマンド配信では「興味のある分野すべてを視聴することができた」等のアンケートでの意見があったことから、令和5・6年度は、対面開催を主としつつオンデマンド配信を継続し、学生の希望に合わせたセミナーを行った。引き続き学生のうちから就業環境について考える機会をより積極的に提供することが望まれる。そのために、学生アンケートの分析及び大学の要望を聴取して関心を持っていただき、女性獣医師、男性

獣医師それぞれの目線で紹介するなど工夫が引き続き必要である。

授業時間内での開催が難しく時間外に開催している大学の場合は、聴講する学生数が限られることから、授業時間内での開催に理解を得られるよう引き続き依頼を続けるとともに、大学の担当者に、セミナー開催の理解を高めていただき、さらに、広報の方策を工夫していただく必要がある。

(2) 仕事を続けやすい環境づくり

ア 勤務形態の多様化の促進

(ア) 取組

ライフステージに応じた短時間勤務、ワークシェアリング等の勤務形態の多様化が求められており、この促進に向けては地方獣医師会（以下「地方会」という。）における情報交換しやすい環境づくりが必要である。懇談会等の交流の場を設け、仕事を続けやすい環境づくりの取組みを始めている地方会等、積極的に取り組んでいる地方会の事例を紹介することにより、他の地方会の取組の推進を期待したい。

令和5・6年度は、地方会宛に実施したアンケート調査結果をサイトに掲載し、令和5・6年度に実施したシンポジウム動画、講演スライドもサイトに掲載した。

また、サイト内の人材募集ページを多様な勤務形態を選択して検索できるよう改善し、雇用者の掲載申込フォームを見直した。

(イ) 今後の課題

特に小動物診療分野では、出産、育児等によって雇用条件に対応できず離職を余儀なくされる獣医師が多いことから、雇用者等への理解醸成を図る際に、獣医師と雇用主が相談しやすい体制づくりを雇用者に促すよう、引き続き働きかける必要がある。ワークシェアリング等の導入についてのある程度の基準づくりや適マークの検討とともに、相談体制についても基準に加える等、地方会において具体的な検討を進めることが引き続き望まれる。

現況調査の「仕事上の不安や負担」において、小動物診療分野の「労働時間が長い」、「休暇が取れない」、「仕事と育児、仕事と家事の両立がうまくいかない」といった回答が突出しており、前回調査と比較して、休暇の取得など改善が進んでいるものもある一方、「体力や技術に自信がない」、「収入が少ない」という回答が増えている。「仕事と育児」、「仕事と介護の両立」など制度的には非常に改善されているにもかかわらず、不安や負担に感じるという回答が増えており、改善が進んでいない実態が

明らかとなった。

前回調査と比較して、子育てとの両立など改善されていることが多い一方、「肉体的負担を軽減する作業補助器具等の整備」、「肉体的負担の大きい職務内容の適切な分掌」については、整備されていると感じる人が減っている。これは女性の回答が多かった影響もあるが、再任用や定年延長の男性の回答もあるのではないかと推測され、女性だけでなく男性にとっても課題であると考えられる。全体として、改善されているところと10年経ってもさほど変わっていないところがあった。

公務員やNOSAIなどの組織は、労働基準法や育児介護休業法への対応が早いが、小動物診療分野は、ワーク・ライフ・バランスの確保が難しく、対応が遅れているところが多いため、今の若手はついてこないことが懸念される。一方で、制度を整えるなどの対応が進んだところは、離職が減り、困らず採用もできており、どこまで対応できるかが課題である。

イ 出産休暇・育児休暇が取りやすい環境の整備

(ア) 取組

出産・育児休暇等の制度を職場への支障を最小限として気兼ねなく利用できるようにするためには代替獣医師の確保が必要である。そのための方策として求められた獣医師人材バンクの設立は当面難しいとされており、代替方策として日本獣医師会ホームページの求人情報における検索条件及び掲載申込フォームの見直しについてライフステージに合わせた就業先の検索ができるよう見直し、日本獣医師会ホームページのリニューアルに伴い、「人材募集ページ」における検索条件及び掲載申込フォームの見直しを実施し、検索項目を追加した。また、厚生労働省採用案内ページの項目を新たに追加した。

また、サイトにおいて情報提供を行うとともに相談窓口を設置（日本獣医師会ホームページの相談窓口をそのまま利用）しているが、これまで寄せられた相談は非常に少なく、どのような内容であれば相談して良いのか等がわかりにくいため、躊躇される方が多いことも想定された。

令和5・6年度に、日本獣医師会獣医学術学会年次大会で開催したシンポジウム終了後に、参加者が自由に意見交換できるような情報・交流の機会を設けた。

(イ) 今後の課題

サイトに設置している相談窓口については、より気軽に相談できる親しみやすい窓口として機能するよう見直すことが望ましい。過去の相談内容

を例示して紹介する、他の関係団体や大学等の相談窓口との連携を進める等の検討が引き続き必要である。

地区学会、学会年次大会等多くの獣医師が集まる会場に、相談、人脈作り、就業案内などができる参加者のコミュニケーションの場を設けることについても引き続き検討する必要がある。会場に気軽に入りやすい雰囲気醸成に努める工夫がさらに必要である。

ウ メンタル面のサポート

(ア) 取組

現況調査において、女性獣医師就業支援の整備状況についての回答は、全体としては男女に大きな違いはないが、小動物診療分野の回答における「十分整備・ほぼ整備」の合計割合が全体的に低く、特にメンタル面のサポートが不十分と感じている人が多いことが特徴的であった。

離職理由について、今回の調査で特徴的だったのは、「精神的に疲れる仕事だったから」というメンタル面の理由が前回調査と比較して突出していたことであり、メンタル面のサポートの重要性が明らかになった。

令和6年度に開催したシンポジウムでは、「世代間ギャップと若手の離職問題」についての講演が行われ、多くの参加者が聴講されたことから、関心の高さが伺えた。労働環境が整っているにもかかわらず、離職やメンタル不調者が多い原因として、社会的価値観の変化、労働者としての意識の変化などが挙げられ、世代間ギャップを埋めるために、また、若手の離職を防ぐための取組として、講演ではコミュニケーションの工夫・改善が提案された。講演の内容については、日本獣医師会雑誌第78巻第5号に掲載しているほか、サイトに動画も公開している。

(イ) 今後の課題

今回の現況調査の結果、メンタル面のサポート、ハラスメント対策が新たな課題となった。

地方会がハラスメントは許さないという姿勢を明らかにし、獣医師会の中にハラスメント窓口を設けて、事案が上がってきたときの対応の仕方を決め、会員にアナウンスするなどの対策が必要である。また、地方会自体がハラスメントに関する講習会やセミナーなどをくりかえし開催することが望まれる。

調査結果では、「不安」がキーワードになっており、問題を自分たちで抱え込んでしまっていることが見て取れることから、社内で話をきめ細かく聞けるような機会を設けるなどの対策が望まれる。組織における上司としては本人に立ち入って話を聞きにくいいため対応が難しいところだが、お互

いに話せる機会と聞く機会の創出が必要である。

若手には、初任給調整手当が支給されているが、本給がなかなか上がらない実態があり、「手当」としての初任給調整手当が大幅に上がることにより、中堅よりも若手の給与が高くなるという逆転現象が起り、中堅獣医師のモチベーションが下がって離職するという新たな課題が出てきている。若手だけではなく、中堅のメンタル面のサポートにも対応する必要がある。

10年前と比べて就業対策としての支援の設備は十分整えられているが、休業後に、「知識不足」、「技術や体力に自信がない」など、法整備がしっかり整い休みなどが取りやすくなったことにより、新たに復職後の不安が目立つようになった。不安が高まって精神的に追い詰められて離職してしまうなど、これまでの課題が改善されたうえで出てきた現象は、ハラスメントなどとは異なったフェーズによる新たな課題である。

シンポジウムの中で早期離職の原因のひとつとして「仕事にやりがい、意義を感じない」といったキャリア形成への不安が取り上げられていたが、仕事のやりがいの作り方の提供が望まれる。

(3) 復職しやすい環境づくり

ア 取組

現在、復職支援のプラットフォームとしてサイトを整備し、52地方会、7獣医学系大学及び1関係団体とリンクすることによりアクセス窓口を広げ、復職を希望している女性獣医師へのアプローチを実施している。

離職して獣医師会や大学とのつながりを持たない獣医師に対するアプローチが難しいこと、アプローチするための対策の検討が必要であることが繰り返し指摘されてきた。宮崎県獣医師会では、現在獣医事に従事していない獣医師の情報を得るために会員・非会員を問わず女性獣医師のメールアドレスの把握に努める等、復職を希望している獣医師の把握に向けて活動するとともに、会報でWEBアンケートを実施することで、実態把握に取り組んでいる。このような先進的な取組みを紹介することにより、全国に広げることができれば、将来的には復職を希望している獣医師と求人側とのマッチングに繋がるものと期待される。

また、平成27年度から農林水産省補助事業「獣医療提供体制整備推進総合対策事業」の一環として「女性獣医師等就業支援研修」を実施している。地方会、関係団体、大学に開催情報を伝えて周知を依頼し、日本獣医師会ホームページ、日本獣医師会雑誌及び一部の大学の同窓会誌等に紹介記事を掲載し、広く情報提供を行った。令和5年度は1名の参加があった。令和6年度は申込がなかったが、サイトのeラーニングコンテンツを充実させることにより引き続き復職支援を図った。

さらに、離職中の継続的支援として、獣医師会が気軽に相談を受けられる場、情報をタイムリーに提供できる場となるような工夫が必要とされることが課題として挙げられたことに対し、各地方会の取組状況を令和6年度は地方会名を伏せずにフィードバックした。

イ 今後の課題

いったん離職した獣医師へのアプローチ方法の確立が引き続き重要な課題であり、離職した獣医師が復職等に関する情報を得たいと思ったときに、すぐに獣医師会が思い浮かぶような何らかの方法・仕組みを検討する必要がある。また、地方会、大学との連携によるアプローチ、双方向で連絡を取り合える方策の検討等可能なところから実施してみることも必要である。若手獣医師の情報収集方法が、ホームページや SNS を活用することが多い傾向にある中で、獣医師会においては、気軽に相談を受けられる場、情報をタイムリーに提供できる場となるよう、さらに工夫が必要である。

サイトにアクセスしやすくするためにリンクを広げる取組について、システムの困難である地方会や男女共同参画に関するページがない、獣医学系大学で獣医学科に特化したページがない等の事情がある場合を除き、ほぼ対応できているが、さらに個別の困難要因となる事情の解消について、可能なところから実施していただく必要がある。

(4) 情報プラットフォームの充実

ア 取組

平成28年に構築したサイトは幅広い情報を提供しており、会員・非会員を問わずに閲覧できる重要なプラットフォームである。

令和5年度は11回、令和6年度は17回更新し、地方会及び獣医学系大学における女性獣医師活躍推進のための調査結果を公表したほか、サイトの充実を図るため、以下の更新を行った。

(ア) ロールモデルの充実

獣医学生が将来の進路を検討する際、転職や復職を考える際に、各分野の業務の内容、就業の実態等について知ることができるよう、各分野におけるロールモデルを掲載している。令和5年に開催したシンポジウム参加者から公衆衛生分野のロールモデルが少ない等の意見があり、令和6年6月に公衆衛生分野公務員（厚生労働省）3名に依頼し、追加した。

(イ) eラーニングコンテンツの作成・更新

a 「ネットで力だめし、獣医師国家試験に挑戦！！」の掲載

令和7年5月現在、第64回（平成24年度）～第76回（令和6年度）の計13回分の獣医師国家試験問題を掲載している。

これまでの年度別掲載では各年度ランダムに出題される形式であったが、月別の閲覧数で国家試験前の閲覧数が顕著に多いことから、令和4年1月から国家試験対策として利用している獣医学生向けに、問題別（必須・A・B問題）の掲載を開始しており、令和5～6年度も引き続き掲載を行った。

b 獣医師生涯研修事業 Q&A

令和5～6年度に、産業動物7件、小動物13件、公衆衛生6件のQ&Aを追加掲載した。

c 女性獣医師の職場の実態や働き方の紹介

女性獣医師活躍推進に係るシンポジウムの動画、資料については、平成27年度からサイトに掲載している。令和5年度にはスライド資料を、令和6年度には動画、スライド資料を追加掲載した。

d 世界獣医師会（WVA）の生涯研修教材

「世界獣医師会（WVA）生涯研修教材」の日本語によるサイト案内「無料コースの活用とコンテンツ紹介」（利用方法）を掲載し、eラーニング教材として利用できるよう情報提供している。

イ 今後の課題

獣医師国家試験の解答の解説を掲載することが提案され課題として残っているが、どこまで詳しくどの水準で解説するのか等が難しく、問題数も多いことから、実施体制の整備等について引き続き慎重に検討する必要がある。

獣医師サイトをより多くの方に活用していただくために、引き続き地方会、獣医学系大学ホームページとのリンクを進めていくとともに、関係団体等においても幅広くリンクをしていただけるよう、検討し、依頼を進める必要がある。

（5）獣医学系大学における女性教員数等の調査

ア 取組

獣医学系大学の女性教員数等に関する調査は平成30年度から実施し、女性獣医師の活躍推進・男女共同参画の取組みに関する調査は令和2年度から実

施している。

令和6年度の女性獣医師数等に関する調査においては、5年度と比較して、教授が+3名（+1.5%）、准教授が±0名（+0.7%）、講師+8名（-2.6%）、助教・助手が+1名（+2.4%）であり、総数は+12名（+1.2%）であった。平成30年度と比較すると、教授が+9名、准教授が+20名、講師が+9名、助教・助手が+9名で、総数は+47名であった。

また、令和6年度の獣医学生数は、男子学生2,827名（41.1%）、女子学生4,054名（58.9%）であり、調査を開始した平成30年度（男子学生47.8%、女子学生52.2%）と比較して女子学生の割合が6.7ポイント増加している。

令和5・6年度の調査結果の概要をサイトに公表し、具体例を大学名は伏してフィードバックした。調査結果は、調査依頼窓口だけでなく、大学の男女共同参画担当部署へもお知らせいただくよう依頼し、男女共同参画の推進窓口となる組織構築の推進等取組の強化を行った。

イ 今後の課題

調査の結果、全体的に女性教員が増加しており、各大学における取組が進んでいることが伺えた。男女共同参画のプロジェクトに採択されたことで獣医学科に女性教員が配属された大学があることから、こうした事例を参考に、まだ男女共同参画の取組を行っていない大学において、ワーキンググループ、推進委員会等を設置し、取組が進むことを期待したい。

令和5・6年度は、調査結果を調査依頼窓口だけでなく、獣医学分野における現状を大学全体に周知していただく対策として、各大学の男女共同参画室等へもお知らせいただくよう依頼したが、各大学の具体的な回答内容は大学名を伏してフィードバックした。今後は、大学名を伏せずにフィードバックすることを大学に依頼することにより、他大学の状況把握や情報交換等の参考にされることを期待したい。

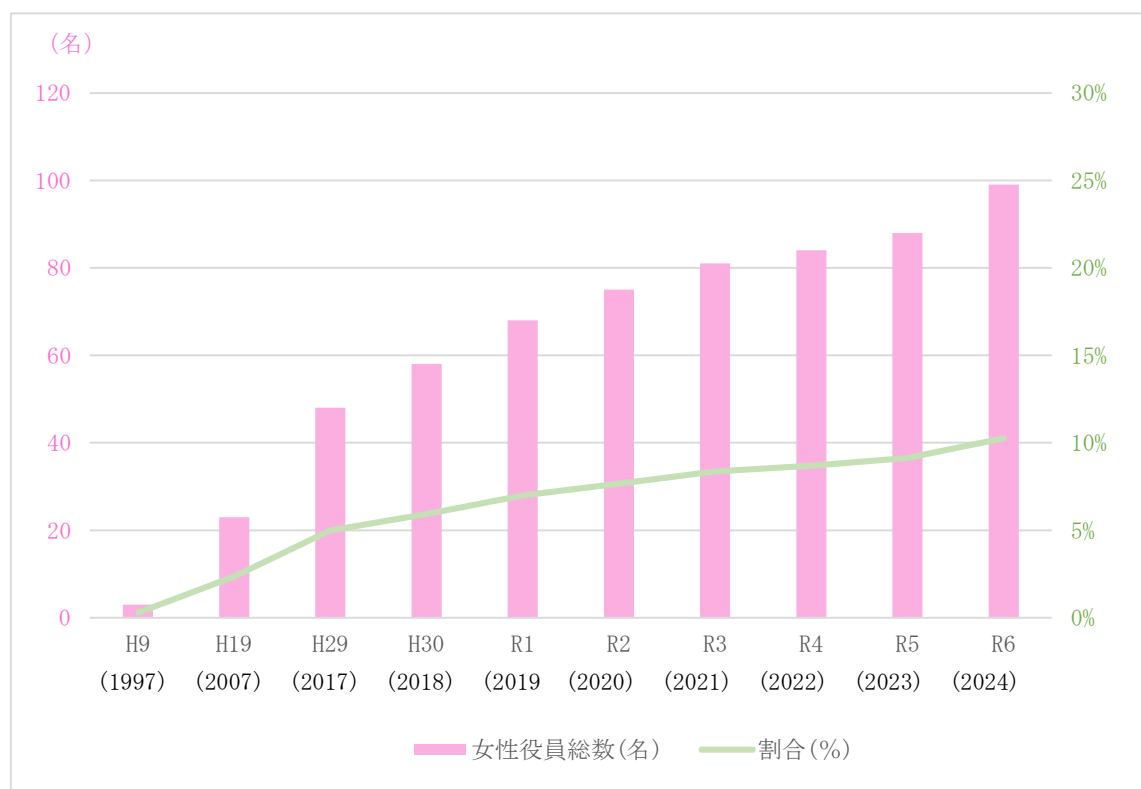
（6）ポジティブアクションの推進（目標の設定）

ア 取組

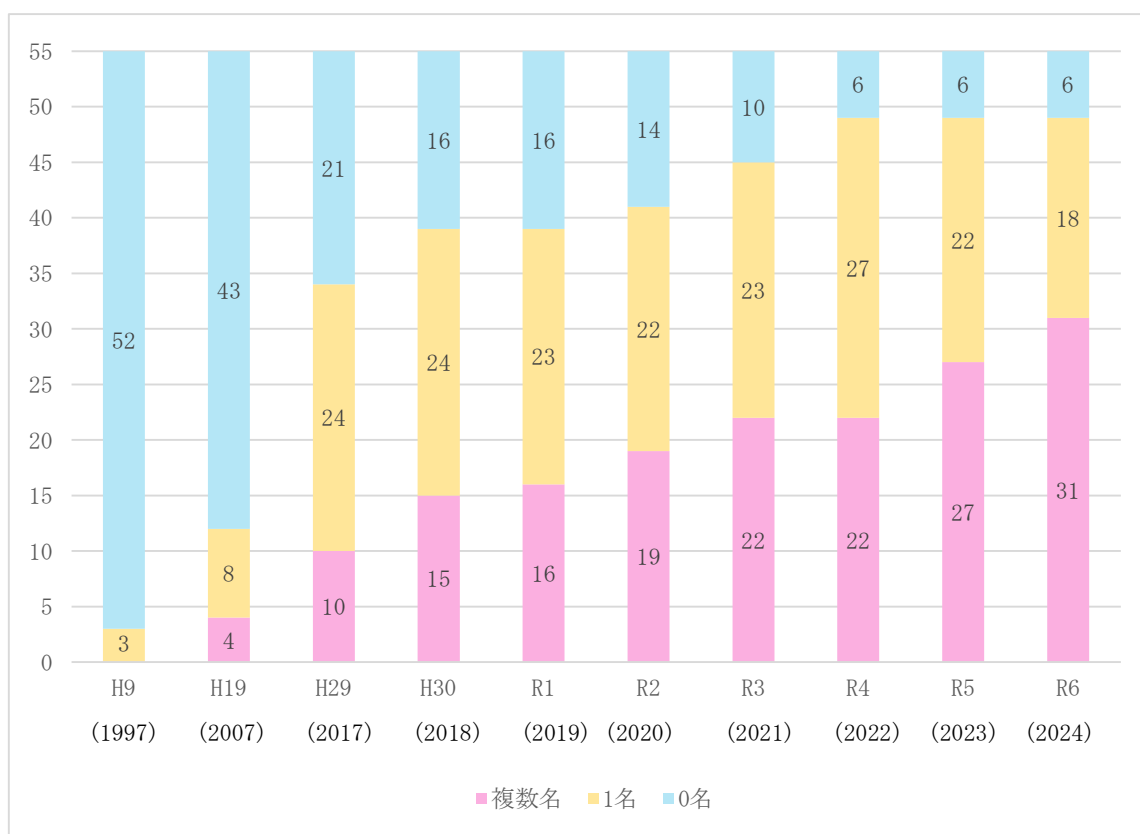
平成29年に設定された「現在女性役員がいない地方獣医師会は、1名は女性とすることを、また既に女性役員がいる地方獣医師会は複数名とすることを、2020年頃を目途にめざす（2020年目標）」については、女性役員が1名以上就任している地方会は令和2年の41から令和6年には49に、複数名就任している地方会は令和2年の19から令和6年には31に増加したが、女性役員がいない地方会が6（茨城県、岐阜県、三重県、京都市、神戸市、北九州市）あり、未だ目標は達成できていない。

令和元年に設定された目標は「2030年までに、獣医師会の女性役員を30%以上に、女性の獣医師会加入率を男性と同じにすることをめざす（2030年目標）」であり、女性役員数は令和2年度75名（7.7%）から令和6年度99名（10.3%）と徐々に増加しているが、獣医師会への加入率は令和4年度男性71%、女性40%となり、平成30年度（男性76%、女性44%）より男女ともに低下し、男女差は変わらなかった。

女性会員が少ない理由としては、夫婦がともに獣医師である場合に会費等の重複を避けるため女性が入会しないこと、出産・育児等により退職した時に獣医師会も退会してしまうこと等があげられた。そのため、休会制度を設けて会費を免除することによって退会を防ぐ地方獣医師会の取組に呼応し、日本獣医師会も対応するよう委員会からくり返し要請してきたところ、令和4年度通常総会において休会会員の日本獣医師会費が免除されることが決まった。休会制度を設けている地方会は徐々に増加しており（令和5年6月：18地方会→令和6年6月：20地方会）、日本獣医師会の決定を受けて、今後さらに増加し、退会者の減少につながることを期待される。



女性役員数と割合の変化



地方獣医師会における女性役員就任数の推移

イ 今後の課題

2030年に目標としている女性役員30%を達成するためには、各地方会で女性役員が5名以上となる必要がある。この目標は強制力がないことから、地方会毎の事情による対応の差が生じやすい。このため、日本獣医師会によるより強い働きかけが求められる。地方会の中には、会長の意向で役員に女性枠を設けた地方会（宮崎県他）もある中、女性枠の設置について継続的に提案、要請することが必要である。

役員は開業部会から選出すると決められている地方会においては、役員候補者となる女性獣医師の絶対数が少ないため、どうしても女性役員が増えない等、地方会ごとの事情があり一気に改善することは難しいが、令和6年度からは、積極的に取組を進めている地方会の様子がわかるように、調査結果を地方会名を伏せずに各地方会へフィードバックすることとした。このことにより波及的に取組が進むことを期待したい。

(7) 地方獣医師会の定期アンケートと取組状況の紹介

ア 取組

地方会における女性獣医師活躍推進の取組について、令和5年度及び令和

6 年度も引き続き調査を実施し、調査結果をサイトに掲載した。

調査結果から次のような取組が紹介された。

(ア) 女性獣医師に関する委員会を設置し、

- a 講師を招き、先進的な取組事例の研修会の開催（意識の醸成・啓発）
- b 年 2 回委員会を開催し、女性の参加促進・活躍に向けた課題を検討
- c 異業種で活躍している女性を講師として招き、先進的な取組事例の研修会を開催
- d 会員相互、管理職を交えた意見交換会
- e 女性獣医師会委員等の就労環境調査
- f 女性獣医師交流会（女性講師による研修会）の開催
- g 会員向けに男女を問わず意見を集め、県内の獣医師会広報誌に掲載

を実施している。

(イ) ハラスメント相談窓口、獣医療問題等相談対応弁護士を設置している。

(ウ) 女性理事を会長特任として新設した。

調査結果のうち自由記載の詳細な内容や具体的な地方会名等は、これまでは、委員会での検討にだけ使用され各地方会にはフィードバックされていなかったが、令和 5 年度からは、地方会あて結果報告時に、記載された具体的な取組事例等の内容も報告し、令和 6 年度は、地方会名を伏さずに結果報告を行った。

本委員会の委員である地方会役員が働きかけることによって、初めて女性獣医師に関連した委員会の設置について検討が開始された地方会もあり、女性獣医師の活躍推進には地方獣医師会（特に役員）の理解が必要であることが再認識された。

また、本委員会委員が役員に就任していない地方会では、本調査を実施していることの認知及び結果の周知が不十分である可能性が指摘された。

イ 今後の課題

今後も継続的に調査を実施して公表することが重要であり、調査結果は地方会名を伏せずに各地方会へフィードバックすることが必要である。地方会事務局担当者が個人的に回答することのないよう、該当する委員会等において検討した上で回答するよう改めて働きかける必要がある。また、結果がフィードバックされたら、役員、関係する委員会はじめ広く会員にも周知していただくよう依頼する必要がある。特に、本委員会委員が役員に就任してい

ない地方会には日本獣医師会がより積極的にわかりやすく働きかける必要がある。

（８）日本獣医師会ロゴマーク等の活用

ア 取組

令和元年に、会員構成獣医師としての社会的な使命の自覚、誇りを共有し、組織基盤強化（加入促進）にも繋がることを期待して、日本獣医師会ロゴマークの名刺への印刷と日本獣医師会のバッジの着用を推奨することが提案された。

あまり取組みが進んでいないことから、継続するか否かを検討し、ロゴマークが掲載された会員証を会員の動物病院に配布し飼い主の目につきやすい受付等に掲示することを推奨している事例（宮城県）等が紹介され、継続することとした。

令和６年度の地方会へのアンケート調査では、日本獣医師会ロゴマークの活用状況に関する設問について、委員会での協議を踏まえ、今後の活用方法を問うような文言に変えて行った結果、以下のような事例があった。

（ア）印刷物への活用

名刺、封筒、総会議案書、会報、マスク（コロナ流行時期に県獣で作製）

（イ）総会開催時に日獣会旗を掲示

（ウ）地方会の会員証プレートを作成し小動物診療施設に配布、掲示依頼

（エ）インタビューボードに使用（ZOOMの背景など）

（オ）会から発出する発行物にはすべて使用

一方、「日獣ロゴの活用と女性獣医師活躍推進の関連がよくわからない」、「地方会や地方会の会員として日獣ロゴを活用する機会が少ない」といった意見もあった。

イ 今後の課題

ロゴマークの活用については、会員構成獣医師による名刺への使用推進についての事務連絡が発出されている（令和元年7月12日）。日本獣医師会のホームページを改修する際にロゴマークを活用しやすくする（会員が名刺等に印刷しやすくする）等ロゴマークの活用についてより取り組みやすいよう工夫や検討が必要である。

（９）積極的な情報の発信

ア 取組

日本獣医師会の本委員会における検討や取組の内容、全国の地方会の具体的な取組事例等をより積極的にわかりやすく発信することが望ましいとされた。すでに会報への関連記事の掲載等を実施している地方会（宮崎県）もある。そのため、委員が順番に担当して日本獣医師会雑誌に関連記事の連載を開始し、第75巻第11号（2022年11月号）から第77巻第6号（2024年6月号）まで連載して、情報の発信を行った。ここで一旦連載は中断し、地方会へのアンケート調査結果報告を掲載することとされた。

また、出身大学の同窓会誌等への関連記事の投稿・寄稿を開始した。

イ 今後の課題

本委員会における検討や取組内容等をきめ細かく伝えるため、引き続き積極的な情報発信が望まれる。

(10) ハラスメント対策とメンタルサポートの必要性

ア 取組

2024年（令和6年）に獣医師の就業環境等に関する現況調査を10年振りに行った。今回の調査では、10年前の調査と比較して、「仕事と育児」、「仕事と介護の両立」などにおいて制度的に非常に改善されたにも関わらず、不安や負担に感じる人が増えているといった、10年前と比較して新たな課題が浮き彫りになった。調査において、離職の理由として「精神的に疲れる仕事だから」という理由が前回より大幅に増え、メンタル面のサポートが、離職防止の観点からも重要性を増している。すべての獣医師が長く働き続けるための働き方改革や職場の体制整備を進めていく中で、メンタル面のサポートやハラスメント防止など、職場環境の向上が重要である。

具体的な取組事例として、宮城県では、組織内や往診先でのハラスメントが原因で NOSAI の若い産業動物獣医師が一気に辞めることが続いたことを受け、「獣医師の働き方改革に取組む委員会」を作って現場の状況をしっかり把握し、まずはハラスメント対策から検討することを予定している。NOSAI 宮崎では、ハラスメント窓口を創設したことにより、表には出てこないハラスメントの実情を把握できるという利点の反面、強い言い分が反映されがちで事実とは異なる事案が提出されることもあるといったハラスメント窓口での受け方、運用の仕方を検討する必要性が浮かび上がっている。

イ 今後の課題

「仕事と育児」及び「仕事と家事」の両立は、職域によって差があることから、特に臨床現場における働き方改革が必要である。女性獣医師の就業支援の整備状況では、男女による認識の違いがあり、職場全体としての共通認

識の醸成が望まれる。産休・育休の代替職員の確保も課題であり、制度の整備、人員確保が必要である。

メンタル面のサポートや相談窓口の整備など、ソフト面の支援策が求められ、小動物診療分野など、事業所単位が小さく対応が個別になる職域への対応についてサポートが必要である。

地方会宛ての調査票の中で、女性獣医師の相談を受ける仕組みを問う設問で相談窓口の設置等をしている場合には、今後は具体的な内容の記載を依頼する文言を追記し、ハラスメント対策の検討に資する。

4 おわりに

今回、獣医師全体の就業状況、女性の就業支援などについて実態を把握するため、「獣医師の就業環境等に関する現況調査」を実施した。初めて実施した約10年前とは社会情勢や獣医師の環境が大きく変化したことから回答内容にも変化が見られ、今後、日本獣医師会でさまざまな取組みを進めていくための参考となった。

また、仕事や収入面で不安を抱えている人が前回の調査より増えたり、代替職員の確保をはじめとした女性の就業支援の整備が不十分であるという声が多くあった。さらに離職理由で「精神的に疲れる仕事だったから」というメンタル面の理由が10年前と比べて突出していることから、背景にあるハラスメント対策やメンタル面のサポートやケアがいっそう強く求められる。

これらのことから、地方獣医師会等によるハラスメントに関する講習会やセミナーなどが積極的に開催されることを期待したい。さらに優良事例や先進的な取組みを紹介することにより、さらに推進していくことと考える。

平成29年に設定された目標の一部である「現在女性役員がいない地方獣医師会は1名は女性とすること」に対し、女性役員がいない地方獣医師会は6地方会あり、未だ達成されていないことから、地方会名を公表した。このような取組みにより地方獣医師会すべてにおいて女性役員就任に向けて取組が加速していくことを期待したい。

さらに、女性獣医師の加入率を男性と同じにすることも目標としているが、令和4年度は、男女ともに加入率は平成30年度よりも低下した。今後においては、会員の加入に向けた先進的な取組の紹介や情報発信のあり方の改善、産休・育休取得者に対する休会制度の設置、短時間勤務やワークシェアリングの情報提供など本委員会で検討されてきた事柄をさらに具体化していくことにより、退会者の減少に歯止めをかけていきたい。

このように、日本獣医師会会員の就業状況は男女を問わず、厳しい状況であるが、「女性獣医師が活躍する職場は、男性獣医師を含むすべての獣医師が活躍できる職場である」という理念の下、この女性獣医師活躍推進委員会をさらに発展させていきたい。

女性獣医師活躍推進委員会 委員名簿

(敬称略・五十音順)

委員長 白岩利恵子 岩手県獣医師会理事
(一般社団法人岩手県獣医師会食鳥検査センター所長)

副委員長 川手日出子 全国家畜衛生職員会専務理事兼事務局長

伊藤 教子 千葉県獣医師会副会長
(千葉県東総食肉衛生検査所次長)

井上 麻里 北海道農業共済組合オホーツク統括センター家畜部損防グループ係長

上松 瑞穂 宮崎県農業共済組合生産獣医療センター長

岡松 優子 北海道大学獣医学研究院獣医学部門基礎獣医科学分野教授

甲斐みちの 岡山県獣医師会副会長 (やさか動物病院)

竹村 裕子 滋賀県獣医師会副会長

大門由美子 福井県獣医師会副会長 (大門動物病院副院長)

松田 悦子 宮城県獣医師会副会長
(宮城県畜産協会事務局長兼価格安定課長)

オブザーバー

佐藤れえ子 日本獣医会理事 (岩手大学名誉教授)

日獣シンポⅡ－1

【基調講演】わが国における獣医師の現状と課題

○大倉尚子

農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課

前回（H29（2017）年12月）に、「女性獣医師をめぐる情勢」というテーマでお話ししました。当時、獣医事に従事する女性獣医師の割合は約29.6%、無職の女性獣医師は約7%でした。女性獣医師の増加が見込まれるということで、女性獣医師の復職に向けたスキルアップ、雇用者の理解醸成、活躍する女性獣医師に関する情報提供に取り組んできました。

それから約10年、獣医事に従事する女性獣医師の割合は、36.0%になり、特に20代では54.9%が女性獣医師になりました。また、獣医師法第22条の届出のあった女性獣医師のうち、無職の女性獣医師は、約7%から約4.6%に

減少しました。

女性獣医師の割合は、各職域、各地域で増加していますが、その状況はそれぞれ異なっています。また、獣医師全体の年齢分布にも地域特性があるようです。

今回は、獣医師法第22条の届出等のデータからわが国の獣医師の現状を共有し、時代に合わせた就業環境の変化について取り上げたいと思います。農林水産省では、引き続き女性獣医師をはじめとした獣医師の復職に向けたスキルアップ等に取り組んでいるところであり、獣医療提供体制整備に向けた支援等について紹介します。

日獣シンポⅡ－2

改正育児・介護休業法からみる動物診療施設におけるワーク・ライフ・バランス実現への道

○松岡友美

ひめじ人事労務コンサルティング

日本の育児休業取得率（2021年）は、男性13.97%、女性85.1%である。特に男性では取得を希望する男性が約8割にのぼるにも関わらず、実際の取得が進んでいない状況が見受けられ、希望と現実の乖離が生じている。更に、人手不足はここ数年顕著であり、その原因は生産年齢人口の減少にある。そのため新卒採用、中途採用が希望通りに進まない可能性が高い。このような状況から、現在施設で勤務する職員の離職を防ぎ、またワーク・ライフ・バランスの実現のために獣医師、動物看護師、補助スタッフ、全ての職員が育児休業の取得、復帰をしながら勤務し続けることができる職場環境づくりが必須となっている反面、育児休業取得における課題としては、代替要員の確保、男性自身に育児休業取得の意識がないなどの課題がある。

上記のような背景より、更なる育児休業取得の推進を目指して令和4年4月、10月の2回に分けて育児・介護休業法の大幅な法改正が行われた。育児休業は、原則1歳になるまでの子どもを育てる男女労働者が取得することが可能であり、改正により、これまで子ども1人につき1回のみしか取得できなかったが、2回まで分割して取得が可能となった。また、契約社員などの有期契約労働者も条件によっては取得可能である。更に、核家族化が進む中、両親が協力して子どもを育てられるよう、令和4年10月から「産後パパ育休」という制度が制定された。これは育児休業とは別に女性の産後休業の期間中に4週間まで取得することが可能な休業の制度である。このような制度設計により、父親と母親が休業を交替しながら育児をし、キャリア形成も育みながらワーク・ライフ・バランスを実現することが可能となった。しかしながら、制度設計だけでは育児休業の取得が進まない可能性がある。育児休業の制度変更に先駆けて、令和4年4月から事業所の義務として妊娠・出産を申し出た労働者への個別の周知・意向確認が義務化された。育児休業は労働者の権利であるが、労働者側の権利行使だけでなく事業所側からも制度の周知や休業の意向確認を行うことで、お互いの齟齬をなくす目的がある。周知事項は①育児休業・産後パパ育休に関する制度②育児休業・産後パパ育休の申し出先③育児休業給付に関すること④労働者が育児休業・産後パパ育休期間について負担すべき社会保険料の取り扱いの4項目であり、面談、書面交付等の

方法により行わなければならない。更に、育児休業の取得がしやすい雇用環境整備を実施することが令和4年4月から明記され、①育児休業・産後パパ育休に関する研修の実施②育児休業・産後パパ育休に関する相談体制の整備等（相談窓口設置）③自社の労働者の育児休業・産後パパ育休取得事例の収集・提供④自社の労働者へ育児休業・産後パパ育休制度と育児休業取得促進に関する方針の周知の4つの取り組みのうち、最低1つ以上実施をしないことはならないこととなった。以上の法律改正により、経営者、職員同士の世代間ギャップから育児休業取得による不利益取り扱いやマタニティハラスメントが起こるリスクが上がっている。不利益取り扱いについては法律上禁止し、マタニティハラスメントについては防止措置を事業所に義務付けることでリスクマネジメントすることとなっている。なお、育児・介護休業法以外でも、子の看護休暇制度、時間外労働の制限、短時間勤務等の措置など、ワーク・ライフ・バランスを実現するための法整備がされている。

法律の改正により、事業所では多くの取り組みを実施しなくなってきた。また、インターネットの普及により皆が情報を取得しやすい環境にある中、「知らなかった」では済まされることが多くなっている現状もある。このような中で講演者が最も大切だと考えるのは「職場の風土づくり」である。経営者はまず、どのような施設づくりをしたいのか方針を明確にしなければならない。そのためには、現場で働いている職員を見て、労働時間や休暇の取得状況、職員が働くことについてどのようなニーズがあるのかを把握する必要がある。中小企業だから大企業とは違うという声はよく聞くが、法律については大企業も中小企業も関係なく適用されるため、大企業の事例や同業他社の事例などの収集より実行可能なことを検討することも重要であるといえる。また、小規模の施設で多い傾向にあるが、子育て中の職員と子育てしていない職員との間で労働時間の考え方に対するギャップが生まれ、人間関係に支障が生じることがある。そのようなことが起こらないようにするために、業務の洗い出しを行い、全員で業務を円滑に行うために経営者、管理者だけでなく職員全員を巻き込んで検討していく工夫や、時間帯や曜日に対する賃金改善（処遇改善）、パートタイマーの活用においてシフト調整を行っていくこと

が必要といえる。また、育児休業を取得するにあたっては、代替要員の確保が一番の課題となる。その対策としても前述の業務の洗い出しによる業務効率化や、契約社員やパートタイマーの活用が必要といえる。

ただし、経営者だけでは職場の風土づくりは進まない。施設で働く職員自身がどのような心構えで仕事に取り組むべきであろうか。育児休業取得者の業務を引き継ぐ職員、その他の職員においては、「自分自身も次は育児休業を取得するかもしれない」「病気で入院して長期で仕事を休むことになるかもしれない」というお互い様の心をもつことと、「仕事を引き継ぐことでスキルアップにつながる」と前向きに考えられるように、ミーティングや面談等でのコミュニケーションが必要である。また、育児休業取得者は、「休業取得は労働者の権利だから当たり前」と思うのではなく、休業による自分の業務の穴埋めを周囲がしてくれるのだから時間・期間の余裕をもって周囲に相談をすること、休業前の引き継ぎが滞りなく行えるように配慮すること、職場復帰後も周囲への感謝と配慮を忘れずに仕事に取り組むことが必要である。このような心構えを経営者、管理者を筆頭に、働く職員全員でもてる職場風土づくりには、「ミーティング」「面談」

「職員研修」の意識づけのしかけが必須となる。限られた労働時間の中で職場風土をつくるために何から実施すべきかは施設によって異なるかもしれない。業務のことだけを話していた朝礼の中に職員の一言スピーチを取り入れる、マニュアルのなかった業務について業務マニュアルを作成する、ミーティングで研修動画を全員で視聴するなど、本講演をきっかけに何か1つ具体的に実践していただき、ワーク・ライフ・バランス実現のための職場の風土づくりを進めていただけることを望んでいる。

出典：

①総務省HP

情報通信白書 令和4年版 第1部 特集 情報通信
白書刊行から50年～ICTとデジタル経済の変遷～

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r04/html/nd121110.html>

②厚生労働省HP

イクメンプロジェクト ダウンロードコーナー 職場
内研修用資料

<https://ikumen-project.mhlw.go.jp/company/training/#powerpoint>

日獣シンポⅡ－3

公益社団法人宮城県獣医師会における女性獣医師支援対策ワーキンググループの活動状況

○渡邊 文

公益社団法人宮城県獣医師会理事、シートン動物病院院長

【はじめに】

平成25年6月に閣議決定された「日本再興戦略」において、輝く日本を構築するための政策が掲げられ、その中に「女性が活躍できる環境整備を推進する」とされた。日本獣医師会では女性獣医師がより働きやすい環境づくりのため女性獣医師活躍推進委員会を設置し、様々な取り組みを実施してきている。

【宮城県獣医師会の現況】

宮城県獣医師会の女性会員は、平成15年4月1日では会員数444名中、女性獣医師は50名でその割合は、11%であったが、令和5年4月1日現在、会員数369名中73名と、割合は20年間で約20%とほぼ倍増している。そのためもあり令和5年6月1日現在役員には3名（副会長1名・理事2名）が就任している。しかしながら、勤務女性獣医師の中には、結婚や子育て育児を理由にした退会、夫婦が獣医師である場合、一方は入会していないことが多く、未加入者が多いことが課題となっている。また、最近の獣医学部の女性比率が60%超えの状況からも本会の男女共同参画社会化が必要とされていた。

【女性獣医師のためのワーキンググループ】

本会では、日本獣医師会での女性獣医師支援の動きや東北地区では以前から、女性獣医師の就労機会が多い宮城県の女性獣医師の就労環境改善を図る目的で、平成30年に5名の女性獣医師（開業2名・公務員2名・NOSAI1名）＋相談役3名で女性獣医師支援対策ワーキンググループを発足させた。

発足の契機となったのは、当会の理事や諸先輩との会話の中で、若い働く獣医師が少ない、もっと女性が働きやすい職場にすべきとの意見をもらっていた事である。

実際、現在では獣医系大学の学生の半数は女性である。これまでは産休・育休制度が整備された公務員等を除けば、大小動物にかかわらず開業の臨床現場では、産休取得もままならず、家族や複数のベビーシッターの力を借りてなんとか乗り切ってきたというのが多くの現実である。このような状況を後輩獣医師にさせないためにとの思いで、このワーキンググループを立ち上げ、以後、次のような活動を行ってきた。

【アンケート調査の実施】

- 1 目的；本会の女性獣医師が各職場で置かれている状況を把握する。
- 2 対象；県内在住の女性獣医師
※非会員へは連絡先等の把握が困難であったため未実施（今後の課題）
- 3 結果；日本獣医師会が実施したアンケート結果と共通点が多かった。

- ① 公務員・産業動物臨床獣医師の不足
- ② 育児休暇等の制度的就労環境は整備されているが、権利行使が困難
- ③ 妊娠中及び育児と仕事との両立に対する不安
- ④ 産休・育休中の職場への負担・復帰後の技能低下
- ⑤ 臨床分野における長時間労働
- ⑥ 育児休業・介護休暇の整備 等

4 宮城県獣医師会への要望；

- ① 産休・育休等長期休業中の有期労働の臨時代替職員の確保（代替職員制度）
- ② 代替獣医師登録制度や開業獣医師間の地域ネットワークの構築
- ③ 知識・技術の習得機会や講習会参加時の託児所等の設置
- ④ 他職域の女性獣医師との情報交換の場の設置
- ⑤ 育休等期間中の獣医師会費の減額と学生等の個人準会員制度の創設

5 その他

- ① 令和4年度東北地区獣医師大会（岩手県獣医師会主催）において、本会から日本獣医師会に対し要望した「産業動物診療獣医師・公務員獣医師の確保対策」の内容にグループの意見を反映させた。
- ② 令和5年度東北地区学会の会場における「女性獣医師の広場」の設置
他県や環境の異なる女性獣医師との情報交換を行い、交流を深められたと好評であった。運営の仕方は今後さらに工夫が必要だが、継続することによりよい情報交換・共有の場としたい。

我が国の20～30代の女性獣医師は全獣医師の半数を占めており（農林水産省調査、令和2年2月）、従来の「女性獣医師が珍しい時代」の就業形態では立ちゆかなくなると考えられ、女性の家庭及び就労環境の課題を解決し

ていく必要がある。他方、アンケートで明確となった就労の課題は、女性に限らず獣医師全体に当てはまるものも多数見受けられた。

【研修会等の開催】

アンケート実施後、日本獣医師会の女性獣医師活躍推進委員会概要について報告を受け、意見交換を行った。

① 勤務獣医師の中では、労働者を取り巻く法律を理解できていない。

② 動物病院によっては就業規則が定められていない。などの意見が出されたため、令和5年2月に労働者に係る法律等を習得するため、オンラインでの研修会を開催した。

講師；社会保険労務士

テーマ；「女性が働き続けるために知っておきたい法律」

項目；ワーク・ライフ・バランス、男女雇用機会均等法、労働基準法関連、育児・介護休業法、労働施策総合推進法及び働く女性のセーフティネット等

概要；身近で幅広い内容のため、参加された会員から多くの質問が出され、大変有意義な講習会となった。

【今後の活動】

令和5年度は、宮城県獣医師会に女性理事がさらに1名増員された。これは、男女会員の意識が少しずつ変化していることと、長年の厳しい環境下で獣医師として業務を続けてこられた女性獣医師が活動に参加できる、参加しようという意識が醸成されつつあるためだと思う。

1 ワーキンググループを、本会の正式な委員会に昇格させ、より活動の幅を広げる。

2 SNSを活用した情報発信体制の構築

特に、現在、獣医師業務から離れている女性獣医師及び若い獣医師に情報が届けられる体制を作るた

め、まずはFacebookへの情報掲載を始めた。

3 (公社)日本獣医師会ホームページの「女性獣医師応援ポータルサイト」の周知と、必要に応じて宮城県獣医師会会員が相談役の一端を担う。

4 学会等開催時に、コミュニケーションの場所を設置し情報共有を図る。

そして、簡単に離職をする獣医師の方々の考えや抱えている問題などを知ることができれば、今後の会の活動の大きな参考になると期待している。

また、今年度内には、職場環境改善にむけた研修会を開催したい。コロナ感染も新たな段階を迎え、今後は、直接お会いしての意見交換の場も設定していく。

【最後に】

メンバーの中には、「子育てをしながら小動物病院を経営し、時には診察台の下で遊ばせながら、また子供が病気の際は親・知人・ベビーシッターなど様々な方にお世話になりながら仕事をしてきた。振り返ると家事・子育て等に関しては女性への負担が大きいものであった。現在は社会的支援や夫婦間の協力体制は隔世の感があるが、社会的サポートは決して十分なものとは思われない」との意見も寄せられている。

今般のグループが実施したアンケートにより女性獣医師が置かれた状況を把握できたことで、今後も女性獣医師の就労環境等の改善に向けた活動を行い、これから夢を抱いた若い世代の全ての獣医師が充実した仕事に就けるよう活動を継続して行きたいと考えている。

また、日本獣医師会ホームページにも、今回のアンケートに応えられるコンテンツが用意されていることを広く会員に知らせ活用を図っていききたい。

最後にこの活動をとおして、魅力ある獣医師会として未加入の皆さまにもご賛同いただけるような活動を行っていききたいと思う。

日獣シンポⅡ－4

宮崎県獣医師会におけるすべての獣医師が活躍できる環境作りについて

○上松瑞穂

NOSAI宮崎生産獣医療センター、宮崎県獣医師会女性獣医師委員会

宮崎県獣医師会では、2021年度より女性理事枠や女性獣医師委員会の設置などのアファーマティブアクションを進めてきた。宮崎県において、獣医師法第22条による獣医師の届け出総数は695名であるが県獣医師会の会員数は608名（87.5%）であり、獣医師会とは獣医師の会なのだからジェンダーや年代に関係なく獣医師のための活動「獣医師の働きやすさに関する情報の収集と発信」をしていくということが女性獣医師委員会の一つの活動目標となった。また、獣医事に従事していない方は87名であったが、30代以上の女性では約3割と男性と比較して多かった。このことから獣医事に従事しておらず、非会員である獣医師の意見を聴くことはすべての獣医師が活躍できる環境作りのためには必要なのではなかとの結論に至り、「情報発信の対象を非会員に広げるための取組」を行っていくこととなった。

2022年8月に県内の獣医師向けアンケート調査を行うに際しては、スマートフォンからQRコードを読み取るだけで回答できるように工夫して行い、247名からの回答を得た。結果として、獣医師の活躍推進をするために必要な取り組みとして、男女ともに必要とされたのが「相談窓口の設置」（94.7%）、「獣医師人材バンクの設置」（89.5%）、「復職支援研修等の開催」（89.1%）であった。また、それぞれの職場における獣医師の確保状況については、明らかに不足している（40.0%）、どちらかというところ不足している（32.1%）であり約7割の職場において獣医師の不足が実感されており、宮崎県獣医師会が人材バンクを設置した場合の利用としては約4割で求人側と

して利用したいとの回答であった。調査結果については、『宮崎県獣医師会だより』とともに日本獣医師会誌76号121-123(2023)に掲載した。宮崎県獣医師会のホームページは、結果に対応するように2023年度より大きく変更された。

2023年10月より獣医師の本音を聴くためのオープンチャットを開始した。前回のアンケート調査の結果、小動物臨床分野と公務員での調査が不十分であるとともに、現在獣医事に従事していない獣医師の声についても聴くことが大切だという観点で実施した。オープンチャットは、匿名で関心事に対して意見を率直に述べることができる仕組みであり、女性獣医師委員会のメンバーが管理運営者となりオープンチャットに参加している。オープンチャットの入り口は、小動物獣医師と愛玩動物看護師を一つのカテゴリーとし、産業動物獣医師と公務員を一つのカテゴリーに分けて、それぞれ、職場を辞めたい理由、職場が好きな理由を呟けるように仕組んだ。現在進行中の調査である（2023年10月）。

2020年度0名であった県獣医師会の女性理事数は2023年度では2名となった。共働き世帯の増加や男性の育児休業取得推進の観点で言えば、もはや女性獣医師が、というより若い獣医師の職場における働きやすさの増進や、シニア世代が意欲的に仕事を続けられる仕組み作りが大切になると考えられる。ジェンダーや年代、会員か非会員かにとらわれることなく、獣医療を支えるすべての人々の意見を大切にしてこれからも活動の幅を広げていきたい。

獣医師をめぐる情勢



農林水産省 消費・安全局
畜水産安全管理課

1

今日の話の流れ ～獣医師をめぐる情勢～

- 1 獣医師をめぐる情勢
- 2 獣医師の年齢分布と地域特性
- 3 獣医師の職域別の年齢構成
- 4 獣医師に対する就業支援

1

2

獣医師をめぐる情勢

2

3

獣医師の活動分野

- ・ 獣医師の活動分野は広く、小動物診療分野（ペット）、産業動物分野（家畜）、人の公衆衛生分野と多岐にわたる。
- ・ 産業動物分野には①産業動物の診療獣医師と②農林水産分野の公務員獣医師が存在。

○ 分野別獣医師の数 (単位：人)

	令和4年	割合 (%)
産業動物診療	4,460	11.0
農林水産分野	3,311	8.2
公務員	456	1.1
公衆衛生分野	5,378	13.3
その他	456	1.1
小動物診療	16,541	40.9
その他の分野	5,955	14.7
小計	36,101	89.2
獣医師に就事しない者（無職含む）	4,354	10.8
合計	40,455	100

【農林水産省調べ】

① 産業動物獣医師（約2割）

1) 産業動物診療獣医師

家畜の診療に従事

2) 農林水産分野公務員獣医師

公務員として家畜伝染病の予防やまん延防止に従事

② 公衆衛生分野公務員獣医師

公務員としてと畜場の食肉検査等に従事

③ その他分野の公務員獣医師

公務員として動物の愛護・管理等に従事

④ 小動物診療

犬、猫等のペットの診療に従事

参考）愛玩動物看護師 17,068人（R5.11.1時点）

⑤ その他の分野

大学の教員、動物用・人体用医薬品の開発、海外技術協力などに従事



4

4

獣医師の職域分布

【農林水産省調べ】

	H24年	R4年	変化
産業動物診療	11.4%	11.0%	-0.4%
公務員			
農林水産分野	9.0%	8.2%	-0.8%
公衆衛生分野ほか	15.1%	14.4%	-0.7%
小動物診療	38.2%	40.9%	2.7%
その他分野	14.5%	14.7%	0.2%
小計	88.2%	89.2%	1.0%
獣医師以外に従事・無職	11.8%	10.8%	-1.0%

獣医師の職域偏在

4

5

獣医療の対象となる動物や飼養者の状況

- ・ 家畜の頭数は横ばいか微減傾向だが、農家戸数は減少し大規模化が進展。物理的に診療等の効率が低下。
- ・ 一般診療だけでなく衛生管理指導など獣医療へのニーズも変化。
- ・ 犬猫の頭数は減少傾向が横ばいだが、平均寿命が延長。動物や飼養者の高齢化に伴いニーズが変化。
- ⇒ 家畜の遠隔診療や管理獣医療、高度獣医療に関する研修等を支援。

○ 家畜の飼養頭数・飼養戸数

家畜の飼養頭数（万頭）

家畜の飼養戸数（百戸）

○ 犬・猫の飼育頭数（万頭）

一般家庭の犬猫の平均寿命（才）

※ 令和3年度調査において統計方法を改定（改定した統計方法により平成25年度以降の統計数値を再計算）

※ 令和2年1月1日

※ 令和2年度は農林水産省調べ

※ 令和2年度は農林水産省調べ

※ 令和2年度は農林水産省調べ

※ 令和2年度は農林水産省調べ

※ 令和2年度は農林水産省調べ

※ 令和2年度は農林水産省調べ

※ 令和2年度は農林水産省調べ

※ 令和2年度は農林水産省調べ

※ 令和2年度は農林水産省調べ

※ 令和2年度は農林水産省調べ

※ 令和2年度は農林水産省調べ

※ 令和2年度は農林水産省調べ

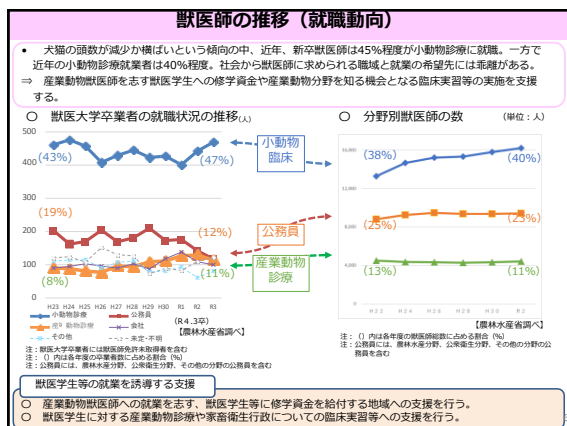
※ 令和2年度は農林水産省調べ

※ 令和2年度は農林水産省調べ

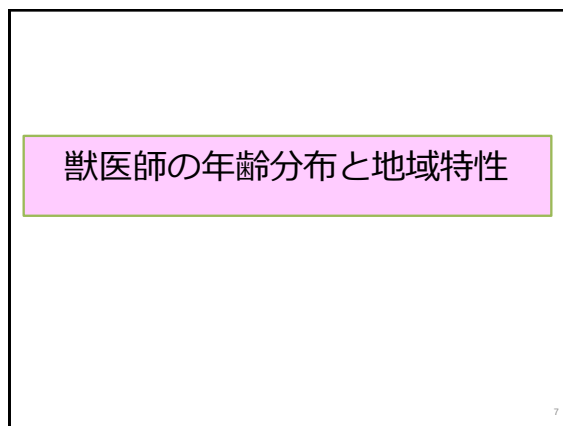
※ 令和2年度は農林水産省調べ

※ 令和2年度は農林水産省調べ

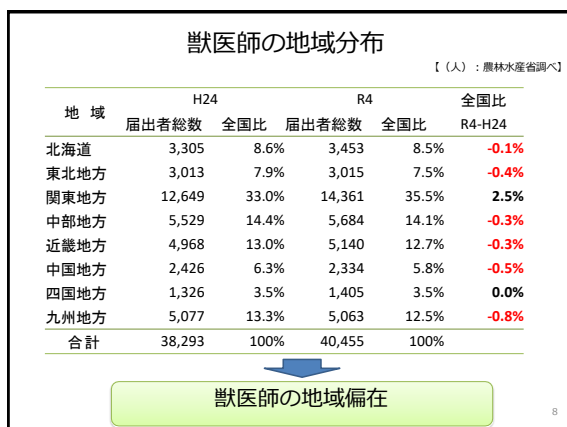
6



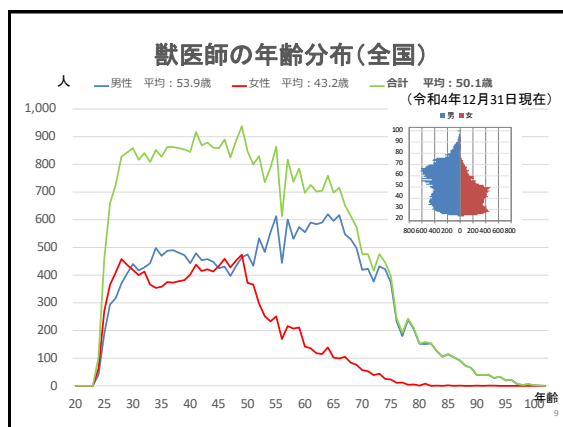
7



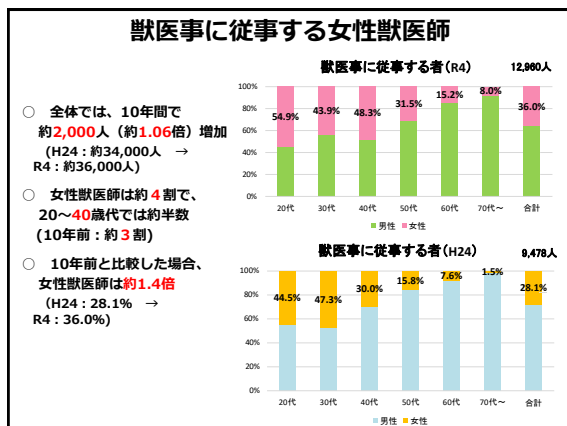
8



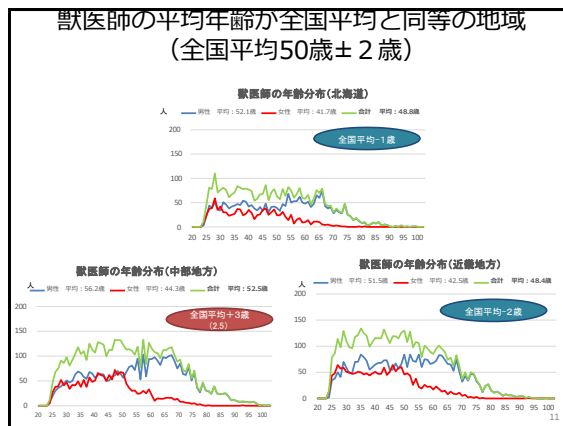
9



10

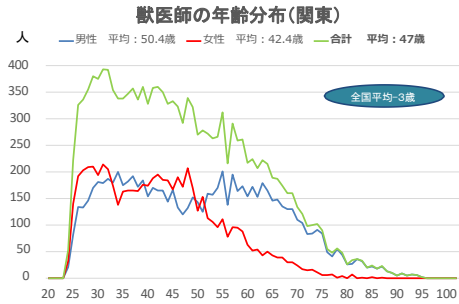


11



12

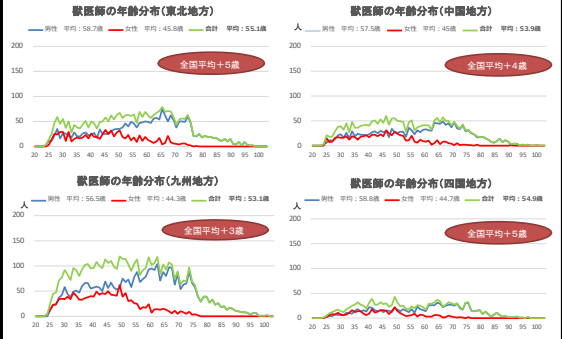
獣医師の平均年齢が全国平均より低い地域 (全国平均50歳-3歳)



12

13

獣医師の平均年齢が全国平均より高い地域 (全国平均50歳+3歳以上)



13

14

獣医師の年齢分布と地域特性 (ポイント)

- ① 地域によって、獣医師の高齢化が進展
➤ 新規獣医師の確保に苦慮
- ② 地域を問わず、20~30歳代の獣医師のうち、女性獣医師は約半数

14

15

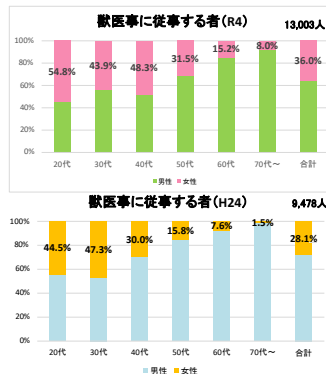
獣医師の職域別の年齢構成

15

16

獣医事に従事する女性獣医師

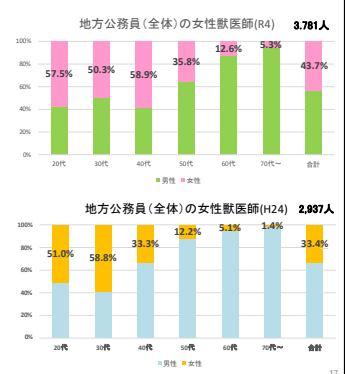
- 全体では、10年間で約2,000人(約1.07倍)増加
(H24: 33,784人 → R4: 36,101人)
- 女性獣医師は約4割で、20~40歳代では約半数(10年前: 約3割)
- 10年前と比較した場合、女性獣医師は約1.4倍
(H24: 28.1% → R4: 36.0%)



17

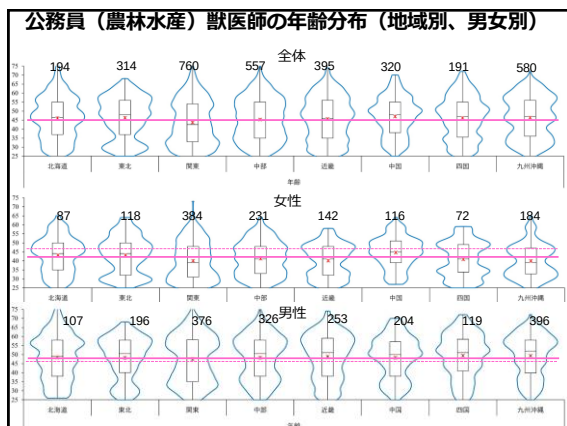
地方公務員(全体)の女性獣医師

- 全体では、10年間で約150人(約0.98倍)減少。
(H24: 8,804人 → R4: 8,660人)
- 地方公務員獣医師の4割は女性獣医師で、20~40歳代では半数以上
- 10年前と比較した場合、女性獣医師は約1.3倍
(H24: 33.4% → R4: 43.7%)

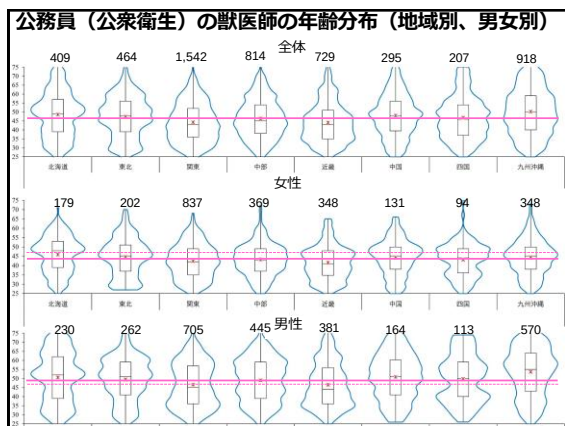


17

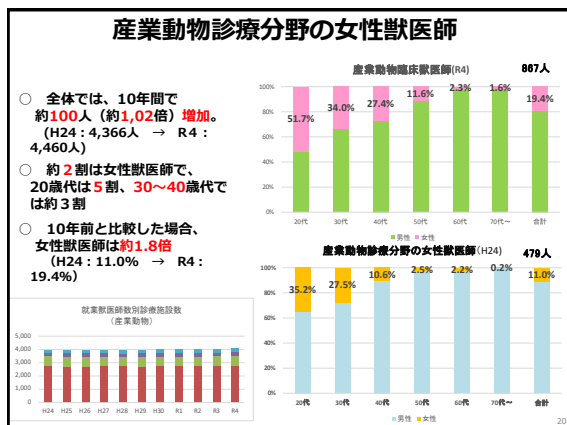
18



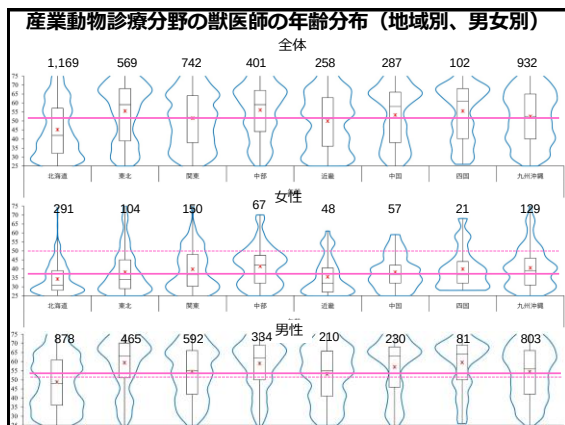
19



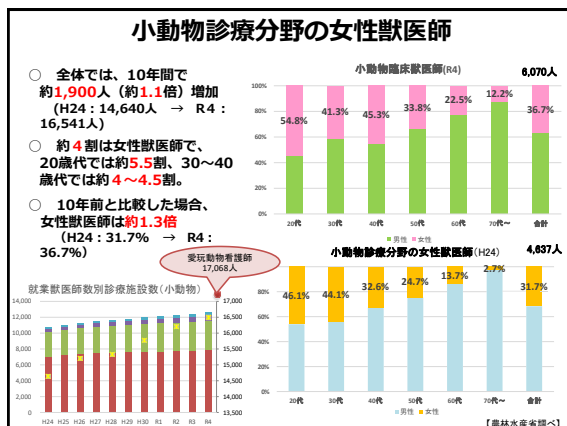
20



21



22



23

愛玩動物看護師の概要

- 獣医療の内容が高度化かつ多様化
- 健康管理やしつけの重要性
- 動物を介在した福祉、教育等の諸活動への期待

愛玩動物に関する獣医療の普及向上及び
適正飼養に寄与するため、
愛玩動物看護師を国家資格化（令和元年6月）

愛玩動物看護師法の内容

○業務
・獣医師の指示の下に行われる愛玩動物の診療の補助
・愛玩動物の世帯その他の看護
・愛玩動物の健康・適正飼養に係る助言等

○対象動物：犬、猫、愛玩鳥（政令で定める種）

○名称独占
愛玩動物看護師又はこれに紛らわしい名称の使用禁止

○免許及び登録：国家試験に合格し、主務大臣の免許を受けなければならない。

○試験の実施及び受験資格：試験を毎年一回以上実施すること及び受験資格の規定
※主務大臣：農林水産大臣及び環境大臣

第2回愛玩動物看護師国家試験

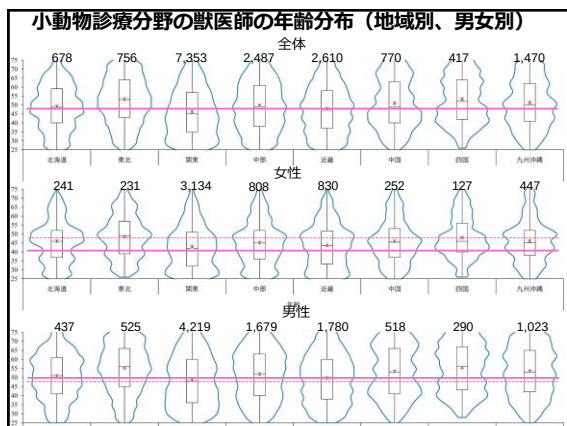
- 日程：令和6年2月18日（日）
- 試験会場：全国7都道府県
- 出題形式：五肢択一（マークシート方式）
必須問題（50問）、一般問題（100問）、実地問題（50問）
- 受験資格：
 - 法施行後の大学等卒業（見込み）者（令和5年度該当なし）
 - 法施行前の大学等卒業、在学者（既卒・在学者）
 - 予備試験合格者（現任者）
- 合格発表：令和6年3月15日（金）

第2回国家試験予備試験（令和5年10月1日（日））
合格者数 2,364人（合格率98.4%）

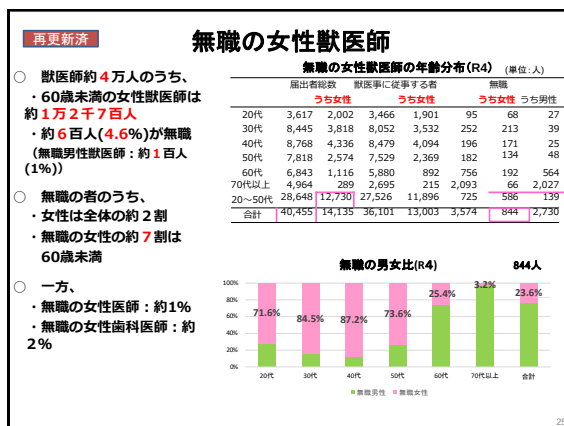
愛玩動物看護師登録者数 17,068人（令和5年11月1日時点）

※試験及び登録に関する事項は（一財）動物看護師統一認定機構が実施。

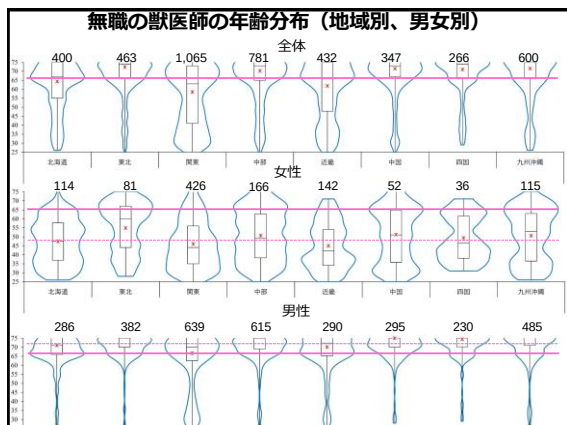
24



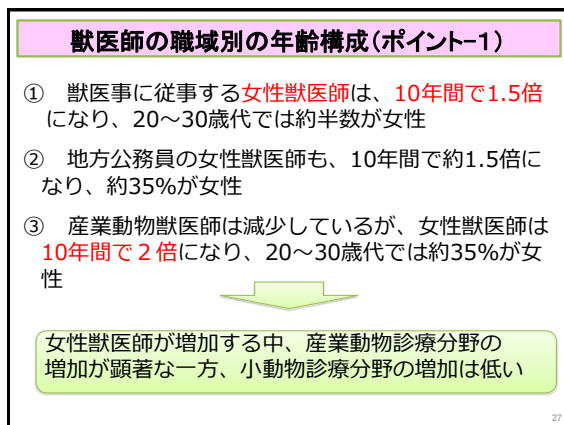
25



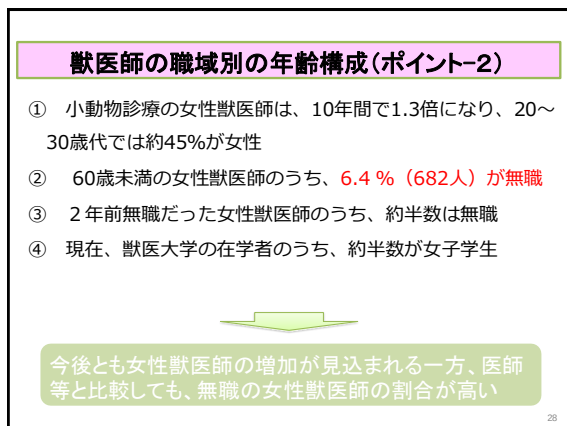
26



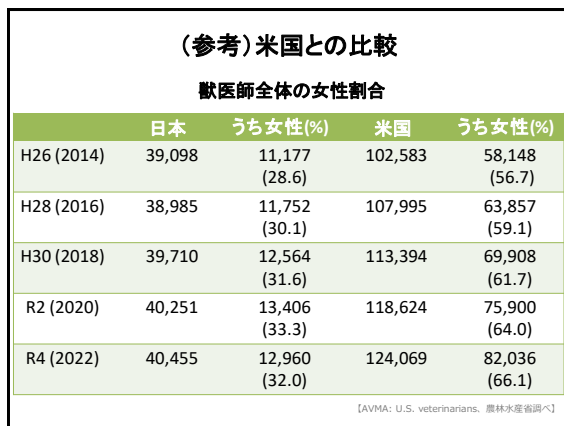
27



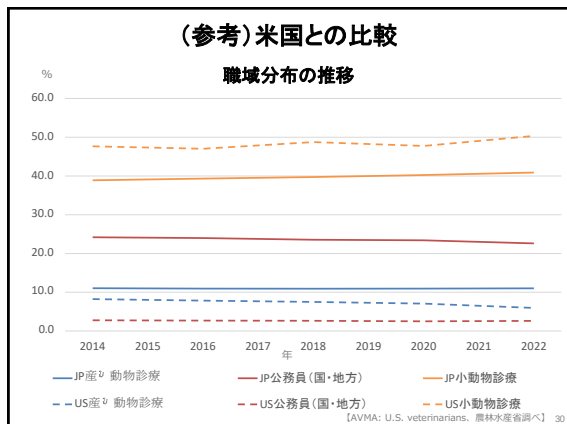
28



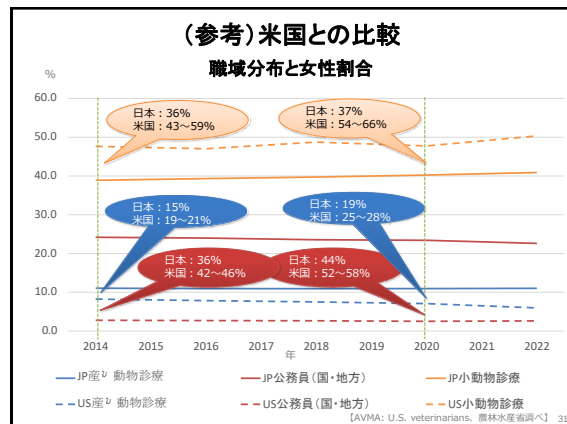
29



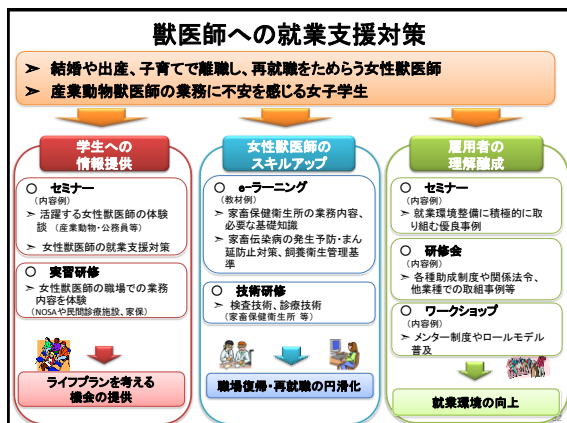
30



31



32



33

改正育児・介護休業法からみる 動物診療施設における ワーク・ライフ・バランス実現への道

ひめじ人事労務コンサルティング 代表
兵庫働き方改革推進支援センター 派遣専門家
社会保険労務士 松岡 友美

Himeji Personnel and Labor Consulting

1

本日の講演について

1. 日本の現状について
2. 改正育児・介護休業法について
3. 職場の風土づくりとしてそれぞれの立場で考えるべきこと

Himeji Personnel and Labor Consulting

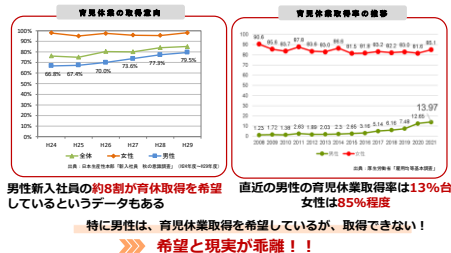
2

1. 日本の現状について

Himeji Personnel and Labor Consulting

3

育児休業取得の現状

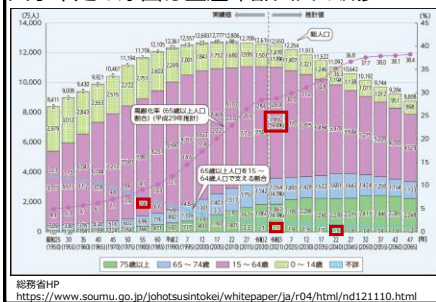


厚生労働省

厚生労働省

4

人手不足の原因は生産年齢人口の減少

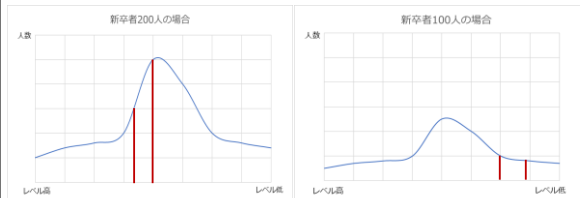


Himeji Personnel and Labor Consulting

5

採用できる新卒者のレベルレイメージ

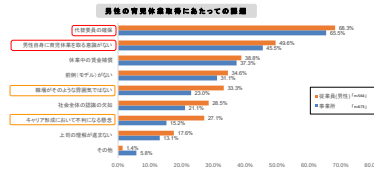
人気の高い順に10人ずつ採用するとして、人気度が10位であるケース



Himeji Personnel and Labor Consulting

6

男性の育児休業取得における課題は女性にも共通する



- ・新入社員が多く育児取得を希望しているのに対し、「男性自身に育児休業を取る意識がない」との回答も多数
- ・事業所、従業員ともに「代休要員の確保」が最も多い
- ・以下の項目は、事業所と従業員の認識に大きなギャップあり
 - 「職場がそのような雰囲気でない」「キャリア形成において不利になる懸念」
- ・男性が育児取得しやすい職場環境の醸成、キャリアへの懸念を払拭することが必要
- ・日頃から組織的に従業員が不在時の体制を整える必要性

2. 改正育児・介護休業法について

育児休業制度の概要①

◎育児休業は育児・介護休業法で取得が認められている

原則、「1歳になるまでの子どもを育てる男女労働者が取得できる」

ただし、次のような場合は、1歳を超えて育児休業を取得可能。

子どもが1歳以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

子どもが1歳6か月以降、保育園等にいないなど一定の要件を満たす場合

育児休業制度の概要②

◎両親で協力して育児休業を取得するための制度

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

育児休業等を取得しやすくなるための会社の義務①

◎妊娠・出産を申出た労働者への個別の周知・意向確認

従業員またはその配偶者が妊娠・出産したことの申出をしたとき、会社はその従業員に対して個別に育児休業制度等を周知し、これらの制度の取得意向を確認しなければなりません。

【周知事項】

- ① 育児休業・産後/バ育休に関する制度
- ② 育児休業・産後/バ育休の申し出先
- ③ 育児休業給付に関すること
- ④ 労働者が育児休業・産後/バ育休期間について負担すべき社会保険料の取扱い

【個別周知・意向確認の方法】

- ✓ 面談（オンラインでも可）
- ✓ Fax
- ✓ 書面交付
- ✓ 電子メール
- のいずれか

注：Fax、電子メールは労働者が希望した場合のみ

育児休業・産後/バ育休の取得を促させるような形で個別周知・意向確認は認められません。

育児休業等を取得しやすくなるための会社の義務②

◎育児休業を取得しやすい雇用環境整備

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

ポイント！

育児休業を取得しやすい雇用環境整備ため、会社は次のいずれかの措置を実施しなければなりません。

【実施が必要な措置】※いずれか1つ以上を選択

- ① 育児休業・産後/バ育休に関する研修の実施
- ② 育児休業・産後/バ育休に関する相談体制の整備等（相談窓口設置）
- ③ 自社の労働者の育児休業・産後/バ育休取得事例の収集・提供
- ④ 自社の労働者へ育児休業・産後/バ育休制度と育児休業取得促進に関する方針の周知

- ・複数の措置を講ずることが望ましいです。
- ・環境整備に当たっては、短期だけでなく1か月以上の長期の休業の取得を希望する労働者が希望するものの期間の休業を申し出ることができる事業主が配慮。

その他の両立支援制度



育児・介護休業法では、育児休業、産後バ育休の他にも、仕事と育児の両立のための制度等が定められています。

子の看護休暇制度

小学校就学前までの子が1人であれば年5日、2人以上であれば年10日を所定して看護休暇の取得が可能。時間単位での取得も可能。

時間外労働の制限

小学校就学前までの子を養育する労働者が請求した場合、1か月24時間、1年150時間を超える時間外労働を制限。

短時間勤務等の措置

3歳に達するまでの子を養育する労働者について、労働者が希望すれば利用できる短時間勤務の措置（1日原則6時間）を義務づける。

所定外労働（残業）の制限

3歳に達するまでの子を養育する労働者が請求した場合、所定外労働を制限。

深夜業の制限

小学校就学前までの子を養育する労働者が請求した場合、深夜業を制限。

転勤についての配慮

労働者を転勤させる場合、育児の状況についての配慮義務。

13

育児休業を取得したこと等による不利益取扱いの禁止



育児休業、産後バ育休等の申し出・取得等を理由として不利益な取扱いをすることは法律で禁止されています。

（育児休業等の申し出・取得等を理由とする不利益取扱いの例）

- 解雇すること。
- 期間を定めて雇用される者について、契約の更新をしないこと。
- 正社員を非正規雇用社員とするような労働契約内容の変更を行うこと。
- 自宅待機を命ずること。
- 降格させること。
- 減給をし、又は賞与等において不利益な算定を行うこと。
- 昇進・昇格の人事考課において不利益な評価を行うこと。
- 不利益な配置の変更を行うこと。
- 就業環境を害すること。
- 派遣労働者について、派遣先が当該派遣労働者に係る労働者派遣の役務の提供を拒むこと。

・上記は例示です。他にも法律で禁止されている不利益な取扱いに該当する場合があります。
・会社の対応に疑問がある場合、トラブルが生じた場合は、**会社の相談窓口や都道府県労働局に相談**してください。

14

ハラスメント防止について



育児休業や産後バ育休等の申し出・取得などに関して、上司、同僚からのハラスメントを防止する措置を講ずることが会社に義務付けられています。

（職場におけるハラスメントを防止するために講ずべき措置）

- ①ハラスメントの内容、方針等の明確化と周知・啓発
- ②行為者への厳正な対応方針、内容の規定化と周知・啓発
- ③相談（苦情を含む）に応じ、適切に対応するために必要な整備
- ④事業主や制度等を利用する労働者、周囲の労働者の状況に応じ、業務体制の整備など必要な措置を講じる

ハラスメントに該当する可能性のある言動の例

- × 育児休業の取得について上司に相談したところ、「男のくせに育児休業をとるなんてありえない止言われ、取得をあきらめざるを得ない状況になっている。」
- × 育児休業の取得を上司に相談したところ、「休みをとるなら復職する場所はない」と言われた。
- × 上司・同僚が「忙しい時間帯に育児休業をとるなんて周りのことを考えていない、迷惑だ」と繰り返し又は継続的に発言する。
- × 育児取得について上司に相談したところ、「次の査定の際は昇進しないと思え」といわれる。

15

育児等に関するハラスメントを起こさないために

妊娠・出産等に関するハラスメントのない職場とするために心掛けたいこと

＜同じ職場で働く者として＞

- 妊娠・出産・育児等についての知識や制度について理解しましょう。
- 「育児は妻に任せて、男は仕事をするもの」など、自分の価値観を押し付けないようしましょう。
- 特定の個人に向けた言動でなくとも、育児休業等の制度利用について否定的な発言をすることは、ハラスメントの発生や背景になり得ますので、注意しましょう。
- 自分の行為がハラスメントにならないよう注意しましょう。

ハラスメントを見たら・受けたら・・・

- 会社のハラスメント相談窓口相談しましょう。
- 都道府県労働局でも相談を受け付けています。

16

3. 職場の風土づくりとしてそれぞれの立場で考えるべきこと

17

経営層のポイント①



▶ トップが積極的に取組を推進しよう！

- ・ **トップが明確なメッセージを打ち出す**ことで、職場の雰囲気を変える
- ・ 経営層の考えを明確にして、管理職の理解を促す

▶ 取り組み内容を公表して企業イメージを向上させよう！

- ・ 自社のHPへ掲載
- ・ 国や地方公共団体が実施する認定制度の取得や表彰への応募



▶ 働き方の見直しを進めよう！

- ・ 所定外労働時間や休暇取得状況の把握、従業員への意識啓発
- ・ 従業員が多様な生活に合わせた制度の構築、制度内容の周知

▶ 不利益取扱いの禁止

- ・ マタハラ（育児休業等の利用を申し出に對する上司・同僚からのハラスメント）を防止するための方針の明確化及びその周知
- ・ 相談体制の整備

18

経営層のポイント②

ポイント！ ▶先進企業の取組を参考にしよう
 ①取組方法、内容を検討して実施するのは、努力がかるもの・・・
 下記の各種サイトに掲載された**取組事例等**を参考にしましょう

厚生労働省

●「ワーク・ライフ・バランス」推進企業
 認定制度
 ●「ワーク・ライフ・バランス」推進
 企業表彰
<https://business.project.mhlw.go.jp/>

●企業・事業主が取り組むべき取組
 事例集
 ●「ワーク・ライフ・バランス」推進
 企業表彰
<https://business.project.mhlw.go.jp/>

●「ワーク・ライフ・バランス」推進
 企業表彰
 ●「ワーク・ライフ・バランス」推進
 企業表彰
<https://business.project.mhlw.go.jp/>

内閣府

●「ワーク・ライフ・バランス」推進
 企業表彰
 ●「ワーク・ライフ・バランス」推進
 企業表彰
<https://business.project.mhlw.go.jp/>

経済産業省

●「ワーク・ライフ・バランス」推進
 企業表彰
 ●「ワーク・ライフ・バランス」推進
 企業表彰
<https://business.project.mhlw.go.jp/>

厚生労働省

●「ワーク・ライフ・バランス」推進
 企業表彰
 ●「ワーク・ライフ・バランス」推進
 企業表彰
<https://business.project.mhlw.go.jp/>

19

経営・管理職のポイント

ポイント！ ▶イクボスになろう！！
 イクボスとは・・・部下の育児休業や長時間労働などがある場合、業務効率を上げ、
 育児と仕事を両立できるように配慮し、自らも仕事とプライベートを充実させている管理職

【子育て中の部下】

ワーク・ライフ・バランスが必要
 である・・・

「家事・育児があるのに仕事が多すぎて
 なかなか報れない」という不満が増加

組織は分裂
 の危険！

【長時間働ける部下】

ワーク・ライフ・バランスを気にしていない
 である・・・

「働く時間をいかに自分の
 しむか」が重要という不満が増加

職場メンバー全員に私生活の時間を、限られた時間で成果を出す職場へ

そのために例えば・・・

20

業務の洗い出しの実施→「見える化」

- ・どんな仕事があるのかを洗い出す
- ・仕事のレベル分けをする
- ・どの仕事を、誰に任せべきなのかを検討する
- ・やらなくていい仕事、もっと深くやるべき仕事があれば検討する
- ・プロジェクトチームを作って月1回程度会議をしていく中で取り組む

Happ Personal and Labor Consulting

21

シフトや処遇の工夫ができていますか？

- ・パートタイマーの活用
 →正社員に早番、遅番などのシフト調整
- ・時間帯、土日祝日などの賃金改善（処遇改善）
 →診療費の改定？サービス改善？
- ・代替要員をどのように確保する？
 →業務の洗い出し、OBへの声掛け（カムバック採用）

Happ Personal and Labor Consulting

22

同僚のポイント

ポイント！ ▶自身がサポートを受ける立場になる可能性を踏まえ、同僚のサポートを
 育児や介護だけでなく、怪我や病気による入院など、
 いつ何時、自分がサポートを受ける側に回るかわかりません
 「お互い様」でサポートしあえる環境をぜひ作ってください
 育児休業取得者の業務を引き継ぎ、新しい仕事を担う場合は、
 スキルアップのチャンスと捉えましょう

▶**時間に制約がない人も、効率のよい仕事の仕方を考え、長時間労働を抑制しましょう**
 「仕事が多くて、残業しないなんて無理」と決めつけていませんか？
 本当に必要な仕事、仕事の期限、クオリティを見直して効率的に仕事をしましょう

▶**困ったことがあったら、一人で悩まず、上司・同僚に相談しましょう**
 「みんな忙しいから」といって一人で抱え込みます。
 周囲に相談してください
 みんなで考えれば解決策もきつと見つかります

Happ Personal and Labor Consulting

23

育児休業取得者のポイント

ポイント！ ▶**育児休業取得前**
 ▶「育児休業を取得したい」という希望を、余裕をもって上司、同僚に伝えましょう
 ▶**育児休業前には、可能な限り、業務を片付けておきましょう**
 ▶**今後も継続する業務の棚卸しを行い、業務の引き継ぎを**
 ...予め要点をまとめた資料や業務マニュアルを作成し、業務のコツ、注意事項、
 キーポイントなども可能な限り引き継ぎましょう

ポイント！ ▶**育児休業取得後（復帰後）**
 ▶**育児休業後は、限られた時間でも成果を出せる働き方を**
 ...「効率よく業務を進めたい」という思いから「何を常態に考え、行動する
 『育児取得者』の優良事例になるように心掛けよう！

▶**同僚が困ったときには、積極的にサポートを**
 ▶**育児取得のメリットを、会社・上司・同僚にも感じてもらおう！**
 ...業務の効率化による生産性の向上、ワーク・ライフ・バランスの充実など、
 育児取得者のロールモデルとしての姿を社内で示そう！

Happ Personal and Labor Consulting

24

「お互い様」の気持ちを作り出す 職場風土づくりができますか？

キーワードは
「ミーティング」「面談」「職員研修」

Hemp Personnel and Labor Consulting

25

職場環境の改善について考えてみましょう

育児と仕事の両立のためには、**良好な職場環境**が必要です

以下の事項について考え、自らの職場環境を改善するために、何ができるか、考えてみましょう！

▶今の職場の現状と問題点は？

- ・ 職場内（上司と部下、同僚同士）のコミュニケーションは取れていますか？
- ・ 長時間労働、深夜残業が常態化していませんか？
- ・ 業務が特定の人に偏っていませんか？

▶職場の問題点をどうしたら改善できると思いますか？

- ・ コミュニケーション
例）積極的にあいさつをする、職場内で朝礼等を行い一言話す、職場外でイベントを開催する
- ・ 労働時間
例）業務の内容を定期的に報告し、従業員間で共有して相互にサポートする体制を構築する
- ・ 業務の属人化
例）業務マニュアルを作成し、複数の人が業務を実施できる体制を整備する

厚生労働省

26

まとめ

- ・ 育児休業の取得希望と取得率は特に男性で乖離が生じている。
- ・ 育児・介護休業法にも雇用環境整備について明記され、職場の風土づくりが重要になっている。
- ・ 今いる職員さんを大切に！
できることを考えていきましょう。

Hemp Personnel and Labor Consulting

27

1

世界農業先進国である。
大規模農家が広がる農業天国

東北エリア

水産資源が豊富である。
水産物の消費が中心である

関東エリア

水産資源が豊富である。
水産物の消費が中心である

中部エリア

水産資源が豊富である。
水産物の消費が中心である

三郷エリア

水産資源が豊富である。
水産物の消費が中心である

関西エリア

水産資源が豊富である。
水産物の消費が中心である

面積: 7,300 km²
(全国16位)

人口: 228万人
(全国14位)

2

3

- 宮城県獣医師会の現況
- 女性獣医師支援対策ワーキンググループ発足の経緯
- ワーキンググループの活動内容と今後の活動



4

	全体の 会員数	女性 会員数 (役員)	割合
平成15年	4 4 4人	5 0人 (1)	1 1%
令和5年	3 6 9人	7 3人 (3)	2 0%

5

- 平成25年 日本獣医師会に「女性獣医師支援特別委員会」
⇒宮城県獣医師会でも「役員・先輩から女性獣医師の就労環境改善の必要性あり」の意見
⇒平成30年「女性獣医師支援対策ワーキンググループ」発足
開業2名・公務員2名・NOSAI 1名・相談役3名

6

ワーキンググループの活動

- 平成30年 女性獣医師に就労環境のアンケート調査

調査対象 県内在住の女性獣医師80名

⇒令和4年度東北地区獣医師大会「日本獣医師会への要望」
- 令和5年2月 就業環境関連法についての研修会開催
- 令和5年度東北地区学会「女性獣医師の広場」設置

7

アンケート調査項目 1

- 年齢・職域
- 現在抱えている仕事上の不安に関する課題

⇒そう思う～全く思わない 4段階評価

「休暇が取れない」 「労働時間が長い」
 「妊娠中の就労に不安」
 「育児・介護・仕事の両立への不安」

8

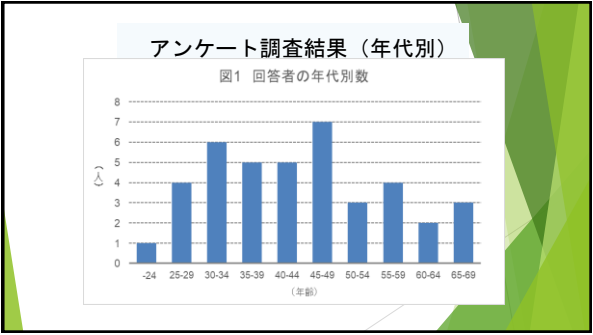
アンケート調査項目 2

- 就業支援の整備状況

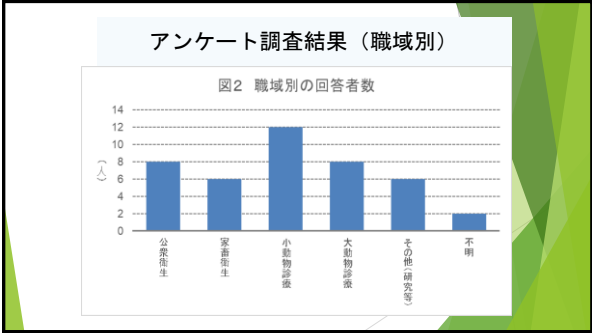
⇒十分整備～不十分 4段階評価

「休業中の情報提供、スムーズな復帰のための研修」
 「育児休業・介護休暇制度」
- 離職を考えたことがあるか
- 宮城県獣医師会への要望

9



10



11

アンケート調査結果（抜粋）

- 仕事上の不安

⇒大小動物臨床分野 労働時間が長く、休暇が取れない
 ※小動物臨床（開業）全員が「そう思う」「ややそう思う」
- 育児・介護・仕事との両立に対する不安

⇒大小動物臨床分野の80% 「ややそう思う」以上

12

アンケート調査結果（抜粋）

- 育児休業・介護休暇等の整備
⇒公務員の80%「ほぼ整備」「整備」と回答
大動物臨床分野では60%
小動物臨床分野（勤務）では40%
- 離職を考えたことがあるか。
⇒全回答者の48%（20名）が考えたことがあると回答
理由 家庭の問題（育児、精神的疲労）

13

アンケート調査結果（全体）

- 獣医業界全体の課題 「男女ともに人材確保不足」
特に公務員・産業動物臨床獣医師の不足
⇒継続した労働環境整備による解決が必要
- しかし・・・
公務員獣医師 育児休業等は整備されているが権利行使が困難
産業動物臨床分野 人員不足と緊急対応時の個々の負担増

14

アンケート調査結果（全体）

- 小動物臨床分野の課題 「妊娠・育児期間の就労継続への不安」
妊娠中・育児と仕事の両立への不安
産休・育休中の職場への負担と復帰後の技能低下への不安
さけられない臨床分野における長時間労働
⇒**育児休業・介護休暇の整備が必要**
出産育児は女性の負担が大きい、家族・職場の協力不可欠

15

アンケート調査結果（全体）

- 離職を考えたことがある 回答者の48%
- 理由 育児、精神的に疲れる、休みが取れない
妊娠、出産、体力に自信がない
- 今後は・・・
超高齢化社会、親の介護 待ったなし！



16

アンケート調査結果

【宮城県獣医師会への要望】

- 産休・育休等長期休業中の代替職員の確保
(代替職員制度創設)
- 代替獣医師登録制度や開業獣医師間の地域ネットワークの構築
- 技術研修会や講習会参加時の託児所等の設置
- 他職域の女性獣医師との情報交換の場の設置
(仲間づくり)
- 育休等期間中の獣医師会費の減額と学生準会員制度の創設

17

東北地区学会場に 「女性獣医師の広場」の設置



女性獣医師の広場

18

研 修 会 の 開 催

- テーマ
「女性が働き続けるために知っておきたい法律」
- 講 師
社会保険労務士（女性）
- 内 容
 - ① ワーク・ライフ・バランス
 - ② 男女雇用機会均等法
 - ③ 労働基準法
 - ④ 育児・介護休業法
 - ⑤ 労働施策総合推進法及び働く女性のセーフティネット等



19

今期の活動 SNSへの投稿 Facebook投稿活用



いいね！



20

今 後 の 活 動

- ワーキンググループを、本会の委員会に昇格
⇒ 広く会員に知ってもらい活動範囲を広めたい
- SNSを活用した情報発信体制の構築
⇒ 特に若い世代との情報共有を図る。会の活動に繋げる
- 日本獣医師会HP「女性獣医師応援ポータルサイト」周知
- 学会等開催時に、女性獣医師のコミュニケーションの場を設置
⇒ 広く情報収集と就労環境改善へ

21

ご清聴ありがとうございました



22

宮崎県獣医師会におけるすべての獣医師が活躍できる環境作りについて

2023年12月2日

宮崎県獣医師会女性獣医師委員会

上松瑞穂（NOSAI宮崎生産獣医療センター）

1

宮崎県獣医師会

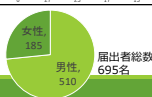
会員数約600名

女性理事2名

ホームページの様子

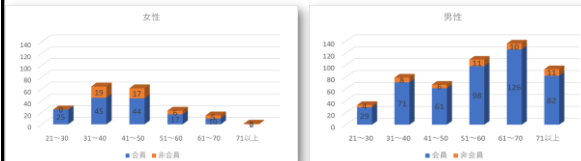
【会員向け・非会員向け（一般向け）に区分】

	全体	年齢区分（歳）				
		21～30	31～40	41～50	51～60	71以上
男性	510	20	79	67	109	135
女性	44	4	8	6	11	15
合計	554	24	87	73	120	150



2

宮崎県獣医師会における会員と非会員



3

アファーマティブアクションとは

✓肯定的措置・積極的是正措置肯定的差別

✓改善措置・改善目的の差別・肯定的差別

✓アファーマティブ・アクション（affirmative action）は、優遇措置でなく差別環境の是正措置であると説明されることもある。日本における女性に対する積極的改善措置に關して、単に女性だからという理由だけで女性を「優遇」するためのものではなく、これまでの慣行や固定的な性別の役割意識などが原因で、女性は男性よりも能力を発揮しにくい環境に置かれている場合に、こうした状況を「是正」するための取組

✓日本では、アファーマティブ・アクションの中で、特に女性に対する積極的改善措置のことを、「ポジティブ・アクション」と呼び、厚生労働省が中心となって女性の活躍や男女格差解消を推進している。ポジティブ・アクションは、英語の affirmative action（肯定的措置）と positive discrimination（肯定的差別）を組み合わせて造語した和製英語

（出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』）

4

宮崎県獣医師会女性獣医師委員会 2021年度より活動開始



獣医師資格保有者も20代以下では過半数が女性となり、女性の社会進出に伴う共働き世帯の増加で男性においても30代以下を中心にこれまでの働き方の見直しをしてほしいと考える世代が増加しています。一方で、指導的立場における女性の割合はとも低く、変化がゆっくりとしているのが現状のようです

そこで本委員会では、獣医師が職域や地域を超えて相互理解をし、世代間（新人からシニアまで）ジェンダー関係なく、より良い宮崎県の獣医療を発展させるために次の活動をしていきます

- ◆獣医師の働きやすさに関する情報の収集と発信
- ◆情報発信の対象を非会員に広げるための取り組み

5

宮崎県獣医師会便り95号

ごあいさつ
このたびは、宮崎県獣医師会便り95号の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。この便りでは、宮崎県獣医師会女性獣医師委員会が、女性獣医師の活躍の場を広げ、働きやすさを向上させるための取り組みについて、ご報告申し上げます。

メンバー紹介
女性獣医師の活躍の場を広げ、働きやすさを向上させるための取り組みについて、ご報告申し上げます。

「せっかくやるから、実家内閣（が）いね」
女性獣医師の活躍の場を広げ、働きやすさを向上させるための取り組みについて、ご報告申し上げます。

委員会活動の記録
女性獣医師の活躍の場を広げ、働きやすさを向上させるための取り組みについて、ご報告申し上げます。

委員会活動の記録
女性獣医師の活躍の場を広げ、働きやすさを向上させるための取り組みについて、ご報告申し上げます。

6

第1期の活動（2021-2023年） グーグルフォームでのアンケート調査

回答者数247名の内訳

職業への関心	している	していません	職業への加入	希望者	希望しない	その他
	97.2%	2.8%		96.8%	3.2%	
年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	18.1%	28.3%	26.3%	24.3%	8.1%	1.6%
性別	男性	女性	変更しない			
	64.6%	34.4%	1.0%			
職業	公務員	会社員	自営業	学生	無職	その他
	23.5%	29.1%	4.0%	4.5%	35.6%	0.4%

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

希望者

希望しない

その他

職場の獣医師数の確保状況



宮崎県獣医師会が人材バンク設置した場合の利用



宮崎県獣医師会への要望（自由記述より）

- ・獣医師の把握と人材に関する情報の共有（産休代替などの人材の紹介、短期間勤務可能な仕事の紹介）
- ・人材バンクの設置
- ・労働環境向上の取り組み
- ・獣医師の処遇改善への働きかけ
- ・夜間の救急医療体制（小動物夜間診療の当番制）実現に向けた取り組み
- ・行政、民間（団体）、個人開業等との連携強化のための会議等の設置
- ・奨学金や給与手当などの経済的支援事業
- ・スキルアップ研修の開催・補助等
- ・積極的なHPの更新
- ・機関誌発送経費の削減（希望者限定で発送、web掲載）
- ・県獣医師会の機構そのものの改革

7

8

宮崎県獣医師会便り96号



9

第2期の活動（2023年4月～）

- ✓ 小動物分野と非会員からの意見が十分ではない
- ✓ 獣医師会は『獣医師の会』なのだから、自由記述から出てきた意見も掘り下げたい

10

オープンチャットを利用した意見収集

オープンチャットとは：

普段のラインとは違うアイコンとニックネームで利用でき匿名性が高い
ラインの友だちでなくても多くの人と会話が可能（5,000人まで登録可能）
知らない人からの直接連絡はできない
管理者が、誹謗中傷や不都合な投稿があった場合、管理のための削除や強制退会ができる



11

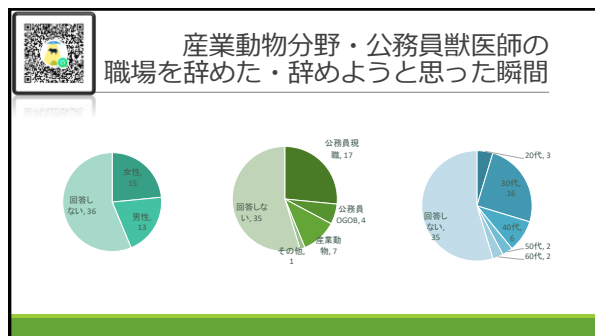
職場を辞めた・辞めたい瞬間 & 職場が好きな瞬間

産業動物分野・公務員用

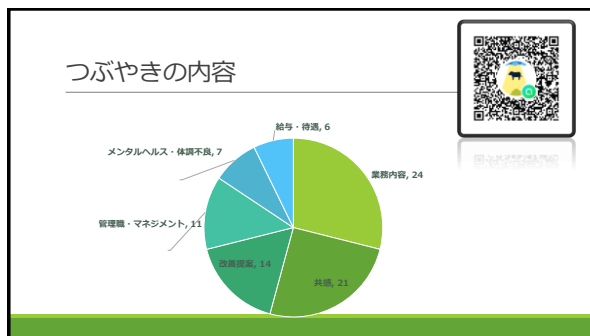
小動物・愛玩動物看護師用



12



13



14

チャットGPTに聞いてみた ChatGPT

チャットGPTとは：

ChatGPT（チャットジーピーティー；Chat Generative Pre-trained Transformer）は、OpenAIが2022年11月に公開した人工知能チャットボットであり、生成AIの一種。

GPTの原語の**Generative Pre-trained Transformer**とは、「生成可能な事前学習済み変換器」という意味である。OpenAIのGPT-3ファミリーの大規模な言語モデルに基づいて構築されており、教師あり学習と強化学習の両方の手法を使って転移学習され、機械学習のサブセットである深層学習を使って開発されている。

（出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』）

15

Q. 以下の【条件】で働く公務員の獣医師が、メンタルヘルスを良好に保ちながら待遇改善するために必要な、職場環境の改善方法を具体的に教えてください。

【条件】・給料が安い・獣医師でいることの意義を感じない・新しいことにチャレンジできない・出世することに魅力を感じない・目的がわかりにくい・カスタマーハラスメントで心が壊れる

ChatGPT

16

A. 公務員の獣医師としてのメンタルヘルスを良好に保ちつつ、職場環境の待遇改善には複数のアプローチがあります。以下に、具体的な改善方法を挙げます

1. **メンタルヘルスサポートの強化**：定期的なカウンセリングセッションの提供。ストレス管理のワークショップや瞑想セッションの開催。ピアサポートグループ（※）の設立

2. **仕事の意義とやりがいの再確認**：獣医師の社会的貢献に関する研修会やセミナーの開催。地域社会との連携を強化し、その効果を可視化する

3. **キャリア開発と教育の機会**：獣医学の最新知識や技術の研修機会を提供。出世以外のキャリアパスの提案と支援

※ピアサポートとは、同じような悩みを持つ人たちが同士で支えあう活動のことです。家族や専門の支援者には話づらいことも、同じ立場の人だからこそ言えることがあります

ChatGPT

17

4. **ワークライフバランスの促進**：フレキシブルな勤務時間やリモートワークのオプション。有給休暇の取得を奨励し、オフタイムを大切にすることの文化の育成

5. **職場環境の改善**：ハラスメント防止のためのトレーニングとポリシーの整備。安全で快適な職場環境の確保

6. **組織内コミュニケーションの強化**：定期的なフィードバックとコミュニケーションの機会。従業員の声を聞くための匿名の提案システムやアンケート

ChatGPT

18



- **継続的な対話の重要性**：意思決定者との定期的な対話：経営層や人事部と定期的にミーティングを持ち、現場の声を届ける
- **フィードバックループの構築**：改善策の効果を評価し、スタッフからのフィードバックを収集して再評価する
- **ワーキンググループの設置：環境改善に向けたプロジェクトチームを作り、職員が主体的に参加**する

ChatGPT

19

- **アイデアボックスの導入**：スタッフが自由に意見やアイデアを出せる仕組みを作る
- **キャリア開発の支援**：職員のキャリアパスを支援する個別のプランニング
- **心理的安全性の確保**：職場での失敗を責めることなく、学習と成長の機会として捉える文化の醸成
- **リーダーシップ研修の実施**：管理職に対するコミュニケーション研修やリーダーシップ研修を行う
- **メンタリングシステムの確立**：経験豊富な職員が後輩の指導にあたる

ChatGPT

20

これらの取り組みを通じて、職場環境の改善だけでなく、獣医師としての自己実現や職務の意義を再発見し、メンタルヘルスを支えることが期待できます。また、組織としての体制を見直し、持続可能な改善が行われるよう努めることが大切です。職場の状況や資源に応じて、これらの提案を適宜調整し、実現可能な形で進めていくことが望まれます



ChatGPT

21

宮崎県獣医師会便り97号



22

活動を通じて感じること

ChatGPT
環境改善に向けたプロジェクトチームを作り、職員が主体的に参加

それって、組織公正性を高めていくことと同じなんじゃないだろうか？



23

唯一不変なるものは**変化**なり 

✓この世に不変なものがあるとすれば、『あらゆるものが変化し続けている』ということ

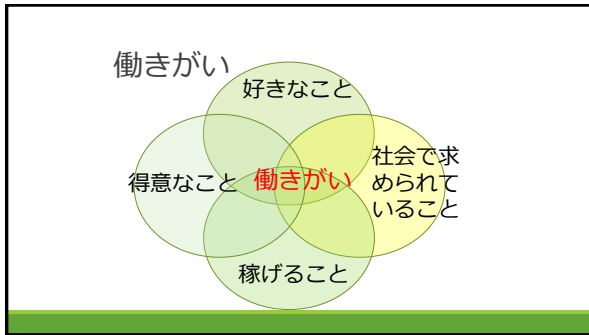
✓変化を恐れては向上はできない

✓「変化は必要ない」とは、「向上は必要ではない」と言っていることと同じ

✓ほとんどの成熟した人々は変化を嫌う
(変化＝恐怖、不安、フラストレーション、威嚇、無意味、怒り)

✓一方で変化指向の人々は、結果として希望、熱意、達成、満足を得る

24



25

日獣シンポⅠ－1

獣医師の現状と将来に向けた展望

○岩田 啓

農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課

獣医師の職域は、牛豚鶏などの診療獣医師や家畜衛生公務員獣医師といった産業動物分野に限らず、犬猫の診療など小動物分野、保護や譲渡といった動物愛護分野、食の安心安全に関する食品安全分野、人の健康にもつながる公衆衛生分野などさまざまな職域で活躍している。

令和4年現在、獣医師全体の人数は4万人となっており、獣医事に従事する女性獣医師の割合は、36.0%になり、特に20代では54.9%が女性獣医師になった。その

割合は今後も増えていくものと考えられる。農林水産省では、引き続き女性獣医師をはじめとした獣医師の復職に向けたスキルアップ等に取り組んでいるところであり、獣医療提供体制整備に向けた支援を行っている。

今回は、獣医師法第22条の届出等のデータからわが国の獣医師の現状に加え、近年の獣医学生の就職状況調査から職業選択の展望について紹介する。

日獣シンポⅠ-2

獣医師の就業環境に関する現況調査(2024)報告

○川手日出子

全国家畜衛生職員会

日本獣医師会では、女性獣医師の増加と女性の活躍を促進する社会情勢を背景に、平成25年に「女性獣医師支援特別委員会」を設置した。これまで「女性獣医師が働きやすい職場づくり」に向けた活動を行ってきたが、これは同時に「すべての獣医師が働きやすい職場づくり」にもなることから、獣医師全体の働く環境の改善を目指した活動を展開している。現在は「女性獣医師活躍推進委員会」として、シンポジウムの開催やネットを通じた情報発信などを行い、すべての獣医師がいきいきと活躍できる環境づくりに取り組んでいる。

平成25年度に獣医師全体の就業状況、女性の就業支援

の整備状況などについて実態を把握するため、「獣医師の就業環境等に関する現況調査」を実施し、課題の分析と検討を行った。それから10年が経過し、社会情勢や獣医師を取りまく環境が大きく変化したことから、改めてアンケート調査を実施した。

アンケート調査は令和6年8月から10月に実施し、性別、職域、就業の有無に関係なく獣医師免許を持つすべての人を対象に、オンラインで調査を行った。全国から4,165名の回答があり、その結果から獣医師の就業の実態や課題について、10年前の調査結果と比較しながら分析を行ったので報告する。

日獣シンポⅠ－3

世代間ギャップと若手の離職問題の現状

○岡野顕子
SMILE

はじめに

多くの企業において、若手従業員の離職率の高さは深刻な問題となっている。特に、新卒採用された若手従業員が数年以内に退職するケースが増えており、多くの企業がその対策に苦慮している。この離職問題の背後には、さまざまな要因が挙げられるが、その一つに職場における「世代間ギャップ」という要因が大きく関わっている。世代間ギャップは、異なる世代の従業員間での価値観や仕事に対する考え方、コミュニケーションの方法などに生じるズレを指す。このギャップが解消されない場合、職場内の人間関係に亀裂を生じさせ、結果として若手従業員が早期に退職する原因となりえる。本稿では、世代間ギャップがどのように若手従業員の離職問題に影響しているのか、また、その現状について述べる。

1. 若手社従業員の離職率の現状

厚生労働省の統計である令和2年3月の「新卒就職者就職後3年以内離職率」（図1：厚生労働省、人材開発統括官令和5年10月20日）では、事業所別・産業別にみても新卒入社3年以内の離職率は30%を超えており、中小企業では特にその傾向が顕著である。このような離職

率の高さは、企業にとって多大なコストを生み出す結果となる。採用活動、研修、育成にかけた時間や費用が無駄になり、さらに職場に残った従業員に負担がかかることで、モチベーション低下やチームの生産性の低下にもつながり、離職の負の連鎖を生み出す可能性につながる。

若手従業員の離職は、単に「企業に合わなかった」という理由だけでなく、職場の雰囲気や文化、仕事に対する期待と現実のギャップ、さらには世代間での価値観のズレが原因となることが少なくない。特に、経験ある従業員と若手従業員の間に生じる世代間ギャップは、結果的に若手従業員の仕事への意欲を削ぐ要因となりえる。〔1、2〕

2. 世代間ギャップの要因

世代間ギャップとは、異なる時代背景や文化的経験を持つ世代同士で、価値観や行動様式、仕事に対する姿勢に違いが生じる現象を指す。特に現在の日本の職場では、バブル世代（1965年～1980年代初頭生まれ）の上司と、ミレニアル世代（1980年～1995年生まれ）、Z世代（1996年以降生まれ）の若手社員の間に、顕著なギャップが存在する。

■ 新規学卒就職者の事業所規模別就職後3年以内離職率（）内は前年比増減

事業所規模	高校	大学
5人未満	60.7% (+0.2P)	54.1% (▲1.8P)
5～29人	51.3% (▲0.4P)	49.6% (+0.8P)
30～99人	43.6% (+0.2P)	40.6% (+1.2P)
100～499人	36.7% (+1.6P)	32.9% (+1.1P)
500～999人	31.8% (+1.7P)	30.7% (+1.1P)
1,000人以上	26.6% (+1.7P)	26.1% (+0.8P)

■ 新規学卒就職者の産業別就職後3年以内離職率のうち離職率の高い上位5産業（）内は前年比増減 ※「その他」を除く

高校		大学	
宿泊業、飲食サービス業	62.6% (+2.0P)	宿泊業、飲食サービス業	51.4% (+1.7P)
生活関連サービス業、娯楽業	57.0% (▲0.2P)	生活関連サービス業、娯楽業	48.0% (+0.6P)
小売業	48.3% (+0.7P)	教育、学習支援業	46.0% (+0.5P)
教育、学習支援業	48.1% (▲5.4P)	医療、福祉	38.8% (+0.2P)
医療、福祉	46.4% (+1.2P)	小売業	38.5% (+2.4P)

出典：厚生労働省 人材開発統括官 令和5年10月20日

図1

2.1 価値観の違い

経験豊かな従業員世代は、勤勉さや忠誠心、長時間労働を美德とし、安定的な雇用を重視する傾向がある。この世代は「会社に尽くすことが最善である」という組織キャリア的考えが強く、職場での忍耐や継続的な努力が評価されるべきだという信念を持っている。一方、若手従業員は、個人の自由や自己実現を重視する傾向があり、「ワークライフバランス」や「働きがい」を重視する組織に依存しないキャリア自律的な考え方を持つ。同じ会社で長期間働くことよりも、自分のスキルを高め、さまざまな経験を積むことを重要視する傾向にある。一方、経験ある従業員は「会社に長く勤めることが信頼の証」と考える傾向から、若手従業員の転職志向を理解しにくい。このキャリアに対する意識の違いも、職場におけるフラストレーションや誤解を生み出す。また、職場での評価が公正にされ、成果に基づくことを期待し、単に「頑張る」だけではなく、効率的に成果を出すことが評価されるべきだと考えている。

2.2 働き方に対する考え方の違い

働き方に関しても大きな違いがあり、経験ある従業員は、長時間労働や現場での直接的な関与を重視し、「会社に尽くす」ことが当然と考える一方で、若手従業員はテクノロジーを駆使して、短時間で高い成果を上げることを目指す。テレワークやリモートワークなどの柔軟な働き方も重要視され、従来の「会社に毎日通勤する」ことが必須であるとは考えていない。また、日本における働く人の意識の変化では日本人の仕事中心性は、1980年代前半まで諸外国に比べて非常に高かったが、その後低下し、近年、日本の絶対的労働中心性は先進国の中で中位に位置し相対的労働中心性はやや低くなっていると報告している〔3〕。

2.3 コミュニケーションのスタイル

コミュニケーションの取り方にも世代間の違いがある。経験ある従業員は、対面でのコミュニケーションや上下関係を重視し、口頭での報告や連絡を好む傾向にある。これに対して、若手従業員はデジタルツールを活用した効率的なコミュニケーションを重視し、チャットやメールでのやり取りを好む傾向にある。このため、経験ある従業員からは「直接話をしない」「礼儀がない」と感じられ、若手従業員は逆に「形式ばかりで無駄なやり取りが多い」と感じることにつながる。

3. 世代間ギャップが引き起こす具体的な問題

職場における世代間ギャップが原因で、若手従業員が抱えるストレスや問題点は以下のような形で現れる。

3.1 上司とのコミュニケーション不全

若手従業員は、上司とのコミュニケーションにおいて「自分の意見が聞き入れられない」「上司が古い考えに固

執している」と感じることもある。一方で、上司側も若手社員に対して「礼儀を欠いている」「意欲が足りない」と感じることもあり、両者の間に摩擦が生じやすくなる。こうしたコミュニケーションのズレは、仕事の進捗に悪影響を及ぼすだけでなく、若手従業員の職場満足度を低下させる要因となる。

3.2 職場の風土や文化への違和感

伝統的な企業文化が色濃く残る職場では、若手従業員が「自分には合わない」と感じることが多い。たとえば、長時間の労働や報告方法、古い習慣に従わなければならないといった状況が、効率性を重視する若手従業員にとってストレスとなり、離職を考えるきっかけになる。

おわりに

若手従業員の離職問題は、どの企業にとっても重大な課題であり、世代間ギャップがその根本的な原因の一つとなっている。企業がこの問題を解決するためには、若手従業員の価値観や働き方に理解を示し、柔軟かつ効率的なコミュニケーションを図ることが必要である。また、公正な評価制度や働きやすい環境を整えることで、若手従業員が職場に定着し、成長し続けるための基盤を作ることが求められている。

【参考文献】

- 〔1〕厚生労働省：平成30年若年者雇用実態調査の概況
(https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/4-21c-jyakunenkyou-h30_gaikyou.pdf)
- 〔2〕独立行政法人労働政策研究・研修機構：若年者の離職状況と離職後のキャリア形成Ⅱ（第2回若年者の能力開発と職場への定着に関する調査）104-125（2019）
(https://www.jil.go.jp/institute/research/2019/documents/191_03.pdf)
- 〔3〕米田幸弘：日本人の働く意味の変化―国際比較の視点から、日本労働研究雑誌、736、51-64（2021）
- 〔4〕坂本光司：「日本でいちばん大切にしたい会社」がわかる100の指標、首藤由之、朝日新聞出版、東京（2019）
- 〔5〕石井遼介：心理的安全性のつくりかた「心理的安全性」が困難を乗り越えるチームに変える、張士洛、日本能率協会マネジメントセンター、東京（2021）
- 〔6〕上林周平：人的資本の活かし方 組織を変えるリーダーの教科書、田中研之輔監修、高橋克桂、株式会社アスコム、東京（2022）
- 〔7〕田中研之輔：70歳まで第一線で働き続ける最強のキャリア資本術プロティアン、北方雅人、株式会社日経BP、東京（2023）

日獣シンポⅠ-4

獣医師会加入率99%～岡山県獣医師会の取り組み～

○甲斐みちの

公益社団法人岡山県獣医師会 副会長

はじめに

昨今日本獣医師会において組織率の向上は大きな課題であり、特に地方獣医師会では財源の確保と主に喫緊の課題である。その中で、岡山県獣医師会では令和6年3月31日時点での会員獣医師加入率が99%と高い値である。(表1参考)

これは、先駆者である岡山県獣医師会理事の先生方の地道な努力の賜物である。その大きな要因としては小動物勤務獣医師加入率の高さがある。都市部と比較すると複数獣医師が勤務する病院は多くないが、その大部分が勤務医を獣医師会に入会させている。数年前までは岡山県でも多くの勤務獣医師は獣医師会に加入しておらず、そのため、小動物獣医師の獣医師会加入率は低かった。理事の先生方が各病院に直接おもむき、個別に院長にお願いして勤務獣医師の獣医師会加入への重要性を説き、協力を仰いだゆえの結果である。この努力は産業動物獣医師や公衆衛生獣医師においても同様であり、職場の先輩方の勧めによってほぼ漏れなく入会している。

また、他の要因として、岡山県は「岡山問題」と言われる反獣医師会グループが存在しており、独自の狂犬病集合注射の実施、同時に予防薬の販売を長年行ってきた。もとはと言えば、同じ獣医師会の仲間が狂犬病の予防注射トラブルへの対応により獣医師会に不信感を抱いた結果、反獣医師会グループを作る結果となってしまった。他県とは異なるこのような独自の背景があるため、獣医師会加入の意味合いの深さの一因となったのかもしれない。

しかしながら、現在の若い獣医師はほとんどがその当時の逸話を知らない。そのため、次世代では何のわだかまりもなく一緒に勉強会等で学んでいる。

表1 令和6年3月31日現在の岡山県獣医師会における会員獣医師数及び加入率

	獣医師総数(名)	会員数(名)	加入率(%)
男 性	373	390	100
女 性	158	137	87
計	531	527	99

(注) 獣医師総数は令和4年度12月31日現在の県への届出獣医師数

岡山県獣医学会では毎年発表演題が多く、その後の懇親会も盛り上がりが際立っている。その理由としては、岡山は専門医として優れた先生方が多く、症例紹介を通じて病院間の交流もあり、得意分野の異なる獣医師同士の助け合いが成立している。また、岡山県獣医師会の小動物部会では獣医師会主催のセミナーや会合に無料で参加できるメリットがある。他にも多くの獣医師が参加する勉強会もあり、知識レベルによらず質問しやすい環境、情報共有できるように努めており、岡山県全体の獣医師レベルの底上げを目指している。

結果、獣医師同士の横の繋がりが強固で、地域で診療するという風土が醸成されていて、お互いに紹介し、紹介されることで自分の診療ストレスが軽減されている。

このような理由で、岡山県獣医師会の会員率が高いのではないかと考えられる。

小さなお城の城主たる獣医師は、患者さんと日々対峙し、スタッフへの対応等多くのストレスを受け生活している。自殺者や心因性心疾患が多い代表的職業である。獣医師会に加入することにより横の繋がりが出来、日常の悩みが共有されることで軽減され、さらに獣医師会の発展につながれば幸いである。

日獣シンポ I-5

獣医師の資格を持って生きるためのヒント

○大門由美子

公益社団法人福井県獣医師会

毎年獣医師免許を取得し、社会へ巣立つ人たちがいる。獣医師の世界へようこそ。学生時代に多くを学ばれた皆さんは、社会へ出ていかがだろうか。また、免許を取得したばかりの人たちを職場や活動するチームで迎える先輩獣医師の皆さんは、どんな感想を抱いておられるだろうか。獣医師免許を取得して40年になる私は、家畜保健衛生所に2年間勤務し、以後ずっと小動物開業に携わってきて、夫も子どももいる普通のおばさんだ。それなりに幸せな日々だったと思える、私の拙い、だけど楽しく生きるヒントを、これから獣医師の世界に飛び込む、また迷いが生じている仲間の皆様へ送りたいと思う。

古来、家畜衛生から（あるいは戦時中の馬の取り扱いから）生まれてきた獣医学は、学問として進化し続け、近年小動物臨床の分野で大きく発展する産業となった。行政へ入職して、事務仕事ばかりの人もおられるだろうし、家畜の診療所で大型の家畜を診ながらこれからの畜産業界に想いを馳せたり、自分の体力の限界を痛感する人、動物病院に就職してお休みの無さに疲れ果ててしまう人、動物実験に従事する人、誰もが楽に仕事ができているわけではない。特に、家畜もペットもその飼い主とのやり取りにはかなり労力を使い、獣医療を駆使するだけではなく、動物の向こうにいる人の気持ちを汲んで治療に結び付けるといって高度な技が必要となる。本当に大変だ。疲れ果ててやっと寝入った夜中に来る急患、緊急の呼び出し、ひと時も休まらない。このまま仕事を続けていくのに、ただ動物が好きという気持ちだけでは不可能になってくる。行政の中にはほとんど動物に触れず、食品衛生や薬剤師と同じような業務をする人もいる。獣医師なのに動物に関われないなんて……と仕事への熱意が消えてしまいそうだ。好きなはずのこの業界で生きていくためのより強いモチベーションが必要になってくる。そこで、私が経験してきた「仲間作り」「恩師との出会い」を披露したいと思う。

大抵の人は社会の中で生きるもので、他者との関わりが必要だ。しかし、それさえ苦手な人も多い。相手が動物だと楽かもしれない、とこの世界に入った人もいるかもしれないが、それは大きな誤解だ。動物とその動物に関わっている人との関係がとても重要なのだ。だが仕事ばかりでは疲弊してしまうので、他に趣味などを持つことも大切になる。趣味でなくても例えば「推し活」と言わ

れるような好きな人やモノを追っかけるというのも楽しい。しばし現実を離れて気晴らしをする、というのが良い。だが例えば旅行が趣味だと、そんなに長期間休めないという壁も立ちはだかる。臨床をやる人たちには「卒後セミナー」や「専門の学会」に参加することで更に進化する獣医学を学ぶという、自分の知識欲を満たし、見識を深めることが、収入に繋がるという良い場もある。大きな組織のセミナーに行かなくても、近隣の開業医に声をかけて、症例検討会を開くもの良いと思うが、この場合、助言者の存在が必要だろう。適切な助言をくれる人がいないと、消化不良な検討会になることもあり、獣医系の大学がない地域や地方では特に悩ましい。しかし、症例検討会も節度を守って意見を述べ合えばお互いの成長に繋がり、悩んでいることが同じだと解ると仲良くなれる。それがその地域の獣医療の成熟を促し、飼い主とペットの幸せにつながり、地域での動物愛護意識の醸成になる。

もう一つ、獣医師の知識と技術を生かした社会貢献活動をするという気晴らしがある。ヒトは「よりよく生きていきたい」と願う。小学校の頃の道徳教育はそういう気持ちを育むためのものだ。では、よりよく生きるためにはどうしたらいいのだろうか。私は「何か人の役に立つこと」ではないか、と思う。誰かの役に立つというのは、母親のお手伝いをして喜んでもらえると自分も嬉しいという表情になる幼児の様子からもすぐに理解されると思う。ヒトは生まれながらにして誰かの役に立とうとするのではないだろうか。そこで、「誰かの役に立つ」獣医療を考える。今の自分の仕事に絡めて「誰かの役に立っているだろうか」と自分に問いかけてみる。いろいろな意味で小動物臨床の限界を感じていた私が最初に出会ったのがJAHAのCAPP活動だった。夫の勤務先の院長が神奈川県で活動しておられたので、すんなり入っていくことができた。とにかく、何も知らないのだから、正直にゼロから教を請うた。その後すぐに会うことができた、都会の真ん中で動物病院を営んでおられる恩師は、その立ち振る舞い、言葉使い、どこから見ても素晴らしい方だ。私はできるだけその様子を真似るように心がけた。立ち振る舞いとはとても大事だし、言葉も礼儀をわきまえて使うことが必要だと知った。そこから犬の行動学的重要性を認識し、しつけ教室を開催し、理解

のある飼い主さんたちのチームを作るまでそう時間はかからなかった。恩師は「しつけの先生でなくても、あなたは獣医師なのだから。飼い主が集えるサロンを開けばいいのよ。」と仰った。それから30年間、現在まで活動は継続している。飼い主さんたちと親しくなるのは良いことばかりとは言えないかもしれないが、本当に助けていただいている。また犬のトレーニングを勉強して犬に対して敬意を払うことを知った。これは犬だけでなく自分が相対するすべてに対して必要なものだ。

社会貢献活動のもう一つが、学校での動物飼育を支援することだ。きっかけは息子の入園から始まる。ウサギが2羽飼われていたその園では、休日の餌やりに保護者が交代で登園することになっていた。休日の世話の案内の文書に「ウサギに水は必要ない」との文言があった。息子がお世話になっている園の先生にその間違いを指摘するのに私がどのくらい苦労したかお解りになる方々も多いと思う。その次に入学した小学校では、なんとウサギとニワトリが同じ飼育舎にいた。正確にはウサギは最初見当たらなかったが、ある大雨の日に床に空いていた穴が水没しており、その脇にウサギが2羽穴に入れずにいた。また別の日には鶏が死んで（飼育舎の網から翼が

外に出ているので気が付いたのだが）いるのに、その飼育舎の周囲を子どもたちがかけっこをして遊んでいた。この子どもたちのことを思うと、私が立ち上がらねばならないと奮い立ってしまった。

私は人よりも少しだけ親切なだろう。

それからは学校飼育動物の支援活動を日本中でけん引している恩師に出会う。この方は非常に势力的に活動され、歯に衣着せぬ物言いをされるので叱られることも多くあったが、本当はとても優しく、動物も人間の子どもも大好きな方だった。それから先は、福井県獣医師会内での委員会活動が活発になり、多くの仲間ができた。日小獣を経て現在では日本獣医師会でも委員を務めさせていただいている。教育関係者が多くおられる全国学校飼育動物研究会でも素晴らしい先生方に出会えて、事務局の仕事をしながら沢山の事を教えていただいている。こうして、人よりもほんの少しだけ親切な私は、もっと親切な人たちの中に入ることで、やがてもっともっと親切な人たちの元へと導かれ、気が付くととても親切な獣医師の中にいて、自分の親切を磨いている。社会貢献したいという思いが翻って毎日の動物病院での飼い主さんとのやり取りに生きていると感じている。

第42回日本獣医師会獣医学部年次大会(令和6年度)特別企画 日獣シンポジウム1
市民公開シンポジウム(すべての獣医師が出席できる会場も設置済み)の一角に

獣医師の現状と 将来に向けた展望

農林水産省消費・安全局 畜水産安全管理課
令和7年1月25日

1

00 はじめる前に自己紹介

名前:岩田 啓(いわた けい)
現職:農林水産省 消費・安全局 畜水産安全管理課
課長補佐(獣医療提供戦略班担当)

これまでの経歴:千葉県 千葉市出身
平成21年3月:鹿児島大学 農学部 獣医学科 卒業 (微生物学研究室)

平成21年4月:農林水産省 入省
平成22年4月:動物検疫所 北海道出張所 胆振分室
平成24年4月:動物検疫所 検疫部 動物検疫課
平成26年4月:神奈川県 県央家畜保健衛生所
平成28年4月:動物検疫所 精密検査部 病理・理化学検査課
平成31年4月:消費・安全局 動物衛生課
令和 3年4月:消費・安全局 畜水産安全管理課
令和 5年10月~:現職

- 競走馬・繁殖馬・アルパカ、コヒトカバ等の輸出入検疫担当
- 畜産農家へ検査、指導担当
- 遺伝子検査、病理検査担当
- 豚熱、鳥インフルエンザ防疫担当
- PFAS、肥育ホルモンなど残留担当

2

今日のお話

- 獣医師をめぐる情勢
- 獣医師の現状
 - 年齢分布と地域特性
 - 職域別の年齢構成
 - 将来の展望

3

1-01 主な対象飼育動物と課題

○ 牛の頭数は横ばい。豚は微減。ただし、農家戸数は減少し、大規模化が進展。
○ 犬の頭数は減少傾向。猫は横ばい。ただし、平均寿命が延びている。

○ 飼育動物の頭数(万頭)

○ 家畜の飼養戸数(百万戸)

○ 家庭の犬猫平均寿命(才)

⇒ 指導や治療の物理的な非効率化に対応する必要。
⇒ (飼い主も含めた) 高齢化に伴う対象疾病やニーズの変化ありか。

4

1-02 獣医師の資格を活かして、どう活躍する？

○ 獣医師の活動分野は広い。犬猫等の診療に4割、産業動物分野(診療や家畜衛生)が2割、公衆衛生等やその他獣医系分野に1.5割ずつが従事。

分野別獣医師の数		
	平成24年 (人) (%)	令和4年 (人) (%)
産業動物診療	4,366 11.4	4,460 11.0
農林水産分野	3,444 9.0	3,311 8.2
公務員	5,260 13.7	5,378 13.3
公衆衛生分野	533 1.4	456 1.1
その他	14,640 38.2	16,541 40.9
小動物診療	5,541 14.5	5,955 14.7
その他の分野	33,784 88.2	36,101 89.2
小計	4,509 11.8	4,354 10.8
獣医師に従事しない者(無職含む)	38,293 100	40,455 100
合計		

① 産業動物獣医師(約2割)に従事
② 小動物診療獣医師(約4割)に従事
③ 公務員獣医師(約1割)に従事
④ その他の分野
大学の教員、動物用・人用医薬品の開発、海外技術協力などに従事

5

1-03 獣医師の活動状況

○ 犬猫の頭数が減少か横ばいという傾向の中、近年、新卒獣医師は45%程度が小動物診療に就職。一方で近年の小動物診療就業者は40%程度。
○ 新卒の就職先と分野別獣医師数が近年乖離。

○ 獣医大学卒業者の就職状況の推移 (単位:人)

○ 分野別獣医師の数 (単位:人)

注: 獣医大学卒業者には獣医研究免許未取得者を含む
注: ① 内は各年度の卒業生数に占める割合(%)
注: ② 内は各年度の卒業生数に占める割合(%)
注: ③ 内は各年度の卒業生数に占める割合(%)
注: ④ 内は各年度の卒業生数に占める割合(%)

6

今日のお話

1 獣医師をめぐる情勢

2 獣医師の現状

(1) 年齢分布と地域特性

(2) 職域別の年齢構成

(3) 将来の展望

2 (1) -01 地域分布

地 域	H24		R4		全国比
	届出者総数	全国比	届出者総数	全国比	
北海道	3,305	8.6%	3,453	8.5%	-0.1%
東北地方	3,013	7.9%	3,015	7.5%	-0.4%
関東地方	12,649	33.0%	14,361	35.5%	+2.5%
中部地方	5,529	14.4%	5,684	14.1%	-0.3%
近畿地方	4,968	13.0%	5,140	12.7%	-0.3%
中国地方	2,426	6.3%	2,334	5.8%	-0.5%
四国地方	1,326	3.5%	1,405	3.5%	0.0%
九州地方	5,077	13.3%	5,063	12.5%	-0.8%
合 計	38,293	100%	40,455	100%	

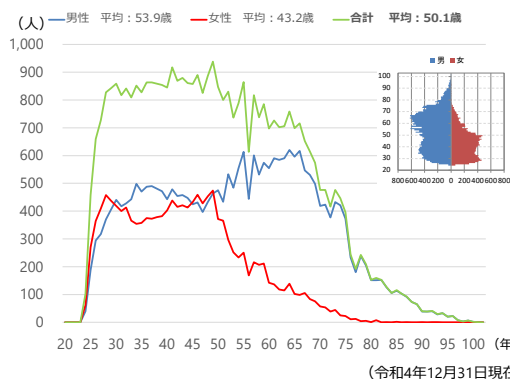
【（人）：農林水産省調べ】

獣医師の地域偏在

7

8

2 (1) -02 年齢分布 (全国)



9

2 (1) -03 獣医師の平均年齢

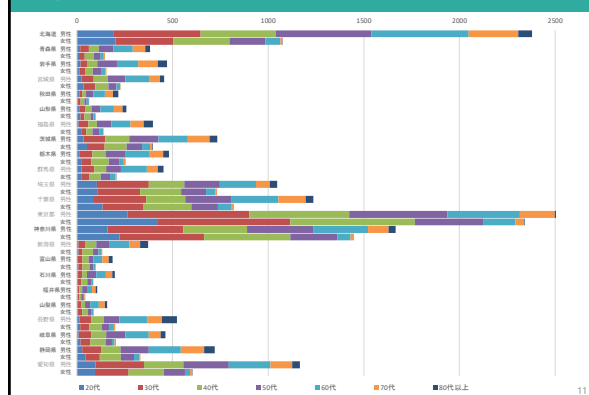
地 域	全国全体 平均との差	平均年齢		
		全体	男性	女性
北海道	-1.3	48.8	52.1	41.7
東北地方	+5	55.1	58.7	45.8
関東地方	-3.1	47	50.4	42.4
中部地方	+2.4	52.5	56.2	44.3
近畿地方	-1.7	48.4	51.5	42.5
中国地方	+3.8	53.9	57.5	45
四国地方	+4.8	54.9	58.8	44.7
九州地方	+3	53.1	56.5	44.3
全 国		50.1	53.9	43.2

【（歳）：農林水産省調べ】

人口が多い、動物が多いところに集まる？

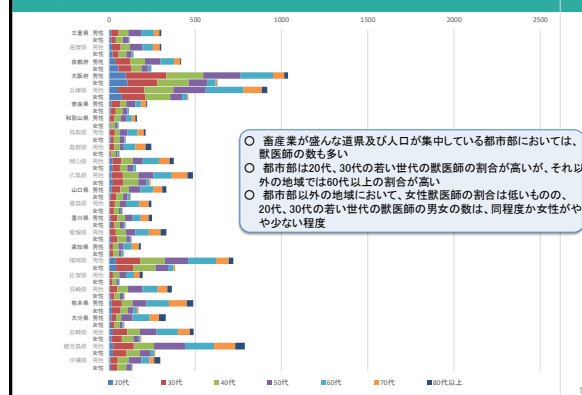
10

2 (1) -04 獣医師法22条の届出 都道府県別解析

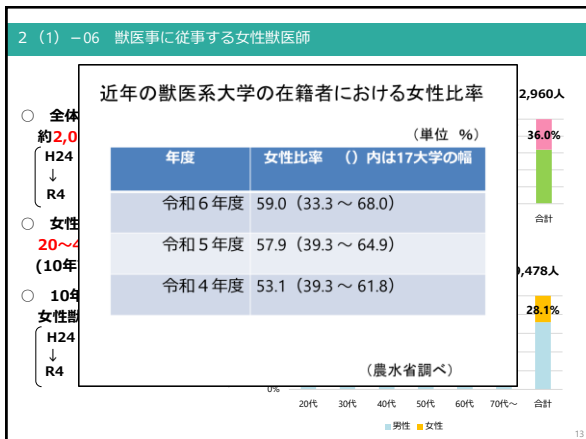


11

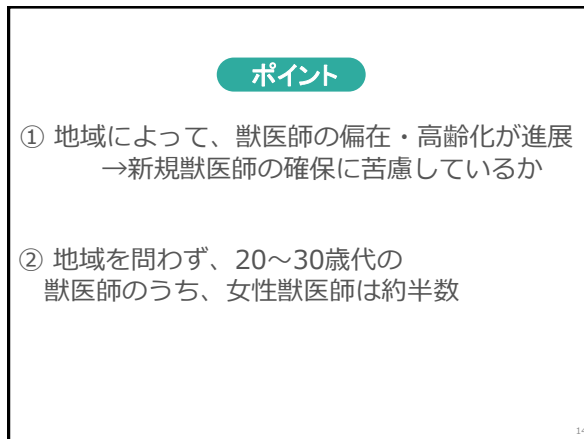
2 (1) -05 獣医師法22条の届出 都道府県別解析



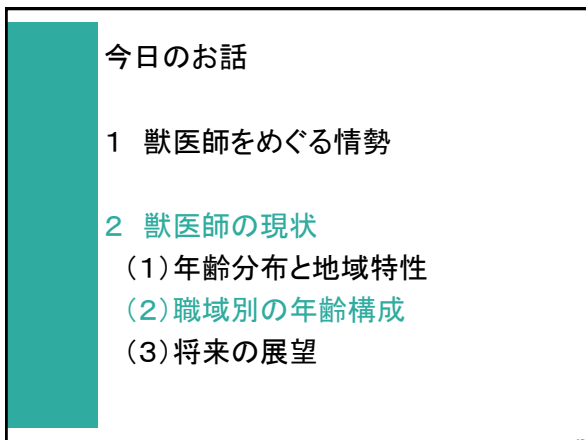
12



13



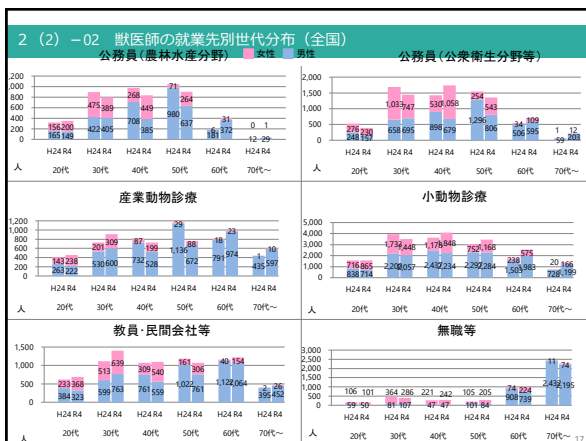
14



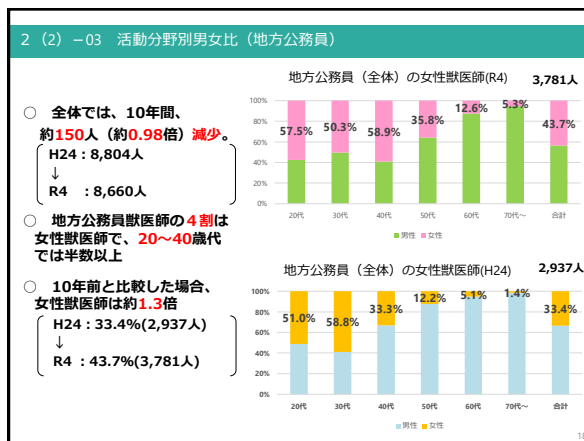
15



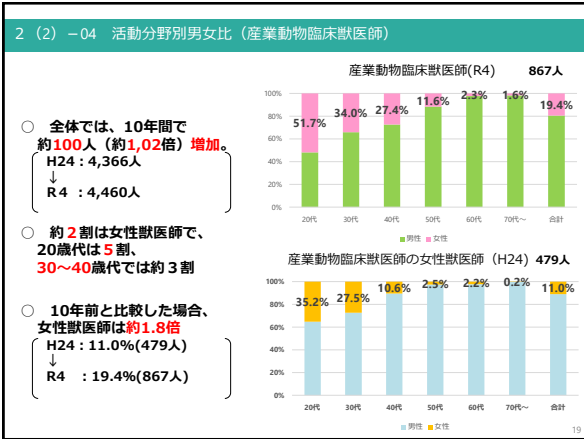
16



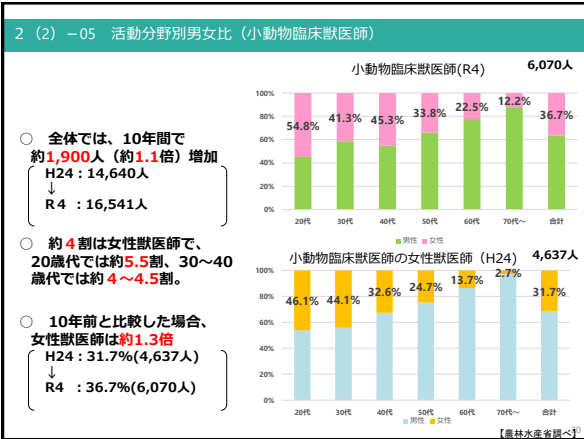
17



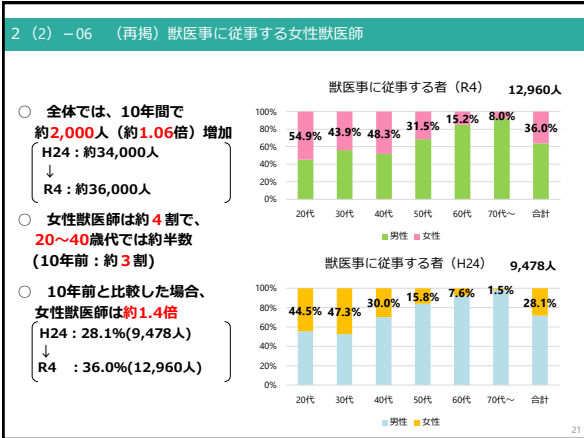
18



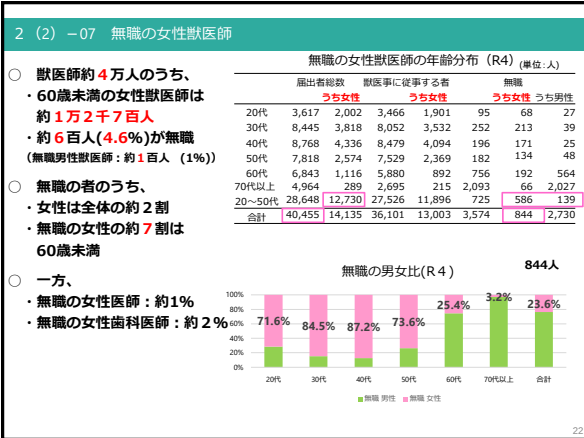
19



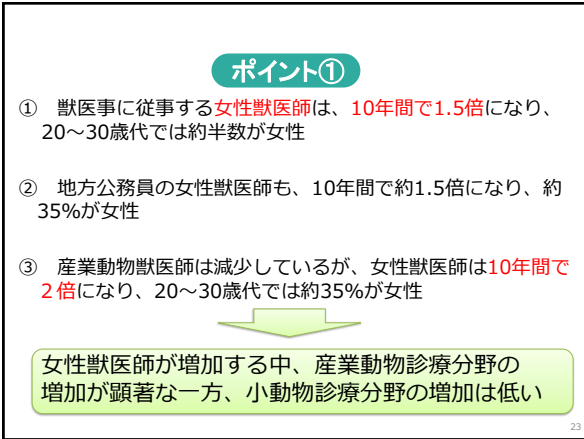
20



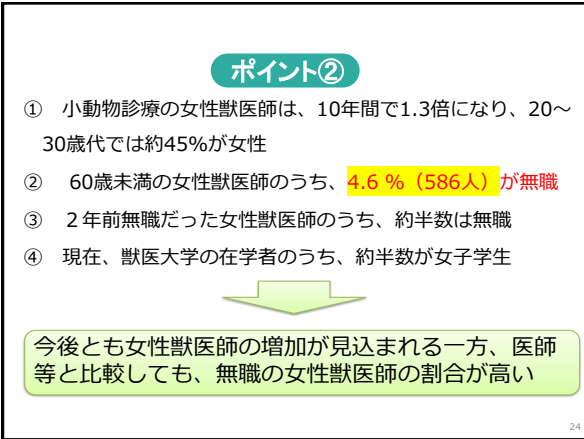
21



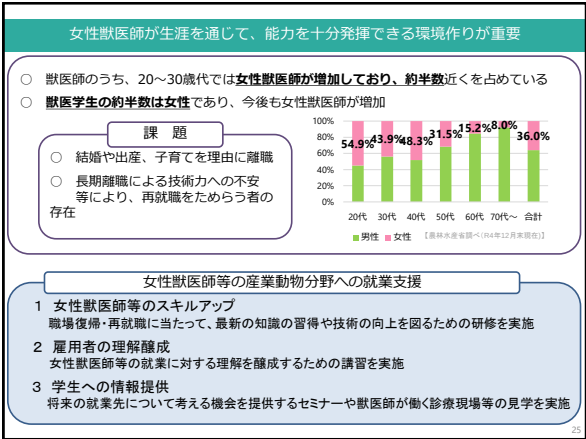
22



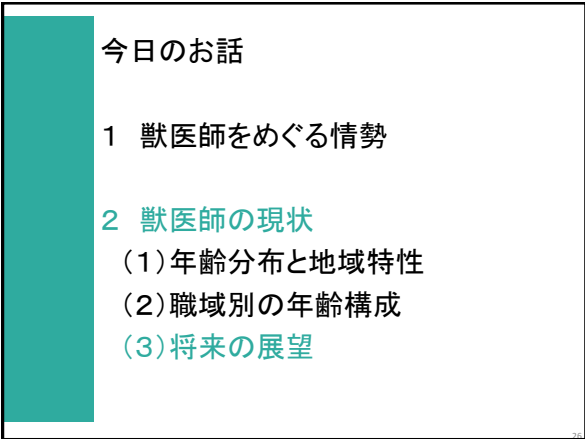
23



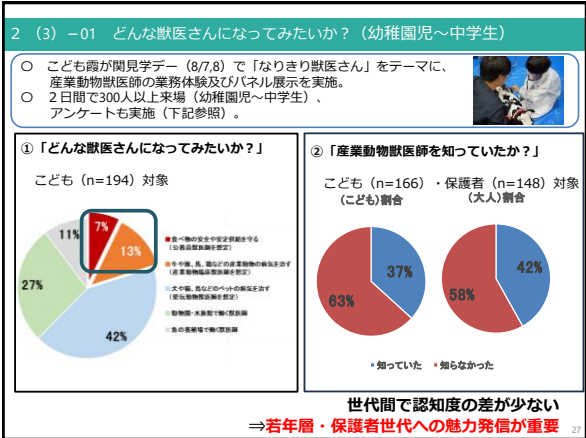
24



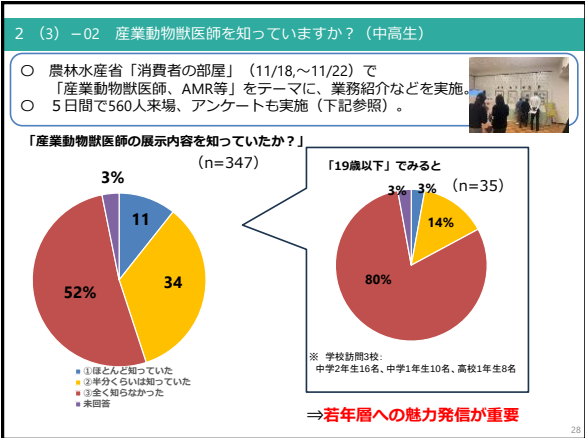
25



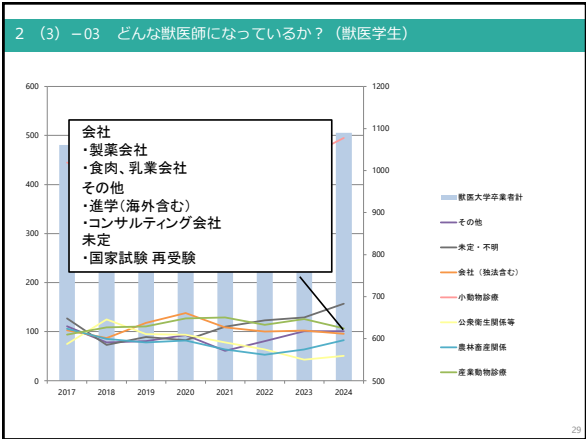
26



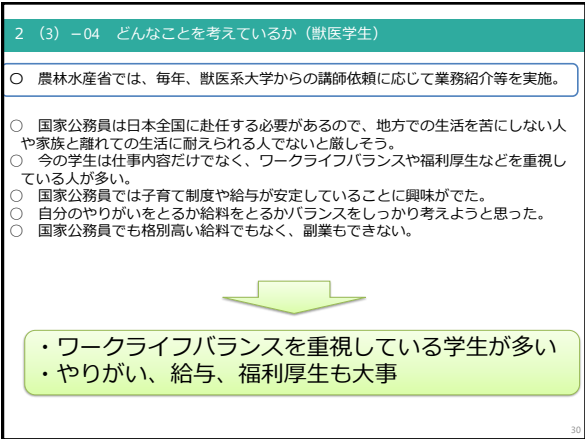
27



28



29



30

2 (3) - 05 どんなことを考えているか(獣医学生)

○ 農林水産省では、毎年、獣医系大学からの講師依頼に応じて業務紹介等を実施。

○ 自分の手で直接動物を診療したい。

○ 小動物臨床は、愛犬や動物病院、中学校での職場体験などで大学入学前からイメージを持ちやすい環境。

○ 動物のために働きたい人が多い獣医学部で人の食の安全を守りたいと思って仕事ができる人はなかなかいないのに加え、世間でもあまり認知されていないと感じる。

○ 実際の仕事は自分のイメージと異なり研修で見せてもらうことの大切さを感じる。

○ 今回の大学のカリキュラムが小動物の方に魅力をより感じるつくり。産業動物は情報に触れ合う機会が少ない。

○ 公務員獣医師はワークライフバランスを取りやすいのに人気がないのは、その仕事の認知度の低さからだと思う。

↓

・ 獣医師といえば「動物を直接診療」
・ 仕事によって、認知度に違い

31

31

ポイント

- ① 子供から大人まで、獣医師の仕事内容について、「動物のお医者さん」のイメージが強い。
- ② 特に、産業動物分野に関する「知っている人」が少ない。
- ③ 獣医学生の職業選択については、「ワークライフバランス、給与、仕事のやりがい」は重要

- ・ 獣医師の職域の広さを知ってもらうことが必要
- ・ 処遇を含む職場環境改善はマスト

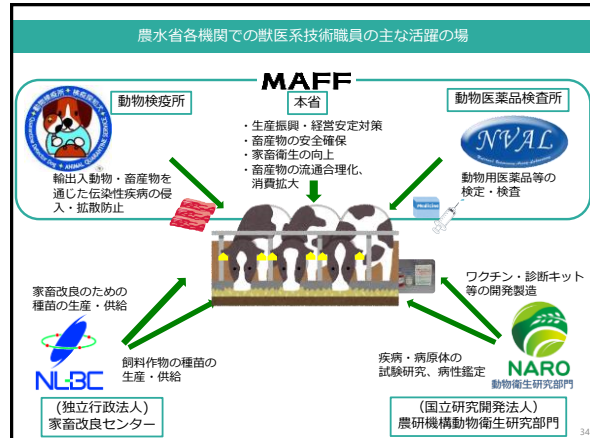
32

32

参考) 農林水産省の職場環境

研修制度 / 両立支援制度 / 働き方改革 / 子育て中の職員の声

33



34

研修制度

スキルアップするための、様々な研修を用意しています。

職階別研修

新規採用者向けの研修

- 新着者研修
- 総合職の方は、人事院主催の初任者向け研修にも参加（他省庁合同）

昇任前後で受ける研修

- 保長養成研修
- フォローアップ研修
- 課長補佐養成研修など

能力開発研修

各機関実施の研修

- 本省：農村研修
- 動物検疫所：新規採用者研修
- 家畜防疫官研修など

語学研修

- 外国語能力等向上研修
- オンライン英会話研修など

派遣制度

- 長期在外研究員制度★
- 国内大学院派遣制度など

★ **長期在外研究員制度とは？**

人事院主催の海外留学制度。
 海外の大学等の修士主課程等2～3年間派遣されます。
 留学力向上に資し、留学経験、将来の国際関係構築等の
 従事意欲が高い方が選考されます。

長期在外研究員制度について知りたい方は
こちらから（人事院ホームページ）

35

両立支援制度

妊娠

出産

育児

体調に配慮しながら働きたい

- 深夜・長時間勤務の制限
- 運動補助のための職務専任業務の免除
- 健康診断・保健指導を受けるための職務専任業務の免除

仕事を休んで専念したい

- 産前・産後休暇
- 育児休業
- 育児参加のための休暇

仕事を休んで専念したい

- 育児休業
- 子の養育休暇

農林水産省の
男性の育児取得率は

66.4%

女性は
100%

勤務時間を短くしたい

- 育児短時間勤務
- 育児時間
- 保育時間

勤務時間帯を変更したい

- フレックスタイム制
- 早出遅出勤務
- 休務時間の短縮、延長

※ 1 育児のために取得する一定期間の休職(休暇)は除く
※ 内閣府「国家公務員の育児休業等取得状況のフォローアップ」に基づき作成

詳しい内容については、
人事課担当の専任支援コンパイルを
ご覧ください。

本署建設の研究所

36

働き方改革

「働き方改革」推進中！

多様な働き方ができるように改革を進めています。

働き方改革キャラクター

すてらくん

ひいちちゃん



持ち出し可能な軽量PC
職員全員に配布されました。
異動時と同じ端末を利用可能に。



テレワークの導入
通勤時間がなくなることで、ワークライフ
バランスが向上しました。



BYODで私用スマホ使用可
一部のアプリが利用可能に。
出張時、災害時の報告にも活用できます。



フレックスタイム制の導入
原則全ての職員が利用可能に。
多様な働き方を手に入れますよう。



Teamsの導入
WEB会議・チャット・ファイルの共同編集
などが手軽にできるようになりました。



年次休暇の取得推進
月1回の取得を推奨。休暇をとっても支障
がないように業務の効率化も進めています。

37

獣医師の就業環境等に関する 現況調査（2024）報告

女性獣医師活躍推進委員
川手 日出子
（全国家畜衛生職員会）

1

目 的

- 獣医師全体の就業状況や女性の就業支援の整備状況について実態を把握する。
- 平成26年1～2月に行った調査と比較し、社会情勢の変化にともなう課題や女性の就業環境の変化について調査する。

調査方法 専用WEBサイトによるオンライン調査

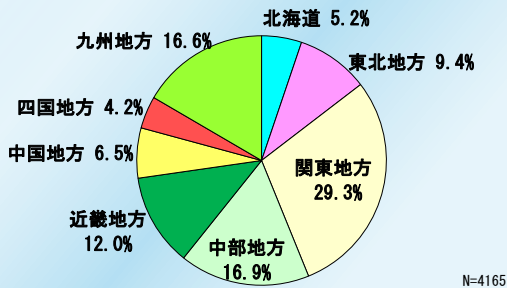
実施期間 令和6年8月10日から10月31日

回答数 4,165名

男性 2,125名（51.0%）
女性 1,912名（45.9%）
回答しない・無回答 128名（3.1%）

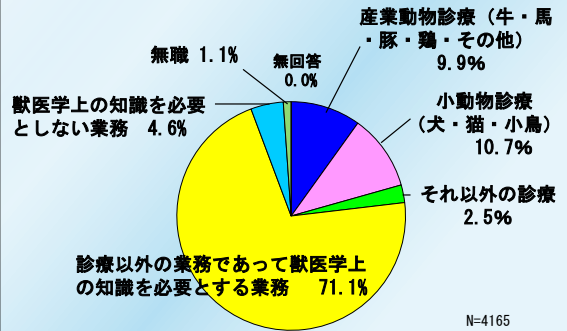
2

回答者の属性 <地域>



3

回答者の属性 <職域>



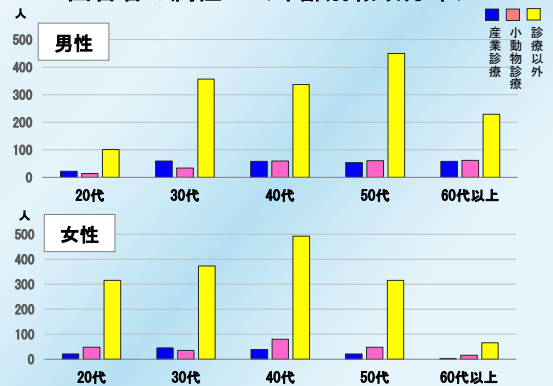
4

回答者の属性 <従事する業務>

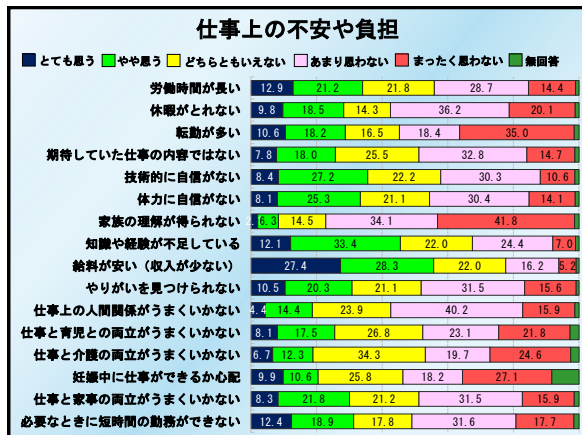
自ら開設する診療施設において診療の業務に従事	7.2%
他の者が開設する診療施設において診療の業務に従事	8.6%
自ら住診のみによって診療の業務に従事	0.8%
他の者に雇用され住診のみによって診療の業務に従事	3.0%
農林畜産関係の行政事務に従事	23.7%
公衆衛生関係の行政事務に従事	41.2%
環境関係の行政事務に従事	1.4%
その他の行政事務に従事	1.7%
試験研究に従事（大学勤務を除く）	3.6%
獣医系大学で教育に従事（教官又は教員）	1.2%
獣医系大学の勤務者（大学院生を含む）で10以外に従事	0.1%
獣医系大学以外で教育に従事（教官又は教員）	0.4%
製薬関係に従事	2.5%
飼料関係に従事	0.5%
その他	4.1%

5

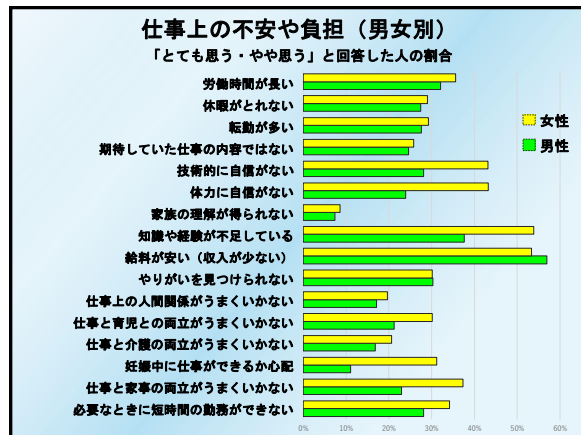
回答者の属性 <年齢別職域分布>



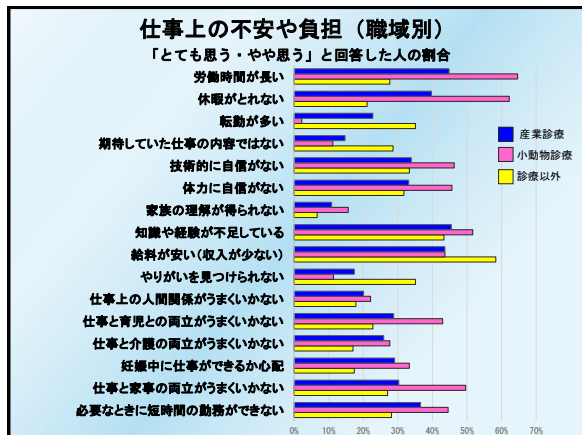
6



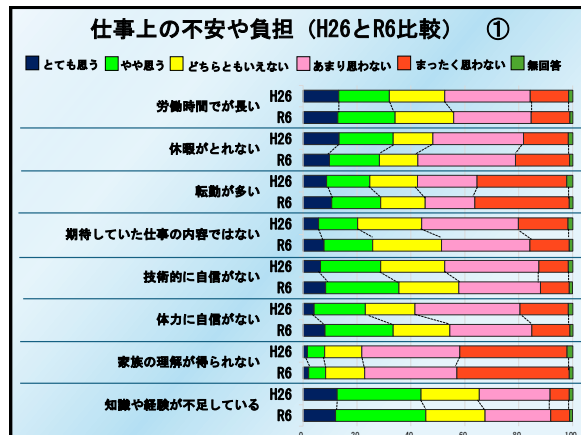
7



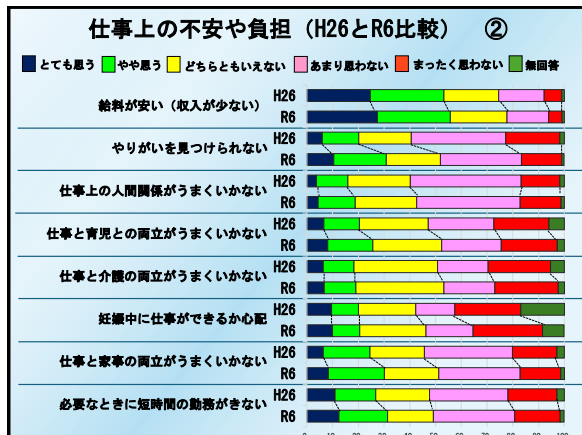
8



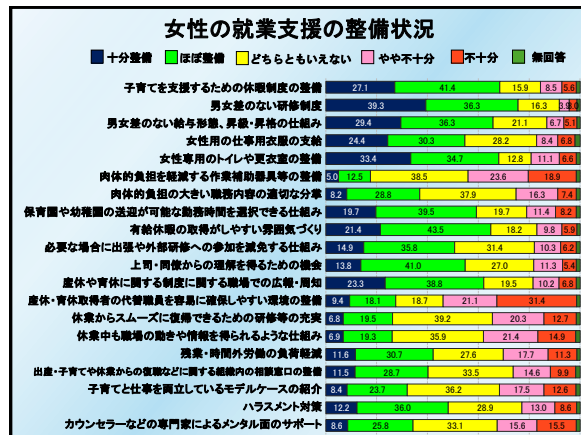
9



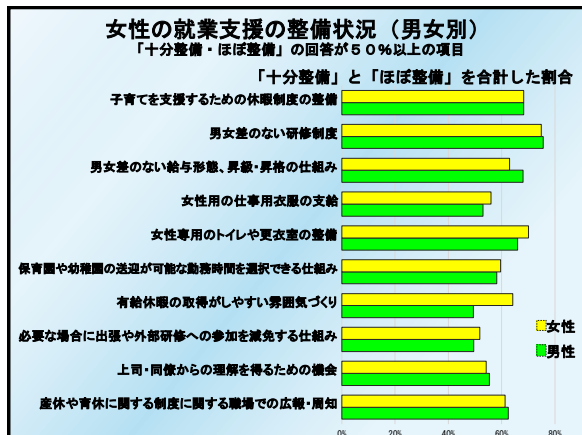
10



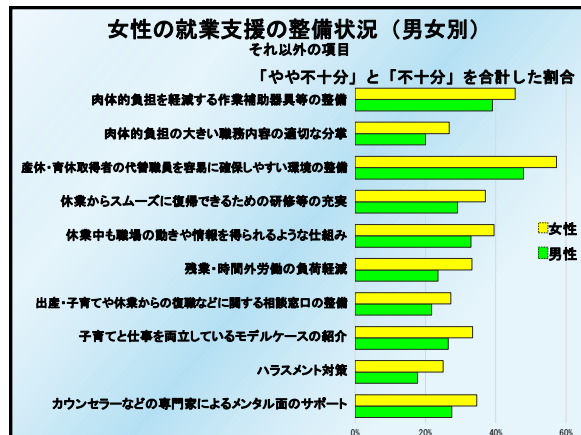
11



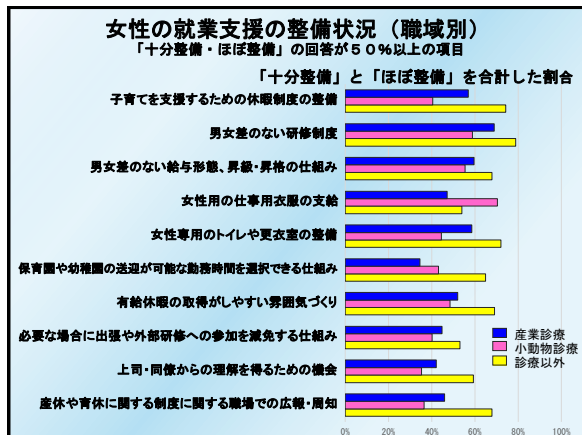
12



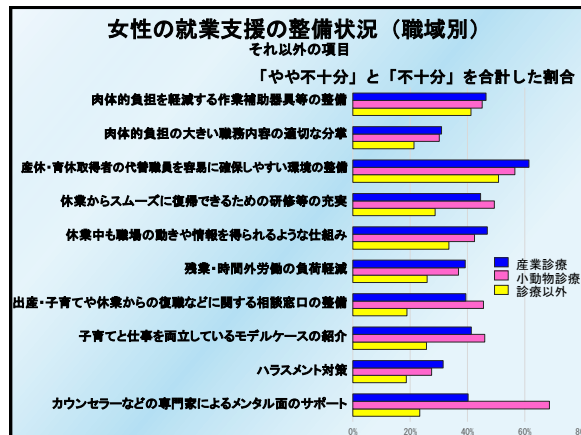
13



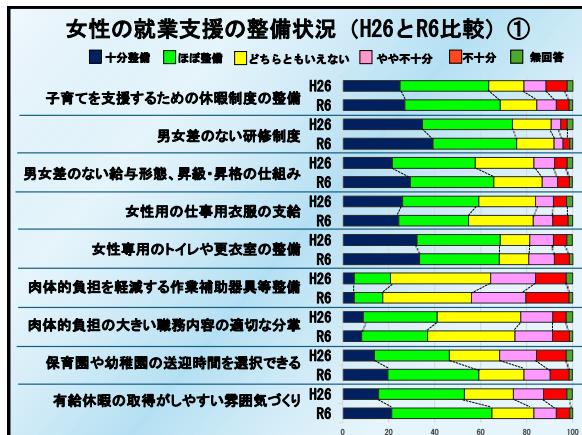
14



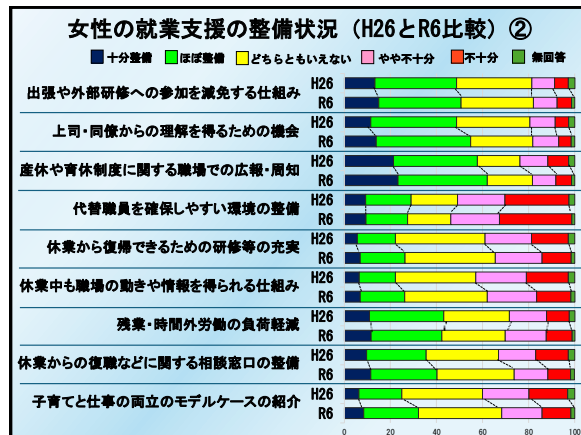
15



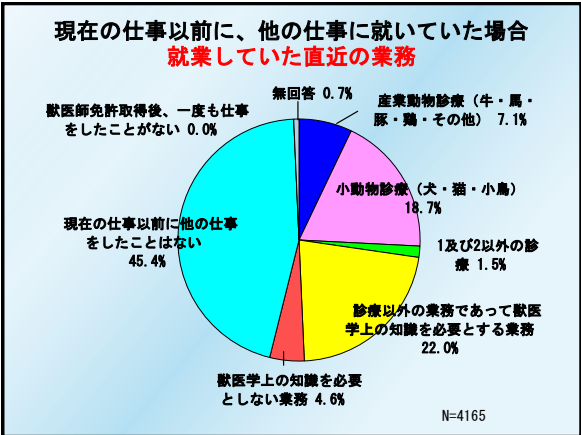
16



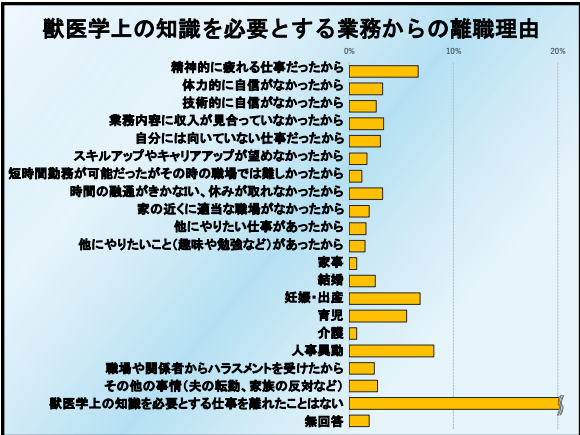
17



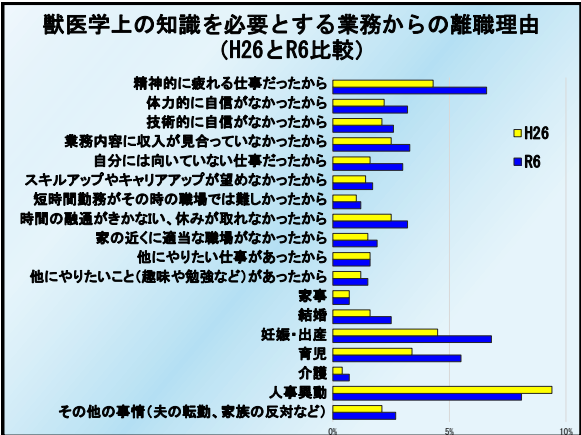
18



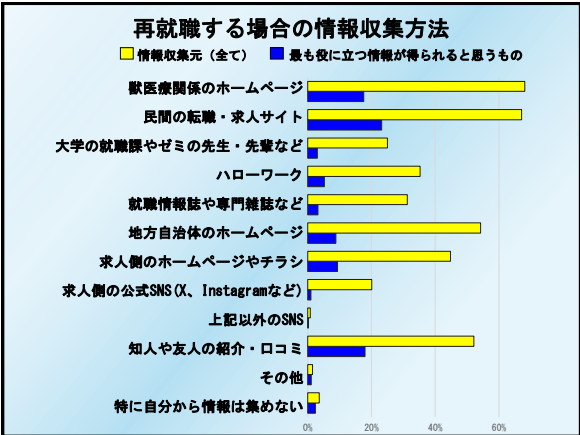
19



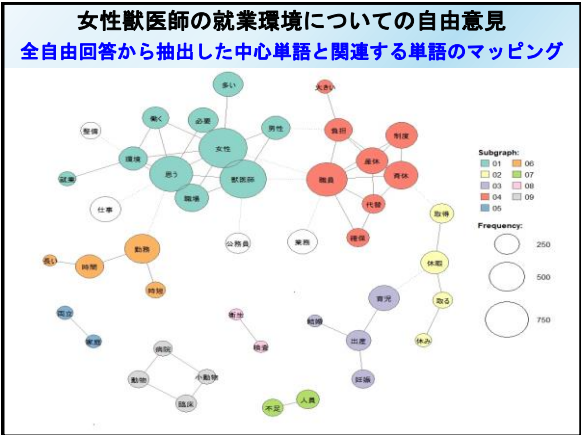
20



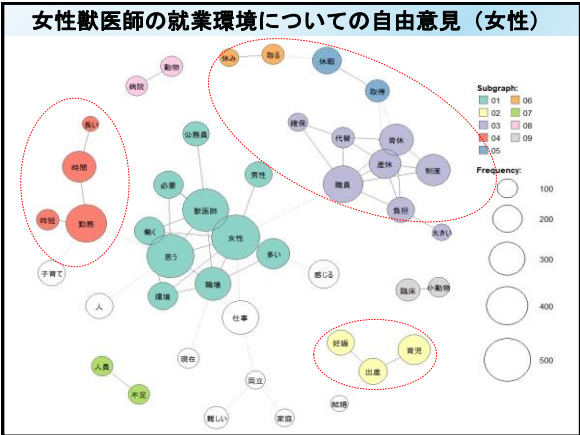
21



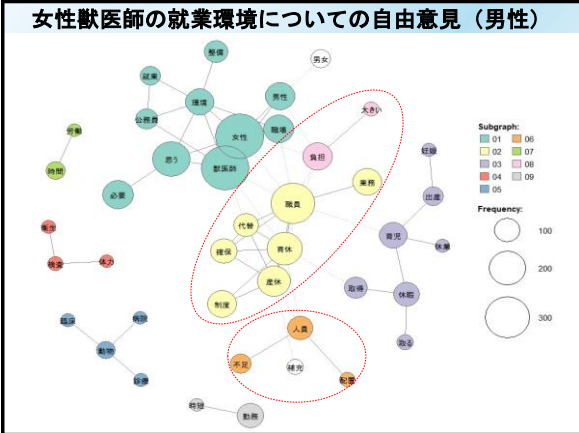
22



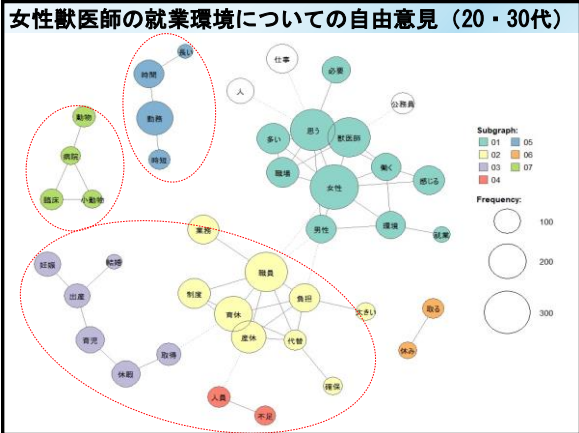
23



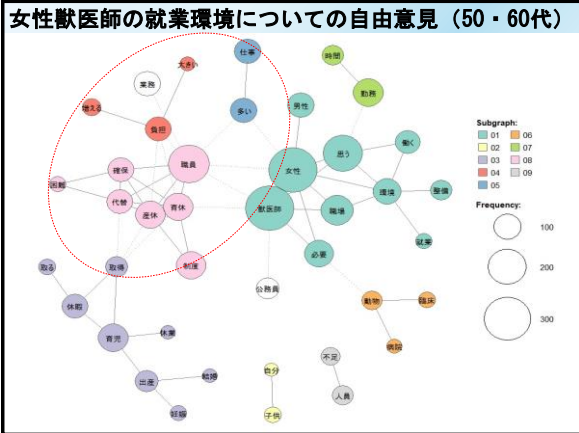
24



25



26



27

まとめ

➤仕事の不安や負担に感じること

- ・収入が少ない → 獣医師の処遇改善
- ・知識・経験の不足 → 獣医師のリスキリングの推進
- ・家事・育児との両立 → 働き方改革の推進

➤女性の就業支援の整備状況

- ・男女による認識の違い → 職場全体の共通認識醸成
- ・産休・育休の代替職員の確保 → 制度整備、人員確保
- ・メンタル面のサポート・相談窓口整備 → 獣医師会等による取組

誰もが活躍できる環境づくりを目指して
長く働き続けられる環境や制度の整備
魅力ある職業としての環境整備

28

アンケート調査にご協力いただいた
獣医師の皆様へ感謝申し上げます

29

すべての獣医師が活躍できる未来 ある職場づくりのために

-キャリアの視点から-
世代間ギャップと若手の離職問題

2025年1月25日 14:00～17:00 市民公開シンポジウム

SMILE 岡野 顕子



1

世代間ギャップと若手の離職問題 -キャリアの視点から-

2025年1月25日 14:00～17:00 市民公開シンポジウム

SMILE 岡野 顕子



2

岡野 顕子 Okano Akiko

- 学習歴
2001年 獣医師（国家資格）
2019年 キャリアコンサルタント（国家資格）
2022年 国際EAPコンサルタント（国際認定）

一般社団法人プロティアン・キャリア協会 認定ファシリテーター・メンター
レジリエ研究所 レジリエ・コーチ
EAPA-J認定 ヘルシーリレーションインストラクター

- 職業キャリア
2001～2019 動物病院に勤務
2019～ Veterinary Career Lab SMILE 設立

獣医師として、18年間勤務医として小動物病院に従事。
30歳から副院長として人材育成にも関わる。
2019年にキャリアコンサルタントを取得し、動物病院でのキャリア支援を開始。
2022年より、組織での従業員の生産性を上げる取り組みの必要性を感じ、国際EAPコンサルタントを取得。現在は、従業員の個の支援とともに、組織支援をふくめたキャリアコンサルティングを実施。



3

動物病院でのキャリア支援



4

こんなことはありませんか？

世代間ギャップと若手の離職問題—人材育成の悩み

- ・指導（叱る）と目に見えて落ち込む、泣く
- ・失敗を恐れる
- ・プライベートを優先する
- ・若手社員の価値観がわからない
- ・労働環境も整えているのに、離職やメンタル不調者が多い



5

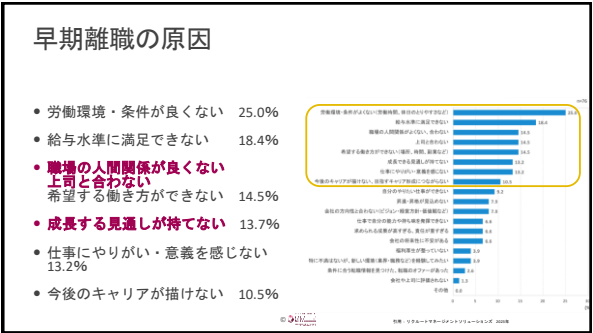
若手の離職



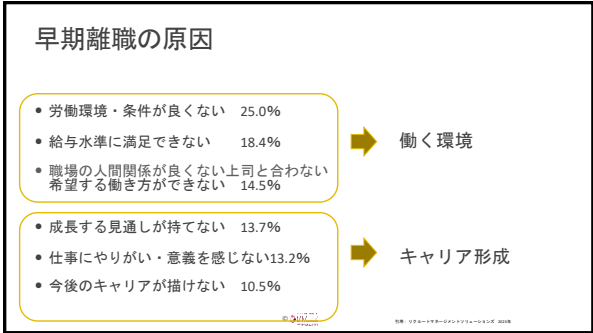
6



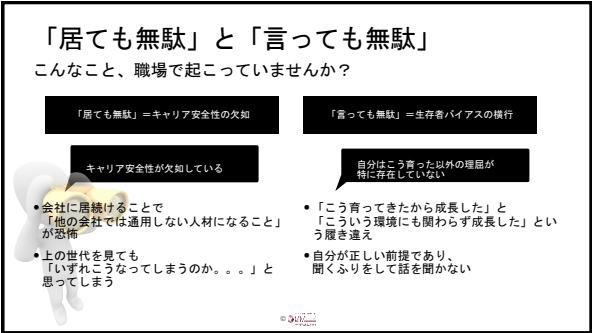
7



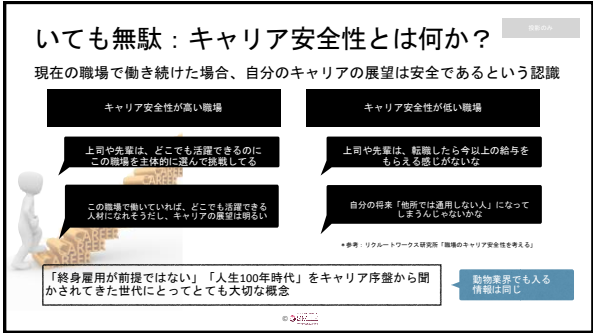
8



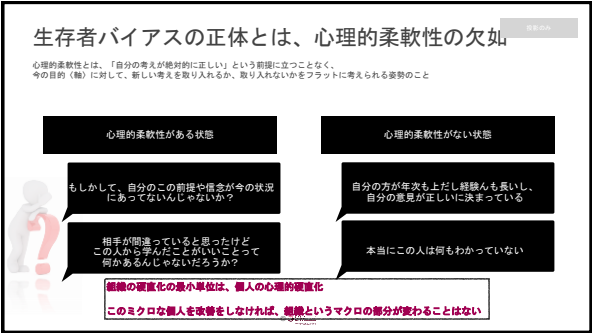
9



10



11



12

なぜこのようなことが起こるのか

© 2022 株式会社 日本生産性本部

13

世代間ギャップ

- 異なる世代間で生じる価値観、考え方、行動様式、文化的背景の違いによる「隔たり」や「ズレ」のことを指す
- これは、特に**職場**や家庭などの**多世代が関わる環境**で顕著に現れる

© 2022 株式会社 日本生産性本部

14

世代間ギャップが職場で問題になる場面

- 職場の摩擦
 - 上司と部下の間での価値観の対立
 - 若手社員が「理解されていない」と感じる
- ↓
- 若手の不満（評価が不透明、共感が得られない）
 - 組織の停滞（適応がとくられる、優秀な若手が離職）

© 2022 株式会社 日本生産性本部

15

世代間ギャップの具体例

- 職場でのコミュニケーション
 - 上の世代: 直接対話や電話でのやり取りを好む
 - 若い世代: チャットやメールでの効率的なやり取りを好む
- 働き方に対する考え方
 - 上の世代: 長時間労働をいとわず、努力を評価
 - 若い世代: ワークライフバランスや柔軟な働き方を重視
- 価値観の違い
 - 上の世代: 伝統的なルールや慣習を尊重
 - 若い世代: 個性や多様性を重視

© 2022 株式会社 日本生産性本部

16

今の世代が社会に出て感じる困惑

1990年代後半～2010年代の初頭に生まれた世代

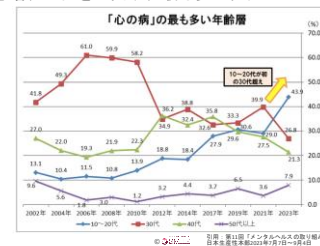
- 上司との価値観の違い
- 人と比べられることや、人よりも成果を出すことを求められるため、ギャップに苦しむ
- あまり自分の意見を押し付けたり、押し付けられることが理解しにくい
- 抽象的な指示ではわかりにくい
- 指導されたことを怒られたと感じて、怖くなる
- コミュニケーションがうまく取れない
- 自身で答えを考えることを求められる

© 2022 株式会社 日本生産性本部

17

メンタルヘルスの傾向にも変化

10～20代が急増、30代を上回り、最も多い世代に



© 2022 株式会社 日本生産性本部

18

キャリアコンサルティング集計

Veterinary Career Lab SMILE利用（2023年7月から2024年8月）

合計：177名 動物病院従業員対象
職種：獣医師（33名） 動物看護に従事する従事員（104名） トリマー・受付・事務・その他（40名）
勤務年数：3年未満（70名） 3年以上（107名）
性別：男性（25名） 女性（152名）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177

© 2024 Smile

キャリアコンサルティング集計

Veterinary Career Lab SMILE利用（2023年7月から2024年8月）

合計：177名 動物病院従業員対象
職種：獣医師（33名） 動物看護に従事する従事員（104名） トリマー・受付・事務・その他（40名）
勤務年数：3年未満（70名） 3年以上（107名）
性別：男性（25名） 女性（152名）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177

© 2024 Smile

キャリアコンサルティング集計

Veterinary Career Lab SMILE利用（2023年7月から2024年8月）

合計：177名 動物病院従業員対象
職種：獣医師（33名） 動物看護に従事する従事員（104名） トリマー・受付・事務・その他（40名）
勤務年数：3年未満（70名） 3年以上（107名）
性別：男性（25名） 女性（152名）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177

© 2024 Smile

キャリアコンサルティング集計

Veterinary Career Lab SMILE利用（2023年7月から2024年8月）

合計：177名 動物病院従業員対象
職種：獣医師（33名） 動物看護に従事する従事員（104名） トリマー・受付・事務・その他（40名）
勤務年数：3年未満（70名） 3年以上（107名）
性別：男性（25名） 女性（152名）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177

© 2024 Smile

キャリアコンサルティング集計

Veterinary Career Lab SMILE利用（2023年7月から2024年8月）

合計：177名 動物病院従業員対象
職種：獣医師（33名） 動物看護に従事する従事員（104名） トリマー・受付・事務・その他（40名）
勤務年数：3年未満（70名） 3年以上（107名）
性別：男性（25名） 女性（152名）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177

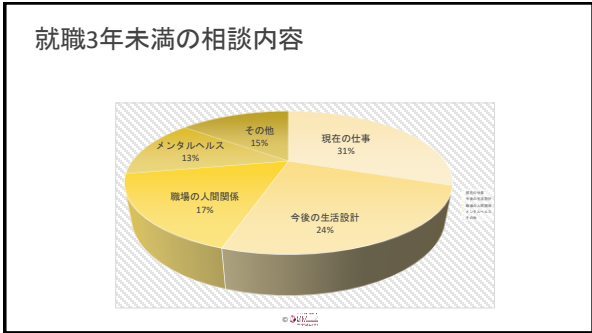
© 2024 Smile

就職3年未満の相談内容

相談内容	割合
現在の仕事	31%
今後の生活設計	24%
職場の人間関係	17%
メンタルヘルス	13%
その他	15%

資料：厚生労働省「若年層の就業状況に関する調査結果」(令和3年)

© 2022 株式会社 日本労働力機構



就職3年未満の相談内容

相談内容	割合
現在の仕事	31%
今後の生活設計	24%
職場の人間関係	17%
メンタルヘルス	13%
その他	15%

資料：厚生労働省「若年層の就業状況に関する調査結果（平成25年度）」

© 2014 株式会社 日本労働力機構

- 時代背景の違い
 - 技術の進化
 - 社会的価値観の変化



世代間ギャップが生じる主な理由

- 時代背景の違い
- 技術の進化
- 社会的価値観の変化



世代間ギャップが生じる主な理由

- 時代背景の違い
- 技術の進化
- 社会的価値観の変化



世代間ギャップが生じる主な理由

西暦	和暦	出来事	世代
1970	141	よど号ハイジャック、大坂万博、札幌オリンピック、あさみ山荘事件、沖縄返還、オイルショック	4世代 1937-1976 バブル世代 戦後永河湾世代
1975	50	ロッキード事件、第2次オイルショック、成田空港開港	
1980	55	デズニースーランド開園・ファミリコンコンピュータ発売	3世代
1985	56	筑波大震災、消費税率、消費税率開始（3%）、ベルリンの壁崩壊、平成スタート	2世代 1977-1995 ミニレディ世代 昭和時代終結期より世代
1990	42	東西ドイツ統一、湾岸戦争、ソ連崩壊、バブル崩壊	
1995	7	阪神淡路大震災、地デジサリン事件、Windows95発表、消費税率5%、長野オリンピック	
2000	12	US開国、米道同時多発テロ	
2005	17	阪神間山線事故、リマジンショック	2世代
2007	19	iPhone発売	2世代 1996-2012
2010	22	東日本大震災、東京スカイツリー、消費税率8%	後期ゆとり世代 （サトリ世代）
2015	27	熊本大震災、令和スタート、消費税率10%	ゆとりと世代
2020	42	COVID-19、2022年ロシアがウクライナ侵襲	

西暦	和暦	出来事	世代
1970	141	よど号ハイジャック、大坂万博、札幌オリンピック、あさみ山荘事件、沖縄返還、オイルショック	4世代 1937-1976 バブル世代 戦後永河湾世代
1975	50	ロッキード事件、第2次オイルショック、成田空港開港	
1980	55	デズニースーランド開園・ファミリコンコンピュータ発売	3世代
1985	56	筑波大震災、消費税率、消費税率開始（3%）、ベルリンの壁崩壊、平成スタート	2世代 1977-1995 ミニレディ世代 昭和時代終結期より世代
1990	42	東西ドイツ統一、湾岸戦争、ソ連崩壊、バブル崩壊	
1995	7	阪神淡路大震災、地デジサリン事件、Windows95発表、消費税率5%、長野オリンピック	
2000	12	US開国、米道同時多発テロ	
2005	17	阪神間山線事故、リマジンショック	2世代
2007	19	iPhone発売	2世代 1996-2012
2010	22	東日本大震災、東京スカイツリー、消費税率8%	後期ゆとり世代 （サトリ世代）
2015	27	熊本大震災、令和スタート、消費税率10%	ゆとりと世代
2020	42	COVID-19、2022年ロシアがウクライナ侵襲	



西暦	和暦	出来事	世代
1970	141	よど号ハイジャック、大坂万博、札幌オリンピック、あさみ山荘事件、沖縄返還、オイルショック	4世代 1937-1976 バブル世代 戦後永河湾世代
1975	50	ロッキード事件、第2次オイルショック、成田空港開港	
1980	55	デズニースーランド開園・ファミリコンコンピュータ発売	3世代
1985	56	筑波大震災、消費税率、消費税率開始（3%）、ベルリンの壁崩壊、平成スタート	2世代 1977-1995 ミニレディ世代 昭和時代後期 昭和時代
1990	42	東西ドイツ統一、湾岸戦争、円高崩壊、バブル崩壊	
1995	7	阪神淡路大震災、地味数ザンサン事件、Windows95発表、消費税率5%、長野オリンピック	
2000	12	US開国、米道同時多発テロ	
2005	17	阪神間山線事故、リマジンショック	2世代
2007	19	iPhone発売	2世代 1996-2012
2010	22	東日本大震災、東京スカイツリー、消費税率8%	後期ゆとり世代 （サトリ世代） ゆとり世代
2015	27	熊本大震災、令和スタート、消費税率10%	
2020	8	COVID-19、2022年ロシアがウクライナ侵襲	



価値観の違い

1990年代~2010年初頭に生まれた世代

- デジタル・ネイティブ
- 多文化で物事の捉え方が変わる
- 少子化が進み競争が少なく環境に育った
- ストレス耐性低下
- 対話能力低下
- 草履キョリア教育制度
- 自己実現の意識が高かい
- 人当たりが良い

© 360think

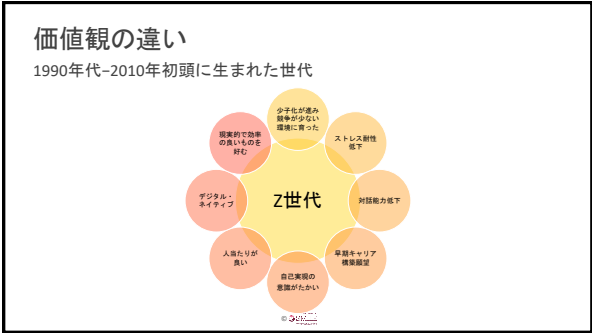
価値観の違い

1990年代~2010年初頭に生まれた世代

The diagram features a central yellow circle labeled "Z世代". Surrounding it are seven orange circles, each containing a characteristic of the generation:

- デジタル・ネイティブ
- 多面的で物事の善い面を見る
- 少子化が進み競争が少なく環境に育った
- ストレス耐性低下
- 対話能力低下
- 草履キョリア教育制度
- 自己実現の意識がたかい
- 人当たりが良い

© 360think



価値観の違い

1990年代~2010年初頭に生まれた世代

The diagram features a central yellow circle labeled "Z世代". Surrounding it are seven orange circles, each containing a characteristic of the Z generation:

- デジタル・ネイティブ
- 多面的で物事の裏の裏を知る
- 少子化が進み競争が少なく環境に育った
- ストレス耐性低下
- 対話能力低下
- 草履キョリア教育制度
- 自己実現の意識がたかい
- 人当たりが良い

© 360think

1990年代後半～2010年代の初頭に生まれた世代

- 競争意識が低い人たりがよい
教育過程の中であまりテストで競争を意識させるといった意識が薄かったことから、
「人と戦い合って順位に立ちたい」といったことにあまり魅力を感じないと言われている。競争意
識が低いため、人との衝突よりも良好な人間関係を好みやすい。
- 周囲の人に対して気を遣って、それぞれの距離感を保っていることが多い。
- 効率型/デジタルネイティブ
生まれた頃からインターネットや電子機器に触れているため、知りたき情報ですぐに得ることがで
きる中で育ったため、現実での効率のよいものをお好む。
- 社会貢献やモラルの意識が高い
自己表現や他者貢献に対する意識が高いといったことも特徴。
自分の価値観・意見を持っている。

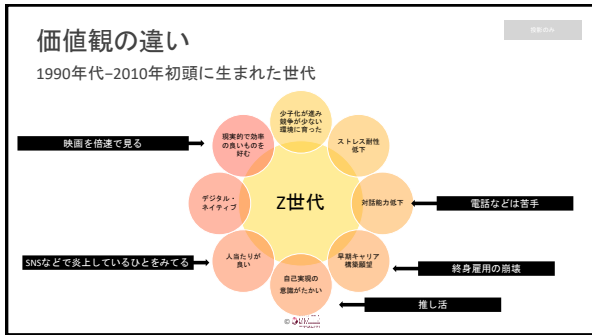


- # 1990年代後半～2010年代の初頭に生まれた世代
- 競争意識が低い人たりがよい
教育過程の中であまりテストで競争を意識させるといった意識が薄かったことから、
「人と戦い合って順位に立ちたい」といったことにあまり魅力を感じないと言われている。競争意
識が低いため、人との衝突よりも良好な人間関係を好みやすい。
 - 周囲の人に対して気を遣って、それぞれの距離感を保っていることが多い。
 - 効率型/デジタルネイティブ
生まれた頃からインターネットや電子機器に触れているため、知りたき情報がすぐにあることがで
きる中で育ったため、現実での効率のよいものをお好む。
 - 社会貢献やモラルの意識が高い
自己表現や他者貢献に対する意識が高いといったことも特徴。
自分の価値観・意見を持っている。
- 

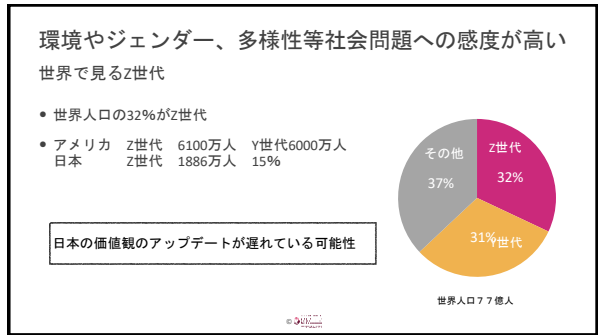
1990年代後半～2010年代の初頭に生まれた世代

- 競争意識が低い人たりがよい
教育過程の中であまりテストで競争を意識させるといった意識が薄かったことから、
「人と戦い合って順位に立ちたい」といったことにあまり魅力を感じないと言われている。競争意
識が低いため、人との衝突よりも良好な人間関係を好みやすい。
- 周囲の人に対して気を遣って、それぞれの距離感を保っていることが多い。
- 効率型/デジタルネイティブ
生まれた頃からインターネットや電子機器に触れているため、知りたき情報ですぐに得ることがで
きる中で育ったため、現実での効率のよいものをお好む。
- 社会貢献やモラルの意識が高い
自己表現や他者貢献に対する意識が高いといったことも特徴。
自分の価値観・意見を持っている。





25



26

愛玩動物看護師法

令和4年6月17日施行

- 第一章 総則
(目的)
第一条 この法律は、愛玩動物看護師の資格を定めるとともに、その業務が適正に運用されるように規律し、もって愛玩動物に関する獣医療の普及及び向上並びに愛玩動物の適正な飼養に寄与することを目的とする。
(定義)
第二条 この法律において「愛玩動物」とは、獣医師法（昭和二十四年法律第百八十六号）第十七条に規定する飼育動物のうち、大、猫その他政令で定める動物をいう。この法律において「愛玩動物看護師」とは、農林水産大臣及び環境大臣の免許を受けて、愛玩動物看護師の名称を用いて、診療の補助（愛玩動物に対する診療（獣医師法第十七条に規定する診療をいう。）の一環として行われる獣生上の処置を生ずるおそれがないと認められる行為であって、獣医師の指示の下に行われるもの）をいう。以下同じ。）及び疾病にかかり又は傷病した愛玩動物の世話その他の愛玩動物の看護並びに愛玩動物を飼養する者その他の者に対するその愛護及び適正な飼養に係る助言その他の支援を業とする者をいう。

27

技術の進化

- インターネットやスマートフォンなど、新しいテクノロジーの登場による情報の取得方法やコミュニケーション手段の変化
- 若い世代はSNSを主な情報源とするのに対し、年上の世代は新聞やテレビを重視する

28

社会的価値観の変化

- 労働観、家庭観、ライフスタイルの違い
- 「会社に尽くす」ことを重視する世代と、「仕事とプライベートのバランス」を重視する世代の対立

29

日本における働く人の意識の変化

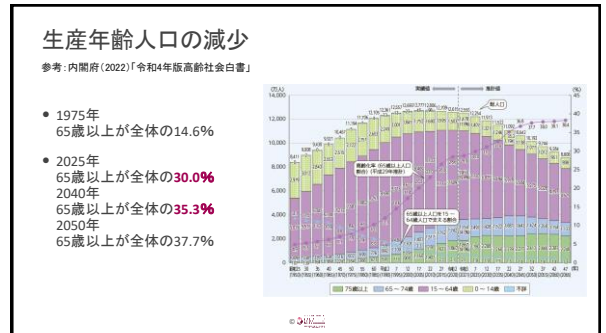
米田幸弘 和光大学准教授 国際比較調査データ

- 日本人の仕事中心性は、1980年代前半まで諸外国に比べて非常に高かったが、その後低下した。近年、日本の絶対的労働中心性は先進国の中で中位に位置し相対的労働中心性はやや低くなっている。
- 1990年代の日本における雇用のコミットメントは、金銭的・道義的の仕事志向と非金銭的の仕事志向の両方の点で高かった。しかし、2010年代には、金銭的/手段的な仕事への志向は一貫して高いままだが、非金銭的な仕事への志向は著しく低下した。
- 組織へのコミットメントを見ると、日本では、組織のために努力したいという気持ちは弱いものの、一貫して定着率が高い（転職意欲が低い）ことが観察された。仕事の満足度は一貫して非常に低く、2010年代にはさらに低下した。
- 日本人は特に勤勉な労働倫理を持っておらず、仕事の条件として職場の人間関係の快適さを強調する傾向が強い。

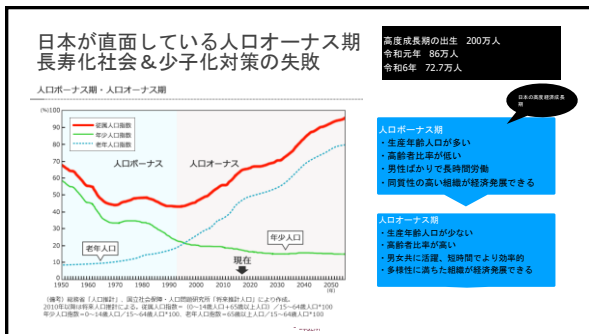
30



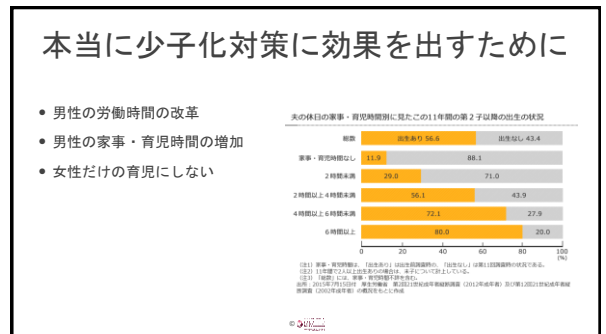
31



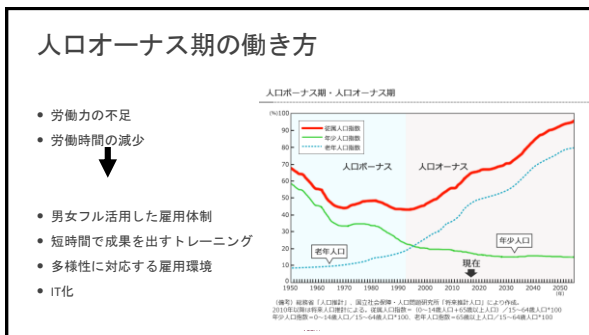
32



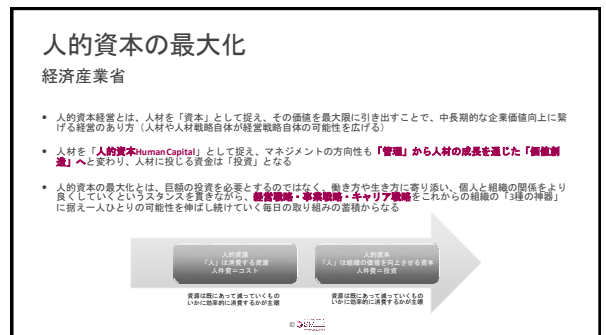
33



34



35

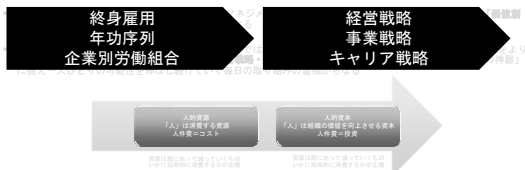


36

人的資本の最大化

経済産業省

・ 人的資本経営とは、人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上に繋げる経営のあり方（人材や人材戦略自体が経営戦略自体の可能性を広げる）



37

国の政策の今後の動向

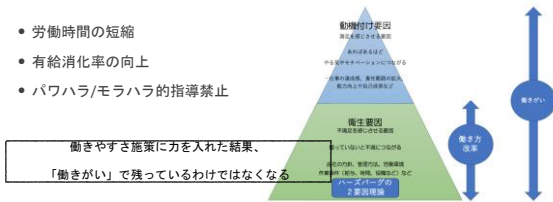
- ・ リスキングを通じたキャリアアップ事業
厚生労働省から経済産業省へ
- ・ 基本手当（いわゆる失業給付）
2025年4月1日1ヶ月に短縮
- ・ 雇用保険
2028年10月1日以降 週10時間の勤務で雇用保険加入可能

38

働き方改革の取り組み

働きやすさはあるが働きがいがない

- ・ 労働時間の短縮
- ・ 有給消化率の向上
- ・ パワハラ/モラハラの指導禁止



39

まとめ



40

世代間ギャップを埋めるには

- ・ 相互理解
各世代の特徴を知り、互いの価値観を尊重する
- ・ コミュニケーションの工夫
双方向の対話を重視し、共通の土方を明確化する
- ・ 柔軟性のある環境づくり
働き方や世代に合わせて調整する

41

若手の離職を防ぐための取り組み

- ・ コミュニケーションの改善
上司と若手の「1on1ミーティング」の推奨
相手の意見を否定せず、まずは「傾聴」
- ・ 柔軟な働き方の提供
テレワークの導入やフレックスタイム制の活用
結果を重視する評価システムの導入
- ・ 教育とサポート体制の強化
若手向けのキャリア支援プログラム
メンター制度の導入

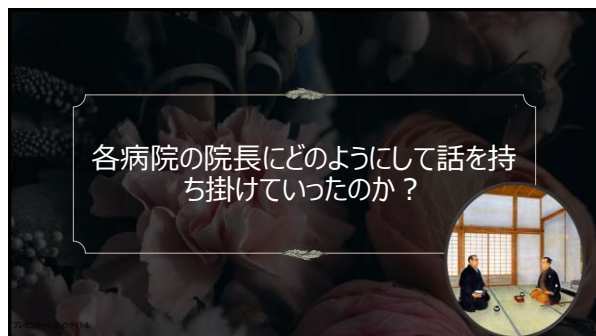
42



1



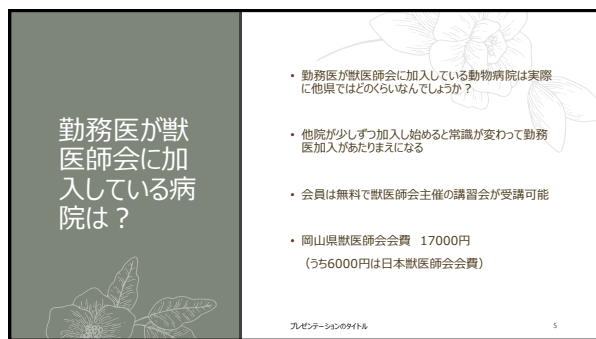
2



3



4



5



6

「岡山県問題」（岡山夜間問題）

獣医師会に反発するグループの存在
 ・独自の狂犬病集合注射の実施
 ・予防薬の格安販売

結果獣医師会に入ること差別化

もとはと言えば同じ獣医師会の仲間

プレゼンテーションタイトル

今や過去の逸話



7

岡山県獣医師会 多くの講習会や 勉強会・宴会

1. 岡山県獣医師会2024実績
 2024：2月小動物講習会・獣医公衆衛生講習会
 8月岡山県学会（産業動物・公衆衛生・小動物）
 小動物部会クレーン相談講習会 田村勇人弁護士
 9月岡山市動物愛護フェスティバル（他の地域も実施）
 ワンヘルス講習会 谷口優先生他
 岡山県獣医師連盟議員との交流会
 12月・2025 1月 総社市防災訓練
 学校飼育動物サポート事業（モルモット飼育事業他）
 2025：2月獣医公衆衛生講習会・小動物講習会

8



小動物講習会
+懇親会

岡山県小動物学会+懇親会

岡山県獣医産業動物
公衆衛生学会

ワンヘルス講習会

岡山県獣医師連盟交流会

9



その他の岡山県勉強会
 OKAVETS会員 約40-50名
 OMMOI
 白壁会
 中村会
 他

10



動物愛護フェスティバル

防災訓練岡山市総社市

動物看護士セミナー

11

獣医師会を仲間作りの場へ

獣医師はストレスの多い職業
 獣医師会への加入により相談相手ができ
 ストレスが軽減され日常の活力につながれば
 獣医師会のさらなる発展に繋がる

12

ご清聴ありがとうございました



プレゼンテーションのタイトル



13

獣医師の資格を持って生きるヒント

公益社団法人 福井県獣医師会
大門由美子

1

皆さん、こんにちは



2

獣医師の仕事は 世間に周知されているのか

獣医師免許を得るための方法

動物のお医者さん（しかも犬や猫）が代表？

6年間学ぶ間に気が付くこと

自分以外の獣医師職種への理解

3

『押し活』のすすめ



4

押し活のすすめ



5

押し活の勧め

～コミュニケーション誘発の道具になるかも



6

社会貢献の道具箱

獣医師であることの強み

動物がそれほど好きでなくても、ヒトのために役立つことがある

近くに自分の仕事以外にボランティアをしている獣医師はいないだろうか

7

アニマルアシステッドセラピー

コンパニオンアニマルとは

動物の適正

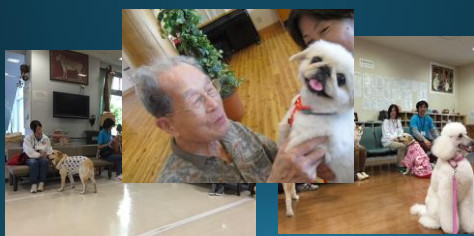
飼い主の意識

トレーニングは犬との関係
の構築（他者を理解すること）



8

アニマルアシステッドセラピー



9

A A Aのチームでの活動



10

小学校での動物飼育支援



11

小学校での動物飼育支援



12



13

まとめ

- 能力主義を疑う～誰にも生かせるものを持っている
- 意見が異なることを恐れない
- 相手を尊重することを忘れない
(自分と同じ考えを強制しない)
- きっと気の合う人が見つかる

14

●画面分割
→画面が分割される箇所に「ここで改ページ」という線が表示されます。

公益社団法人日本獣医師会／獣医療提供体制整備推進協議会

獣医師の就業環境等に関するアンケート

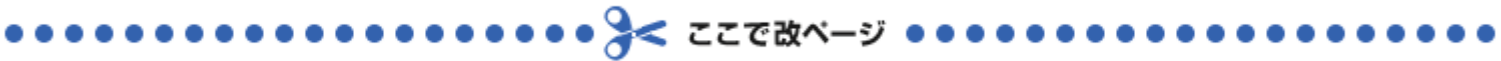
＜調査の趣旨とご協力をお願い＞
近年、新規獣医師の約半数を女性が占め、各分野でその役割が期待されています。
それぞれの職場では、女性獣医師がより活躍出来るように働きやすい就業環境を確保することが一層大切になっています。
日本獣医師会では、「女性獣医師が働きやすい職場づくり＝すべての獣医師が働きやすい職場づくり」のために
委員会を設置して、検討を進めており、男女を問わず、獣医師免許をお持ちの方々の状況を把握するため、
平成25年度にアンケート「獣医師の就業環境等に関する現況調査」を行いました。
前回の調査から10年が経過し、獣医師を取り巻く環境も大きく変化する中で、このたび改めてアンケート調査を実施することいたしました。

この調査では、実態をより正確に把握するため、
獣医学上の知識を必要としない業務に従事している方や無職の方も含む、全ての獣医師の方を対象としております。
よろしくご協力をお願いいたします。
お近くの方やお知り合いの方にもアンケートへの回答を呼びかけていただければ幸いです。

それでは、以下のアンケートへのご回答をよろしくお願いいたします。

Q1 あなたの現在の業務の種類として最もあてはまるものをお選びください。

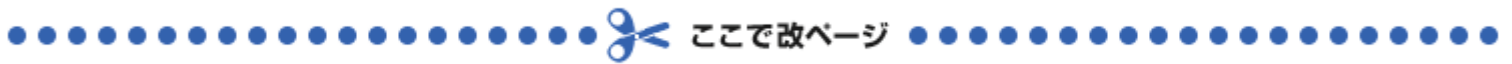
- ☐ 1. 産業動物診療（牛・馬・豚・鶏・その他）
- ☐ 2. 小動物診療（犬・猫・小鳥）
- ☐ 3. 1及び2以外の診療
- ☐ 4. 診療以外の業務であって獣医学上の知識を必要とする業務
- ☐ 5. 獣医学上の知識を必要としない業務
- ☐ 6. 無職



Q2 あなたの現在の業務の内容として最もあてはまるものをお選びください。

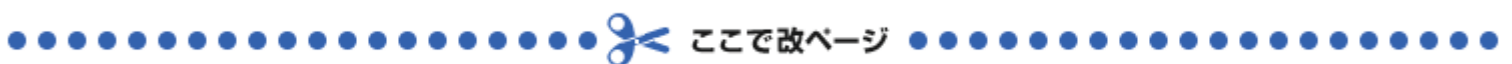
- ☐ 1. 自ら開設する診療施設において診療の業務に従事（開設者又は法人代表者）
- ☐ 2. 他の者が開設する診療施設において診療の業務に従事
- ☐ 3. 自ら往診のみによって診療の業務に従事
- ☐ 4. 他の者に雇用され往診のみによって診療の業務に従事
- ☐ 5. 農林畜産関係の行政事務に従事
- ☐ 6. 公衆衛生関係の行政事務に従事

- ☐ 7. 環境関係の行政事務に従事
- ☐ 8. その他の行政事務に従事(分野を具体的に記入:)
- ☐ 9. 試験研究に従事(大学勤務を除く。)
- ☐ 10. 獣医系大学で教育に従事(教官又は教員)
- ☐ 11. 獣医系大学の勤務者(大学院生を含む。)で10以外に従事
- ☐ 12. 獣医系大学以外で教育に従事(教官又は教員)
- ☐ 13. 製薬関係に従事
- ☐ 14. 飼料関係に従事
- ☐ 15. その他(具体的に記入:)



Q3 あなたの現在の勤務先として最もあてはまるものをお選びください。

- ☐ 1. 個人診療施設
- ☐ 2. 農業協同組合
- ☐ 3. 農業共済組合、農業共済組合連合会又は特定組合
- ☐ 4. 国(本省等)
- ☐ 5. 国(検査指導機関)
- ☐ 6. 国(その他・具体的に記入:)
- ☐ 7. 都道府県(本庁等)
- ☐ 8. 都道府県(検査指導機関)
- ☐ 9. 都道府県(家畜保健衛生所等)
- ☐ 10. 都道府県(保健所等)
- ☐ 11. 都道府県(食肉衛生検査所等)
- ☐ 12. 都道府県(その他・具体的に記入:)
- ☐ 13. 市町村(本庁等)
- ☐ 14. 市町村(検査指導機関)
- ☐ 15. 市町村(保健所等)
- ☐ 16. 市町村(食肉衛生検査所等)
- ☐ 17. 市町村(その他・具体的に記入:)
- ☐ 18. 独立行政法人
- ☐ 19. 国立・公立大学法人
- ☐ 20. 私立学校
- ☐ 21. 競馬関係団体
- ☐ 22. 民間企業
- ☐ 23. 公益法人、一般社団・財団法人等
- ☐ 24. その他(具体的に記入:)



Q4 あなたは、現在の仕事以前に、他の仕事に就いたことがありますか。
就業していたことがある業務の種類として、あてはまるものをお選びください。
※複数該当する方は、直近のお仕事についてお知らせください。

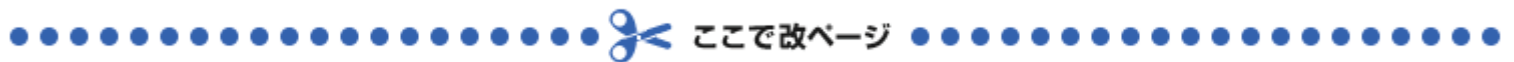
- ☐ 1. 産業動物診療(牛・馬・豚・鶏・その他)
- ☐ 2. 小動物診療(犬・猫・小鳥)
- ☐ 3. 1及び2以外の診療

- ☐ 4. 診療以外の業務であって獣医学上の知識を必要とする業務
- ☐ 5. 獣医学上の知識を必要としない業務
- ☐ 6. 現在の仕事以前に他の仕事をしたことはない
- ☐ 7. 獣医師免許取得後、一度も仕事をしたことがない



Q5 以前に就業していたことがある業務の内容として、あてはまるものをお選びください。
※複数該当する方は、直近のお仕事についてお知らせください。

- ☐ 1. 自ら開設する診療施設において診療の業務に従事(開設者又は法人代表者)
- ☐ 2. 他の者が開設する診療施設において診療の業務に従事
- ☐ 3. 自ら往診のみによって診療の業務に従事
- ☐ 4. 他の者に雇用され往診のみによって診療の業務に従事
- ☐ 5. 農林畜産関係の行政事務に従事
- ☐ 6. 公衆衛生関係の行政事務に従事
- ☐ 7. 環境関係の行政事務に従事
- ☐ 8. その他の行政事務に従事(分野を具体的に記入:)
- ☐ 9. 試験研究に従事(大学勤務を除く。)
- ☐ 10. 獣医系大学で教育に従事(教官又は教員)
- ☐ 11. 獣医系大学の勤務者(大学院生を含む。)で10以外に従事
- ☐ 12. 獣医系大学以外で教育に従事(教官又は教員)
- ☐ 13. 製薬関係に従事
- ☐ 14. 飼料関係に従事
- ☐ 15. その他(具体的に記入:)



Q6 以前に就業していたことがある勤務先について、あてはまるものをお選びください。
※複数該当する方は、直近のお仕事についてお知らせください。

- ☐ 1. 個人診療施設
- ☐ 2. 農業協同組合
- ☐ 3. 農業共済組合、農業共済組合連合会又は特定組合
- ☐ 4. 国(本省等)
- ☐ 5. 国(検査指導機関)
- ☐ 6. 国(その他・具体的に記入:)
- ☐ 7. 都道府県(本庁等)
- ☐ 8. 都道府県(検査指導機関)
- ☐ 9. 都道府県(家畜保健衛生所等)
- ☐ 10. 都道府県(保健所等)
- ☐ 11. 都道府県(食肉衛生検査所等)
- ☐ 12. 都道府県(その他・具体的に記入:)
- ☐ 13. 市町村(本庁等)
- ☐ 14. 市町村(検査指導機関)
- ☐ 15. 市町村(保健所等)
- ☐ 16. 市町村(食肉衛生検査所等)
- ☐ 17. 市町村(その他・具体的に記入:)
- ☐ 18. 独立行政法人

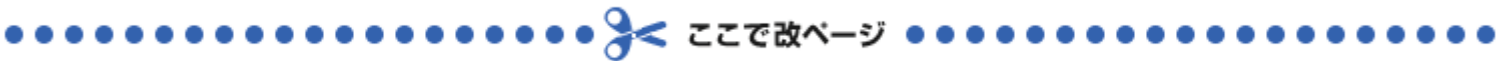
- ☐ 19. 国立・公立大学法人
- ☐ 20. 私立学校
- ☐ 21. 競馬関係団体
- ☐ 22. 民間企業
- ☐ 23. 公益法人、一般社団・財団法人等
- ☐ 24. その他(具体的に記入:)



◆現在、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している方と無職の方にお聞きます。

Q7 獣医学上の知識を必要とする業務から離れて、どのくらいの期間が経っていますか。最も近いものをお答えください。

- ☐ 1. 離れてから6ヶ月(半年)未満
- ☐ 2. ～1年未満
- ☐ 3. ～2年未満
- ☐ 4. ～3年未満
- ☐ 5. ～4年未満
- ☐ 6. ～5年未満
- ☐ 7. 5年以上
- ☐ 8. 獣医師免許取得以降、一度も獣医学上の知識を必要とする業務に従事したことはない



◆現在、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している方と無職の方にお聞きます。

Q8 あなたは、今後、獣医師としての資格をいかし、獣医学上の知識を必要とする業務に就きたいとお考えですか。

- ☐ 1. すぐにでも就きたい
- ☐ 2. いずれ就きたい
- ☐ 3. 短時間勤務など、条件が合えば就きたい
- ☐ 4. 就くつもりはない

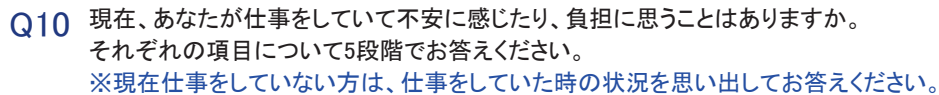


◆現在、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している方と無職の方にお聞きます。

Q9 あなたが現在、獣医学上の知識を必要とする業務に就いていない理由として、あてはまるものを全てお選びください。

- ☐ 1. 精神的に疲れる仕事だから
- ☐ 2. 体力的に自信がないから
- ☐ 3. 技術的に自信がないから
- ☐ 4. 業務内容に収入が見合っていないから
- ☐ 5. 自分には向いていない仕事だから
- ☐ 6. 短時間勤務なら可能だが、適当な職場が見つからないから
- ☐ 7. 時間の融通がきかない、休みが取れないから
- ☐ 8. 家の近くに適当な職場がないから
- ☐ 9. 現在の仕事を続けたいから(仕事の内容と理由(やりがいがある、給与・待遇がいいなど)を具体的にお書きください:

- (具体的にお書きください:)

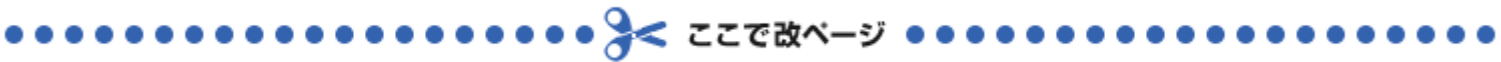


..... ✂ ここ改ページ

Q11

以下の項目ごとに、お気持ちに近いものをお選びください。
※現在仕事をしていない方は、仕事をしていた時の状況を思い出してお答えください。

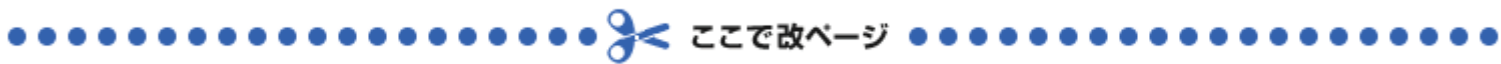
	1	2	3	4	5
	十分整備されていると思う	ほぼ整備されていると思う	どちらともいえない	やや不十分だと思う	不十分だと思う
1. 子育てを支援するための休暇制度(育児休業・看護休暇等)の整備	☐	☐	☐	☐	☐
2. 男女差のない研修制度	☐	☐	☐	☐	☐
3. 男女差のない給与形態、昇級・昇格の仕組み	☐	☐	☐	☐	☐
4. 女性用の仕事用衣服の支給	☐	☐	☐	☐	☐
5. 女性専用のトイレや更衣室の整備	☐	☐	☐	☐	☐
6. 肉体的負担を軽減する作業補助器具等の整備	☐	☐	☐	☐	☐
7. 肉体的負担の大きい職務内容の適切な分掌	☐	☐	☐	☐	☐
8. 保育園や幼稚園の送迎が可能な勤務時間を選択できる仕組み	☐	☐	☐	☐	☐
9. 有給休暇の取得がしやすい雰囲気づくり	☐	☐	☐	☐	☐
10. 必要な場合に出張や外部研修への参加を減免する仕組み	☐	☐	☐	☐	☐
11. 上司・同僚からの理解を得るための機会(面談、面接、会議等)	☐	☐	☐	☐	☐
12. 産休や育休に関する制度(申請や給与、復職後の見通し等)に関する職場での広報・周知	☐	☐	☐	☐	☐
13. 産休・育休取得者の代替職員を容易に確保しやすい環境の整備	☐	☐	☐	☐	☐
14. 休業からスムーズに復帰できるための研修等の充実	☐	☐	☐	☐	☐
15. 休業中も職場の動きや情報を得られるような仕組み	☐	☐	☐	☐	☐
16. 残業・時間外労働の負荷軽減	☐	☐	☐	☐	☐
17. 出産・子育てや休業からの復職などに関する組織内の相談窓口の整備	☐	☐	☐	☐	☐
18. 子育てと仕事を両立しているモデルケースの紹介	☐	☐	☐	☐	☐
19. ハラスメント対策	☐	☐	☐	☐	☐
20. カウンセラーなどの専門家によるメンタル面のサポート	☐	☐	☐	☐	☐



Q12

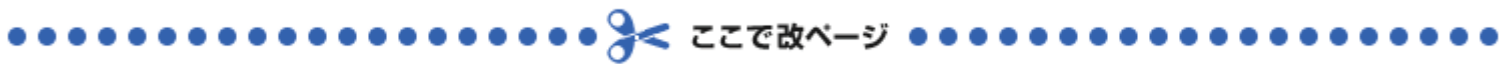
これまで獣医学上の知識を必要とする業務から離れたことはありますか。その理由は何ですか。
あてはまるものを全てお選び下さい。

- ☐ 1. 精神的に疲れる仕事だったから
- ☐ 2. 体力的に自信がなかったから
- ☐ 3. 技術的に自信がなかったから
- ☐ 4. 業務内容に収入が見合っていなかったから
- ☐ 5. 自分には向いていない仕事だったから
- ☐ 6. スキルアップやキャリアアップが望めなかったから
- ☐ 7. 短時間勤務なら可能だったが、その時の職場では難しかったから
- ☐ 8. 時間の融通がきかなかった、休みが取れなかったから
- ☐ 9. 家の近くに適当な職場がなかったから
- ☐ 10. 他にやりたい仕事があったから
(仕事の内容を具体的にお書きください:)
- ☐ 11. 他にやりたいこと(趣味や勉強など)があったから
- ☐ 12. 家事
- ☐ 13. 結婚



Q13 今後、もし転職や再就職をするとしたら、転職先や再就職先の情報はどのように集めますか。
あてはまるものを全てお選びください。
また、その中から、『最も役立つ情報が得られると思うもの』をひとつお選びください。
※この質問は縦方向にお答えください。

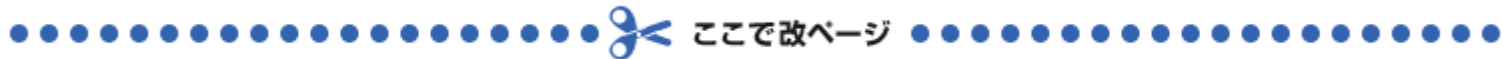
	1 情報収集元(全て)	2 最も役立つ情報が得られると思うもの (ひとつ)
1. 獣医療関係のホームページ	☐	☐
2. 民間の転職・求人サイト	☐	☐
3. 大学の就職課やゼミの先生・先輩など	☐	☐
4. ハローワーク	☐	☐
5. 就職情報誌や専門雑誌など	☐	☐
6. 地方自治体のホームページ	☐	☐
7. 求人側のホームページやチラシ	☐	☐
8. 求人側の公式SNS(X、Instagramなど)	☐	☐
9. 8以外のSNS(具体的にお書きください:)	☐	☐
		☐
10. 知人や友人の紹介・口コミ	☐	☐
11. その他(具体的にお書きください:)	☐	☐
		☐
12. 特に自分から情報は集めない	☐	☐



◆獣医学上の知識を必要とする業務への就業をお考えの方にお聞きます。

Q14 あなたが就職を希望する業務の種類としてあてはまるものを全てお選びください。

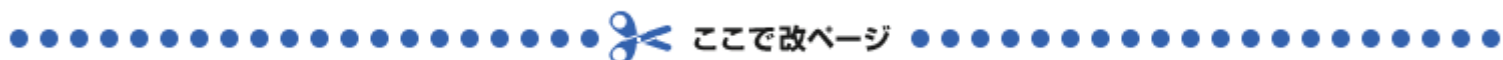
- ☐ 1. 産業動物診療(牛・馬・豚・鶏・その他)
- ☐ 2. 小動物診療(犬・猫・小鳥)
- ☐ 3. 1及び2以外の診療
- ☐ 4. 診療以外の業務であって獣医学上の知識を必要とする業務



◆獣医学上の知識を必要とする業務への就業をお考えの方にお聞きます。

Q15 あなたが就職を希望する業務の内容としてあてはまるものを全てお選びください。

- ☐ 1. 自ら開設する診療施設において診療の業務に従事(開設者又は法人代表者)
- ☐ 2. 他の者が開設する診療施設において診療の業務に従事
- ☐ 3. 自ら往診のみによって診療の業務に従事
- ☐ 4. 他の者に雇用され往診のみによって診療の業務に従事
- ☐ 5. 農林畜産関係の行政事務に従事
- ☐ 6. 公衆衛生関係の行政事務に従事
- ☐ 7. 環境関係の行政事務に従事
- ☐ 8. その他の行政事務に従事(分野を具体的に記入:)
- ☐ 9. 試験研究に従事(大学勤務を除く。)
- ☐ 10. 獣医系大学で教育に従事(教官又は教員)
- ☐ 11. 獣医系大学の勤務者(大学院生を含む。)で10以外に従事
- ☐ 12. 獣医系大学以外で教育に従事(教官又は教員)
- ☐ 13. 製薬関係に従事
- ☐ 14. 飼料関係に従事
- ☐ 15. その他(具体的に記入:)



◆獣医学上の知識を必要とする業務への就業をお考えの方にお聞きます。

Q16 あなたが就業を希望する勤務先としてあてはまるものを全てお選びください。

- ☐ 1. 個人診療施設
- ☐ 2. 農業協同組合
- ☐ 3. 農業共済組合、農業共済組合連合会又は特定組合
- ☐ 4. 国(本省等)
- ☐ 5. 国(検査指導機関)
- ☐ 6. 国(その他・具体的に記入:)
- ☐ 7. 都道府県(本庁等)
- ☐ 8. 都道府県(検査指導機関)
- ☐ 9. 都道府県(家畜保健衛生所等)
- ☐ 10. 都道府県(保健所等)
- ☐ 11. 都道府県(食肉衛生検査所等)
- ☐ 12. 都道府県(その他・具体的に記入:)
- ☐ 13. 市町村(本庁等)



○1. フルタイム

○2. パートタイム

○3. アルバイトを含む短時間勤務

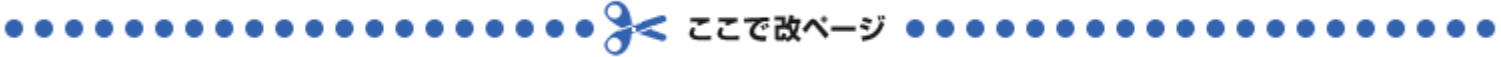
○4. その他(具体的にお書きください):

[illegible]

Q19 女性獣医師の就業環境について、現在の職場の問題点や、制度的な改善が必要な部分など、どのような事でも構いませんので、ご自由にお書きください。
転職や離職経験のある方は、そのときの状況やほしかった支援策などをお聞かせください。

--

※500文字以内でご記入ください。



◆最後に、あなたご自身のことについて、差し支えのない範囲でお知らせください。

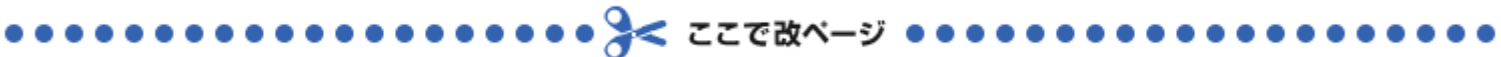
Q20 ご自身の性別をお知らせください。

- ☐ 1. 男性
- ☐ 2. 女性
- ☐ 3. 回答しない



Q21 あなたが獣医師になった理由は何ですか。あてはまるものを全てお選びください。

- ☐ 1. 収入を得られるから
- ☐ 2. 知識や技能を生かせるから
- ☐ 3. 社会に役立つ仕事だから
- ☐ 4. 動物が好きだから
- ☐ 5. 命を大切にする仕事だから
- ☐ 6. 家族や知人にすすめられたから
- ☐ 7. 家業を継ぐため
- ☐ 8. 国家資格だから
- ☐ 9. 就職に有利だから
- ☐ 10. その他（具体的に書きください）:



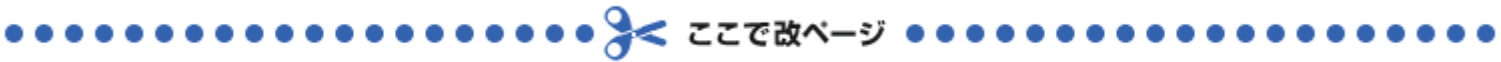
Q22 ご自身の年代をお知らせください。

- ☐ 1. 20代
☐ 2. 30代
☐ 3. 40代
☐ 4. 50代
☐ 5. 60代
☐ 6. 70代
☐ 7. 80代以上



Q23 現在、お子様はいらっしゃいますか。いらっしゃる場合は、お子さまの人数を差し支えない範囲でお知らせください。(いくつでも)

- ☐ 1. 乳幼児 人(半角数字)
- ☐ 2. 小学生 人(半角数字)
- ☐ 3. 中学生 人(半角数字)
- ☐ 4. 高校生以上 人(半角数字)
- ☐ 5. 社会人 人(半角数字)
- ☐ 6. 子どもはいない



●印の項目は必ず入力してください。

●都道府県：

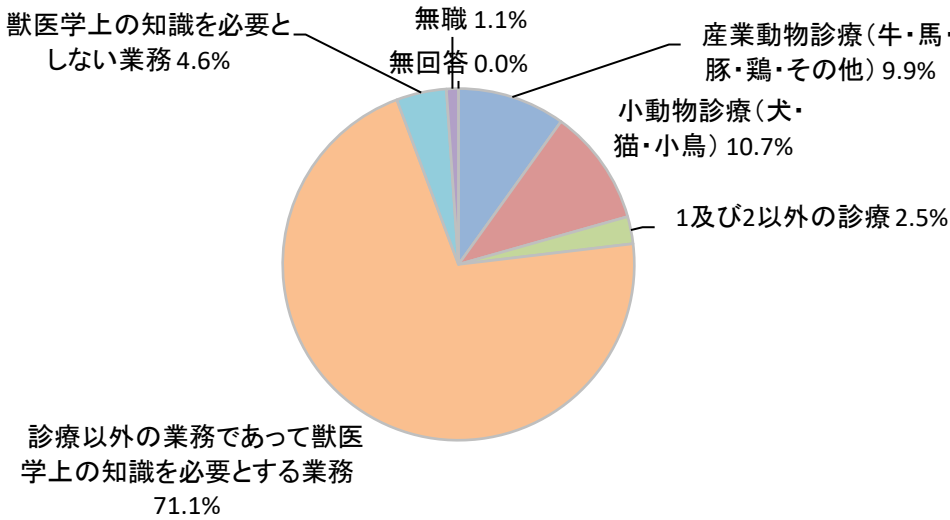
内容に関するお問い合わせ：公益社団法人日本獣医師会／獣医療提供体制整備推進協議会

[Table0003]

Q1 あなたの現在の業務の種類として最もあてはまるものをお選びください。

単一回答		n	%
全体		(4165)	
1	産業動物診療（牛・馬・豚・鶏・その他）	413	9.9
2	小動物診療（犬・猫・小鳥）	447	10.7
3	1及び2以外の診療	104	2.5
4	診療以外の業務であって獣医学上の知識を必要とする業務	2962	71.1
5	獣医学上の知識を必要としない業務	193	4.6
6	無職	45	1.1
無回答		1	0.0

[Q1] あなたの現在の業務の種類として最もあてはまるものをお選びください。
(n=4165)

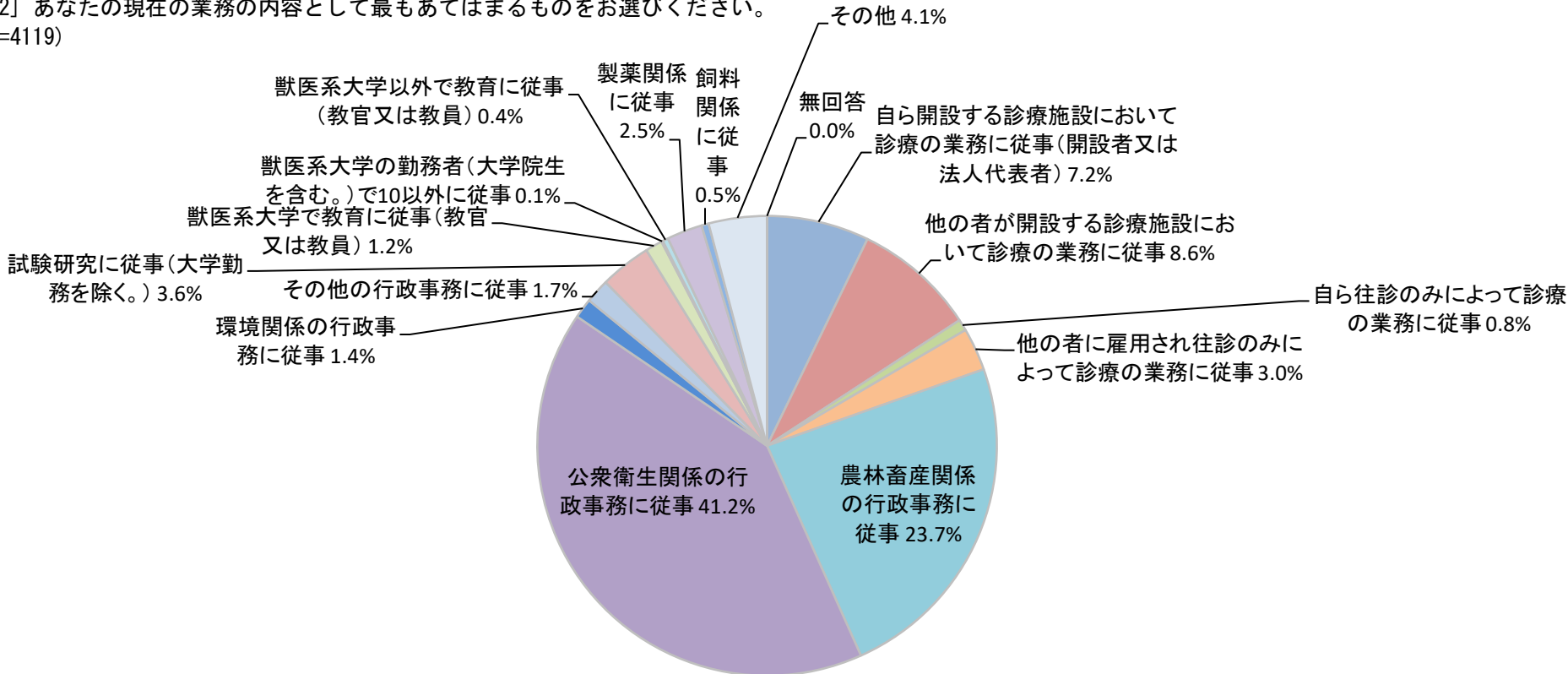


[Table0004]

Q2 あなたの現在の業務の内容として最もあてはまるものをお選びください。

単一回答		n	%
全体		(4119)	
1	自ら開設する診療施設において診療の業務に従事（開設者又は法人代表者）	298	7.2
2	他の方が開設する診療施設において診療の業務に従事	355	8.6
3	自ら往診のみによって診療の業務に従事	31	0.8
4	他の方に雇用され往診のみによって診療の業務に従事	125	3.0
5	農林畜産関係の行政事務に従事	976	23.7
6	公衆衛生関係の行政事務に従事	1696	41.2
7	環境関係の行政事務に従事	57	1.4
8	その他の行政事務に従事（分野を具体的に記入：【 】）	70	1.7
9	試験研究に従事（大学勤務を除く。）	150	3.6
10	獣医系大学で教育に従事（教官又は教員）	49	1.2
11	獣医系大学の勤務者（大学院生を含む。）で10以外に従事	4	0.1
12	獣医系大学以外で教育に従事（教官又は教員）	15	0.4
13	製薬関係に従事	105	2.5
14	飼料関係に従事	20	0.5
15	その他（具体的に記入：【 】）	167	4.1
無回答		1	0.0

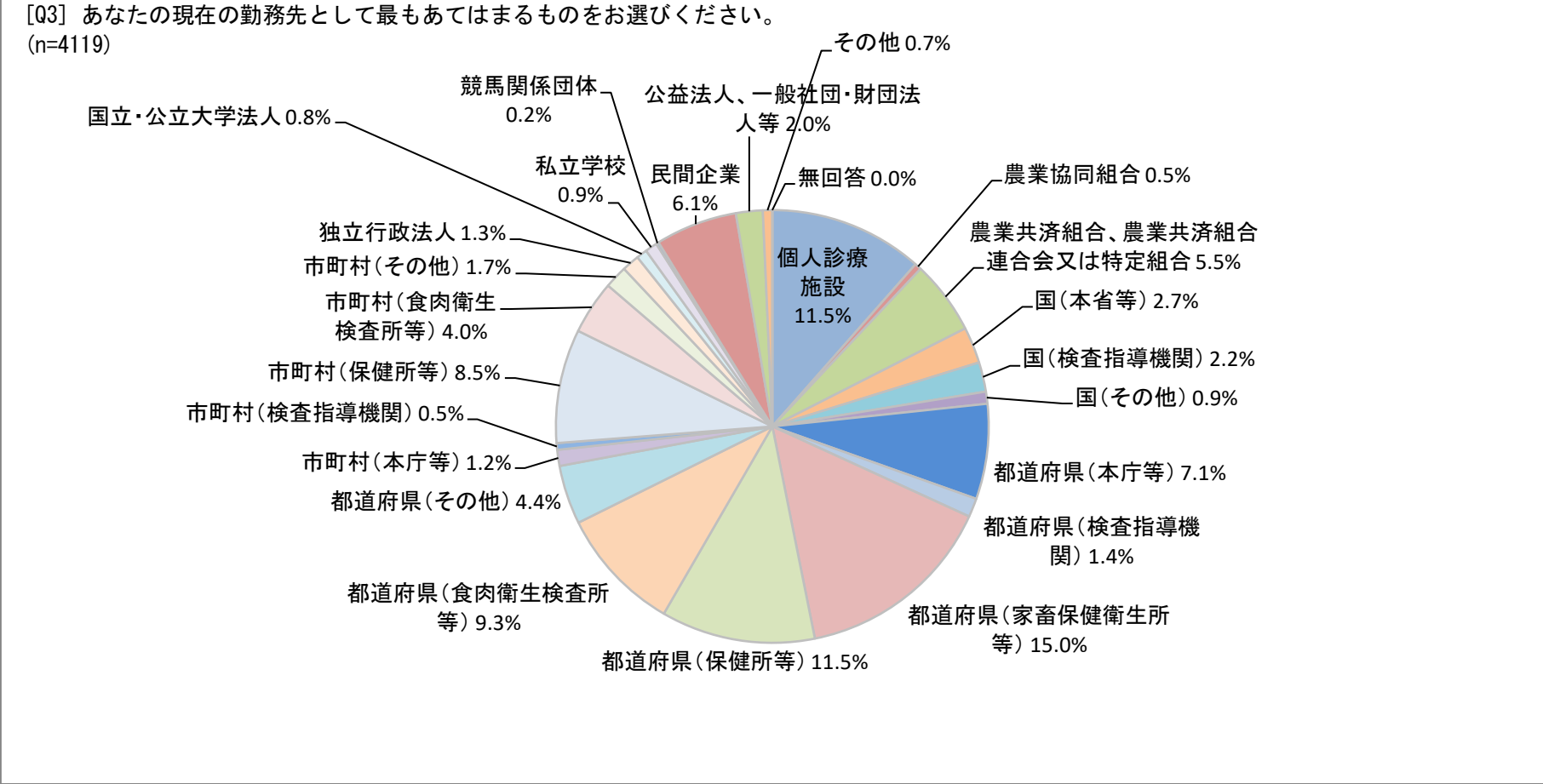
[Q2] あなたの現在の業務の内容として最もあてはまるものをお選びください。
(n=4119)



[Table0005]

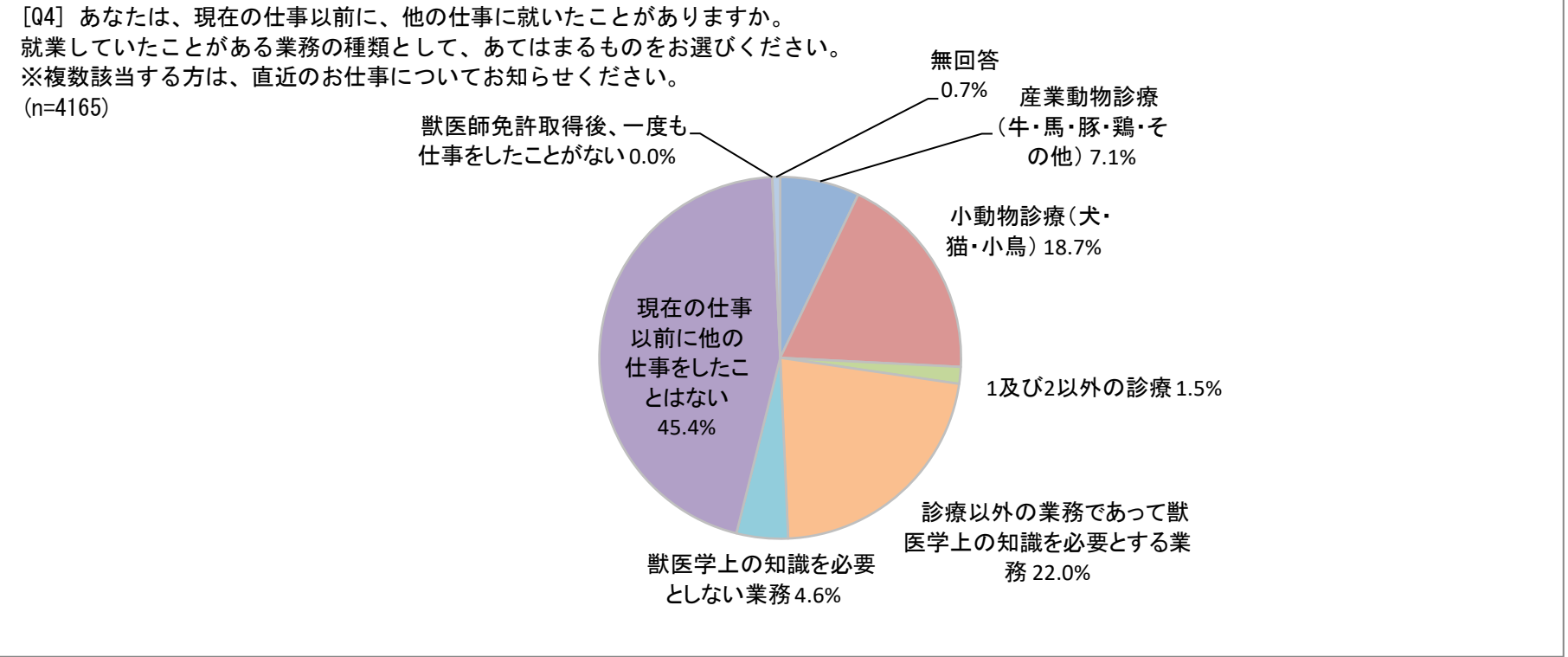
Q3 あなたの現在の勤務先として最もあてはまるものをお選びください。

単一回答		n	%
全体		(4119)	
1	個人診療施設	474	11.5
2	農業協同組合	20	0.5
3	農業共済組合、農業共済組合連合会又は特定組合	225	5.5
4	国（本省等）	110	2.7
5	国（検査指導機関）	92	2.2
6	国（その他・具体的に記入：【 】）	38	0.9
7	都道府県（本庁等）	293	7.1
8	都道府県（検査指導機関）	59	1.4
9	都道府県（家畜保健衛生所等）	617	15.0
10	都道府県（保健所等）	472	11.5
11	都道府県（食肉衛生検査所等）	382	9.3
12	都道府県（その他・具体的に記入：【 】）	182	4.4
13	市町村（本庁等）	51	1.2
14	市町村（検査指導機関）	20	0.5
15	市町村（保健所等）	349	8.5
16	市町村（食肉衛生検査所等）	164	4.0
17	市町村（その他・具体的に記入：【 】）	70	1.7
18	独立行政法人	54	1.3
19	国立・公立大学法人	34	0.8
20	私立学校	39	0.9
21	競馬関係団体	8	0.2
22	民間企業	253	6.1
23	公益法人、一般社団・財団法人等	83	2.0
24	その他（具体的に記入：【 】）	29	0.7
無回答		1	0.0



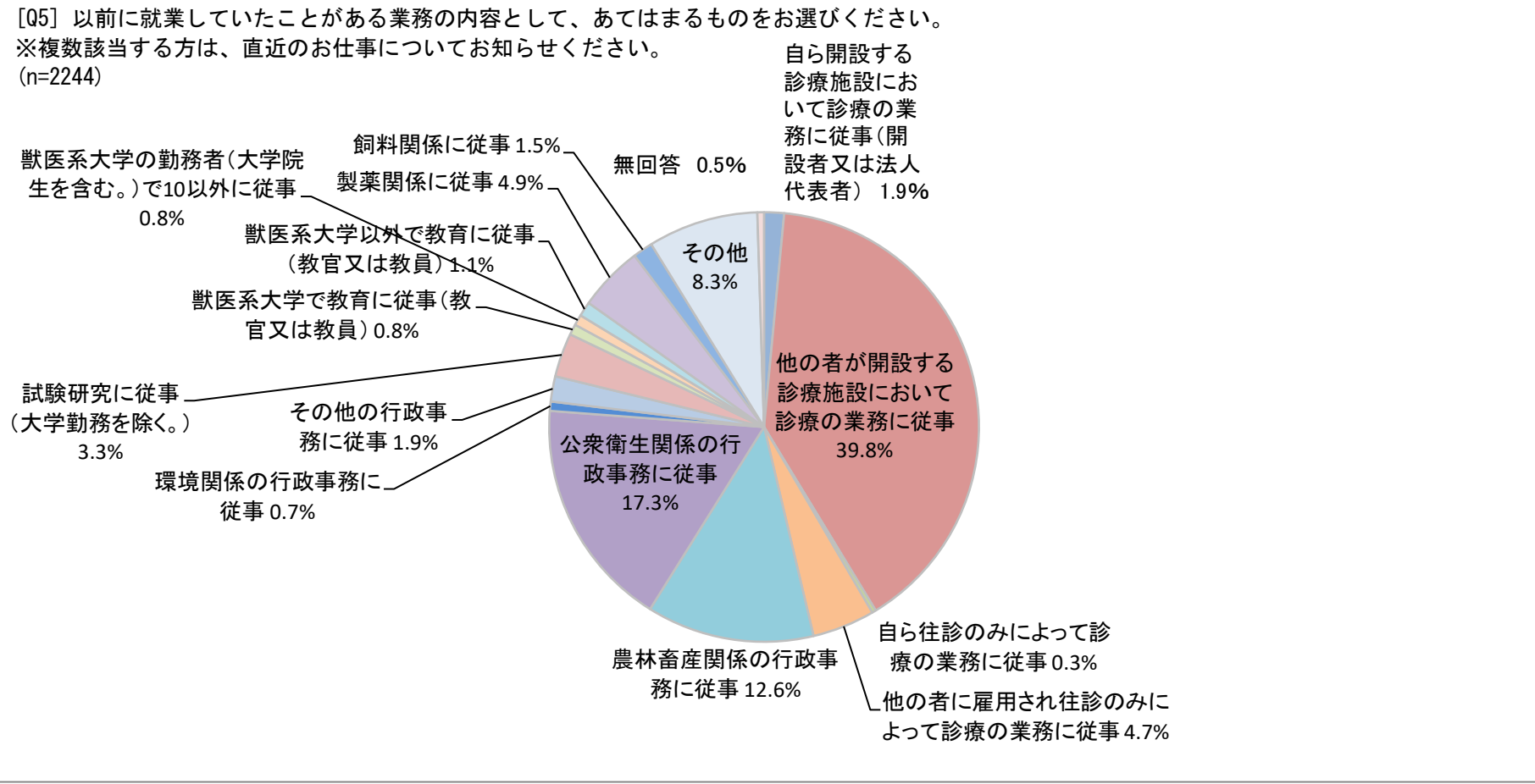
[Table0006]
Q4 あなたは、現在の仕事以前に、他の仕事に就いたことがありますか。
就業していたことがある業務の種類として、あてはまるものをお選びください。
※複数該当する方は、直近のお仕事についてお知らせください。

単一回答		n	%
全体		(4165)	
1	産業動物診療（牛・馬・豚・鶏・その他）	296	7.1
2	小動物診療（犬・猫・小鳥）	780	18.7
3	1及び2以外の診療	62	1.5
4	診療以外の業務であって獣医学上の知識を必要とする業務	916	22.0
5	獣医学上の知識を必要としない業務	190	4.6
6	現在の仕事以前に他の仕事をしたことはない	1891	45.4
7	獣医師免許取得後、一度も仕事をしたことがない	0	0.0
	無回答	30	0.7



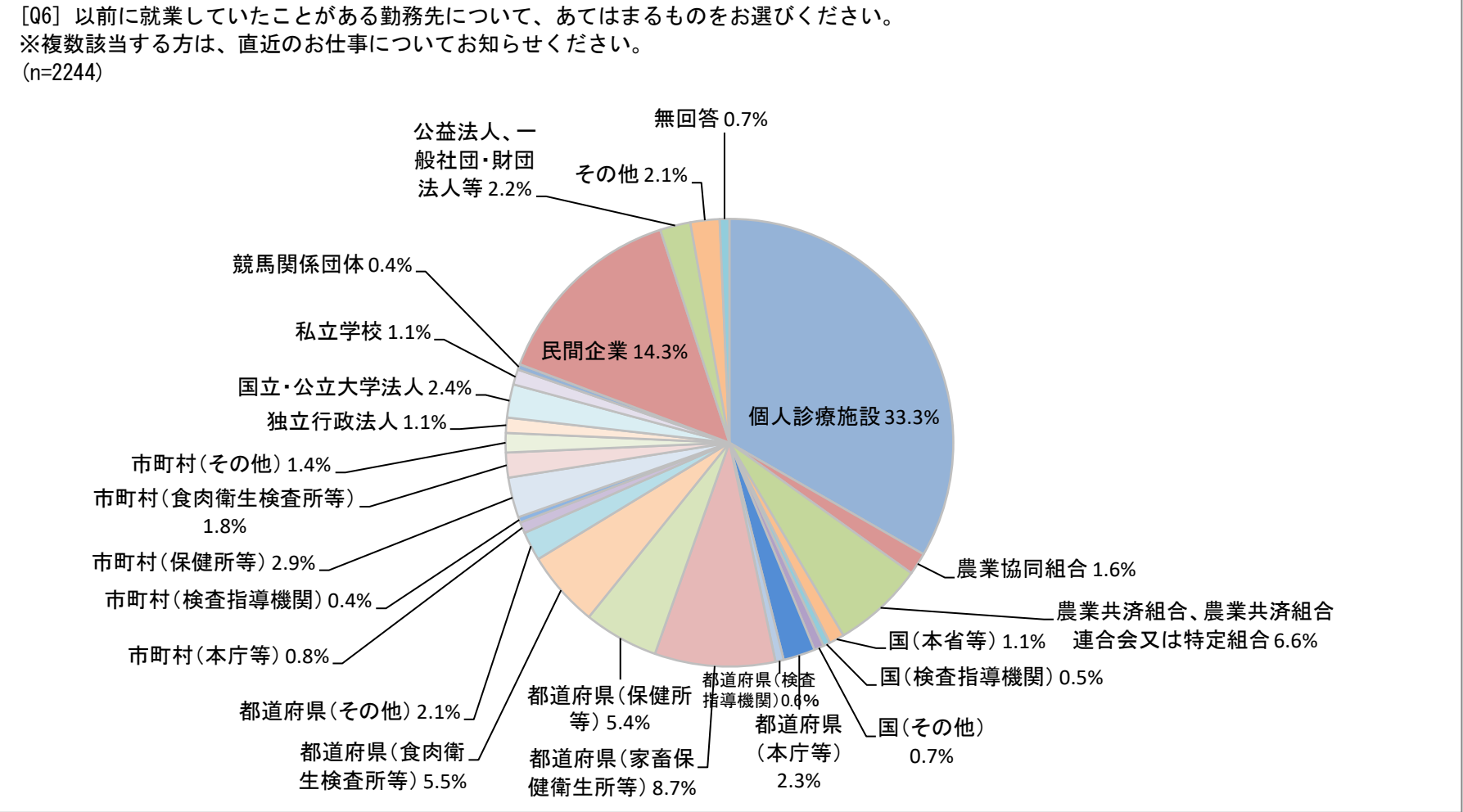
[Table0007]
Q5 以前に就業していたことがある業務の内容として、あてはまるものをお選びください。
※複数該当する方は、直近のお仕事についてお知らせください。

単一回答		n	%
全体		(2244)	
1	自ら開設する診療施設において診療の業務に従事（開設者又は法人代表者）	34	1.5
2	他の者が開設する診療施設において診療の業務に従事	894	39.8
3	自ら往診のみによって診療の業務に従事	6	0.3
4	他の者に雇用され往診のみによって診療の業務に従事	105	4.7
5	農林畜産関係の行政事務に従事	282	12.6
6	公衆衛生関係の行政事務に従事	389	17.3
7	環境関係の行政事務に従事	16	0.7
8	その他の行政事務に従事（分野を具体的に記入：【 】）	42	1.9
9	試験研究に従事（大学勤務を除く。）	73	3.3
10	獣医系大学で教育に従事（教官又は教員）	19	0.8
11	獣医系大学の勤務者（大学院生を含む。）で10以外に従事	18	0.8
12	獣医系大学以外で教育に従事（教官又は教員）	25	1.1
13	製薬関係に従事	110	4.9
14	飼料関係に従事	33	1.5
15	その他（具体的に記入：【 】）	187	8.3
	無回答	11	0.5



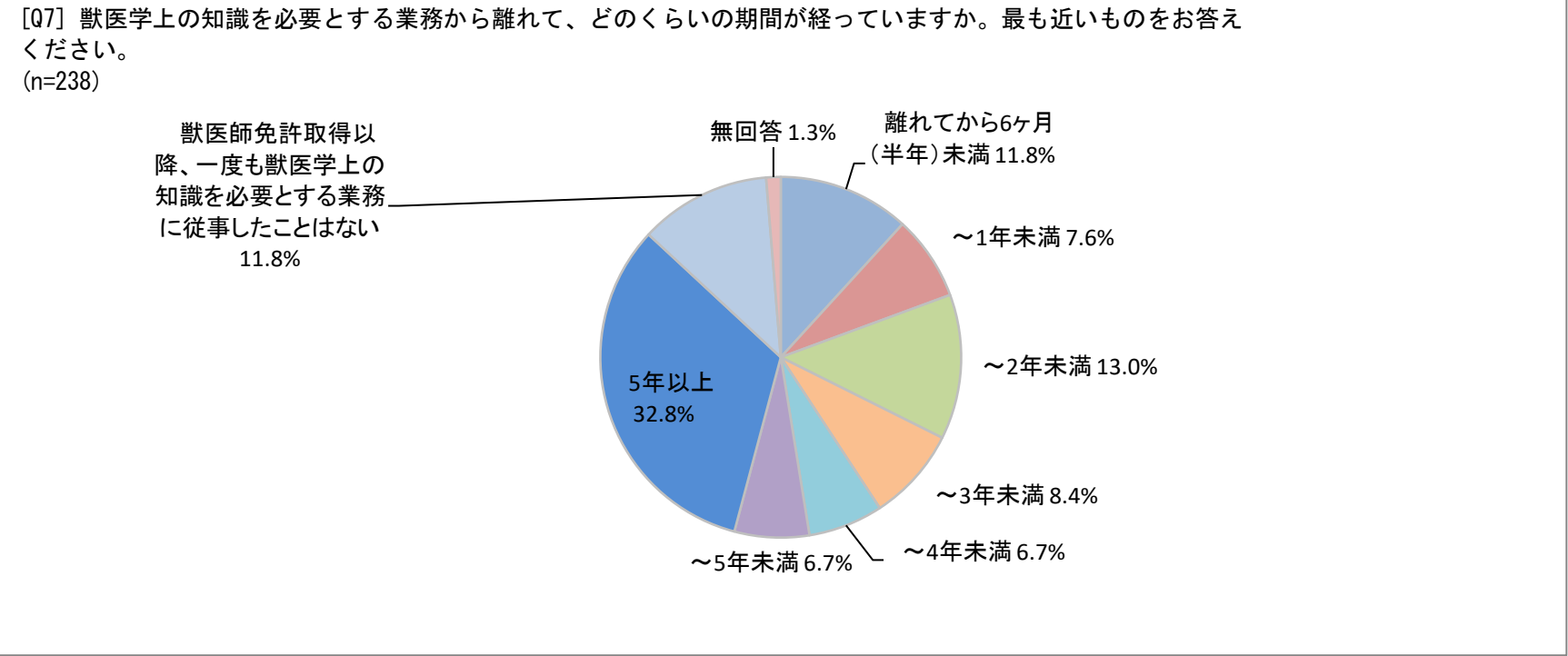
[Table0008]
Q6 以前に就業していたことがある勤務先について、あてはまるものをお選びください。
※複数該当する方は、直近のお仕事についてお知らせください。

単一回答	n	%
全体	(2244)	
1 個人診療施設	747	33.3
2 農業協同組合	37	1.6
3 農業共済組合、農業共済組合連合会又は特定組合	148	6.6
4 国(本省等)	25	1.1
5 国(検査指導機関)	11	0.5
6 国(その他・具体的に記入：【 】)	16	0.7
7 都道府県(本庁等)	52	2.3
8 都道府県(検査指導機関)	13	0.6
9 都道府県(家畜保健衛生所等)	196	8.7
10 都道府県(保健所等)	122	5.4
11 都道府県(食肉衛生検査所等)	123	5.5
12 都道府県(その他・具体的に記入：【 】)	48	2.1
13 市町村(本庁等)	17	0.8
14 市町村(検査指導機関)	8	0.4
15 市町村(保健所等)	66	2.9
16 市町村(食肉衛生検査所等)	40	1.8
17 市町村(その他・具体的に記入：【 】)	31	1.4
18 独立行政法人	24	1.1
19 国立・公立大学法人	53	2.4
20 私立学校	24	1.1
21 競馬関係団体	10	0.4
22 民間企業	321	14.3
23 公益法人、一般社団・財団法人等	49	2.2
24 その他(具体的に記入：【 】)	48	2.1
無回答	15	0.7



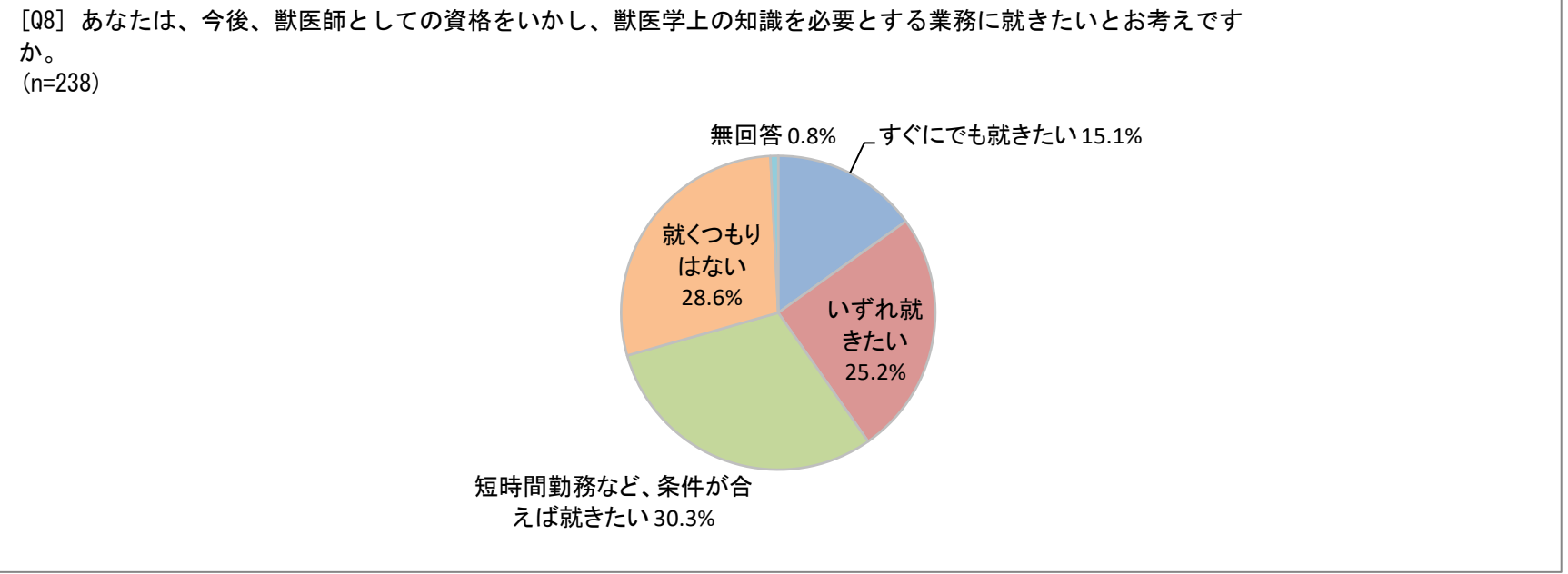
[Table0009]
Q7 獣医学上の知識を必要とする業務から離れて、どのくらいの期間が経っていますか。最も近いものをお答えください。

単一回答	n	%
全体	(238)	
1 離れてから6ヶ月(半年)未満	28	11.8
2 ～1年未満	18	7.6
3 ～2年未満	31	13.0
4 ～3年未満	20	8.4
5 ～4年未満	16	6.7
6 ～5年未満	16	6.7
7 5年以上	78	32.8
8 獣医師免許取得以降、一度も獣医学上の知識を必要とする業務に従事したことはない	28	11.8
無回答	3	1.3



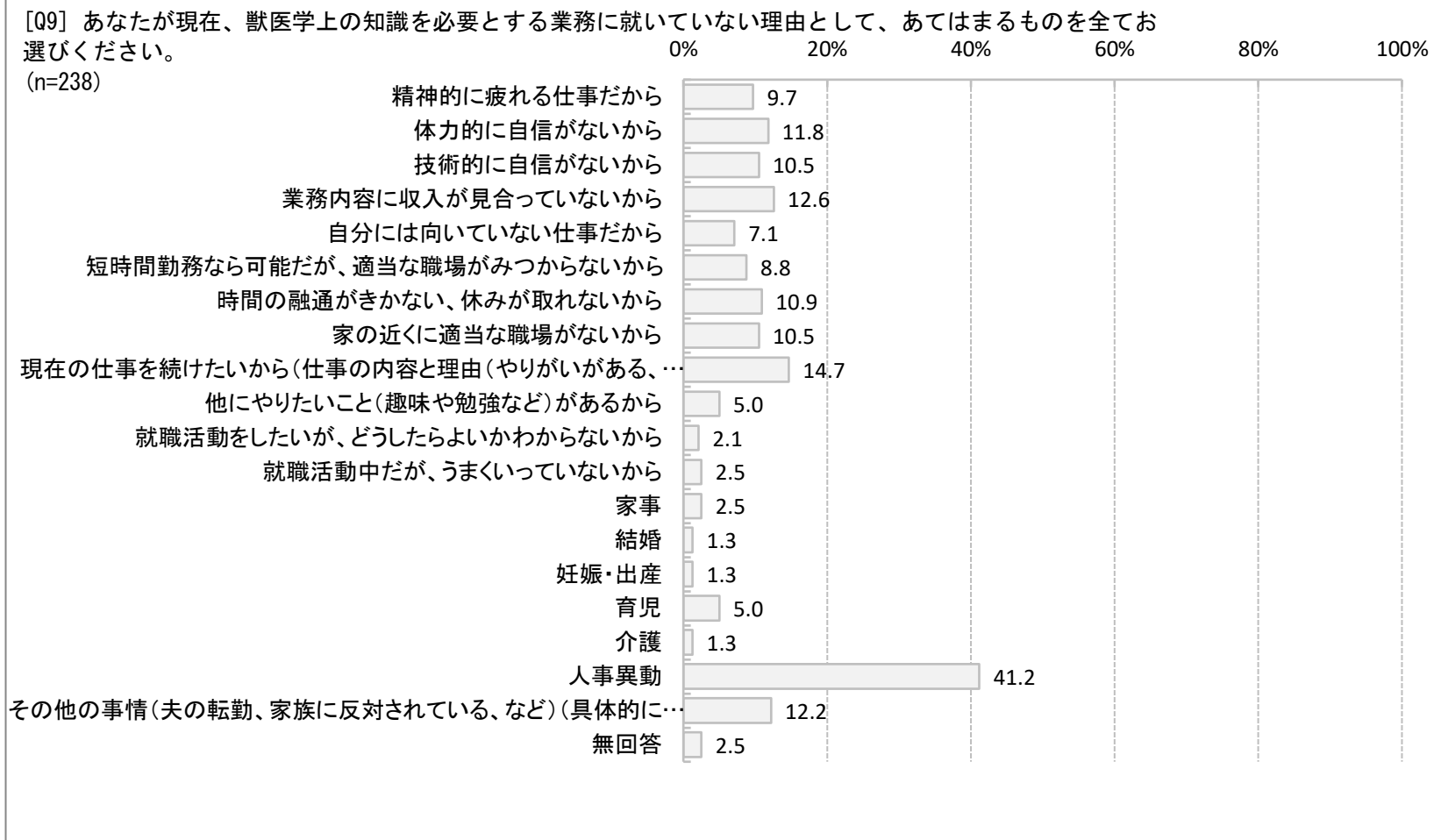
[Table0010]
Q8 あなたは、今後、獣医師としての資格をいかし、獣医学上の知識を必要とする業務に就きたいとお考えですか。

単一回答	n	%
全体	(238)	
1 すぐにも就きたい	36	15.1
2 いずれ就きたい	60	25.2
3 短時間勤務など、条件が合えば就きたい	72	30.3
4 就くつもりはない	68	28.6
無回答	2	0.8



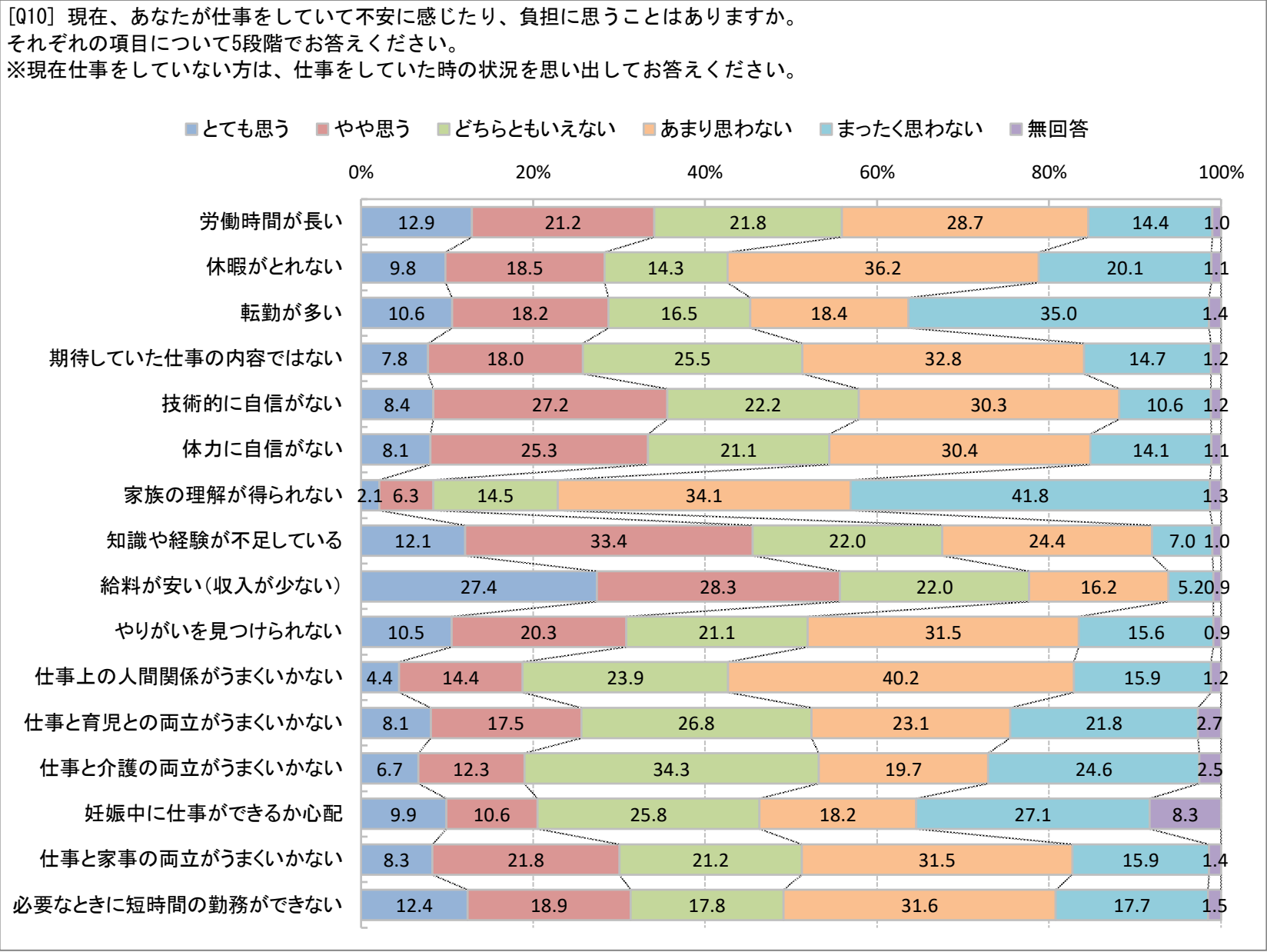
[Table0011]
Q9 あなたが現在、獣医学上の知識を必要とする業務に就いていない理由として、あてはまるものを全てお選びください。

複数回答	n	%
全体	(238)	
1 精神的に疲れる仕事だから	23	9.7
2 体力的に自信がないから	28	11.8
3 技術的に自信がないから	25	10.5
4 業務内容に収入が見合っていないから	30	12.6
5 自分には向いていない仕事だから	17	7.1
6 短時間勤務なら可能だが、適当な職場が見つからないから	21	8.8
7 時間の融通がきかない、休みが取れないから	26	10.9
8 家の近くに適当な職場がないから	25	10.5
9 現在の仕事を続けたいから（仕事の内容と理由（やりがいがある、給与・待遇がいいなど）を具体的にお書きください：【 】）	35	14.7
10 他にやりたいこと（趣味や勉強など）があるから	12	5.0
11 就職活動をしたいが、どうしたらよいかわからないから	5	2.1
12 就職活動中だが、うまくいっていないから	6	2.5
13 家事	6	2.5
14 結婚	3	1.3
15 妊娠・出産	3	1.3
16 育児	12	5.0
17 介護	3	1.3
18 人事異動	98	41.2
19 その他の事情（夫の転勤、家族に反対されている、など）（具体的にお書きください：【 】）	29	12.2
無回答	6	2.5



[Table0012]
Q10 現在、あなたが仕事をしていて不安に感じたり、負担に思うことはありますか。
それぞれの項目について5段階でお答えください。
※現在仕事をしていない方は、仕事をしていた時の状況を思い出してお答えください。

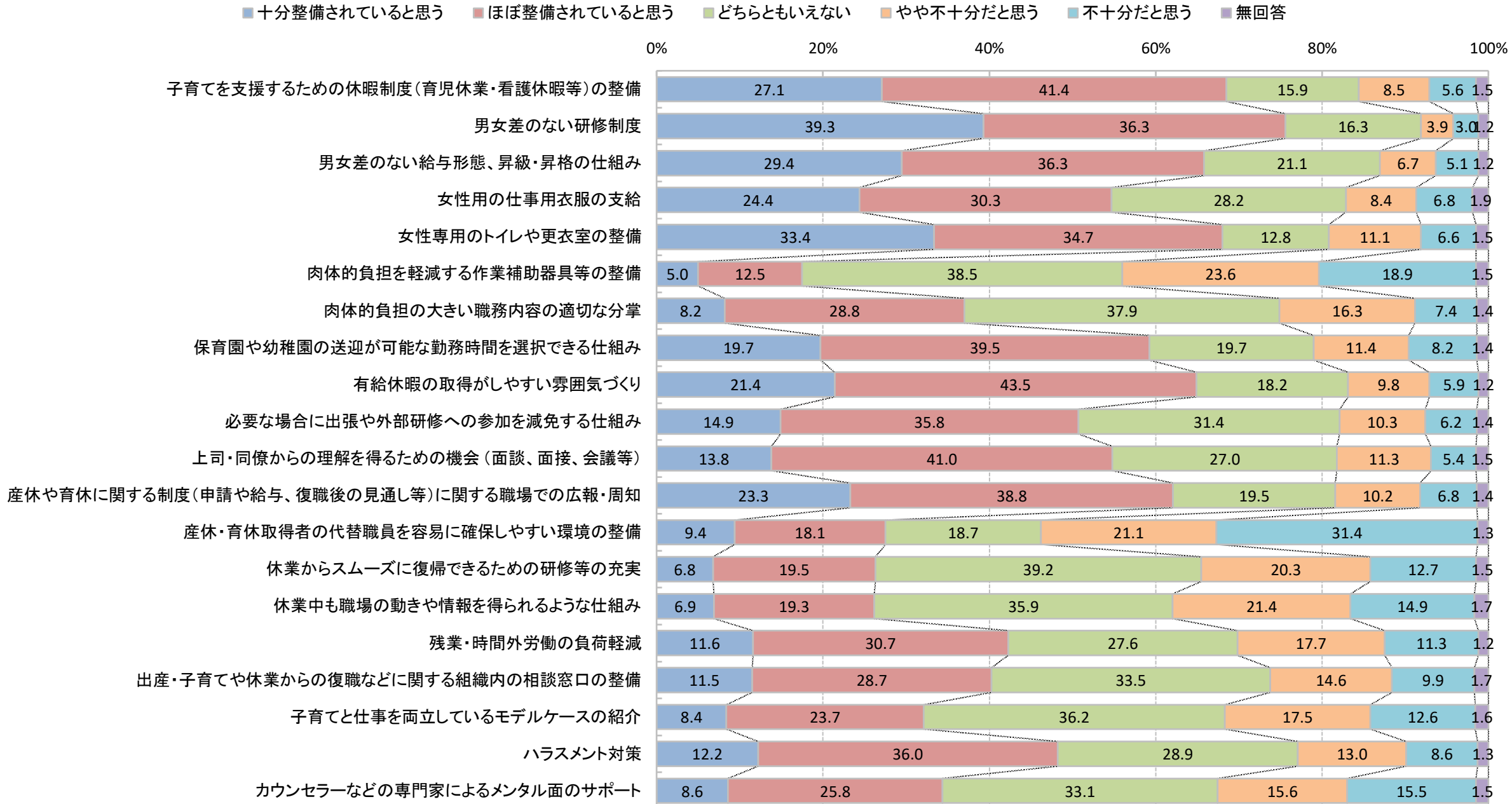
単一回答マトリクス			1	2	3	4	5	
	全体	とても 思う	やや思 う	どちら ともい えない	あまり 思わな い	まった く思わ ない	無回答	
1 労働時間が長い	(4135)	533 12.9	875 21.2	902 21.8	1186 28.7	597 14.4	42 1.0	
2 休暇がとれない	(4135)	404 9.8	767 18.5	593 14.3	1496 36.2	831 20.1	44 1.1	
3 転勤が多い	(4135)	437 10.6	753 18.2	682 16.5	759 18.4	1447 35.0	57 1.4	
4 期待していた仕事の内容ではない	(4135)	323 7.8	744 18.0	1055 25.5	1356 32.8	607 14.7	50 1.2	
5 技術的に自信がない	(4135)	349 8.4	1123 27.2	919 22.2	1254 30.3	440 10.6	50 1.2	
6 体力に自信がない	(4135)	337 8.1	1046 25.3	871 21.1	1256 30.4	581 14.1	44 1.1	
7 家族の理解が得られない	(4135)	85 2.1	259 6.3	601 14.5	1411 34.1	1727 41.8	52 1.3	
8 知識や経験が不足している	(4135)	501 12.1	1383 33.4	911 22.0	1009 24.4	289 7.0	42 1.0	
9 給料が安い（収入が少ない）	(4135)	1135 27.4	1170 28.3	908 22.0	669 16.2	216 5.2	37 0.9	
10 やりがいを見つけられない	(4135)	435 10.5	841 20.3	873 21.1	1303 31.5	644 15.6	39 0.9	
11 仕事上の人間関係がうまくいかない	(4135)	181 4.4	597 14.4	989 23.9	1662 40.2	657 15.9	49 1.2	
12 仕事と育児との両立がうまくいかない	(4135)	336 8.1	722 17.5	1107 26.8	954 23.1	903 21.8	113 2.7	
13 仕事と介護の両立がうまくいかない	(4135)	275 6.7	509 12.3	1418 34.3	814 19.7	1017 24.6	102 2.5	
14 妊娠中に仕事ができるか心配	(4135)	411 9.9	439 10.6	1065 25.8	753 18.2	1122 27.1	345 8.3	
15 仕事と家事の両立がうまくいかない	(4135)	342 8.3	900 21.8	876 21.2	1301 31.5	659 15.9	57 1.4	
16 必要なときに短時間の勤務ができない	(4135)	514 12.4	783 18.9	734 17.8	1308 31.6	732 17.7	64 1.5	



[Table0013]
Q11 職場での女性の就業支援はどの程度整備されていると思われますか。
以下の項目ごとに、お気持ちに近いものをお選びください。
※現在仕事をしていない方は、仕事をしていた時の状況を思い出してお答えください。

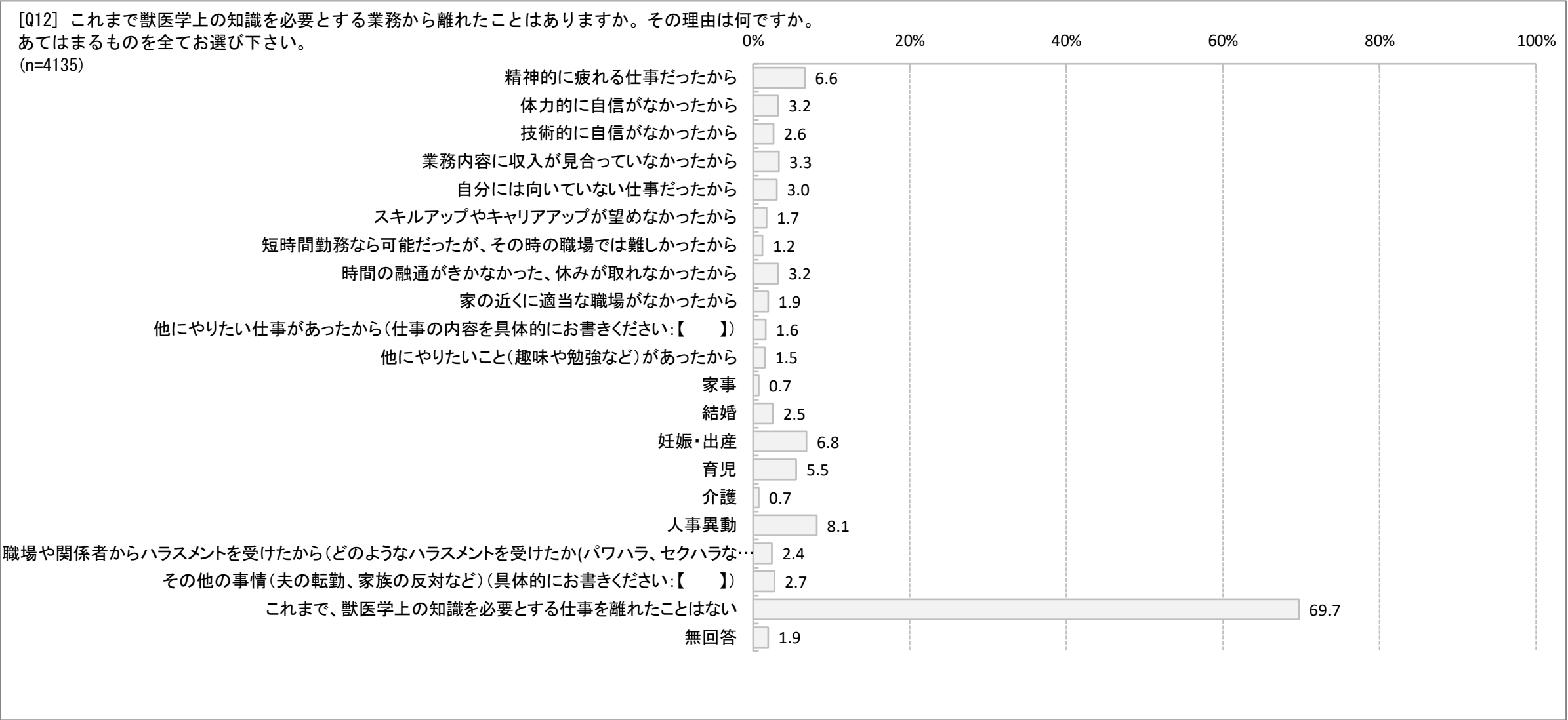
単一回答マトリクス			1	2	3	4	5	
		全体	十分整備されていると思う	ほぼ整備されていると思う	どちらともいえない	やや不十分だと思う	不十分だと思う	無回答
1	子育てを支援するための休暇制度（育児休業・看護休暇等）の整備	(4135)	1121 27.1	1711 41.4	656 15.9	351 8.5	233 5.6	63 1.5
2	男女差のない研修制度	(4135)	1624 39.3	1501 36.3	674 16.3	162 3.9	123 3.0	51 1.2
3	男女差のない給与形態、昇級・昇格の仕組み	(4135)	1216 29.4	1503 36.3	874 21.1	279 6.7	212 5.1	51 1.2
4	女性用の仕事用衣服の支給	(4135)	1010 24.4	1254 30.3	1165 28.2	349 8.4	280 6.8	77 1.9
5	女性専用のトイレや更衣室の整備	(4135)	1382 33.4	1433 34.7	528 12.8	460 11.1	271 6.6	61 1.5
6	肉体的負担を軽減する作業補助器具等の整備	(4135)	207 5.0	517 12.5	1594 38.5	974 23.6	780 18.9	63 1.5
7	肉体的負担の大きい職務内容の適切な分掌	(4135)	341 8.2	1191 28.8	1566 37.9	672 16.3	306 7.4	59 1.4
8	保育園や幼稚園の送迎が可能な勤務時間を選択できる仕組み	(4135)	816 19.7	1634 39.5	814 19.7	473 11.4	340 8.2	58 1.4
9	有給休暇の取得がしやすい雰囲気づくり	(4135)	886 21.4	1798 43.5	753 18.2	405 9.8	242 5.9	51 1.2
10	必要な場合に出張や外部研修への参加を減免する仕組み	(4135)	616 14.9	1481 35.8	1299 31.4	425 10.3	255 6.2	59 1.4
11	上司・同僚からの理解を得るための機会（面談、面接、会議等）	(4135)	569 13.8	1697 41.0	1116 27.0	468 11.3	225 5.4	60 1.5
12	産休や育休に関する制度（申請や給与、復職後の見通し等）に関する職場での広報・周知	(4135)	965 23.3	1603 38.8	808 19.5	420 10.2	282 6.8	57 1.4
13	産休・育休取得者の代替職員を容易に確保しやすい環境の整備	(4135)	387 9.4	748 18.1	775 18.7	872 21.1	1299 31.4	54 1.3
14	休業からスムーズに復帰できるための研修等の充実	(4135)	280 6.8	806 19.5	1621 39.2	841 20.3	524 12.7	63 1.5
15	休業中も職場の動きや情報を得られるような仕組み	(4135)	285 6.9	798 19.3	1483 35.9	883 21.4	617 14.9	69 1.7
16	残業・時間外労働の負荷軽減	(4135)	478 11.6	1270 30.7	1140 27.6	730 17.7	467 11.3	50 1.2
17	出産・子育てや休業からの復職などに関する組織内の相談窓口の整備	(4135)	476 11.5	1188 28.7	1386 33.5	605 14.6	410 9.9	70 1.7
18	子育てと仕事を両立しているモデルケースの紹介	(4135)	346 8.4	978 23.7	1498 36.2	723 17.5	522 12.6	68 1.6
19	ハラスメント対策	(4135)	503 12.2	1489 36.0	1195 28.9	537 13.0	357 8.6	54 1.3
20	カウンセラーなどの専門家によるメンタル面のサポート	(4135)	354 8.6	1067 25.8	1367 33.1	646 15.6	639 15.5	62 1.5

[Q11] 職場での女性の就業支援はどの程度整備されていると思われますか。
以下の項目ごとに、お気持ちに近いものをお選びください。
※現在仕事をしていない方は、仕事をしていた時の状況を思い出してお答えください。



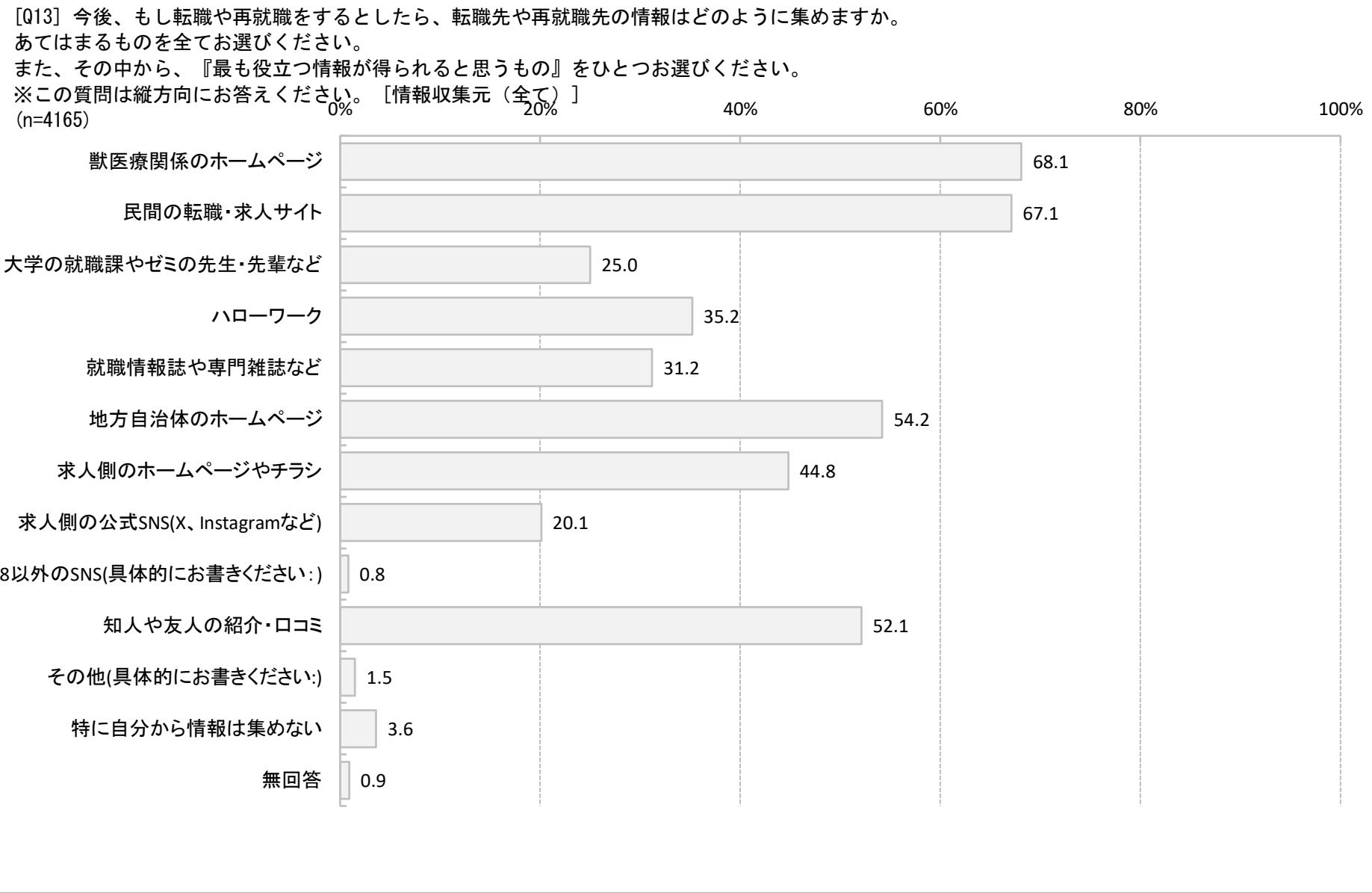
[Table0014]
Q12 これまで獣医学上の知識を必要とする業務から離れたことはありますか。その理由は何ですか。
あてはまるものを全てお選び下さい。

複数回答		n	%
全体		(4135)	
1	精神的に疲れる仕事だったから	271	6.6
2	体力的に自信がなかったから	132	3.2
3	技術的に自信がなかったから	109	2.6
4	業務内容に収入が見合っていなかったから	137	3.3
5	自分には向いていない仕事だったから	123	3.0
6	スキルアップやキャリアアップが望めなかったから	69	1.7
7	短時間勤務なら可能だったが、その時の職場では難しかったから	50	1.2
8	時間の融通がきかなかった、休みが取れなかったから	131	3.2
9	家の近くに適当な職場がなかったから	80	1.9
10	他にやりたい仕事があったから（仕事の内容を具体的にお書きください：【 】）	65	1.6
11	他にやりたいこと（趣味や勉強など）があったから	60	1.5
12	家事	29	0.7
13	結婚	105	2.5
14	妊娠・出産	281	6.8
15	育児	229	5.5
16	介護	28	0.7
17	人事異動	336	8.1
18	職場や関係者からハラスメントを受けたから（どのようなハラスメントを受けたか（パワハラ、セクハラなど）差し支えない範囲でお書きください：【 】）	98	2.4
19	その他の事情（夫の転勤、家族の反対など）（具体的にお書きください：【 】）	113	2.7
20	これまで、獣医学上の知識を必要とする仕事を離れたことはない	2883	69.7
無回答		77	1.9



[Table0015]
Q13 今後、もし転職や再就職をしたら、転職先や再就職先の情報はどのように集めますか。
あてはまるものを全てお選びください。
また、その中から、『最も役立つ情報が得られると思うもの』をひとつお選びください。
※この質問は縦方向にお答えください。

複数回答マトリクス			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
		全体	獣医療関係のホームページ	民間の転職・求人サイト	大学の就職課やゼミの先生・先輩など	ハローワーク	就職情報誌や専門雑誌など	地方自治体のホームページ	求人側のホームページやチラシ	求人側の公式SNS(X、Instagramなど)	8以外のSNS(具体的にお書きください:)	知人や友人の紹介・口コミ	その他(具体的にお書きください:)	特に自分から情報は集めない	無回答
1	情報収集元（全て）	(4165)	2838 68.1	2795 67.1	1041 25.0	1466 35.2	1301 31.2	2256 54.2	1864 44.8	838 20.1	32 0.8	2172 52.1	64 1.5	148 3.6	36 0.9
2	最も役立つ情報が得られると思うもの（ひとつ）	(4165)	733 17.6	967 23.2	123 3.0	218 5.2	133 3.2	366 8.8	388 9.3	40 1.0	8 0.2	750 18.0	46 1.1	100 2.4	293 7.0



[Table0016]
Q14 あなたが就職を希望する業務の種類としてあてはまるものを全てお選びください。

複数回答		n	%
全体		(168)	
1	産業動物診療（牛・馬・豚・鶏・その他）	40	23.8
2	小動物診療（犬・猫・小鳥）	33	19.6
3	1及び2以外の診療	10	6.0
4	診療以外の業務であって獣医学上の知識を必要とする業務	125	74.4
無回答		14	8.3

[Table0017]
Q15 あなたが就職を希望する業務の内容としてあてはまるものを全てお選びください。

複数回答		n	%
全体		(168)	
1	自ら開設する診療施設において診療の業務に従事（開設者又は法人代表者）	17	10.1
2	他の者が開設する診療施設において診療の業務に従事	33	19.6
3	自ら往診のみによって診療の業務に従事	17	10.1
4	他の者に雇用され往診のみによって診療の業務に従事	22	13.1
5	農林畜産関係の行政事務に従事	50	29.8
6	公衆衛生関係の行政事務に従事	64	38.1
7	環境関係の行政事務に従事	32	19.0
8	その他の行政事務に従事（分野を具体的に記入：【 】）	4	2.4
9	試験研究に従事（大学勤務を除く。）	38	22.6
10	獣医系大学で教育に従事（教官又は教員）	16	9.5
11	獣医系大学の勤務者（大学院生を含む。）で10以外に従事	8	4.8
12	獣医系大学以外で教育に従事（教官又は教員）	15	8.9
13	製薬関係に従事	25	14.9
14	飼料関係に従事	12	7.1
15	その他（具体的に記入：【 】）	13	7.7
無回答		20	11.9

[Table0018]
Q16 あなたが就業を希望する勤務先としてあてはまるものを全てお選びください。

複数回答		n	%
全体		(168)	
1	個人診療施設	33	19.6
2	農業協同組合	17	10.1
3	農業共済組合、農業共済組合連合会又は特定組合	19	11.3
4	国（本省等）	9	5.4
5	国（検査指導機関）	14	8.3
6	国（その他・具体的に記入：【 】）	1	0.6
7	都道府県（本庁等）	13	7.7
8	都道府県（検査指導機関）	30	17.9
9	都道府県（家畜保健衛生所等）	41	24.4
10	都道府県（保健所等）	29	17.3
11	都道府県（食肉衛生検査所等）	38	22.6
12	都道府県（その他・具体的に記入：【 】）	7	4.2
13	市町村（本庁等）	11	6.5
14	市町村（検査指導機関）	26	15.5
15	市町村（保健所等）	24	14.3
16	市町村（食肉衛生検査所等）	25	14.9
17	市町村（その他・具体的に記入：【 】）	3	1.8
18	独立行政法人	21	12.5
19	国立・公立大学法人	23	13.7
20	私立学校	13	7.7
21	競馬関係団体	8	4.8
22	民間企業	54	32.1
23	公益法人、一般社団・財団法人等	32	19.0
24	その他（具体的に記入：【 】）	6	3.6
無回答		19	11.3

[Table0019]
Q17 あなたが就業を希望する勤務形態はどれですか。

単一回答		n	%
全体		(168)	
1	フルタイム	107	63.7
2	パートタイム	24	14.3
3	アルバイトを含む短時間勤務	21	12.5
4	その他（具体的ににお書きください：【 】）	2	1.2
無回答		14	8.3

[Table0020]
Q18 あなたが再就業する際に重視することとしてあてはまるものを全てお選びください。
またそのうち、最も重視することを1つお選びください。

複数回答マトリクス		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
	全体	業務内容	勤務場所・通勤状況	勤務形態	残業が少ない(そう)	平日に休める(そう)	休日に休める(そう)	給与・手当	福利厚生(保険等)	職場の雰囲気	産休・育休が取りやすい	知名度	その他(具体的に記入:)	特にない	無回答
1 重視すること (全て)	(168)	131 78.0	108 64.3	86 51.2	66 39.3	64 38.1	82 48.8	118 70.2	90 53.6	109 64.9	28 16.7	13 7.7	7 4.2	2 1.2	15 8.9
2 最も重視すること (1つ)	(168)	56 33.3	10 6.0	15 8.9	7 4.2	2 1.2	7 4.2	28 16.7	6 3.6	13 7.7	0 0.0	0 0.0	2 1.2	2 1.2	20 11.9

[Table0021]
Q20 ご自身の性別をお知らせください。

単一回答	n	%
全体	(4165)	
1 男性	2125	51.0
2 女性	1912	45.9
3 回答しない	116	2.8
無回答	12	0.3

[Table0022]
Q21 あなたが獣医師になった理由は何ですか。あてはまるものを全てお選びください。

複数回答	n	%
全体	(4165)	
1 収入を得られるから	749	18.0
2 知識や技能を生かせるから	1277	30.7
3 社会に役立つ仕事だから	1179	28.3
4 動物が好きだから	3043	73.1
5 命を大切にする仕事だから	736	17.7
6 家族や知人にすすめられたから	342	8.2
7 家業を継ぐため	79	1.9
8 国家資格だから	1598	38.4
9 就職に有利だから	668	16.0
10 その他 (具体的にお願いします:【 】)	303	7.3
無回答	10	0.2

[Table0023]
Q22 ご自身の年代をお知らせください。

単一回答	n	%
全体	(4165)	
1 20代	395	9.5
2 30代	1038	24.9
3 40代	1195	28.7
4 50代	1029	24.7
5 60代	413	9.9
6 70代	82	2.0
7 80代以上	7	0.2
無回答	6	0.1

[Table0024]
Q23 現在、お子様はいらっしゃいますか。いらっしゃる場合は、お子さまの人数を差し支えない範囲でお知らせください。(いくつでも)

複数回答	n	%
全体	(4165)	
1 乳幼児【 】人	706	17.0
2 小学生【 】人	844	20.3
3 中学生【 】人	449	10.8
4 高校生以上【 】人	730	17.5
5 社会人【 】人	766	18.4
6 子どもはいない	1598	38.4
無回答	64	1.5